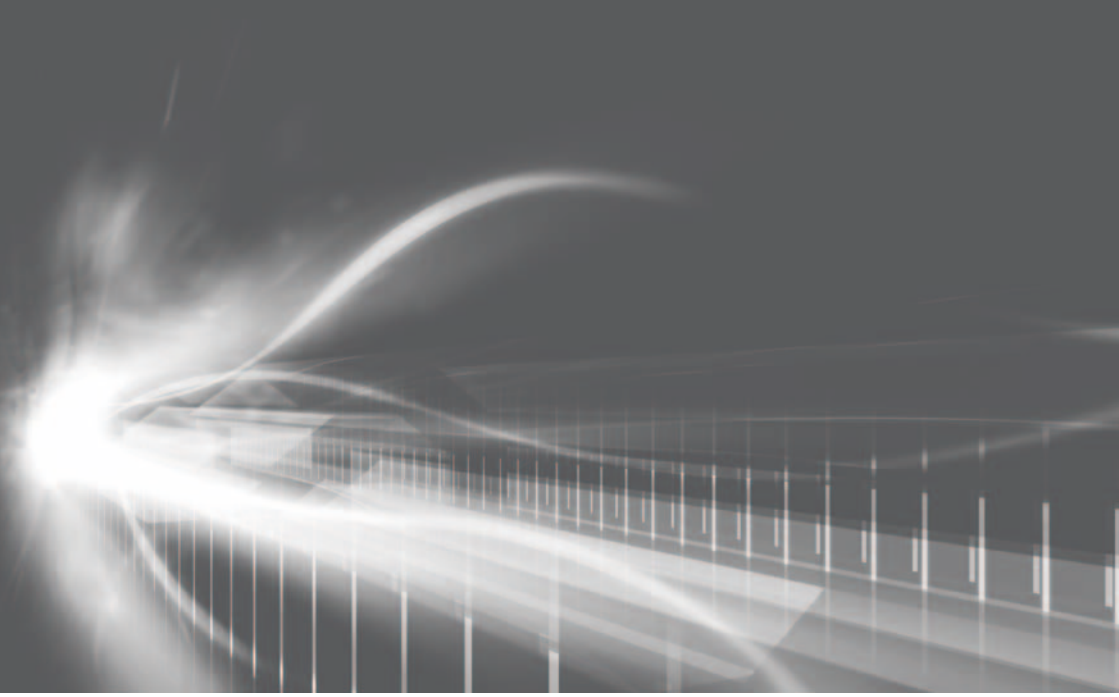


取　扱　書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

LAND CRUISER

TOYOTA

イラスト目次　イラストから検索

1 安全・安心のために　お客様に必ずお読みいただきたいこと

2 メーターの見方　メーター・警告灯／表示灯の種類・見方など

3 各部の操作　ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整など

4 運転　運転に必要な操作やアドバイス

5 室内装備・機能　室内装備の使い方など

6 お手入れのしかた　車のお手入れ・メンテナンスの方法

7 万一の場合には　故障したときや、緊急時などの対処

8 車両情報　車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報など

さくいん
- 症状から検索
- 音から検索
- アルファベットで検索
- 五十音で検索

知っておいていただきたいこと 6
本書の見方 10
検索のしかた 11
イラスト目次 12

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に 24
安全なドライブのために 26
シートベルト 28
SRS エアバッグ 37
お子さまの安全のために 47
子供専用シート 48
チャイルドシートの取り付け 59
排気ガスに対する注意 67

1-2. 盗難防止装置
エンジンイモビライザーシステム 68
オートアラーム 70

2 メーターの見方

2. 計器の見方
警告灯／表示灯 78
計器類 83
マルチインフォメーションディスプレイ 87
燃費画面／ ESPO 画面 96

3 各部の操作

3-1. キー
キー 102

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
ドア（フロントドア・リヤドア） 106
バックドア 114
スマートエントリー&スタートシステム 125

3-3. シートの調整
フロントシート 132
リヤシート 135
ドライビングポジションメモリー 149
ヘッドレスト 153

3-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル 157
インナーミラー 160
ドアミラー 162
補助確認装置 165

3-5. ドアガラス・ムーンルーフの開閉
パワーウインドウ 167
ムーンルーフ 172

4 運転

4-1. 運転にあたって

運転にあたって 178
荷物を積むときの注意 188

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション）スイッチ 190
オートマチックトランスミッション 196
方向指示レバー 203
パーキングブレーキ 204

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ 205
オートマチックハイビーム 208
フォグランプスイッチ 213
ワイパー＆ウォッシャー（フロント） 216
ワイパー＆ウォッシャー（リヤ） 221
ヘッドランプクリーナー 223

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方 224

4-5. 運転支援装置について

Toyota Safety Sense P ... 227
PCS（プリクラッシュセーフティシステム） 233
LDA（レーンディパーチャーアラート） 243
レーダークルーズコントロール 251
ドライブモードセレクトスイッチ 263
クリアランスソナー 265
4-Wheel AHC（アクティブハイトコントロール） 275
フルタイム 4WD 284
クロールコントロール（ターンアシスト機能付き） 289
マルチテレインセレクト 295
マルチテレインモニター 300
BSM（ブラインドスポットモニター） 347
・BSM 機能 351
・RCTA 機能 355
運転を補助する装置 360

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転 367

5 室内装備・機能

5-1. エアコン・デフォッガーの使い方

フロントオートエアコン（ナビゲーションシステム非装着車）.....372
フロントオートエアコン（ナビゲーションシステム装着車）.....384
リヤエアコン.....394
ステアリングヒーター／シートヒーター＆ベンチレーター.....397

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧.....401
・インテリアランプ.....402
・パーソナルランプ.....403

5-3. 収納装備の使い方

収納装備一覧.....405
・グローブボックス.....407
・コンソールボックス.....408
・オーバーヘッドコンソールボックス.....409
・カップホルダー.....410
・ボトルホルダー.....412
・カードホルダー.....413
・小物入れ.....414
ラゲージルーム内装備.....415

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備.....418
・クールボックス.....418
・サンバイザー.....419
・バニティミラー.....419
・時計.....420
・外気温度表示.....422
・アクセサリーソケット・アクセサリーコンセント...423
・おくだけ充電（ワイヤレス充電器）.....426
・アームレスト（セカンドシート）.....434
・コートフック.....434
・アシストグリップ.....435

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ.....438
内装の手入れ.....442

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット.....445
エンジンルームカバー.....447
ウォッシャー液の補充.....449
タイヤについて.....450
タイヤ空気圧について.....458
エアコンフィルターの清掃・交換.....460
電子キーの電池交換.....462
ヒューズの点検・交換.....464
電球（バルブ）の交換.....467

7 万一の場合には

7-1. まず初めに

故障したときは.....482
非常点滅灯（ハザードランプ）.....483
発炎筒.....484
車両を緊急停止するには.....486

7-2. 緊急時の対処法

けん引について.....487
フューエルポンプシャットオフシステム.....493
警告灯がついたときは.....494
警告メッセージが表示されたときは.....500
パンクしたときは.....504
エンジンがかからないときは.....521
電子キーが正常に働かないときは.....523
バッテリーがあがったときは.....525
オーバーヒートしたときは.....528
スタックしたときは.....531

8 車両情報

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）..... 534

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能一覧..... 539

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目..... 550

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）..... 552
車から音が鳴ったときは（音さくいん）..... 556
アルファベット順さくいん..... 558
五十音順さくいん..... 559

次の装備については「ナビゲーションシステム取扱書」をお読みください。

- GPS ボイスナビゲーション
- ETC2.0 システム
- オーディオ＆ビジュアル
- ハンズフリー
- バックガイドモニター
- リヤシートエンターテイメントシステム（後席11.6 型ワイドディスプレイ）
- T-Connect

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

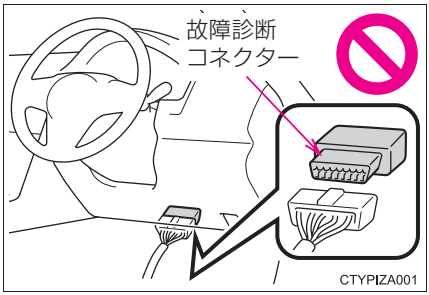
イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
  - ・タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
    異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
  - ・電装品・無線機の取り付け・取りはずし
    電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
    RF 送信機の取り付けについては、P. 9 も参照してください。
- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクターなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。
電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

お車には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが複数装備されており、主に次のようなデータを記録します。

・エンジン回転数
・アクセルの操作状況
・ブレーキの操作状況
・車速
・シフトポジション

グレード･オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。なお、コンピューターは会話などの音声や映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

● T-Connect によるデータの取り扱いについて

お客様が T-Connect をご利用の場合、記録データとその使用について、T-Connect 利用規約をご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDRは、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。

EDRは車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

・車両の各システムの作動状況
・アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
・車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両またはEDRに接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは

・データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
・使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- EFI コンピュータ
- レーダークルーズコントロール
- クルーズコントロール
- ABS（アンチロックブレーキシステム）
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をトヨタ販売店にてご提供します。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

本書の見方

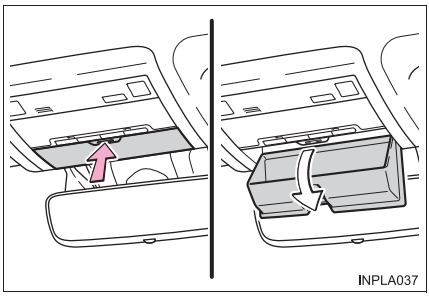
警告 お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。

注意 お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。

1 2 3… 操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

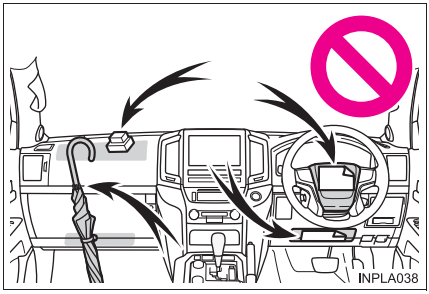
押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。

フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



説明の対象となるもの・場所を示しています。

“してはいけません”“このようにしないでください”“このようなことを起こさないでください”という意味です。

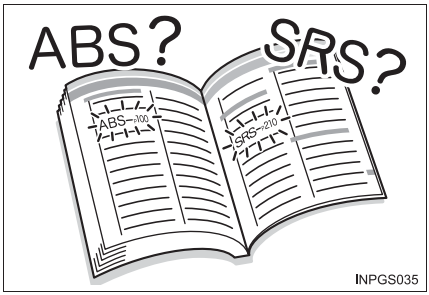


知識 機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

検索のしかた

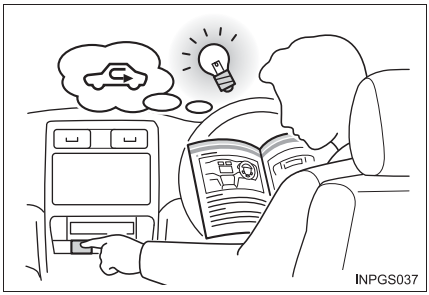
■ 名称から探す

・五十音順さくいん.....559
・アルファベット順
さくいん.....558



■ 取り付け位置から探す

・イラスト目次.....12

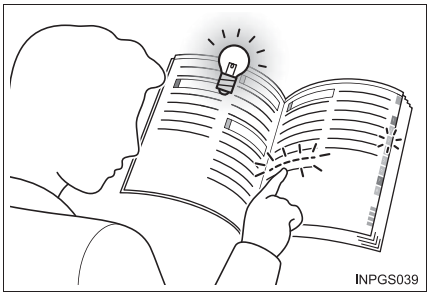


■ 症状や音から探す

・こんなときは
（症状別さくいん）.....552
・車から音が鳴ったときは
（音さくいん）.....556

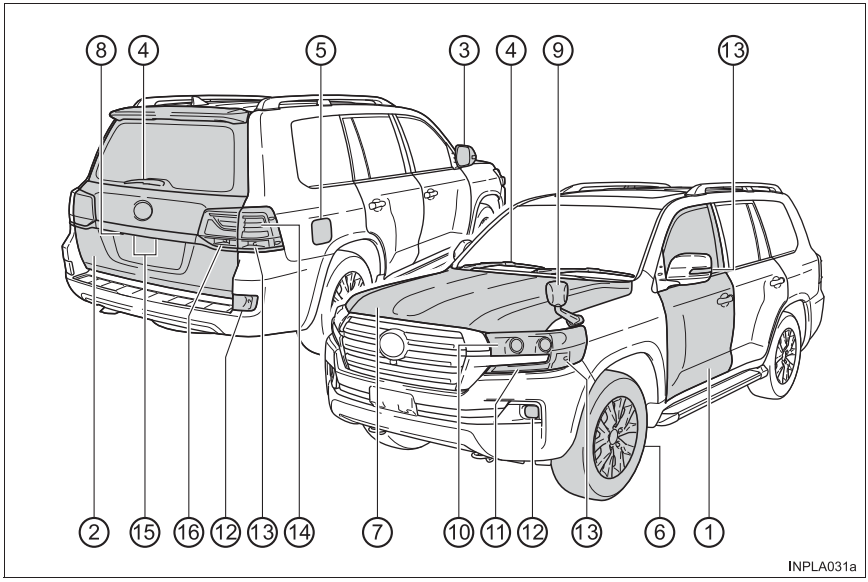
■ タイトルから探す

・目次.....2



イラスト目次

■ 外観



① **ドア** . . . . . **P. 106**
施錠／解錠 . . . . . P. 106
ドアガラスの開閉 . . . . . P. 167
メカニカルキーでの施錠／解錠 . . . . . P. 523
警告灯・警告メッセージ . . . . . P. 495, 500
② **バックドア** . . . . . **P. 114**
車外から開ける . . . . . P. 114
警告灯・警告メッセージ . . . . . P. 495, 500
③ **ドアミラー** . . . . . **P. 162**
鏡面の角度調整 . . . . . P. 162
ミラーの格納 . . . . . P. 162
調整位置の登録 . . . . . P. 149
曇りを取る（ミラーヒーター）★ . . . . . P. 378, 389

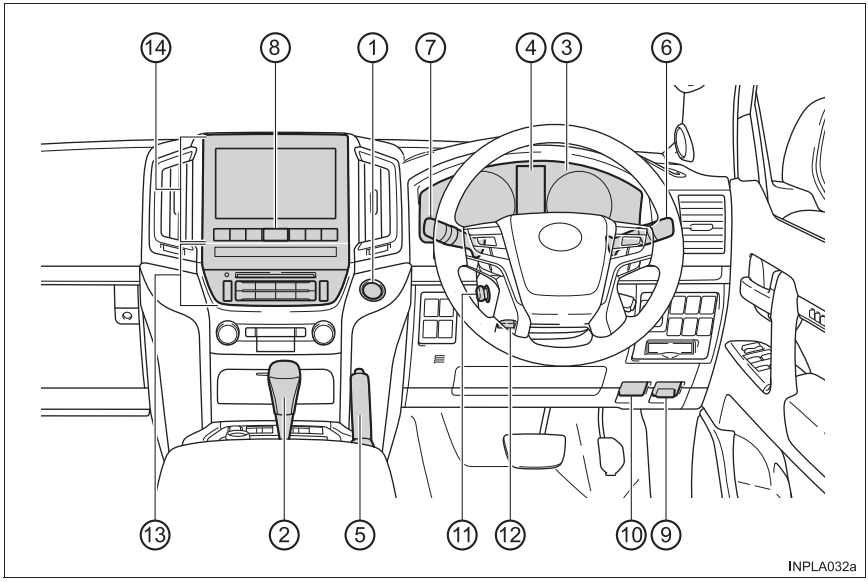
④ **ワイパー**.....**P. 216, 221**
冬季の注意.....P. 367
凍結防止（フロントワイパーデアイサー）★.....P. 378, 389
洗車時の注意.....P. 440
⑤ **給油口**.....**P. 224**
給油方法.....P. 224
燃料の種類・燃料タンク容量.....P. 534
⑥ **タイヤ**.....**P. 450**
サイズ・空気圧.....P. 538
冬用タイヤ・タイヤチェーン.....P. 367
点検・ローテーション・タイヤ空気圧警報システム.....P. 205
パンク時の対処.....P. 504
⑦ **ボンネット**.....**P. 445**
開け方.....P. 445
エンジンオイル.....P. 534
オーバーヒート時の対処.....P. 528
⑧ **カメラ**★※
⑨ **補助確認装置**.....**P. 165**

走行に関わる外装のランプバルブ
（交換要領：P. 467, ワット数：P. 538）

⑩ **ヘッドランプ**.....**P. 205**
⑪ **車幅灯・LED デイライト**.....**P. 205**
⑫ **フロントフォグランプ**★**・リヤフォグランプ**★.....**P. 213**
⑬ **方向指示灯**.....**P. 203**
⑭ **制動灯／尾灯**
坂道などでの発進補助.....P. 360
⑮ **番号灯**.....**P. 205**
⑯ **後退灯**
シフトポジションを R にする.....P. 196

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

■ インストルメントパネル

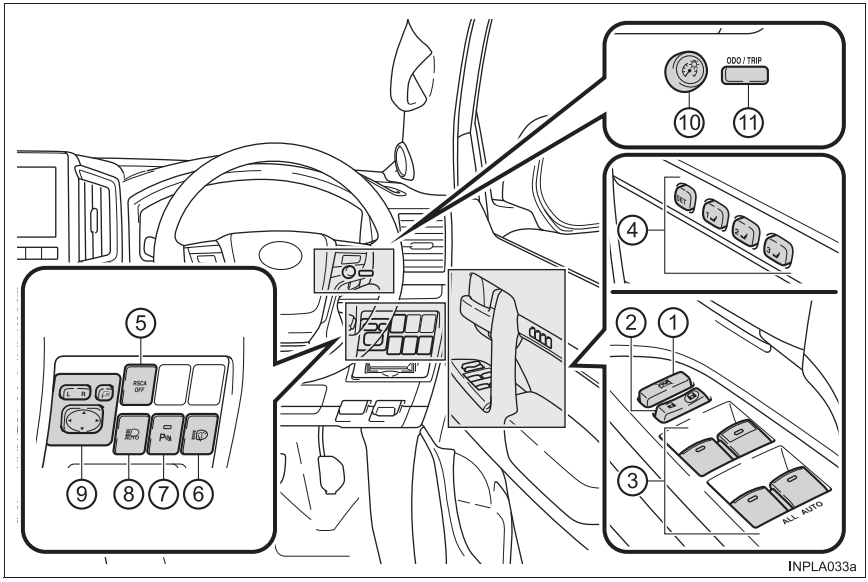


① **エンジンスイッチ . . . . . P. 190**
エンジンの始動・モード切りかえ . . . . . P. 190
エンジンの緊急停止 . . . . . P. 486
エンジンが始動できないときの対処 . . . . . P. 521
警告メッセージ . . . . . P. 500
② **シフトレバー . . . . . P. 196**
シフトポジションの切りかえ . . . . . P. 196
けん引時の注意 . . . . . P. 487
シフトレバーが動かないときの対処 . . . . . P. 201
③ **メーター . . . . . P. 83**
見方・明るさの調整 . . . . . P. 83
警告灯／表示灯 . . . . . P. 78
警告灯点灯時の対処 . . . . . P. 494

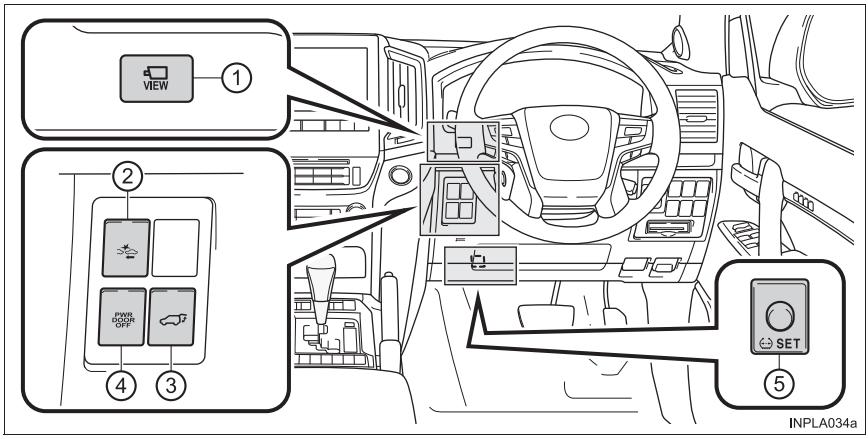
④ **マルチインフォメーションディスプレイ . . . . . P. 87**
表示内容 . . . . . P. 87
警告メッセージ表示時の対処 . . . . . P. 500
⑤ **パーキングブレーキ . . . . . P. 204**
かける・解除する . . . . . P. 204
冬季の注意 . . . . . P. 368
警告ブザー・警告メッセージ . . . . . P. 204
⑥ **方向指示レバー . . . . . P. 203**
ランプスイッチ . . . . . P. 205
ヘッドランプ・LED デイライト・車幅灯・尾灯 . . . . . P. 205
フロントフォグランプ★・リヤフォグランプ★ . . . . . P. 213
⑦ **ワイパー&ウォッシャースイッチ . . . . . P. 216, 221**
使い方 . . . . . P. 216
ウォッシャー液の補充 . . . . . P. 449
⑧ **非常点滅灯スイッチ . . . . . P. 483**
⑨ **給油口オープナー . . . . . P. 224**
⑩ **ボンネット解除レバー . . . . . P. 445**
⑪ **ハンドル位置調整スイッチ★ . . . . . P. 157**
調整方法 . . . . . P. 157
調整位置の登録 . . . . . P. 149
⑫ **ハンドル位置調整レバー★ . . . . . P. 157**
⑬ **オートエアコン . . . . . P. 372, 384**
操作方法 . . . . . P. 372, 384
リヤウインドウの曇り取り
（リヤウインドウデフォッガー） . . . . . P. 378, 389
⑭ **ナビゲーションシステム※**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

■ スイッチ類

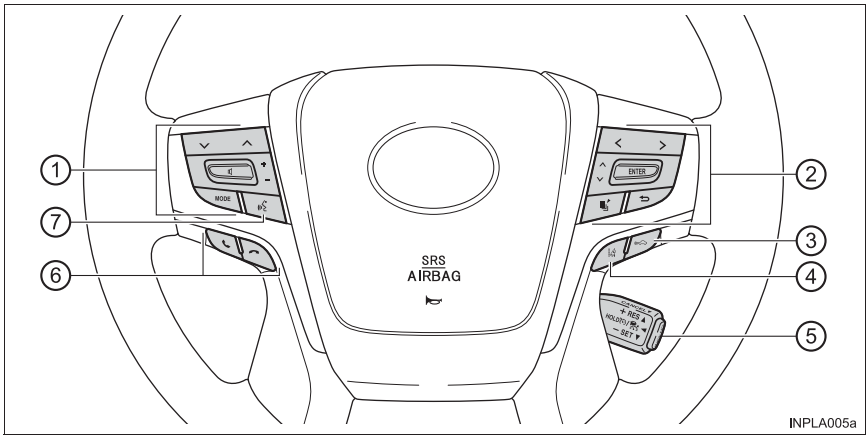


① ウインドウロックスイッチ . . . . . P. 167
② ドアロックスイッチ . . . . . P. 109
③ パワーウインドウスイッチ . . . . . P. 167
④ ポジションメモリーボタン★ . . . . . P. 149
⑤ RSCA OFF スイッチ . . . . . P. 46
⑥ ヘッドランプクリーナースイッチ★ . . . . . P. 223
⑦ クリアランスソナースイッチ★ . . . . . P. 265
⑧ オートマチックハイビームスイッチ . . . . . P. 208
⑨ ドアミラースイッチ . . . . . P. 162
⑩ メーター照度調整ダイヤル . . . . . P. 85
⑪ オドメーター／トリップメーター切りかえボタン . . . . . P. 84

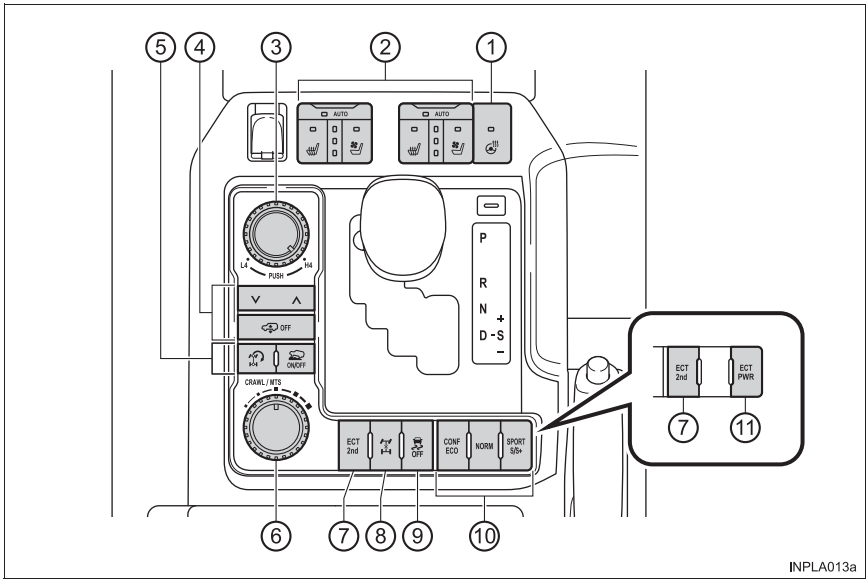


① カメラスイッチ.....P. 300
② PCS（プリクラッシュセーフティシステム）スイッチ .....P. 233
③ パワーバックドアスイッチ★.....P. 115
④ パワーバックドアメインスイッチ★.....P. 116
⑤ タイヤ空気圧警報リセットスイッチ.....P. 451

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



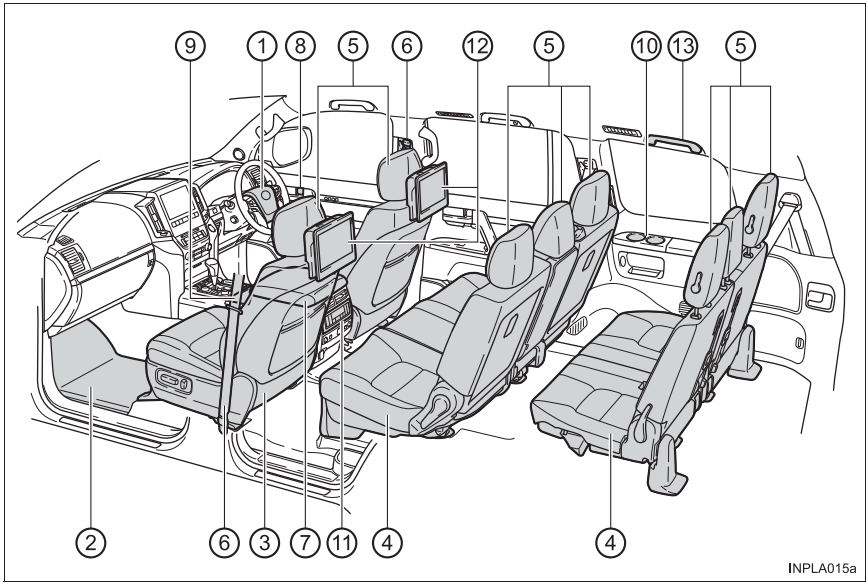
① オーディオ操作スイッチ※
② メーター操作スイッチ
③ 車間距離切りかえスイッチ★ . . . . . .P. 251
④ LDA（レーンディパーチャーアラート）スイッチ . . . . . .P. 243
⑤ クルーズコントロールスイッチ
レーダークルーズコントロール . . . . . .P. 251
⑥ 電話スイッチ※
⑦ トークスイッチ★※



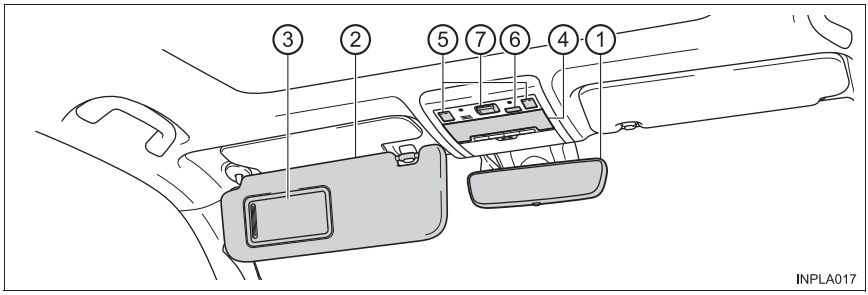
① ステアリングヒータースイッチ . . . . . .P. 397
② シートヒータースイッチ／
シートベンチレータースイッチ★. . . . . .P. 397
③ トランスファースイッチ . . . . . .P. 284
④ 車高制御 OFF スイッチ★／車高切りかえスイッチ★ . . . . . .P. 275
⑤ クロールコントロールスイッチ . . . . . .P. 289
⑥ マルチテレインセレクトモードセレクトスイッチ . . . . . .P. 295
クロールコントロール速度切り替えスイッチ. . . . . .P. 289
⑦ セカンドスタートモードスイッチ . . . . . .P. 197
⑧ センターデフロックスイッチ★ . . . . . .P. 284
⑨ VSC OFF スイッチ . . . . . .P. 362
⑩ ドライブモードセレクトスイッチ★. . . . . .P. 263
⑪ パワーモードスイッチ★ . . . . . .P. 197

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

■ 室内



① SRS エアバッグ . . . . . P. 37
② フロアマット . . . . . P. 24
③ フロントシート . . . . . P. 132
④ リヤシート . . . . . P. 135
⑤ ヘッドレスト . . . . . P. 153
⑥ シートベルト . . . . . P. 28
⑦ コンソールボックス . . . . . P. 408
クールボックス★ . . . . . P. 418
⑧ ロックレバー . . . . . P. 109
⑨ カップホルダー . . . . . P. 410
⑩ ボトルホルダー . . . . . P. 412
⑪ リヤエアコン★ . . . . . P. 394
⑫ リヤシートエンターテイメントシステム（後席 11.6 型ワイドディスプレイ）※1
⑬ アシストグリップ . . . . . P. 435



① インナーミラー . . . . . P. 160
② サンバイザー※2 . . . . . P. 419
③ バニティミラー . . . . . P. 419
④ パーソナルランプ . . . . . P. 403
インテリアランプ★※3 . . . . . P. 402
⑤ ムーンルーフスイッチ★ . . . . . P. 172
⑥ 侵入・傾斜センサー OFF スイッチ★ . . . . . P. 74
⑦ ヘルプネットスイッチパネル★※1

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
※1：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。
※2：やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
（→ P. 65）
※3：図はフロントですが、リヤにも装着されています。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に.....24
安全なドライブのために 26
シートベルト.....28
SRS エアバッグ.....37
お子さまの安全のために 47
子供専用シート.....48
チャイルドシートの
取り付け.....59
排気ガスに対する注意 67
1-2. 盗難防止装置
エンジンイモビライザー
システム.....68
オートアラーム.....70

運転する前に

点検整備

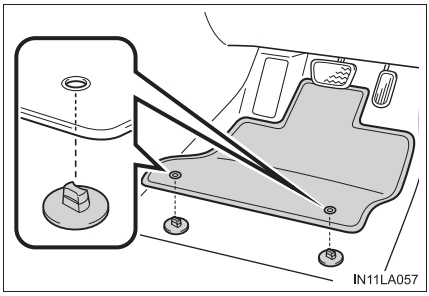
日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。
異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

フロアマット

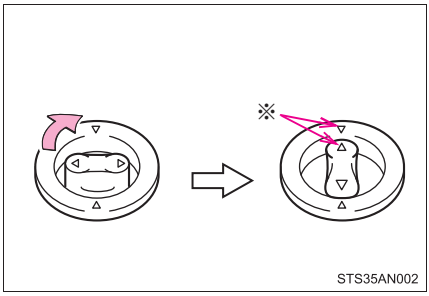
専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。



固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

⚠ 警告

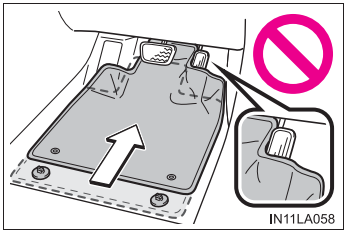
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くとき

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に

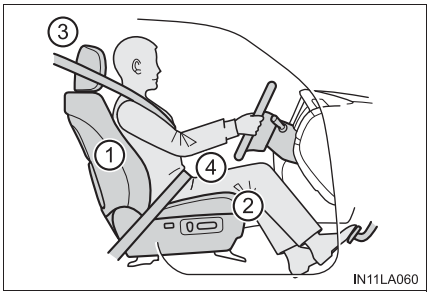
- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- エンジン停止およびシフトレバーが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する



安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について



① まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→P. 132）

② ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→P. 132）

③ ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→P. 153）

④ シートベルトを正しく着用する（→P. 28）

シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→P. 28）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。（→P. 48）

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。（→P. 160, 162）

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
  運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
  正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
  ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
  また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

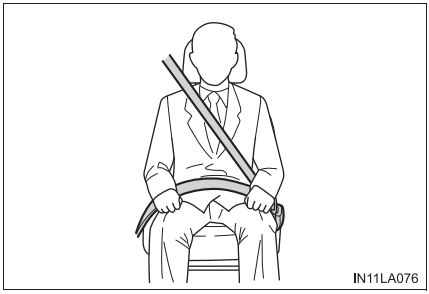
シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

正しく着用する

- 肩部ベルトを肩に十分かける

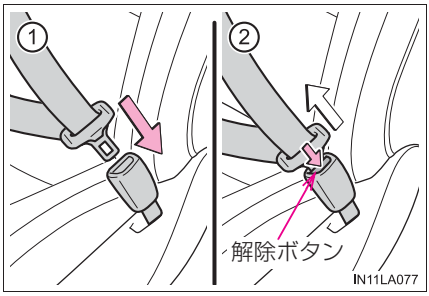
  首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする



着け方・はずし方（フロントシート・セカンドシート・サードシート外側席★）

① ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

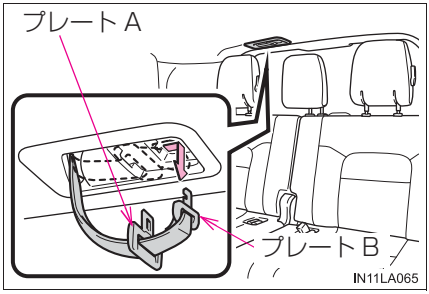
② ベルトを解除するには、解除ボタンを押す



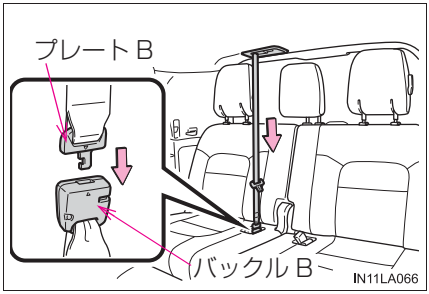
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

着け方、はずし方（サードシート中央席★）

1 プレートを取り出す

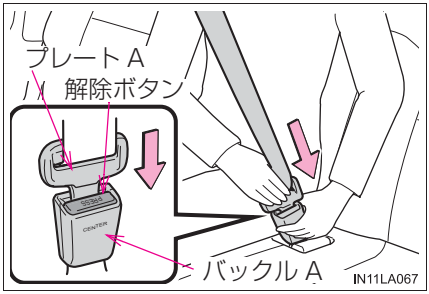


2 バックル B に“カチッ”と音がするまでプレート B を挿し込む



3 バックル A に“カチッ”と音がするまでプレート A を挿し込む

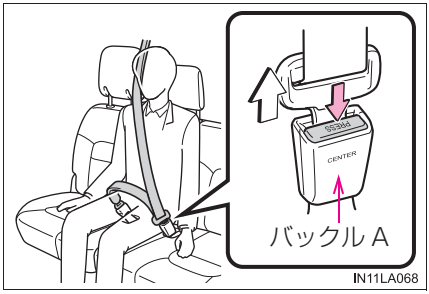
はずすときは、バックル A の解除ボタンを押して解除します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

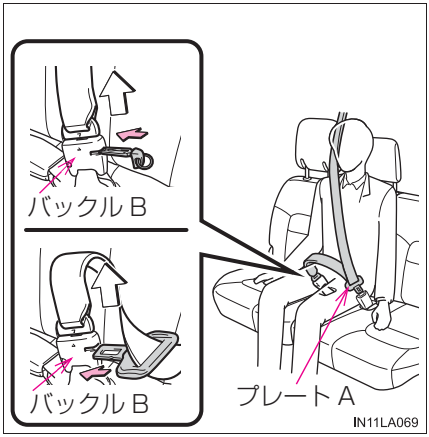
分離・格納のしかた（サードシート中央席★）

1 バックル A の解除ボタンを押す



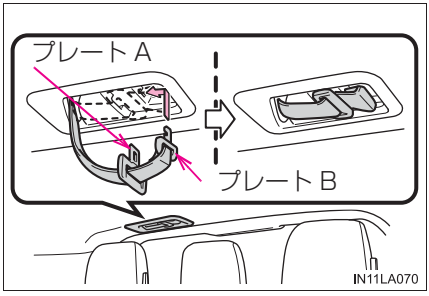
2 メカニカルキー、またはプレート A をバックル B に挿し込む

シートベルトを分離・格納するときは、ベルトを持ちながらゆっくり巻きもどします。



3 プレート A、B を重ねてホルダーに格納する

もとにもどすときは、逆の手順でプレートを取り出し、バックルBにプレート B を挿し込みます。



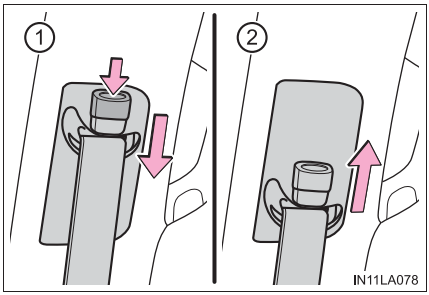
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

シートベルトの高さ調節（フロントシート・セカンドシート外側席）

① 解除ボタンを押しながら、アジャスターを下げる

② アジャスターを上げる

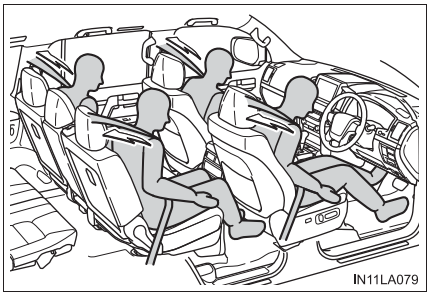
“カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。



シートベルトプリテンショナー（フロントシート・セカンドシート外側席）

前方から強い衝突を受けたときや、横転したときにシートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方からの衝撃が弱いときや、横やうしろからの衝撃のときは通常は作動しません。



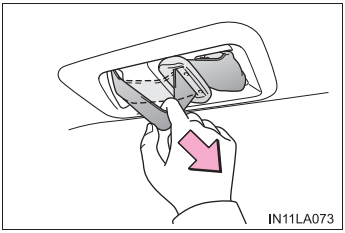
知識

■シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを巻きもどし、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■サードシート中央席のシートベルトが引き出せないときは★

シートベルトとホルダーのあいだに指を入れ、ベルトを矢印の方向に強く引いてから離すと引き出すことができます。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

●シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P. 48)

●シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→P. 28)

■シートベルトプリテンショナーについて

●シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

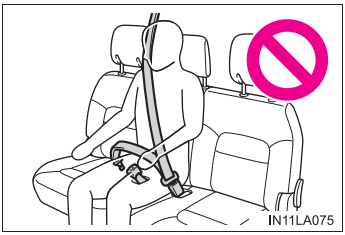
●助手席に乗員がいないと、助手席シートベルトプリテンショナーは作動しません。しかし、シートに荷物が置かれていたり、シートベルトのバックルが留められている場合は、乗員がいなくても助手席シートベルトプリテンショナーが作動することがあります。

⚠ 警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- ●全員がシートベルトを着用する
- ●シートベルトを正しく着用する
- ●シートベルトは一組につき一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- ●お子さまはセカンドシートまたはサードシート★に座らせてシートベルトを着用させる
- ●背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- ●肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- ●腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する
- ●サードシート外側席★のシートベルトを使用するときは、シートベルトがシートベルトハンガー（→ P. 138, 142）にかかっていないことを確認する
- ●サードシート中央席★のシートベルトを使用するときは、プレート B とバックル B を結合してください。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

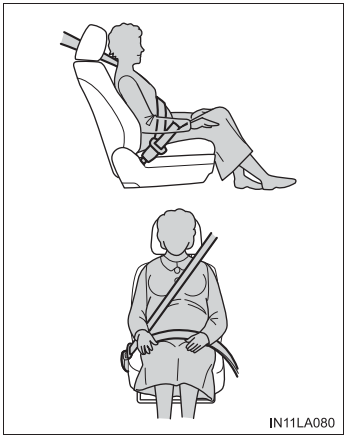
⚠ 警告

■ 妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→ P. 28)

通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



■ 疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■ お子さまを乗せるときは

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのようになってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

■ プリテンショナー付シートベルトについて

シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

⚠ 警告

■ シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときは、シートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付シートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
  不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

⚠ 注意

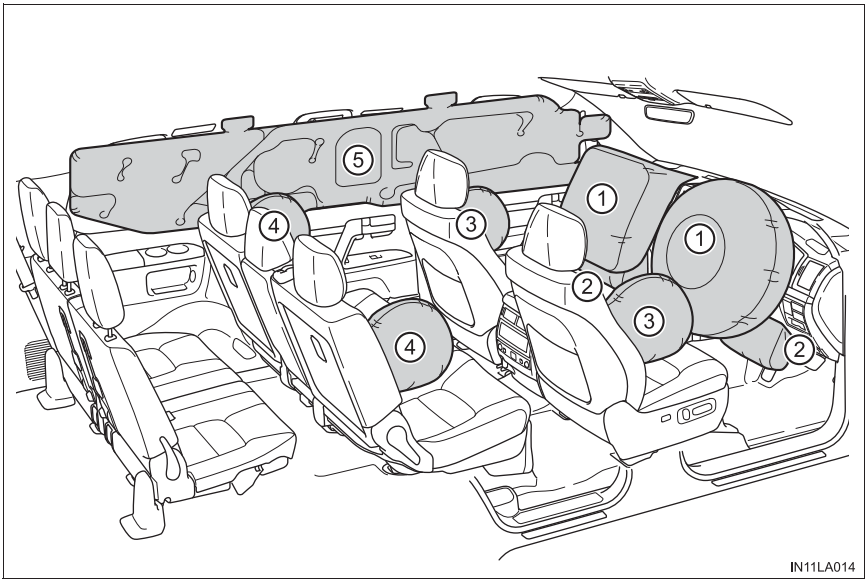
■ サードシート中央席のシートベルトについて★

サードシート運転席側の背もたれを前倒しするとき以外は、ベルトを分離しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



◆ フロント SRS エアバッグ

① 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

② SRS ニーエアバッグ
（運転者と助手席乗員の衝撃緩和を補助）

◆ SRS サイド & カーテンシールドエアバッグ

③ SRS フロントサイドエアバッグ
（フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

④ SRS リヤサイドエアバッグ※
セカンドシート外側席乗員の胸などへの衝撃を緩和

⑤ SRS カーテンシールドエアバッグ
（フロントシート・セカンドシート外側席、サードシート※外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和）

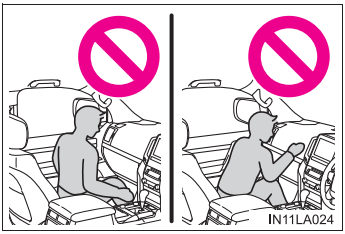
※ 8 人乗り車のみ

⚠ 警告

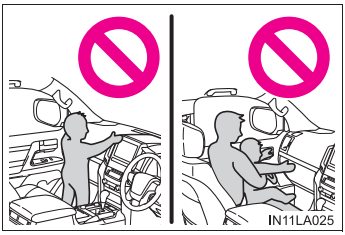
■SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
  SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
  お子さまはセカンドシートまたはサードシート（8 人乗り車のみ）に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。
  （→ P. 59）
- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



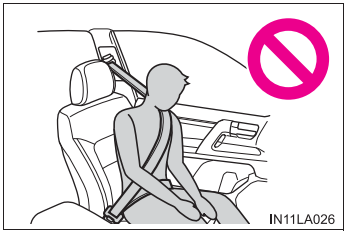
- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない



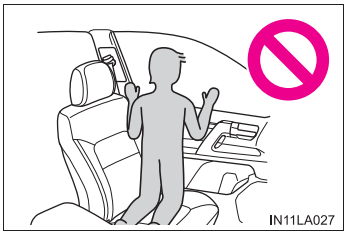
⚠ 警告

■SRS エアバッグについて

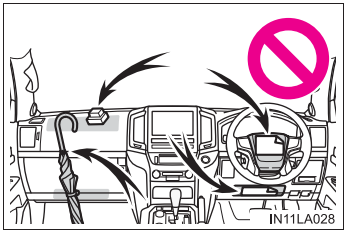
● ドアやフロントピラー・サイドピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない



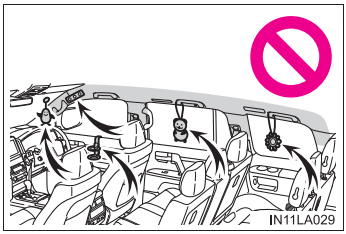
● 助手席やセカンドシート外側席・サードシート外側席（8 人乗り車のみ）では、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない



● ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない



● ドア・フロントガラス・ドアガラス・フロントピラー・サイドピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない



⚠ 警告

■SRS エアバッグについて

- コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
  SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS　ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。
- SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが展開する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って展開したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
  SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS　エアバッグが収納されているパッド部およびフロント・サイド・リヤピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せず、トヨタ販売店で交換してください。

⚠ 警告

■改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・サイドピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車両側面部の修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチ・ルーフキャリアなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

知識

■SRS エアバッグが作動すると

- SRS エアバックは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。
- 作動音と共に白いガスが発生します。
- フロントシート・フロントピラー・サイドピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなく、エアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。
- T-Connect をご利用のお客様は、SRS エアバッグの作動または後方から強い衝撃を受けた場合、自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両を手配します。詳しくは「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

- フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
  ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
  - ・駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
  - ・もぐり込むような衝撃の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）
- 衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

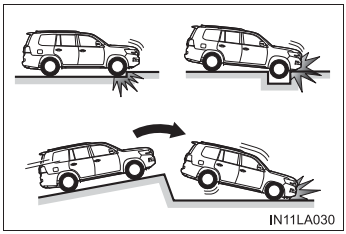
■SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド & カーテンシールドエアバッグ）

- SRS サイド & カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が、約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
- SRS カーテンシールドエアバッグは、横転時も作動します。
- 前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS サイド & カーテンシールドエアバッグが開きます。

■衝突以外で作動するとき

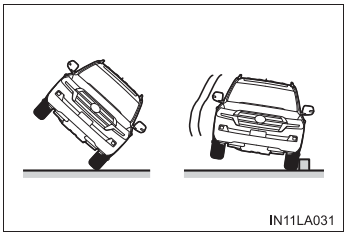
次のような状況で、車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグと SRS サイド & カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

- ●縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- ●深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき
- ●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき


IN11LA030

SRS カーテンシールドエアバッグは、次のような状況で作動する場合があります。

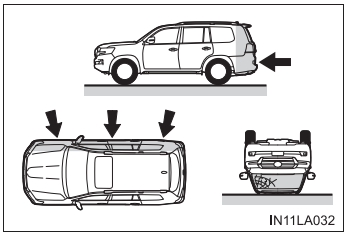
- ●車両が大きく傾いたとき
- ●車両が横すべりし縁石などに衝突して強い衝撃があったとき


IN11LA031

■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転、または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

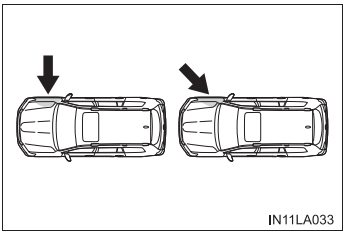
- ●側面からの衝突
- ●後方からの衝突
- ●横転


IN11LA032

■SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイド & カーテンシールドエアバッグ）

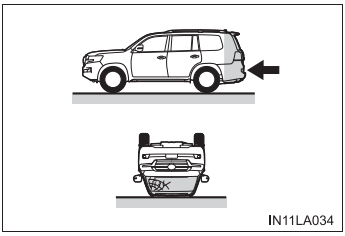
斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド & カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

- ●客室部分以外の側面への衝撃
- ●斜めからの衝撃



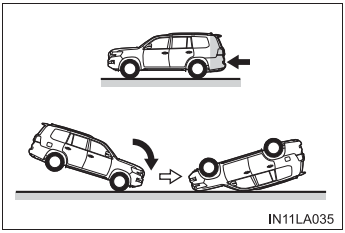
SRS サイドエアバッグは、後方からの衝撃、横転、または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

- ●後方からの衝突
- ●横転



SRS カーテンシールドエアバッグは、後方からの衝撃、縦方向への転覆、または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

- ●後方からの衝突
- ●縦方向への転覆

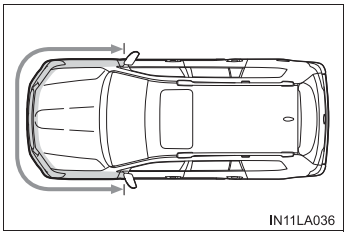


■トヨタ販売店に連絡が必要な場合

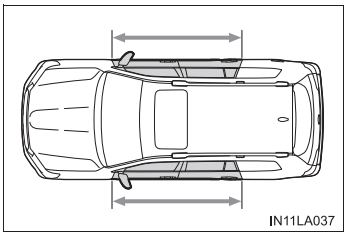
次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

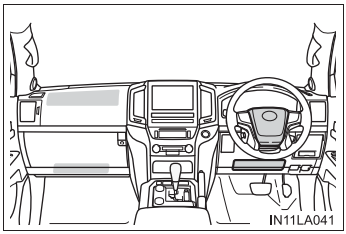
●フロントSRSエアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



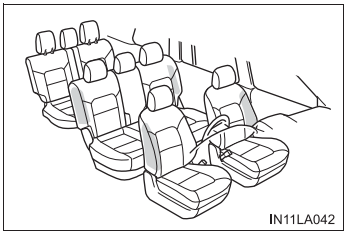
●SRS サイド & カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



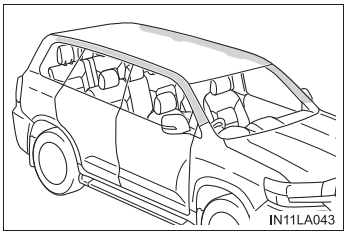
●ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近・インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



●SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



●SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー・サイドピラー・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

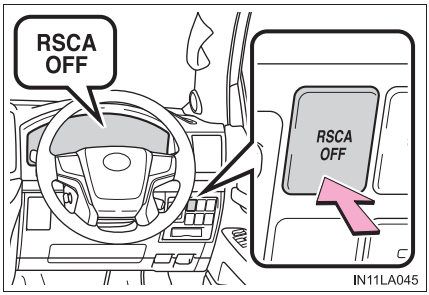


車両の横転時にSRSカーテンシールドエアバッグの作動を停止するには

ON ／ OFF（約 2 秒長押し）

OFF にすると RSCA OFF 表示灯が点灯します。

エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする度に、カーテンシールドエアバッグとシートベルトプリテンショナーは作動可能状態にもどります。



知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■スイッチをご使用いただきたいとき

レジャー的なオフロード走行時、運転者の意志によって車両が大きく傾くことが予想される場合、RSCA システムを OFF にしてください。

■RSCA OFF 表示灯が点灯しているときの作動

- 車両の横転・転覆時に、SRS カーテンシールドエアバッグとシートベルトプリテンショナーは作動しません。
- 車両側面方向からの強い衝撃を感知したときは、SRS　カーテンシールドエアバッグが作動します。
- 車両前方からの強い衝撃を感知したときは、シートベルトプリテンショナーが作動します。

⚠ 警告

■通常走行時は

スイッチを OFF にしないでください。

お守りいただかないと、事故が起きたときなどに重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

お子さまの安全のために

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。(→ P. 48)
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウインドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター(→ P. 110)・ウインドウロックスイッチ(→ P. 167)をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウインドウ・ボンネット・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

⚠ 警告

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシートの取り付け」を参照してください。(→ P. 59)

子供専用シート

子供専用シートの固定機構を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

- 車の仕様やお子さまの年齢・体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。
- 子供専用シートの取り付け方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属の取り扱い説明書をお読みください。
- この車は 2006 年 10 月 1 日施行の保安基準に適合した ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを標準装備しています。

子供専用シートの適合性一覧表について

■ 質量グループについて

ECE R44 ※の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により次の 5 種類に分類されます。

グループ 0　：10kg まで
グループ 0+　：13kg まで
グループⅠ　：9 ～ 18kg
グループⅡ　：15 ～ 25kg
グループⅢ　：22 ～ 36kg

この本では代表的な次の 3 種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

※ ECE R44 は、子供専用シートに関する国際法規です。

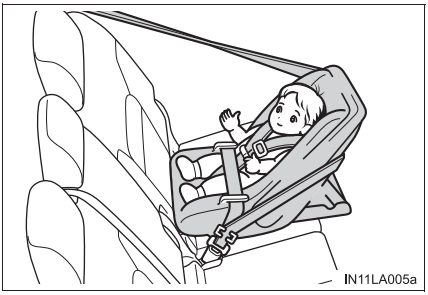
■ サイズ等級、固定具について

子供専用シートに表示される分類記号と、それにともなう取り付け器具の記号になります。

子供専用シートの種類

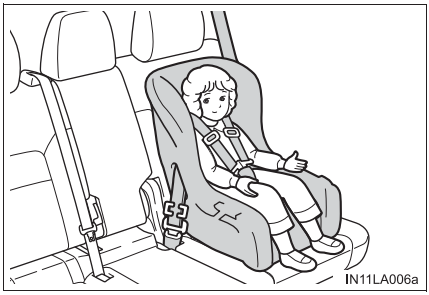
▶ ベビーシート

ECE R44 基準のグループ 0、0+ に相当



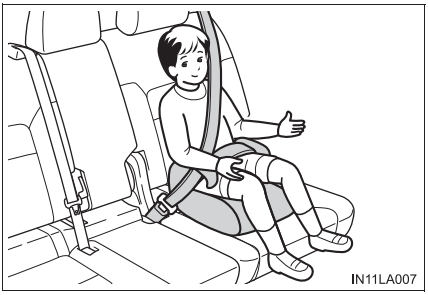
▶ チャイルドシート

ECE R44 基準のグループ 0+、I に相当



▶ ジュニアシート

ECE R44 基準のグループⅡ、Ⅲに相当



シート位置別子供専用シート適合性一覧表（シートベルトでの取り付け）

子供専用シートが「ユニバーサル」カテゴリーの場合、次の表中の U または UF が示す位置に取り付けることができます。（UF は前向きの子供専用シートのみ取り付けできます。）

子供専用シートのカテゴリーと質量グループは子供専用シートに付属の取扱説明書に記載されています。お手持ちの子供専用シートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、子供専用シートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

<table>
<tr><th rowspan="3">質量グループ</th><th colspan="5">着席位置</th></tr>
<tr><th>フロントシート</th><th colspan="2">セカンドシート</th><th colspan="2">サードシート（8 人乗り車の場合）</th><th rowspan="2">推奨子供専用シート</th></tr>
<tr><th>助手席</th><th>左右席</th><th>中央席</th><th>左右席</th><th>中央席</th></tr>
<tr><td>0
（10kg まで）</td><td>×</td><td>U</td><td>U</td><td>U</td><td>×</td><td rowspan="3">“トヨタ純正 NEO G-Child baby”※3</td></tr>
<tr><td>0+
（13kg まで）</td><td>×</td><td>U</td><td>U</td><td>U</td><td>×</td></tr>
<tr><td rowspan="2">I
（9 ～ 18kg）</td><td>うしろ向き ×
前向き UF※1, 2</td><td rowspan="2">U※2</td><td rowspan="2">U※2</td><td rowspan="2">U※2</td><td rowspan="2">×</td></tr>
<tr><td>Ⅱ, Ⅲ
（15 ～ 36kg）</td><td>UF※1, 2</td><td>U※2</td><td>U※2</td><td>U※2</td><td>L※2</td><td>“トヨタ純正ジュニアシート”※4</td></tr>
</table>

表に記入する文字の説明

×：　子供専用シートを取り付けることはできません。

U：　この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの子供専用シートに適しています。

UF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向きの子供専用シートに適しています。

L：　子供専用シートのリストに示す準汎用（セミユニバーサル）カテゴリーの子供専用シートに適しています。

※1 助手席に子供専用シートを取り付ける場合は、背もたれを可能な限り起こし、シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※2 ヘッドレストと子供専用シートが干渉して子供専用シートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。
取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

※3 リヤシートに載せる際は、セカンドシートの左席または中央席に搭載してください。

※4 サードシートBタイプは、中央席に搭載してください。

子供専用シートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。子供専用シートの隣の席に座ったときに、子供専用シートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトが子供専用シートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（ISOFIX 対応トップテザーアンカーでの取り付け）

ISOFIX 子供専用シートはいくつかの「サイズ等級」に分かれています。次の表に示す「サイズ等級」の着座位置で子供専用シートを使用することができます。
子供専用シートの「サイズ等級」と「質量グループ」を確認するために、子供専用シートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちの子供専用シートに「サイズ等級」がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、子供専用シートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

サイズ等級	使用の向き・形状・大きさ
A	全高前向きチャイルドシート
B	低型前向きチャイルドシート
B1	低型前向きチャイルドシート
C	大型うしろ向きチャイルドシート
D	小型うしろ向きチャイルドシート
E	うしろ向きチャイルドシート
F	左向き寝台式チャイルドシート（キャリコット）
G	右向き寝台式チャイルドシート（キャリコット）

質量グループ	サイズ等級	着席位置					推奨子供専用シート
		フロントシート	セカンドシート		サードシート（8人乗り車の場合）		
		助手席	左右席	中央席	左右席	中央席	
キャリコット	F	×	×	×	×	×	−
	G	×	×	×	×	×	
0（10kgまで）	E	×	IL	×	×	×	“トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg”
0+（13kgまで）	E	×	IL	×	×	×	
	D	×	IL	×	×	×	
	C	×	IL	×	×	×	
I（9～18kg）	D	×	IL	×	×	×	−
	C	×	IL	×	×	×	
	B	×	IUF※ IL※	×	×	×	“トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg”
	B1	×	IUF※ IL※	×	×	×	
	A	×	IUF※ IL※	×	×	×	

表に記入する記号の説明

×： ISOFIX 子供専用シートを取り付けることはできません。

IUF： この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの ISOFIX 対応の前向き子供専用シートに適しています。

IL： この質量グループでの使用を許可された「特定車種用」・「一部制限付き」または「準汎用」（セミユニバーサル）カテゴリーの ISOFIX 子供専用シートに適しています。

※ ヘッドレストと子供専用シートが干渉して子供専用シートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。
取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

子供専用シートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。子供専用シートの隣の席に座ったときに、子供専用シートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトが子供専用シートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

知識

■ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車に標準装備されている ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーは、ECE R44 に適合している子供専用シートの取り付け専用です。それ以外のものを使用することはできません。

■子供専用シートの選択、使用について

- お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合った子供専用シートを使用してください。
- 体が十分に大きく、子供専用シートが不必要なお子さまは、セカンドシート、またはサードシート（8 人乗り車のみ）に乗せて車のシートベルトを使用してください。

■シートベルトで取り付けるタイプの子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シート適合性一覧表」（→ P. 50）を参照し、子供専用シートを取り付け可能な位置と、対応する子供専用シートの種類（記号）をご確認の上、適したものを選択してください。

■ECE R44 適合の ISOFIX 対応子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」（→ P. 52）を確認して、適切なシートを選択してください。

1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する

（例 1）：体重が 12kg の場合、質量グループは「0+」になります。

（例 2）：体重が 15kg の場合、質量グループは「Ｉ」になります。

2 サイズ等級を選択する

手順1で確認した「質量グループ」から該当するサイズ等級を確認します。※

（例 1）：質量グループが「0+」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。

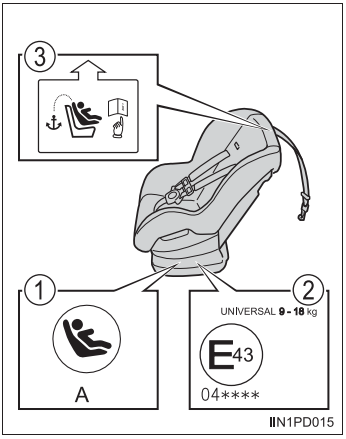
（例2）：質量グループが「Ｉ」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

※ ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両 ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。また、「IL」と記載されている場合は、「推奨子供専用シート」（→ P. 53）で指定されている製品を使用してください。

3 子供専用シートに表示されているマーク／ラベルを確認して、基準に適合したシートであることを確認する

汎用（ユニバーサル）子供専用シートには、次に示すマーク・ラベル類が表示されています。※

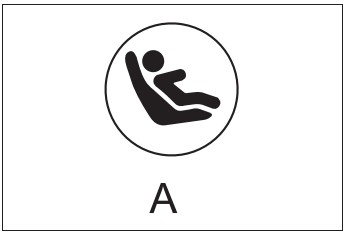
※ 表示されている位置・記号などは、商品により異なります。



① ISOFIX 対応子供専用シートであることを示す表示

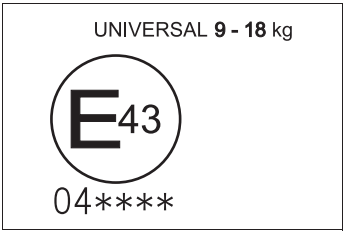
サイズ等級が示されています。（表示される文字は、製品により異なります）

手順2で確認したサイズ等級に適合しているものを選択してください。



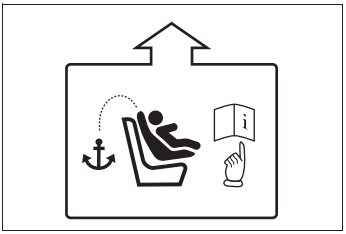
② 汎用（ユニバーサル）子供専用シートの認可マーク

UNIVERSAL は汎用品の認可であることをあらわし、併せて、対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。



③ トップテザー（→ P. 60）を示すマーク

商品の取り付け装置の位置により、意匠は異なります。



■ISOFIX 対応子供専用シートの種類（サイズ等級別）

A-ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B-ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1-ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート (B-ISO/F2 と別形状のもの)
C-ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
D-ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルドシート
E-ISO/R1	後向き乳児用チャイルドシート
F-ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット）
G-ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット）

■助手席に子供専用シートを取り付けるとき

やむを得ず助手席に子供専用シートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、子供専用シートを前向きに取り付けてください。

- 背もたれを直立状態にする
- シートをいちばんうしろに下げ、最も高い位置にする
- シートベルトの高さをいちばん低い位置まで下げる

■キャリコットについて

キャリコットは横向きに取り付けることのできるベビーシートのことです。
詳しくは子供専用シート製造業者、または販売業者におたずねください。

⚠ 警告

■子供専用シートを使用しない場合

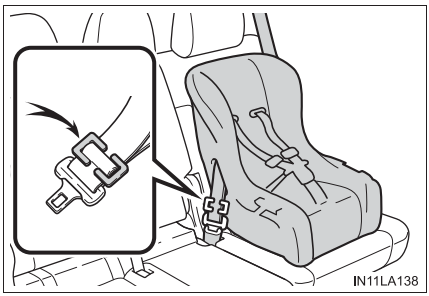
- 子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- 子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートの取り付け

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはセカンドシートまたはサードシート★に取り付けてください。

取り付け方法は、必ず商品付属の取扱説明書に従ってください。

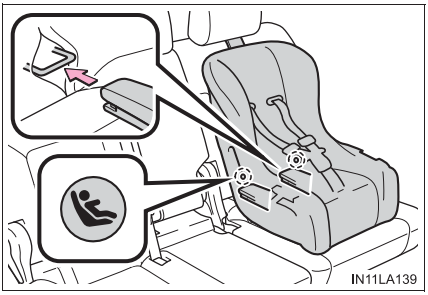
シートベルトによる取り付け
（→ P. 60）



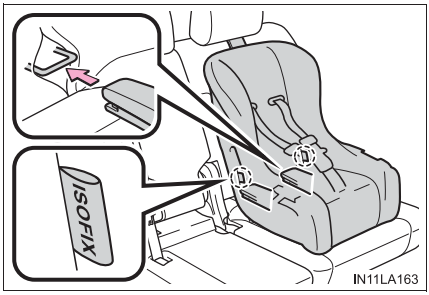
ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー（→ P. 61）

セカンドシート外側席に装備されています。（固定専用バーが装備されていることを示すボタンまたはタグがシートに付いています）

▶ ボタンタイプ



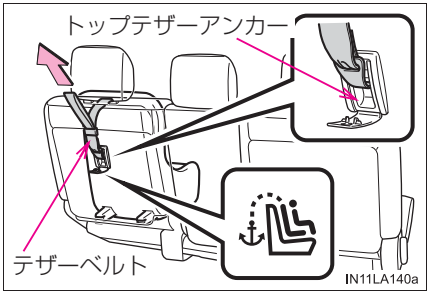
▶ タグタイプ



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

トップテザーアンカー（→P. 61）

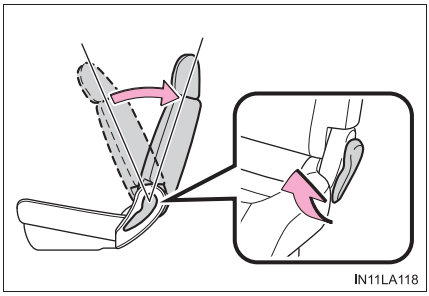
テザーベルトを固定するときに使います。トップテザーアンカーはセカンドシート外側席に装備されています。



シートベルトで固定する

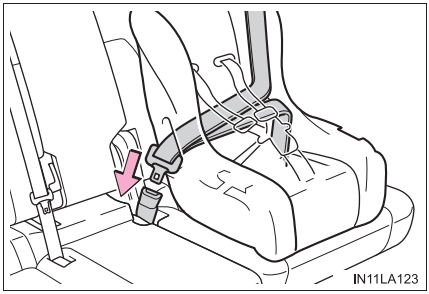
1 背もたれの角度を調整する

レバーを引いて、いったん背もたれを前に倒してから、一段目の固定位置まで起こします。（→P. 135）



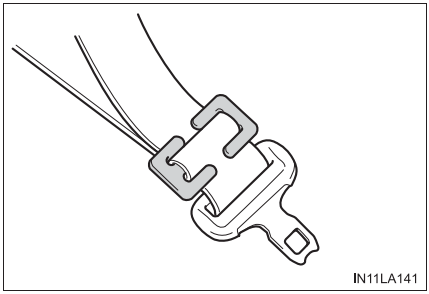
2 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかり固定させてください。



チャイルドシートにシートベルトの固定機構が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）

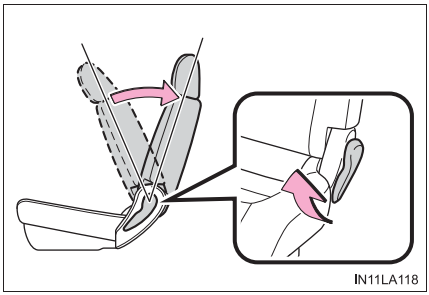


取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。

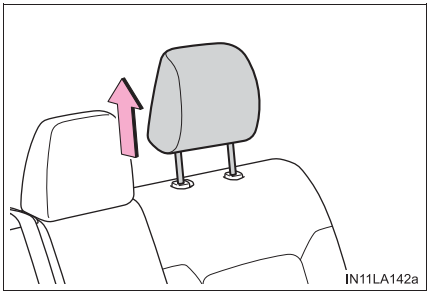
ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーで固定する

1 背もたれの角度を調整する

レバーを引いて、いったん背もたれを前に倒してから、一段目の固定位置まで起こします。



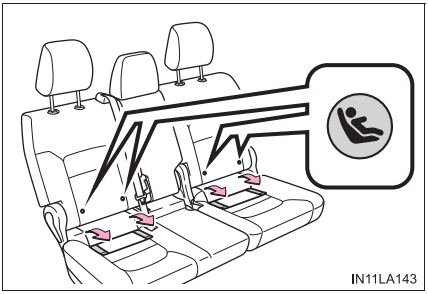
2 ヘッドレストをいちばん上まで上げる



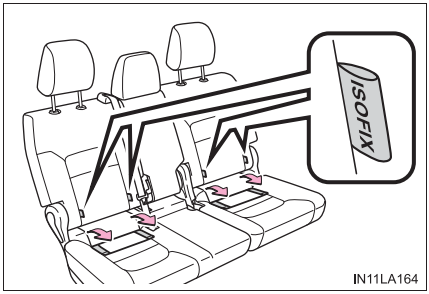
3 カバーをめくり、ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーの位置を確認する

固定専用バーはシートクッションの奥にあります。

▶ ボタンタイプ

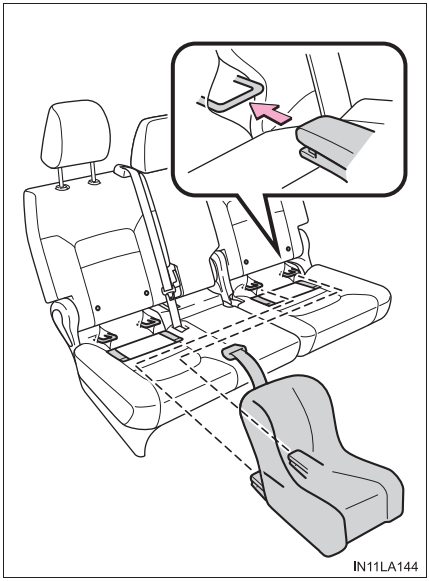


▶ タグタイプ



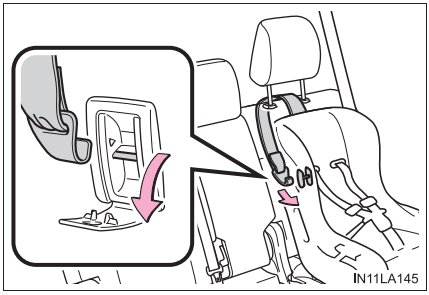
4 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれの商品に付属の取扱説明書に従ってください。

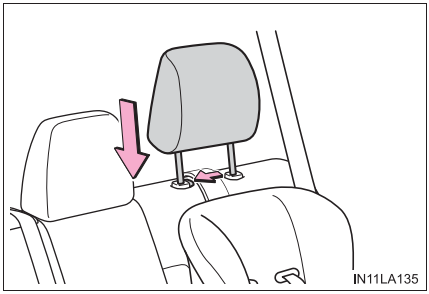


5 フタを開けて、トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

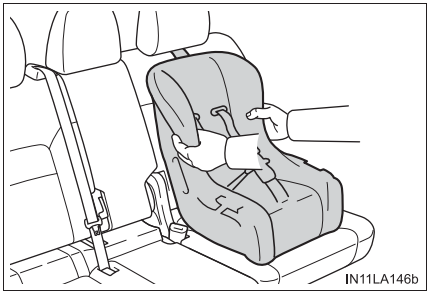
テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されているか確認します。



6 ヘッドレストをいちばん下まで下げる



7 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、確実に固定されていることを確認する



⚠ 警告

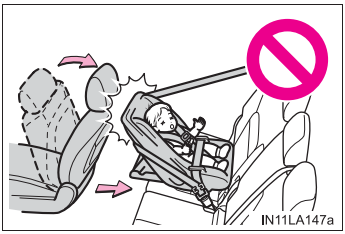
■チャイルドシートについて

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントガラスや乗員、室内の装備にぶつかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、セカンドシートまたはサードシート（8 人乗り車のみ）に取り付けてください。
- チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・サイドピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけさせないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

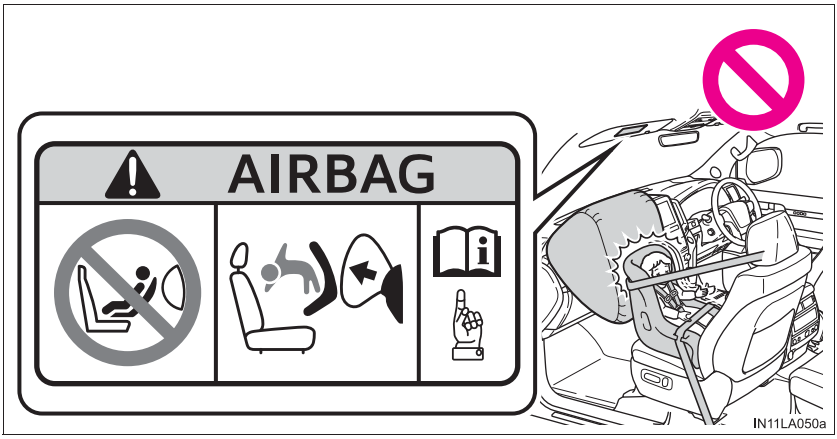
- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一、ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のセカンドシートに取り付けてください。
- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。



⚠ 警告

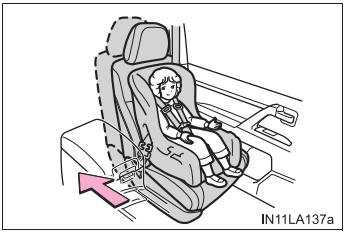
■チャイルドシートを取り付けるとき

●やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

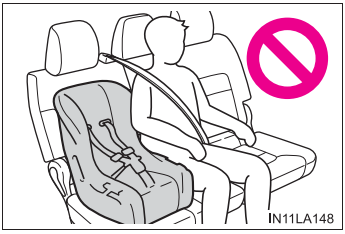


⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるとき



- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。
  助手席SRSエアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと、事故や急ブレーキの際に重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。



- ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用してセカンドシート右側席にチャイルドシートを取り付けたときはセカンドシート中央席に座らないでください。シートベルトとチャイルドシートが干渉しシートベルトが正しく着用できず、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■トップテザーアンカーについて

使用しないときはフタを確実に閉めてください。開けたままにしておくとフタが破損するおそれがあります。

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

⚠ 警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。
バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

■駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、エンジンを停止してください。
- 長時間エンジンが作動したままにしないでください。
  やむを得ないときは、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンが作動したままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

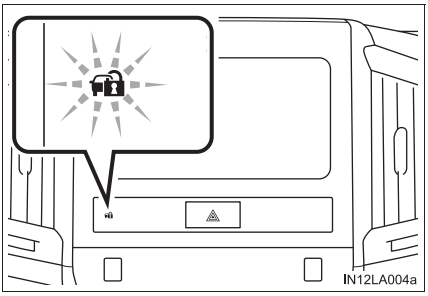
エンジンイモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

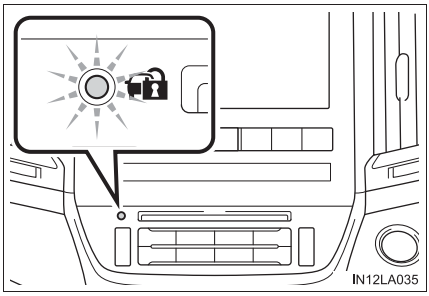
車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

▶ ナビゲーションシステム非装着車



▶ ナビゲーションシステム装着車



エンジンスイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。

※ T-Connect をご利用で、リモートセキュリティ装着のお客様は、お車が盗難にあった場合のお客様の要請により、エンジン始動・ステアリングロック解除を禁止することができます。
詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱書／サービスの使い方／マイカーSecurity」をご覧ください。

知識

■メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

オートアラームとは

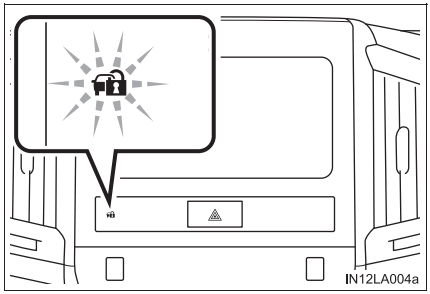
オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

- 施錠されたドアまたはバックドアが、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコン・メカニカルキーを使わずに解錠されたり、開けられたとき
- 施錠時にボンネットが開けられたとき
- 侵入センサー装着車（AX、ZX のみ）：侵入センサーが車内で動く物体を検知したとき（侵入者がガラスを割るなどして車内に乗り込んだとき）
- 傾斜センサー装着車（AX、ZX のみ）：傾斜センサーが車内の傾きを検知したとき
- リヤクォーターガラスやバックドアガラスが割られたとき（AX、ZX のみ）
- バッテリーがはずされたとき（AX、ZX のみ）
- バッテリーが再接続されたとき

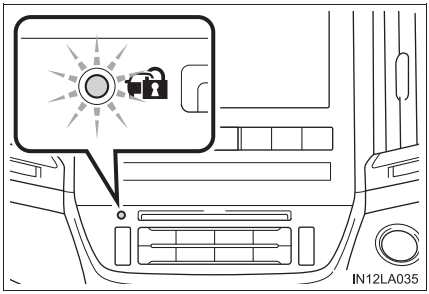
※ T-Connect をご利用のお客様へは、オートアラームが作動した場合 E メールや電話でお知らせすることができます。
詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱書／サービスの使い方／マイカー Security」を参照してください。

オートアラームを設定する

▶ ナビゲーションシステム非装着車



▶ ナビゲーションシステム装着車



全ドア・ボンネットを閉め、すべてのドアを施錠※します。
30 秒以上経過すると自動的に設定されます。

オートアラームが設定されるとインジケーターは点灯から点滅にかわります。

※ メカニカルキーで施錠した場合、オートアラームはセットされません。

オートアラームの設定を解除・作動を停止する

次のいずれかを行ってください。

- ドアまたはバックドアを解錠する
- エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにするか、エンジンを始動する（数秒後に解除・停止します）

知識

■メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ドアを施錠する前の確認

オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

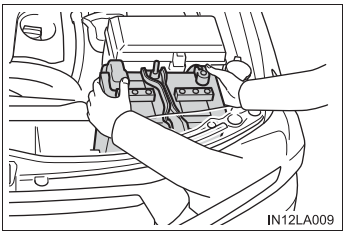
- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスとムーンルーフ★が閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

■オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームの設定を解除・作動を停止する操作を行ってください。

- 車内に残った人が、ドアやボンネットを開けたり、ロックレバーで解錠したとき

- 施錠後、バッテリーあがりなどでバッテリーの充電や交換をしたとき(→ P. 525)
- 侵入センサー・傾斜センサー装着車（AX、ZX のみ）：施錠後、バッテリーを取りはずしたとき



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■オートアラーム作動によるドアロック機能について

次のような場合、車内への不正な侵入を防止するため自動的にドアが施錠されることがあります。

●車内に残った人がドアを解錠し、オートアラームが作動したとき

●オートアラーム作動中に車内に残った人がドアを解錠したとき

●バッテリーあがりなどで充電・交換したとき

■T-Connect（ご契約のお客様のみ）

●うっかり通知機能によって、施錠のし忘れや非常点滅灯の消し忘れ、ドアガラスの閉め忘れ、ムーンルーフ★の閉め忘れなどを、ご指定の E メールアドレスへお知らせすることができます。
うっかり通知機能は車内の電子キー検知を使用しているため、スマートエントリー&スタートシステムが正しく作動しない場合は、うっかり通知機能が正しく働かないことがあります。

●リモート確認機能によって、ドアの開閉や施錠の状態、非常点滅灯の点滅状態、電子キーの車内への置き忘れなどを携帯電話で確認できます。

詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱書／サービスの使い方／マイカー Security」を参照してください。

⚠ 注意

■オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

侵入・傾斜センサー★

● 侵入センサーは、車内に入り込んだ侵入者の動きを超音波で検知するセンサーです。侵入者の動きで検知するため、ドアを開けずガラスを割って乗り込んだ侵入者なども検知できます。

● 傾斜センサーは、車の傾きの変化を検知するセンサーです。けん引などで車が盗難される場合などを検知します。

このシステムは、車両盗難を防止または抑止する機能であり、すべての侵入・傾きの変化に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

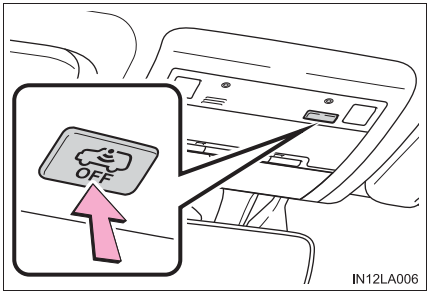
■ 侵入・傾斜センサーの作動を停止するには

車内で動くすべてのものに反応するため、ペットや動くものを車内に残すときは、必ず侵入・傾斜センサーを停止してからアラームを設定してください。

1 エンジンスイッチを OFF にする

2 侵入･傾斜センサーOFFスイッチを押す

メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに、侵入・傾斜センサー停止のメッセージが表示されます。
もう一度スイッチを押すと、侵入・傾斜センサーは再びセットされます。



侵入・傾斜センサーを停止させるときは、そのつど設定をおこなってください。

知識

■侵入・傾斜センサーの停止・復帰について★

- ●侵入・傾斜センサーを停止しても、オートアラームは作動します。
- ●侵入・傾斜センサーを停止したあとにエンジンスイッチを押すかスマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレス機能による解錠操作をおこなうと、侵入・傾斜センサーが復帰します。
- ●オートアラームの設定を解除するたびに侵入・傾斜センサーは復帰します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■侵入センサーの検知について★

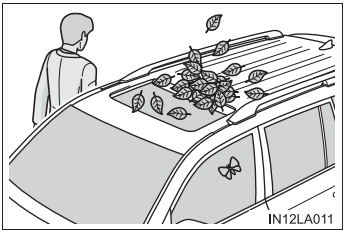
次のような場合、侵入センサーの検知によりオートアラームが作動することがあります。状況に応じ、侵入センサーを停止してからアラームを設定してください。

●車内に乗員やペットなどを残して車両から離れる場合

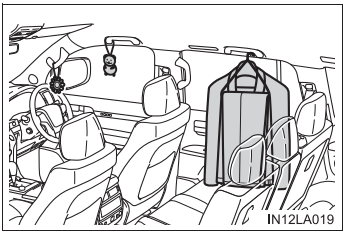
IN12LA010

●ドアガラスやムーンルーフ★などが開いている場合
以下のものを検知することがあります。

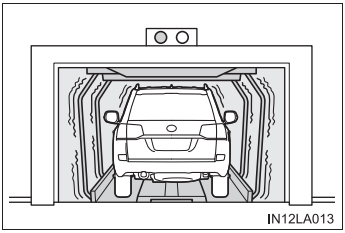
・室内に入った落ち葉・虫・風など
・他車の侵入センサーなどが発する超音波
・室外の歩行者の動き


IN12LA011

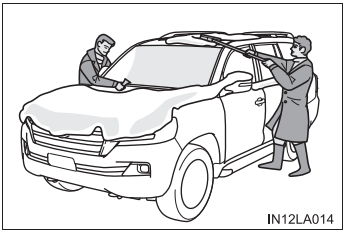
●マスコットやアクセサリーをぶら下げた状態で取り付けたり、コートフックに衣類をかけているときなど、動きやすいものが車内にある場合


IN12LA019

●立体駐車場のような振動や騒音の激しい場所に駐車したとき


IN12LA013

●雪かきやガラスに付着した氷を削り落とす際に、連続的な衝撃や振動が車両に伝わったとき


IN12LA014

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

●高圧洗車機や自動洗車機などを使うとき

●ひょうや落雷などにより、連続的な衝撃や振動が車両に伝わったとき

■傾斜センサーの検知について★

次のような場合、傾斜センサーの検知によりオートアラームが作動することがあります。状況に応じ、傾斜センサーを停止してからアラームを設定してください。

●フェリー・トレーラー・列車などで運搬するとき

●立体駐車場に駐車したとき

●車両移動をともなう洗車機を使用するとき

●タイヤ空気圧が少ないとき

●ジャッキアップするとき

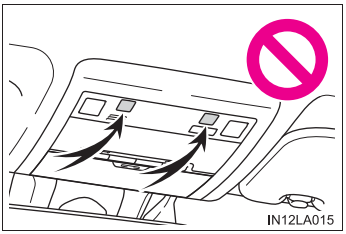
●地震や路面陥没が起きたとき

●ルーフキャリアにスキー板やスノーボード等を積んだり、荷降ろしするとき

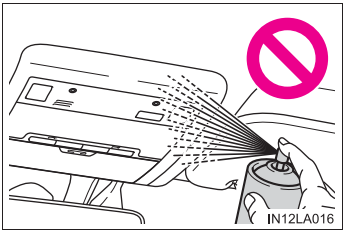
⚠注意

■侵入センサーを正しく作動させるために★

●センサーの穴は塞がないようにしてください。


IN12LA015

●センサーの穴に向かって、直接消臭スプレーなどを噴霧しないでください。


IN12LA016

●運転席と助手席のシートのあいだに、トヨタ純正品以外のアクセサリーを装着したりものを放置したりすると、検知性能が低下することがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

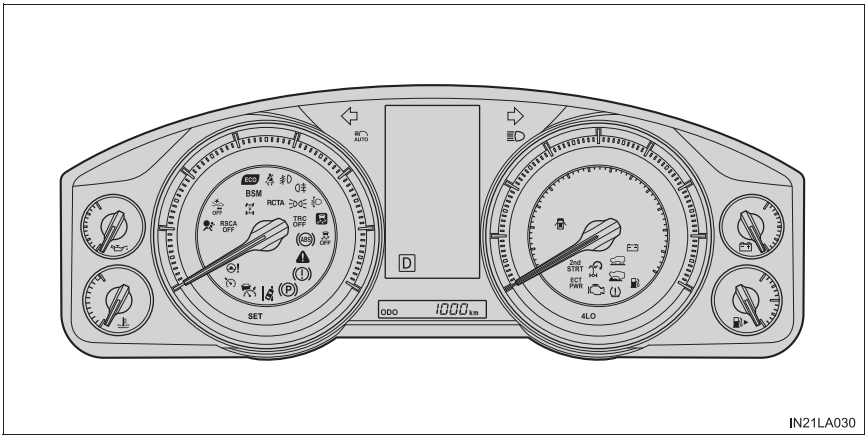
メーターの見方 2

2. 計器の見方
警告灯／表示灯 78
計器類 83
マルチインフォメーション
ディスプレイ 87
燃費画面／ ESPO 画面 96

警告灯／表示灯

メーター・センターパネル内の表示灯・警告灯でお車の状況をお知らせします。

次のイラストは、説明のためすべての表示灯／警告灯を示しています。



IN21LA030

警告灯

システム異常などを警告します。(→ P. 494)

※1
マスターウォーニング
(→ P. 496)

※1
ブレーキ警告灯
(→ P. 494)

※1
充電警告灯
(→ P. 494)

※1
エンジン警告灯
(→ P. 494)

半ドア警告灯
(→ P. 495)

※1
SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯
(→ P. 494)

※1
ABS &ブレーキアシスト警告灯 (→ P. 494)

※1
PCS 警告灯
(→ P. 495)
(点滅)

※1
パワーステアリング警告灯★
(→ P. 494)

※1
スリップ表示灯(点灯したままのとき)(→ P. 495)

※1
運転席シートベルト非着用警告灯 (→ P. 496)

※2

助手席シートベルト非着用警告灯 (→ P. 496)

※1
ヘッドランプオートレベリング警告灯★ (→ P. 495)

※1
燃料残量警告灯
(→ P. 495)

※1
タイヤ空気圧警告灯
(→ P. 496)

※1 作動確認のためにエンジンスイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 センターパネル内に表示されます。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

表示灯

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯
（→ P. 203）

ハイビーム表示灯
（→ P. 205）

オートマチックハイビーム
表示灯（→ P. 208）

尾灯表示灯
（→ P. 205）

フロントフォグランプ
表示灯★（→ P. 213）

リヤフォグランプ表示灯★
（→ P. 214）

パワーモード表示灯
（→ P. 197）

セカンドスタートモード表
示灯（→ P. 197）

クルーズコントロール
表示灯（→ P. 251）

レーダークルーズコント
ロール表示灯（→ P. 251）

クルーズコントロールセッ
ト表示灯（→ P. 251）

VSC OFF 表示灯
（→ P. 362）

TRC OFF 表示灯
（→ P. 362）

L4 作動表示灯
（→ P. 284）

センターデフロック作動
表示灯（→ P. 284）

エコドライブインジケーター
ランプ（→ P. 92）

クロールコントロール
表示灯（→ P. 289）

ターンアシスト機能表示灯
（→ P. 289）

マルチテレインセレクト
表示灯（→ P. 295）

RSCA OFF 表示灯
（→ P. 46）

スリップ表示灯
（→ P. 361）
（点滅）

パーキングブレーキ表示灯
（→ P. 204）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※3,4
BSM（ブラインドスポットモニター）ドアミラーインジケーター★（→ P. 347）

※1,2

PCS 警告灯（→ P. 233）

BSM（ブラインドスポットモニター）表示灯★（→ P. 347）

（点滅）
LDA 警告灯（→ P. 243）

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）表示灯★（→ P. 355）

シフトポジション・シフトレンジ表示（→ P. 196）

※1 作動確認のためにエンジンスイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。
トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 システムが OFF のときに点灯します。

※3 作動確認のため次の条件のときインジケーターが点灯します。
・ BSM メインスイッチが ON の状態で、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたとき
・ エンジンスイッチがイグニッション ON モードで、BSM メインスイッチを ON にしたとき
システムが正常であればインジケーターは数秒後に消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。
トヨタ販売店で点検を受けてください。

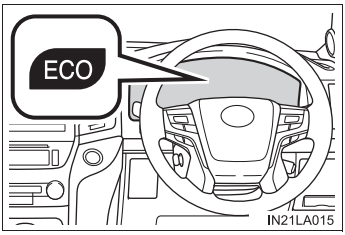
※4 ドアミラーに表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■エコドライブインジケーターランプ

環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケーターランプが点灯します。必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。（→ P. 93）



次の場合、エコドライブインジケーターは作動しません。

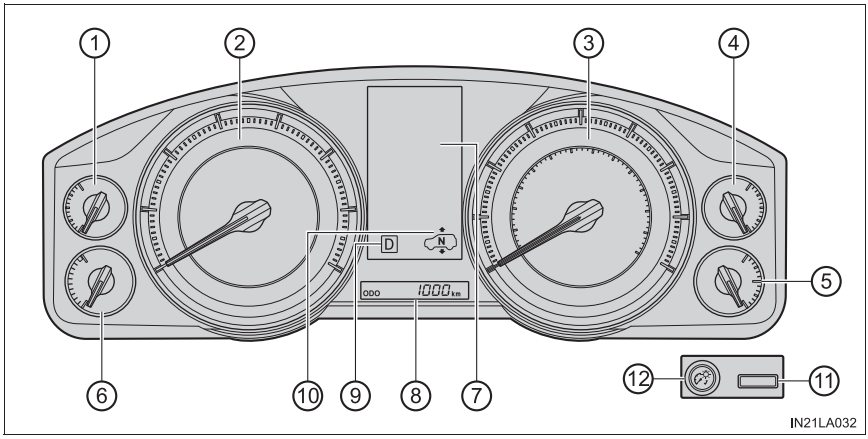
- シフトポジションが D 以外にあるとき
- セカンドスタートモードまたはパワーモード（→ P. 197）を使用しているとき
- ドライブモードセレクト装着車：スポーツモードを使用しているとき（→ P. 263）
- 車速が約 100km/h 以上のとき
- クロールコントロールを使用しているとき（→ P. 289）

⚠ 警告

■安全装置の警告灯が点灯しないときは

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

計器類



① 油圧計

エンジンオイルの圧力を示します。

② タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

③ スピードメーター

車両の走行速度を示します。

④ 電圧計

バッテリーの充電状態を示します。

⑤ 燃料計

燃料残量を示します。

⑥ 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

⑦ マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。(→ P. 87)
車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。(→ P. 500)

⑧ オドメーター・トリップメーター

● オドメーター

走行した総距離を表示します。

● トリップメーター

リセットしてからの走行距離を表示します。
区間距離は、トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

⑨ シフトポジション・シフトレンジ表示

選択されているシフトポジションまたはシフトレンジを表示します。(→ P. 196)

⑩ 4-Wheel AHC 表示★

4-Wheel AHC（アクティブハイトコントロール）のモードを表示します。
(→ P. 275)

⑪ オドメーター／トリップメーター切りかえスイッチ

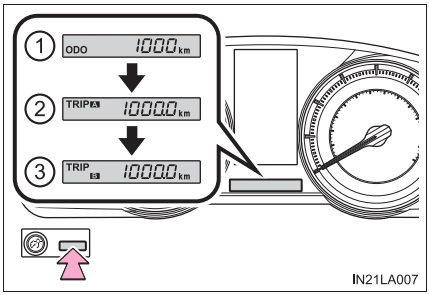
オドメーター／トリップメーター画面の切り替えができます。

⑫ メーター照度調整ダイヤル

メーター照明の明るさを調整できます。

表示の切りかえ

ボタンを押すごとに表示が切りかわります。また、トリップメーター表示中に押し続けると、走行距離を 0 にもどします。

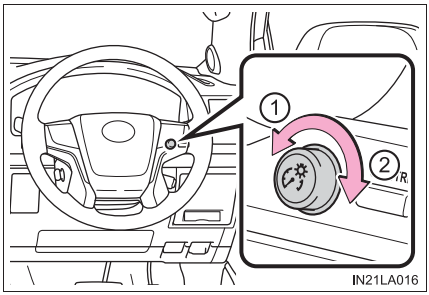


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

メーター照度調整

ダイヤルをまわしてメーター照明の明るさを調整できます。

① 暗くなる
② 明るくなる



知識

■メーター・ディスプレイの作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■メーター照度の減光制御について

ランプスイッチが ON になると、メーター照明が減光されます。ただし、メーター照度調整が一番明るい状態ではランプスイッチがONになってもメーター照度は減光されません。
周囲が暗いときランプスイッチが ON になると、メーターの明るさが減光されます。周囲が明るいとき（昼間など）ランプスイッチを ON にしても、メーターの明るさは減光されません。

■カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイでメーターの表示を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→P. 539）

⚠ 警告

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。
例えばギヤ段表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにシフトレンジの表示が切りかわらないことで、運転者がシフトダウンしなかったと誤解し、再度シフトダウンすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。
- 水温計の針がHのレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→ P. 528）

■電圧計について

エンジン回転中に電圧計が 19V 以上、または 9V 以下を示すときは、バッテリーや充電系統の異常が考えられますのでトヨタ販売店で点検を受けてください。

■油圧計について

エンジン回転中に油圧計の値が低下したときは、ただちに安全な場所に停車し、エンジンオイル量を点検してください。点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。
エンジンオイルが減っていないのに油圧が低下する、またはオイルを補給しても油圧が上昇しないときは、潤滑系統の異常が考えられるため、トヨタ販売店にご連絡ください。

マルチインフォメーションディスプレイ

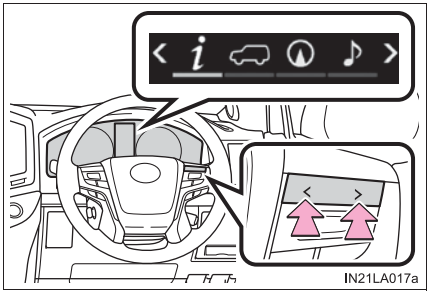
表示内容

マルチインフォメーションディスプレイは、車両に関するさまざまな情報を表示したり、設定したりすることができます。

● メニューアイコン

アイコンを選択して各項目を表示させます。(→ P. 89)

項目によっては状況に応じて自動で表示されます。



ドライブインフォメーション

走行に関するさまざまな情報を表示します。(→ P. 90)

車両情報

車両に関する情報を表示します。(→ P. 91)

ナビゲーションシステム連携表示★

ナビゲーションシステムと連携して、方位計などを表示します。
また、ナビゲーションシステムで目的地案内中に交差点案内が行われると、マルチインフォメーションディスプレイにも交差点案内が表示されます。

目的地の設定・地図の向きの切りかえなどについては、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

オーディオシステム連携表示★

オーディオソースの選択、選曲などを操作することができます。

走行支援機能情報

次のシステムの作動状況を表示します。

・ LDA（レーンディパーチャーアラート）（→P. 243）
・ レーダークルーズコントロール（→P. 251）

定速制御モード時（→P. 254）はメニューアイコンが にかわります。

警告メッセージ

車両に異常が発生した場合に、内容・対処法などのメッセージを表示します。（→P. 500）

・ 警告メッセージがないときは、「メッセージなし」と表示されます。
・ 複数の警告メッセージがあるときは、メーター操作スイッチ（→P. 89）の を上下に操作して警告メッセージを切りかえることができます。

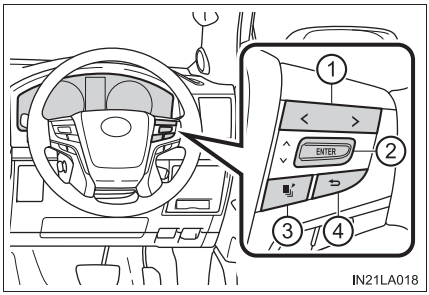
設定

メーターの表示設定や、各システムの設定などを切りかえることができます。（→P. 92）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

操作方法

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。



① メニューの切りかえ

② 上下に操作：
画面の切りかえ・カーソルの移動

押す：
決定・次画面へ移動※・機能のON／OFF

※ 一部の機能のみ

③ 短押し：
スイッチに登録した画面を表示する

未登録時はドライブインフォメーション画面を表示します。

長押し：
表示中の画面をスイッチに登録する

登録確認画面が表示されます。登録できない画面を選択しようとした場合は、登録不可のメッセージが表示されます。

④ ひとつ前の画面にもどる

ドライブインフォメーション

メーター操作スイッチの ENTER を上下に操作することで項目を選択できます。

■ ドライブインフォメーション

下記の項目の中から、ドライブインフォ 1、ドライブインフォ 2 にそれぞれ 2 項目ずつ登録した画面を表示できます。
登録は設定画面から行えます。(→ P. 92)

- 瞬間燃費

  現在の瞬間燃費を表示します。

- 平均燃費（リセット間※2・始動後・給油後）※1

  リセット後、エンジン始動後、給油後の平均燃費を表示します。

- 平均車速（リセット間※2・始動後）

  リセット後、エンジン始動後の平均車速を表示します。

- 走行時間（リセット間※2・始動後）

  リセット後、エンジン始動後の経過時間を表示します。

- 距離（航続可能距離・始動後）※3, 4

  燃料残量による走行可能な距離・エンジン始動後の走行距離を表示します。

※1 表示される平均燃費は参考として利用してください。

※2 リセットするには、リセットしたい項目を表示中にメーター操作スイッチの ENTER を長押しします。
画面に表示されている項目が 2 つともリセット可能な場合は、リセットする項目を選択する画面が表示されます。

※3 表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できない場合があります。

※4 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。給油の際はエンジンスイッチを OFF にしてください。万一、エンジンスイッチを OFF にせず給油した場合、表示が更新されないことがあります。

■ エコドライブインジケーターゾーン表示

→ P. 93

■ デジタルスピードメーター

車両の走行速度を示します。

■ ふらつき度合表示

運転者の注意力が低下したときに発生するふらつき運転を検知し、注意力低下の度合いをバーの長さで表示します。
バーの長さが短いほど休憩が必要な状態であることを表します。

この表示は、LDA（レーンディパーチャーアラート）の機能のひとつです。LDAのふらつき警報機能の作動条件を満たしたときに、表示の機能が有効になります。（→ P. 243）

■ 非表示

ドライブインフォメーションの表示をなしにします。

車両情報

メーター操作スイッチの

を上下に操作することで項目を選択できます。

■ フロントタイヤ方向表示

現在のフロントタイヤの方向（切れ角）の目安を表示します。

タイヤの方向表示は、タイヤの角度に応じて、左右それぞれ 3 段階に切りかわります。

バッテリー端子の脱着をしたときは、一時的にタイヤの方向表示が表示されないことがあります。タイヤの方向表示が表示されないときは、しばらく走行することで表示されます。

■ タイヤ空気圧表示

タイヤが装着されている位置ごとに、現在のタイヤ空気圧を表示します。

応急用タイヤ装着車：応急用タイヤの空気圧も表示されます。

設定

各装備の機能の On/Off や設定変更などができます。

■ 設定変更のしかた

1 メーター操作スイッチの ENTER を上に操作して設定変更したい項目を選択し、ENTER を押す

一部の装備で機能のOn/Offを選択する項目では、ENTER を押すたびにOn/Offが切りかわります。

2 表示内容に従って ENTER を上下に操作し、設定内容を選択して ENTER を押す

■ 設定項目

- LDA（レーンディパーチャーアラート）

  LDA の設定を変更できます。（→ P. 539）
  - 警報ブザーが吹鳴する感度
  - ふらつき検知機能
  - ふらつき検知機能の感度調整

- BSM（ブラインドスポットモニター）★

  BSM の設定を変更できます。
  - BSM 機能の On/Off
  - RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能の On/Off

- 表示設定

  以下の項目を設定することができます。
  - 言語

    マルチインフォメーションディスプレイに表示される言語を選択することができます。
  - 単位

    マルチインフォメーションディスプレイ内の燃費表示の単位を選択することができます。
  - エコドライブインジケーターランプ

    エコドライブインジケーターランプの表示／非表示を選択することができます。
  - スイッチ設定

    トップ画面を変更する方法を表示します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

・ドライブインフォ 1 ／ドライブインフォ 2

ドライブインフォメーションに表示させる項目を 1･2 それぞれに 2 つまで選択することができます。

・割込み表示

選択した機能の割り込み表示を On/Off できます。（→ P. 94）

・カラー

マルチインフォメーションディスプレイ内のカーソル色を選択することができます。

・表示設定初期化

メーターの表示設定を初期状態にもどすことができます。

知識

■エコドライブインジケーター

① エコドライブインジケーターランプ（→ P. 82）

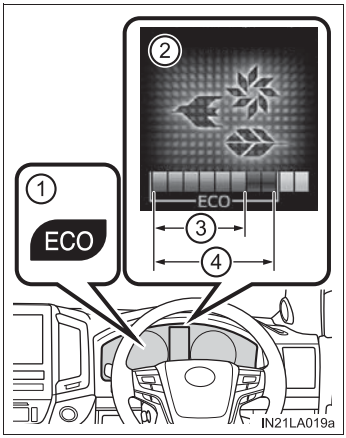
② エコドライブインジケーターゾーン表示

エコ運転の範囲と現状のアクセル開度を表示します。

③ 現状のアクセル開度

現状のアクセル開度がエコ運転の範囲をこえたとき、エコドライブインジケーターゾーン表示の右側が点灯します。
このとき、エコドライブインジケーターランプは消灯します。

④ エコ運転の範囲



■バッテリー端子の脱着をしたとき

バッテリー端子の脱着を行うと、ドライブインフォメーションの一部のデータ（メーター操作でリセット可能な項目）がリセットされます。

■設定画面の操作について

設定画面操作中に次の状態になると操作が一時中断されます。

●警告メッセージが表示されたとき

●走行し始めたとき

■割り込み表示について

次の機能の作動状況に応じてマルチインフォメーションディスプレイには、一時的に割り込み画面が表示されます。

●交差点案内★

●電話着信★

割り込み表示の ON ／ OFF を設定できます。

■タイヤ空気圧表示について

●エンジンスイッチをイグニッションONモードにしたあと、空気圧が表示されるまで 2、3 分かかります。また、空気圧が調節された場合も、表示が更新されるまで 2、3 分かかります。

●電波状況等によって各タイヤ位置の情報を識別できないときは“---”と表示されることがあります。

●タイヤ空気圧は温度によって変化します。また、表示された空気圧は、空気圧計で測定した数値と異なる場合があります。

■液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■走行中の警告

メーター操作スイッチを使うときは、安全のため走行中に極力操作をしないでください。走行中の操作はハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
車を停車させてから操作をしてください。なお、走行中に画面を見るときは、必要最小限の時間にしてください。

■ディスプレイの設定を変更するとき

エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ディスプレイの設定を変更するとき

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

燃費画面★／ESPO 画面★

燃費に関する情報をナビゲーション画面に表示します。

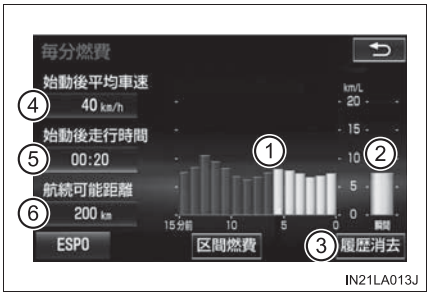
表示のしかた

1 「情報・TC」スイッチを押す

2 燃費画面：「情報・TC」画面の「燃費」を選択する
ESPO 画面：「情報・TC」画面の「ESPO」を選択する

燃費画面の見方

■ 毎分燃費の見方



IN21LA013J

① 過去 15 分間の 1 分ごとの燃費（平均燃費）

② 瞬間燃費

③ 履歴消去

④ エンジン始動後平均車速

⑤ エンジン始動後走行時間

⑥ 航続可能距離

平均燃費はエンジンスイッチをイグニッション ON モードにしてからと、前回走行時で色分けして表示されます。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 区間燃費の見方

毎分燃費が表示されたときは、「区間燃費」を選択する

① 最高燃費表示

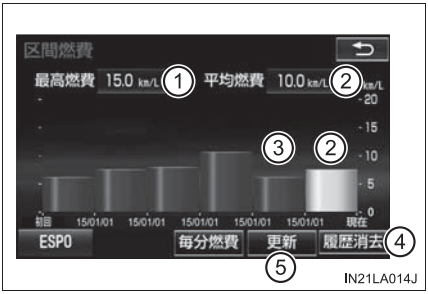
② 平均燃費表示

③ 過去平均燃費表示

平均燃費は最後に更新してからの平均、過去の平均で色分けして表示されます。

④ 履歴消去

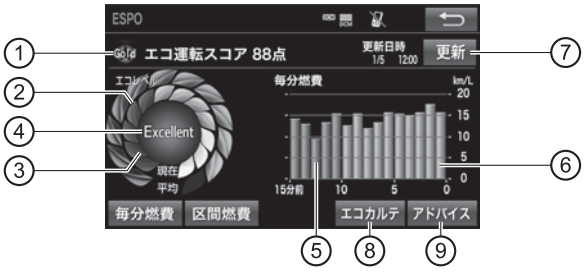
⑤ 平均燃費更新



表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

ESPO 画面の見方



① ステータス表示

エコ運転の採点結果や走行情報をトヨタスマートセンターに送信し、計算されたデータをもとにポイントやステータスを表示します。
ステータスはエコ運転を継続することでブロンズ、シルバー、ゴールドの順にランクがアップします。

※ トヨタスマートオンラインサービスをご利用されているときに表示されます。

② エコレベル平均値

エコレベルインジケーターの平均値を表示します。マークが増えるほど、環境に配慮した運転をしていることになります。

③ エコレベルメーター

エコ運転のレベルを表示します。マークが増えるほど、環境に配慮した運転をしていることになります。

④ エコレベルインジケーター

エコレベルメーターのレベルに応じて Good・Excellent が表示されます。レベルが低い場合は表示されません。

⑤ 毎分燃費（前回エンジン始動～エンジン停止）

1 分ごとの平均燃費を最大 15 分前までグラフ表示します。
今回と前回の平均燃費を色分けして表示します。

⑥ 毎分燃費（今回エンジン始動～現在）

1 分ごとの平均燃費を最大 15 分前までグラフ表示します。
今回と前回の平均燃費を色分けして表示します。

⑦ 更新スイッチ※

走行情報などをトヨタスマートセンターへ送信し、ステータスなどを更新します。

⑧ エコカルテスイッチ

お車から送信された情報を反映して、月間の走行距離・ガソリン消費量・CO_2 排出量・平均燃費・獲得ポイント・エコ運転スコアが表示されます。

⑨ アドバイススイッチ※

・ ドライバーの運転操作についてエコ運転の観点で診断した結果を表示します。良いところを確認および、さらに良くするにはどうしたら良いかを知ることができます。

・ エコ運転や環境に関する豆知識を表示します。

※ T-Connect をご利用されているときに表示されます。
詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

知識

■燃費データをリセットするには

「履歴消去」を選択すると、燃費データがリセットされます。

■航続可能距離について

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を示します。

表示される距離は、過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。

■トヨタスマートセンターへ送信する走行情報について

トヨタスマートセンターへ送信する走行情報は、ナビゲーションシステムが算出するものであり、マルチインフォメーションディスプレイに表示される走行距離や燃費などとは一致しないことがあります。

各部の操作 3

3-1. キー
キー……102
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
ドア（フロントドア・リヤドア）……106
バックドア……114
スマートエントリー&スタートシステム……125
3-3. シートの調整
フロントシート……132
リヤシート……135
ドライビングポジションメモリー……149
ヘッドレスト……153
3-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル……157
インナーミラー……160
ドアミラー……162
補助確認装置……165
3-5. ドアガラス・ムーンルーフの開閉
パワーウインドウ……167
ムーンルーフ……172

キー

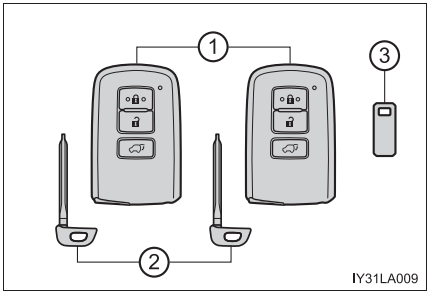
キーについて

お客様へ次のキーをお渡しします。

① 電子キー
- スマートエントリー&スタートシステムの作動（→ P. 125）
- ワイヤレス機能の作動

② メカニカルキー

③ キーナンバープレート



ワイヤレスリモコン

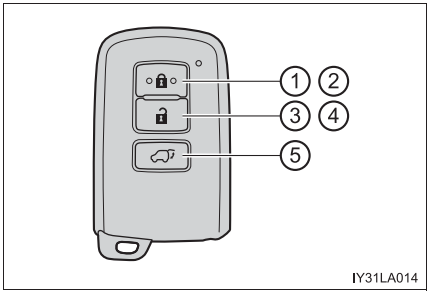
① ドアの施錠（→ P. 106）

② ドアガラスとムーンルーフ★を閉める※（→ P. 106）

③ ドアの解錠（→ P. 106）

④ ドアガラスとムーンルーフ★を開く※（→ P. 106）

⑤ パワーバックドア開閉★（約 1 秒長押し）（→ P. 114）

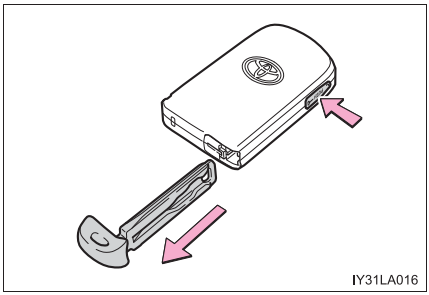


※ ワイヤレスリモコンの操作でドアガラス・ムーンルーフ★を開閉できるように設定を変更できます（AX、ZX のみ）。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除ボタンを押してキーを取り出してください



メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→ P. 523）

知識

■駐車場などでキーを預けるとき

必要に応じてグローブボックスを施錠（→ P. 407）します。メカニカルキーを取り出し、電子キーのみを渡してください。

■メカニカルキーを紛失したとき

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのメカニカルキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいメカニカルキーを作ることができます。キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

■航空機に乗るとき

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■電池の消耗について

●電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。

●電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴ります。

●電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。(→ P. 462)

・スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
・作動範囲が狭くなった
・電子キーの LED が点灯しない

●電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の1m以内に電子キーを保管しないでください。

・TV
・パソコン
・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
・電気スタンド
・電磁調理器

■電池の交換方法

→ P. 462

■キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはトヨタ販売店へご相談ください。

■パワーバックドア★の反転作動について

作動中に再度ワイヤレスリモコンのスイッチを押すと、反転作動に切り替わります。ただし、自動開閉作動が開始して約 1 秒間は、再度ワイヤレスリモコンのスイッチを押しても反転作動に切り替わりません。

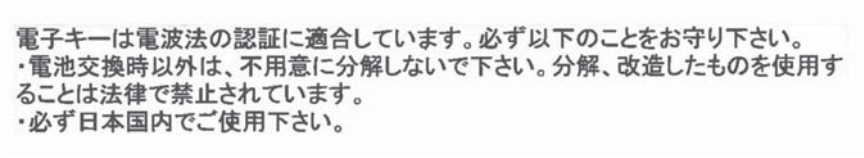
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意

■ キーの故障を防ぐために

- ●落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- ●湿度の高いところに長時間放置しない
- ●ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- ●キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- ●電子キー表面にシールなどを貼らない
- ●分解しない
- ●テレビやオーディオ、電磁調理器などの磁気を帯びた製品の近くに置かない
- ●電気医療機器（マイクロ波治療器や低周波治療器など）の近くに置いたり、身につけたまま治療を受けない

■ 電子キー取り扱いの注意



■ キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■ スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

■ 電子キーを紛失したときは

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーとカードキーをすべてお持ちのうえ、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

ドア（フロントドア・リヤドア）

車外からの施錠／解錠

◆ スマートエントリー&スタートシステム

電子キーを携帯して操作します。

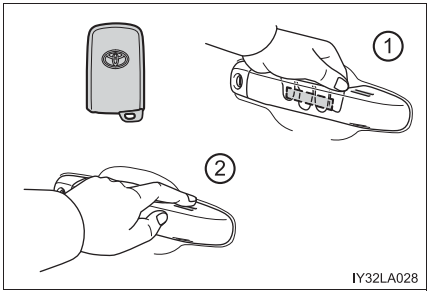
① ドアハンドルを握って解錠する

ハンドル裏面のセンサー部に確実に触れてください。

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

② ドアハンドル上側、または下側のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。



◆ ワイヤレスリモコン

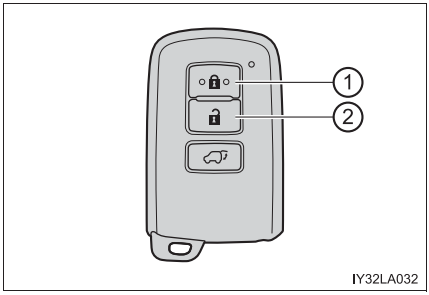
① 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

押し続けるとドアガラスとムーンルーフ★が閉まります。※

② 全ドアを解錠する

押し続けるとドアガラスとムーンルーフ★が開きます。※



※ ワイヤレスリモコンの操作でドアガラス・ムーンルーフ★を開閉できるように設定を変更できます（AX、ZXのみ）。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■作動の合図

ドア：ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

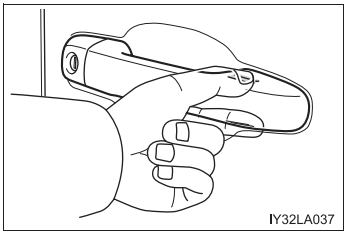
パワーバックドア★：ブザーと非常点滅灯の点滅（2 回）で知らせます。
（ブザーは作動開始時に 1 回鳴ります）

■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■ドアハンドル上側のロックセンサーで施錠できないとき

ドアハンドル上側のロックセンサー部にふれても施錠できないときは、上下のロックセンサー部に同時にふれてください。



■半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。
ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■オートアラームの設定

施錠するとオートアラームが設定されます。（→ P. 70）

■スマートエントリー& スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

- メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→ P. 523）
- 電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。（→ P. 462）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスやムーンルーフ★を操作するとき（AX、ZX のみ）

ドアガラスやムーンルーフに人が挟まるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

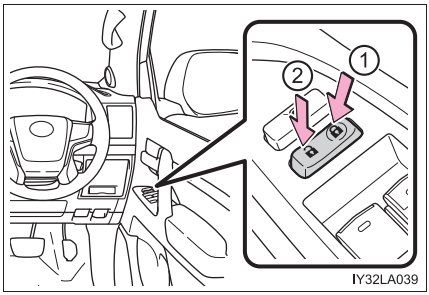
■挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスやムーンルーフ★が完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

車内からの施錠／解錠

◆ ドアロックスイッチ

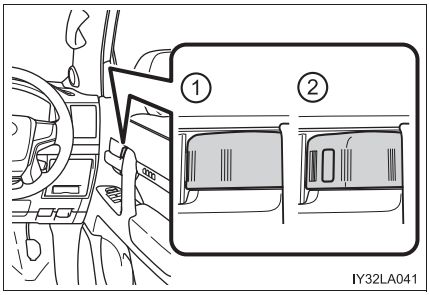
① 全ドアを施錠する
② 全ドアを解錠する



◆ ロックレバー

① ドアを施錠する
② ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開きます。



キーを使わずに外側からフロント席を施錠

1 ロックレバーを施錠側にする
2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

エンジンスイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。
電子キーの位置によっては、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

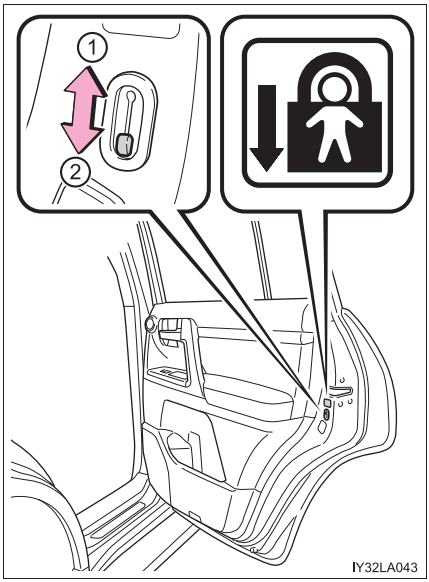
チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。

① 解錠

② 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。



知識

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

オートドアロック・アンロック機能

次の機能を設定・解除することができます。

設定変更のしかたについては、P. 539 を参照してください。

機能	作動内容
シフト操作連動ドアロック	エンジンが作動中にシフトレバーを P から動かすと全ドアが施錠されます。
シフト操作連動アンロック	シフトレバーを P に入れると全ドアが解錠されます。
車速感応オートドアロック	速度が約 20km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
運転席ドア開連動アンロック	エンジンスイッチを OFF にしてから約 45 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

■ **設定・解除のしかた**

次の手順で、各機能の設定と解除が交互に切りかわります。

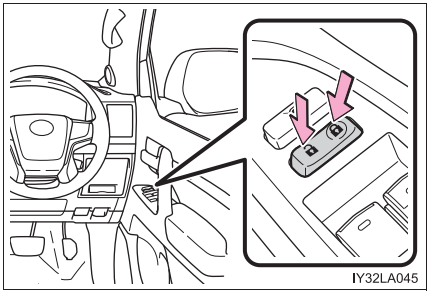
メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車は、ナビゲーションシステムの画面からでも、設定の変更が行えます。（→ P. 539）

1 すべてのドアを閉め、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする（その後 20 秒以内に 2 を行う）

2 シフトレバーを P または N に入れ、運転席ドアロックスイッチの 🔒 または 🔓 を約 5 秒間押して離す

設定を行う機能によってシフトレバーとスイッチの位置を次の表から選択します。

機能を解除するには、同じ手順を行います。



機能	シフトレバーの位置	運転席ドアロックスイッチ
シフト操作連動ドアロック	P	🔒
シフト操作連動アンロック		🔓
車速感応オートドアロック	N	🔒
運転席ドア開連動アンロック		🔓

設定または解除の切りかえ操作が完了すると、すべてのドアが施錠されたあと、解錠されます。

知識

■解錠ドアの切り替え機能

ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー&スタートシステムで解錠できるドアの設定を切り替えることができます。

1 エンジンスイッチを OFF にする

2 オートアラームの侵入・傾斜センサー★を停止する（操作中のオートアラーム誤作動防止）（→P. 74）

3 電子キー表面のインジケーターが点滅していないのを確認後、 ボタンと同時に、 ボタンまたは ボタン（パワーバックドア装着車のみ）のいずれかを約 5 秒間押し続ける

設定をおこなうごとに以下のように設定が切り替わります。（続けて切り替え操作をおこなう場合は、ボタンから手を離したあと、5 秒以上間隔をあけてから 3 をおこなってください）

マルチインフォメーションディスプレイ	解錠できるドア	ブザー音
	運転席のドアハンドルを握ると運転席のみ解錠	車外：“ピピッ”（3 回） 車内：“ポーン”（1 回）
	運転席以外のドアハンドルを握ると全席解錠	
	いずれかのドアハンドルを握ると全席解錠	車外：“ピピッ”（2 回） 車内：“ポーン”（1 回）

オートアラームの誤作動防止のため、登録後はいったんワイヤレスリモコンで解錠し、ドアを開閉してください。（ ボタンを押して 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます。）

オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作を行ってください。（→P. 71）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。
衝撃の度合いや事故の状況によっては作動しないことがあります。

■メカニカルキーでの施錠・解錠

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→ P. 523）

■スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 128

■カスタマイズ機能

キー操作によって解錠されるドアの設定などを変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 539）

⚠ 警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、不意にドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- 走行中はドア内側のドアレバーを引かない
  特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ドアを開閉するときは

傾斜した場所・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

バックドア

バックドアは次の方法で施錠・解錠および開けることができます。

バックドアの施錠・解錠

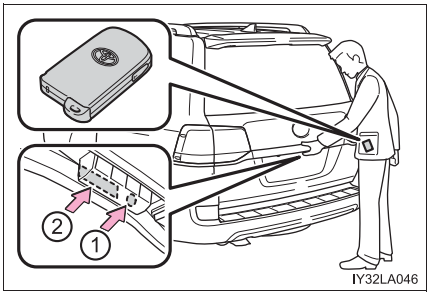
◆ スマートエントリー&スタートシステム

電子キーを携帯して操作します。

① 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

ロックスイッチの操作でドアガラス・ムーンルーフ★を閉じられるように設定を変更できます（AX、ZXのみ）。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。



② 全ドアを解錠する

施錠操作後３秒間は解錠できません。

◆ ワイヤレスリモコン

→ P. 106

◆ ドアロックスイッチ

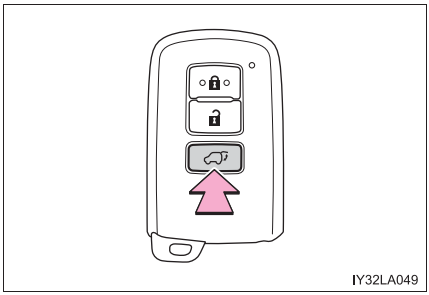
→ P. 109

ワイヤレスリモコンでの開閉（パワーバックドア装着車）

スイッチを長押しする

バックドア解錠時※に作動させることができます。

※ カスタマイズ機能により、施錠時からでも作動できるように設定できます。（→ P. 539）

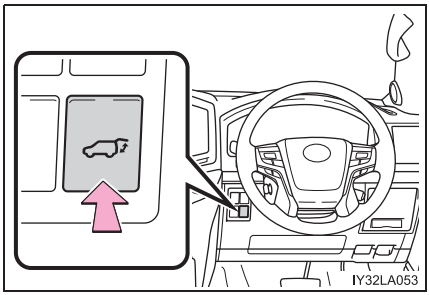


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車内からバックドアを開けるには（パワーバックドア装着車）

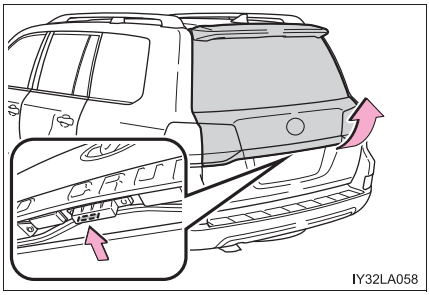
パワーバックドアスイッチを約1秒長押しする

開閉作動中に再度スイッチを押すと、反転作動します。
ただし、自動開閉作動から約 1 秒間は反転作動に切り替わりません。



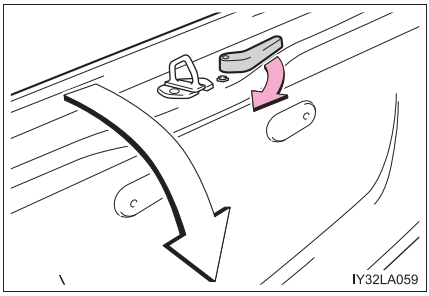
車外からバックドアを開けるには

1 バックドアオープンスイッチを押したまま、バックドアを持ち上げる



2 ハンドルを引く

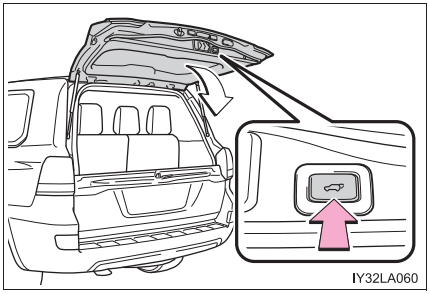
バックドアの開閉後は、自動的に施錠されません。お車から離れるときは、ドアを再度施錠してください。



パワーバックドアクローズスイッチ（パワーバックドア装着車）

スイッチを押す

バックドアが閉まる途中でスイッチを押すと、バックドアは再び開きます。


IY32LA060

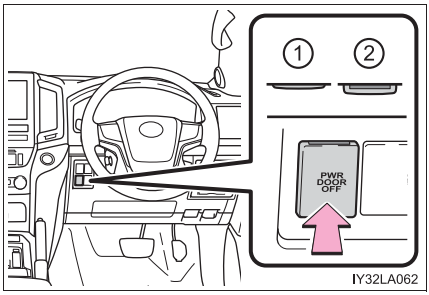
パワーバックドアを使用するときは（パワーバックドア装着車）

パワーバックドアメインスイッチを ON にする

① OFF

② ON

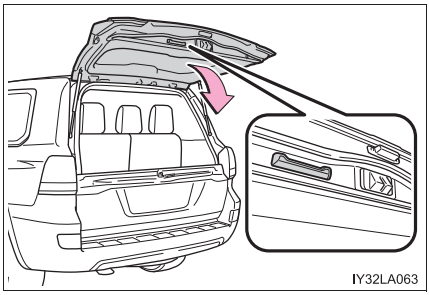
ON にするとスイッチ上部のオレンジ色のマークがあらわれます。



IY32LA062

バックドアを閉めるときは

- 上側バックドアを閉める前に下側バックドアが閉まっていることを確認してください。
- バックドアハンドルを持ってバックドアを引き下げ、必ず外から押して閉めてください。


IY32LA063

知識

■パワーバックドアの作動可能条件（パワーバックドア装着車）

パワーバックドアメインスイッチが ON で、以下の作動条件をすべて満たしているときに、自動で開閉できます。

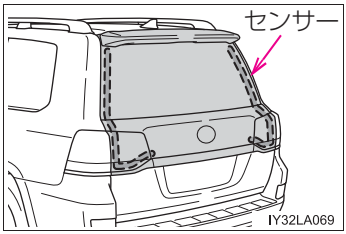
- ●パワーバックドアが解錠されている（閉作動を除く）※
- ●下側バックドアが閉まっている（閉作動のみ）

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき開作動するには上記に加え、車速が 3km/h 未満かつシフトレバーが P になっていることが必要です。ただし、ワイヤレスリモコンによる開閉はできません。

※ カスタマイズ機能により、施錠時からでも作動できるように設定できます。この場合、バックドアを閉めても施錠されないため、もう一度施錠操作をおこなってください。

■挟み込み防止機能（パワーバックドア装着車）

- ●上側バックドアの左右端部には、センサーが付いています。上側バックドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが押されると挟み込み防止機能が作動し、その位置からドアは自動的に反対方向に動き、全開位置で停止します。
- ●上側バックドアを自動で閉めているときに、下側バックドアを開けると、バックドアは自動的に反対方向に動きます。



■バッテリーを再接続したときは（パワーバックドア装着車）

パワーバックドアを適切に作動させるために、下記の初期設定をおこなってください。

- ●ドアロックスイッチでドアを解錠する
- ●バックドアを手動で一度全閉にする

■バックドアイージークローザー（パワーバックドア装着車）

上側または下側バックドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが作動し、バックドアが自動で閉まります。

- ●エンジンスイッチが OFF になっていても、イージークローザーは作動します。
- ●イージークローザーが作動中でも、バックドアオープンスイッチや下側バックドアのハンドルを操作してバックドアを開けることができます。
- ●下側バックドアのイージークローザーが作動するときはブザーが鳴ります。

■パワーバックドアの作動について（パワーバックドア装着車）

●作動開始時にブザーが鳴り、非常点滅灯が 2 回点滅します。

●パワーバックドアメインスイッチが OFF のときは、バックドアは自動で作動しませんが、手動で開閉できます。

●バックドアが自動開閉中に、バックドアオープンスイッチを押すと、手動操作に切り替わります。

●バックドア自動開閉中に、人や異物などにより異常を感知すると、ブザーが鳴り、その位置から自動的にドアは反対方向に動きます。

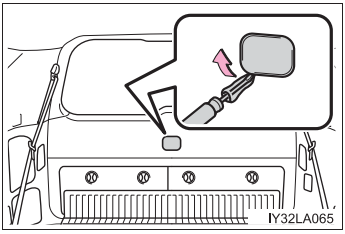
●連続して2回以上の閉方向の異常を感知するとブザーが鳴り、手動操作に切り替わります。

■バックドアが開かないときは

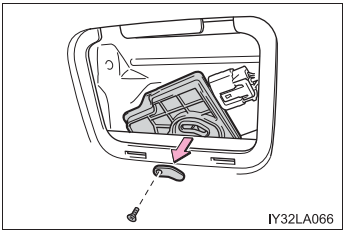
バックドアを内側から開けることができます。

1 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、図のように布などを巻いて保護してください。

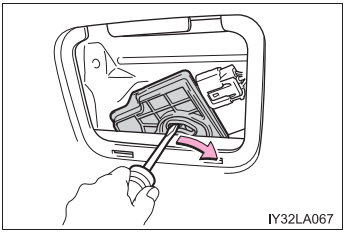

IY32LA065

2 ネジ（1 本）を取りはずし、内側カバーを取りはずす（パワーバックドア非装着車）

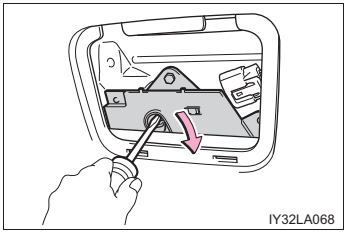

IY32LA066

3 レバーを押す

▶パワーバックドア非装着車


IY32LA067

▶パワーバックドア装着車



■バックドア予約ロック機能（パワーバックドア装着車）

バックドアが開いている状態で、あらかじめ全ドアの施錠を予約する機能です。

次の操作をすると、バックドア以外のすべてのドアが施錠され、バックドアが閉まると同時にバックドアも施錠されます。

1 バックドア以外のすべてのドアを閉じる。

2 バックドアの自動閉作動中に、以下のいずれかの操作を行う。

・ワイヤレスリモコンの施錠ボタンを押す。（→ P. 102）
・電子キーを携帯し、ドアハンドルのロックセンサーに触れる。（→ P. 106）
・電子キーを携帯し、バックドアのロックスイッチを押す。（→ P. 114）
予約ロックをしてバックドアが自動閉作動中に、挟み込み防止機能が働くなど停止操作が行われると予約ロック機能が解除され全てのドアが解錠されます。

■販売店で設定可能な機能

スイッチ操作などの変更ができます。
（車両カスタマイズ機能一覧→ P. 539）

⚠ 警告

■走行中の警告

●走行中はバックドアを閉めてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあります。走行前にバックドアが閉まっていることを必ず確認してください。

●走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お子さまを乗せているときは

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

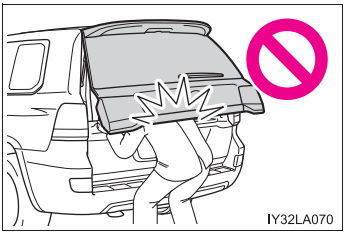
●お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

⚠ 警告

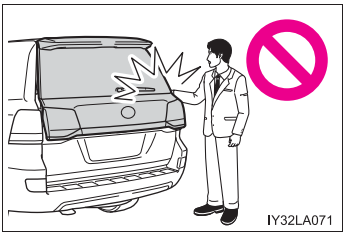
■バックドアの操作にあたって

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。
- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
  バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- 半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。とくに傾斜した場所では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。


IY32LA070

- バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。
- バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアハンドルで直接バックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

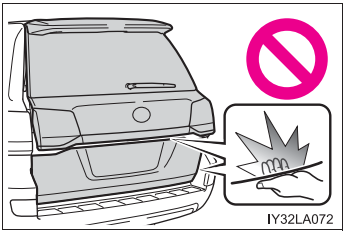

IY32LA071

- バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶら下がったりしないでください。
  手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

⚠ 警告

■バックドアイージークローザーについて（パワーバックドア装着車）

●バックドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き自動で完全に閉まります。また、作動しはじめるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。



●イージークローザーは、パワーバックドアメインスイッチが OFF であっても作動するため、指などの挟み込みには十分注意してください。

■パワーバックドアについて（パワーバックドア装着車）

パワーバックドアの操作時は、以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●周囲の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

●人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことをしらせる「声かけ」をしてください。

●自動開閉中にパワーバックドアメインスイッチを OFF にすると、作動が停止し手動操作に切り替わります。この場合、バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

●自動開閉中に作動可能条件を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し手動操作に切り替わる場合があります。
この場合、坂道などの傾斜した場所ではバックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので十分注意してください。

⚠ 警告

■パワーバックドアについて（パワーバックドア装着車）

●傾斜した場所では、開いたあとにドアが突然閉じる場合があります。必ずドアが全開で静止していることを確認してください。

●次のような場合、システムが異常と判断して自動作動が停止し、手動操作に切り替わることがあります。この場合、バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

・自動作動中、障害物に干渉したとき
・エンジン停止時でパワーバックドアが自動作動しているときに、エンジンスイッチをイグニッションONモードにしたりエンジンを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき

●バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、自動で作動できずにパワーバックドアが故障したり、開いたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

■挟み込み防止機能（パワーバックドア装着車）

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、バックドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

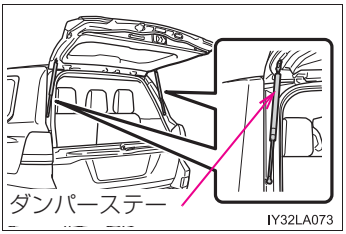
●挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれ方によっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

⚠ 注意

■ダンパーステーについて

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などでふれない
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を付けない
- ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない



■バックドアイージークローザーの故障を防ぐために（パワーバックドア装着車）

イージークローザーの作動中は、バックドアに無理な力をかけないでください。

■パワーバックドアの故障を防ぐために（パワーバックドア装着車）

- パワーバックドアを作動させる前に、凍結によるバックドアの貼り付きがないことを確認してください。バックドアに無理な力がかかっている状態で作動させると、故障の原因になります。
- パワーバックドアの作動中は、バックドアに無理な力をかけないでください。
- バックドア左右端部のセンサーを刃物などの鋭利なもので傷付けないように注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。

■予約ロック機能について（パワーバックドア装着車）

予約ロック機能使用時、施錠操作をしたあとに、電子キーを車内にもどすと、車内に電子キーが閉じ込められることがあります。
予約ロック機能を使用するときは、必ず電子キーを携帯した状態で行ってください。
車から離れるときは、すべてのドアが閉まり施錠されたことを確認してください。

スマートエントリー&スタートシステム

電子キーをポケットなどに携帯すると、次の操作が行えます。必ず運転者がキーを携帯してください。

- ドアを施錠・解錠する （→P. 106）
- バックドアを施錠・解錠する （→P. 114）
- エンジンを始動する（→P. 190）

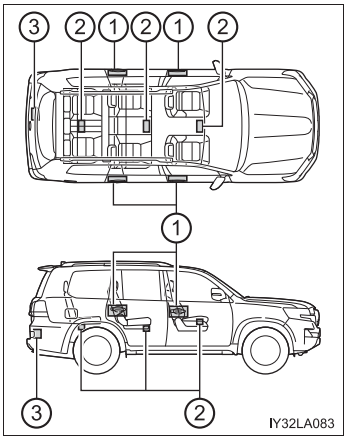
知識

■アンテナの位置

① 車外アンテナ

② 車内アンテナ

③ ラゲージルーム外アンテナ



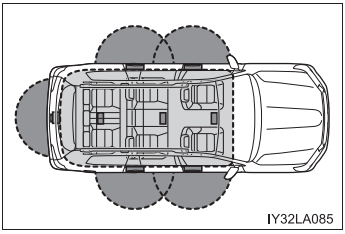
■作動範囲（電子キーの検知エリア）

●：ドアの施錠・解錠時

ドアハンドルから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

●：エンジン始動時またはエンジンスイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。



■警告音と警告表示について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次のようになります。

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー”と 5 秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠してください。
車内から“ポーン、ポーン”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチをアクセサリーモードにした（アクセサリーモードのとき運転席ドアを開いた）	エンジンスイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉めてください。
	運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチを OFF にした	運転席ドアを閉めてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両のバッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

●次の状況では、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。

・車の外約 2m 以内に電子キーを 10 分以上放置した
・5 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった

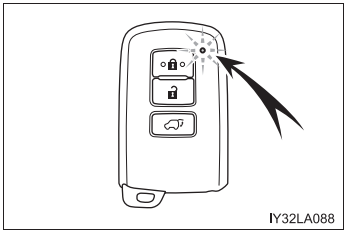
●14 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■電子キーの節電モードについて

節電モードに設定すると、電子キーによる電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの を押しながら、 を 2 回押し、電子キーのインジケータが 4 回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー & スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。


IY32LA088

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、エンジンイモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。(対処方法：→ P. 523)

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき

・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア

●近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき

・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
・他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
・パソコンや携帯情報端末（PDA など）
・デジタルオーディオプレーヤー
・ポータブルゲーム機器

●リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

●充電器など電子機器の近くにキーを置いた場合

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のようなときは正しく作動しないことがあります。

・施錠・解錠時、電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎている、または地面の近くや高い場所にある
・エンジン始動時やエンジンスイッチの切りかえ時、電子キーがインストルメントパネルやフロア上・トノカバー（装着車のみ）上・ドアポケット、またはグローブボックス内などに置かれている

●インストルメントパネル上面やドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外から施錠でき、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあります。

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外は解錠しません。

●車外でも電子キーがドアガラスに近づいていると、エンジンを始動できることがあります。

●電子キーが作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠します）

●手袋を着用していると施錠・解錠しないことがあります。

●ワイヤレスリモコンなどでの施錠時にキーが車両の近くにあると、スマートエントリー&スタートシステムでの解錠ができないことがあります。（ワイヤレスリモコンを使用すると解錠できます）

●ロック操作は、連続で 2 回まで有効です。3 回目以降はロック動作しません。

●電子キーを携帯したまま洗車をすると、水がドアハンドルにかかったときに施錠・解錠をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をしてください。

・キーを車両から約 2m 以上離れた場所に置く（盗難に注意し保管してください）
・キーを節電モードに設定してスマートエントリー&スタートシステムの作動を停止する（→ P. 127）

●洗車機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときに、マルチインフォメーションディスプレイに警報が表示され車外のブザーが吹鳴することがあります。全てのドアを施錠すると警報は止まります。

●ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着すると、センサーが反応しないことがあります。その場合は氷や雪、泥を取り除いて操作するか、ドアハンドル下部のロックセンサーで操作してください。

●作動範囲内に他の電子キーがあると、解錠に時間がかかることがあります。

●急なドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ急に入ってドアハンドルを操作したときは、解錠できない場合があります。解錠されなかった場合は、ドアハンドルを一度もとの位置にもどし、再度解錠操作をして、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。

■長期間運転しないとき

●盗難防止のため、電子キーを車両から 2m 以上離しておいてください。

●あらかじめスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることができます。（→ P. 539）

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります。

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき

●ドア・バックドアガラスの施錠・解錠：→ P. 523

●エンジンの始動：→ P. 523

■カスタマイズ機能

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。（カスタマイズ一覧：→ P. 539）

■カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたとき

●ドアの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→ P. 106, 523）

●エンジンの始動・エンジンスイッチのモード切りかえ：→ P. 523

●エンジンの停止：→ P. 191

⚠ 警告

■電波がおよぼす影響について

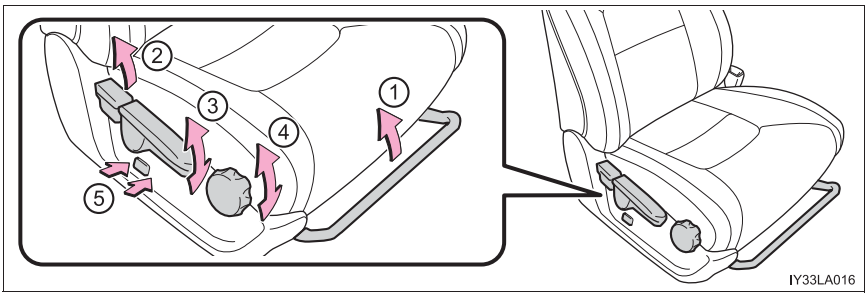
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、室内アンテナ・車外アンテナ（→ P. 125）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波が医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることもできます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

フロントシート

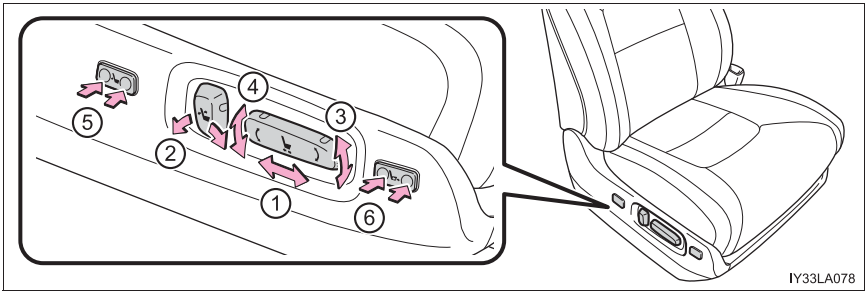
調整のしかた

▶ マニュアルシート



① 前後位置調整
② リクライニング調整
③ シート全体の上下調整（運転席）
④ クッション前端の上下調整（運転席）
⑤ 腰部硬さ調整（運転席）

▶ パワーシート

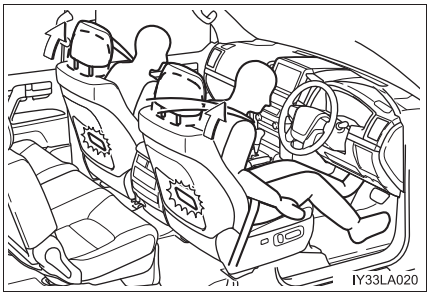


① 前後位置調整
② リクライニング調整
③ クッション前端の上下調整
④ シート全体の上下調整
⑤ 腰部硬さ調整（運転席）
⑥ クッションの長さ調整★（運転席）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アクティブヘッドレスト★

背もたれに強い衝撃を受けると、フロント席乗員のむち打ちの症状を軽減させるためにヘッドレストが少し前方上側に動きます。



知識

■アクティブヘッドレスト★について

背もたれに弱い衝撃を受けてもヘッドレストが動く場合がありますが、故障ではありません。

⚠警告

■シートを調整するとき

- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
  指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■リクライニング調整について

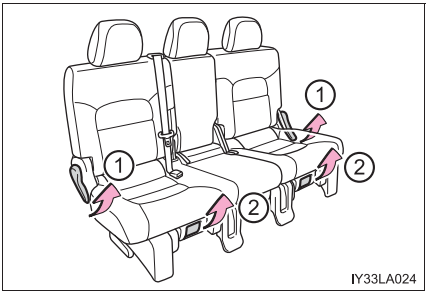
- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
  必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり、肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- マニュアルシート装着車は、シート調整後はシートがきちんと固定されていることを確認してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

リヤシート

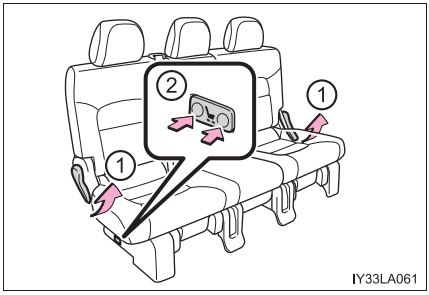
調整のしかた

▶ セカンドシート A タイプ



IY33LA024

▶ セカンドシート B タイプ

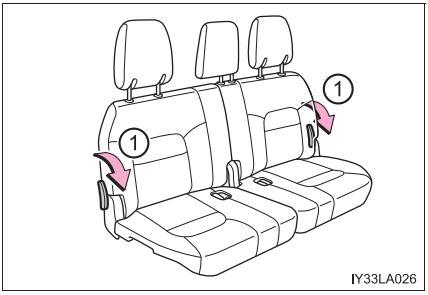


IY33LA061

① リクライニング調整

② 前後位置調整

▶ サードシート★



IY33LA026

① リクライニング調整

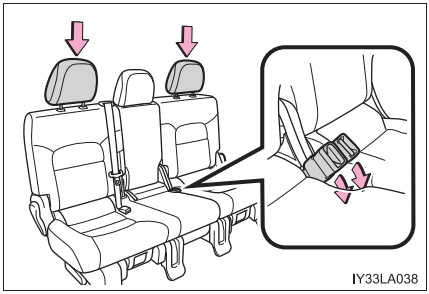
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

セカンドシートの格納、サードシート★への乗り降り

サードシートへの乗り降りの際は、“セカンドシートの格納のしかた”の 1 の操作をおこなってください。（→ P. 137）

■ セカンドシートを格納する前に

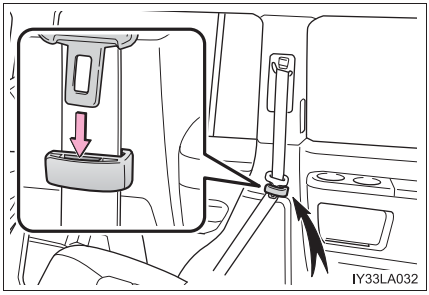
1 バックルを格納し、ヘッドレストをいちばん下まで下げる



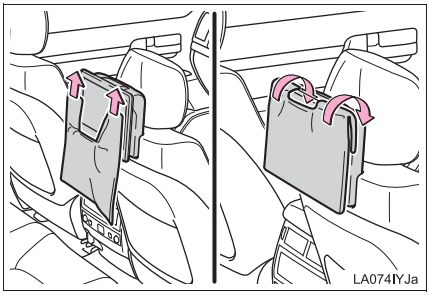
2 シートベルトハンガーに外側席シートベルトを格納し、プレートをハンガー穴部に挿し込む

シートベルトが損傷するのを防ぎます。

使用するときはシートベルトがシートベルトハンガーにかかっていないことを確認します。



3 リヤシートエンターテイメントシステム（後席 11.6 型ワイドディスプレイ）装着車：リヤシートエンターテイメント用ディスプレイカバー（後席 11.6 型ワイドディスプレイ用カバー）を取り付ける。

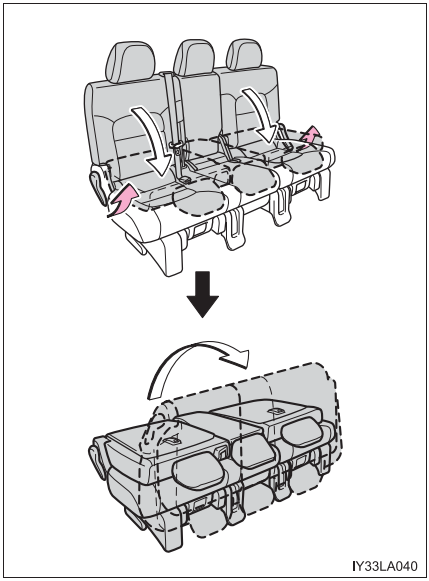


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ セカンドシートの格納のしかた

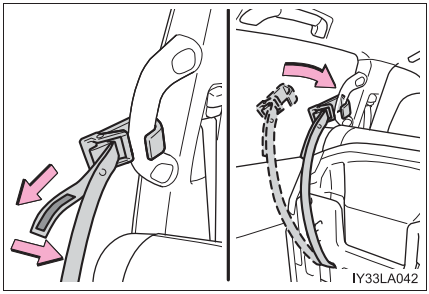
1 レバーを引く

背もたれが前に倒れ、シートがはね上がります。


IY33LA040

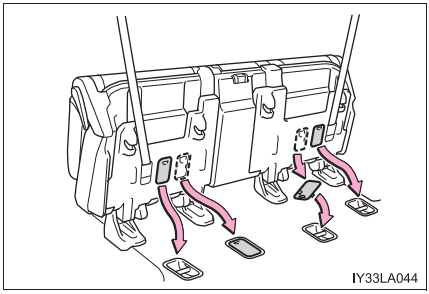
2 アシストグリップにフックをかけ、シートが動かなくなるよう固定する

シートをもとにもどすときは、フックを格納します。


IY33LA042

3 シートクッション裏からシートフックカバーを取りはずしシートフックの位置に取り付ける

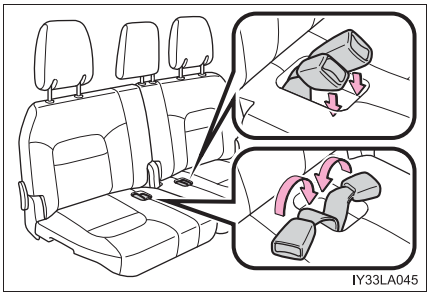
シートをもとにもどすときは、シートフックカバーを取りはずし、もとの位置に取り付けます。


IY33LA044

サードシートの格納（A タイプ）

■ サードシートを格納する前に

1 バックルを格納する

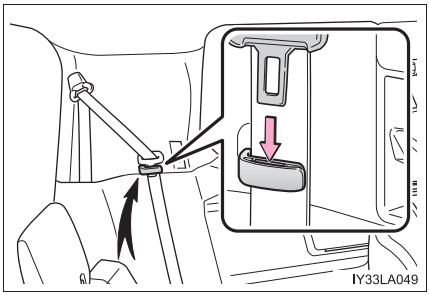


2 中央席のヘッドレストを格納する（→ P. 156）

3 シートベルトハンガーに外側席シートベルトを格納し、プレートをハンガー穴部に挿し込む

シートベルトが損傷するのを防ぎます。

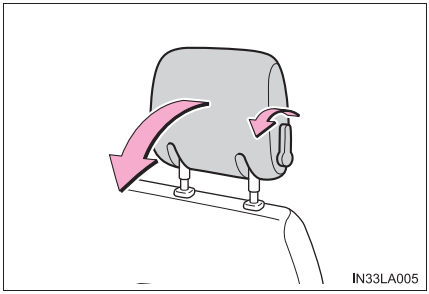
使用するときはシートベルトがシートベルトハンガーにかかっていないことを確認します。



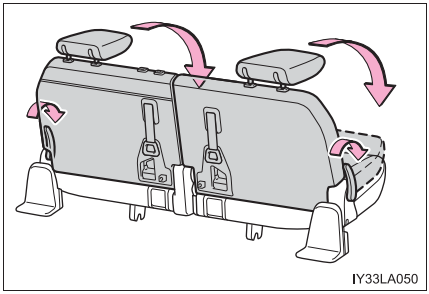
4 中央席のシートベルトを格納する（→ P. 30）

■ **サードシートの格納のしかた**

1 ヘッドレスト前倒しレバーを引いて外側席ヘッドレストを倒す



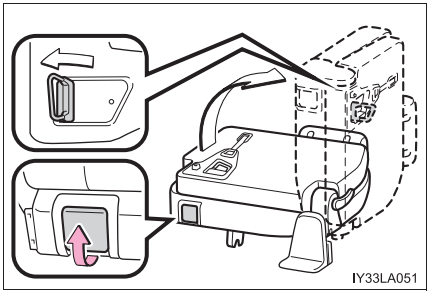
2 レバーを操作して背もたれを倒す



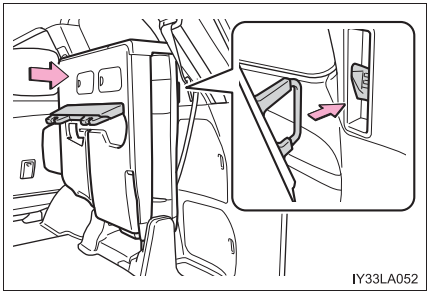
3 インナーレッグロック解除レバーを引く

シートがはね上がり、ストライカーが起き上がります。

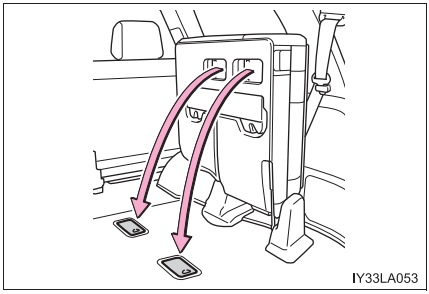
はね上げる際に、背もたれうしろにある背もたれ引き起こしハンドルが固定されていることを確認してください。



4 シートを側面に押し付けて、確実に固定する

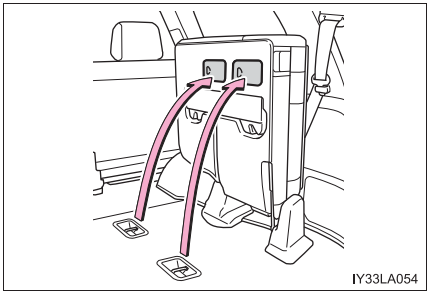


5 シートクッション裏からシートフックカバーを取りはずし、シートフックの位置に取り付ける

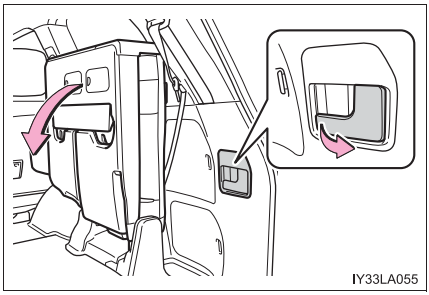


■ **サードシートのもどし方**

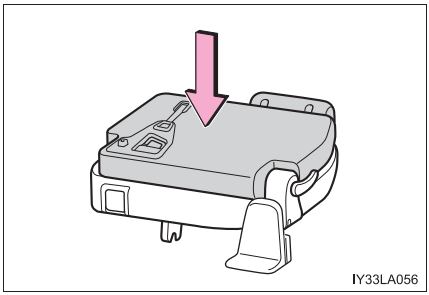
1 フロアに取り付けたシートフックカバーを取りはずし、もとの位置に取り付ける



2 スペースアップロック解除レバーを引き、シートをおろす

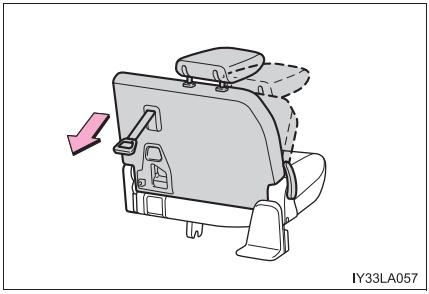


3 シートを押し付けて、確実に固定する

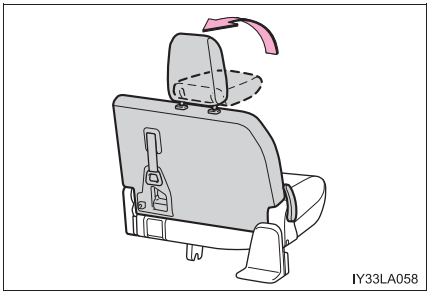


4 背もたれうしろにある背もたれ引き起こしハンドルを引き、背もたれを起こす

ハンドルを使用したあとは、もとの位置に確実に固定してください。


IY33LA057

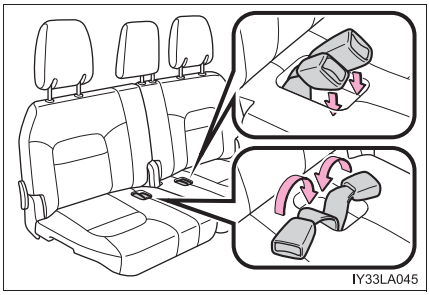
5 ヘッドレストを起こす


IY33LA058

サードシートの格納（B タイプ）

■ サードシートを格納する前に

1 バックルを格納する

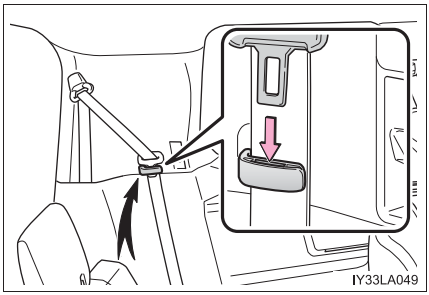


2 中央席のヘッドレストを格納する（→ P. 156）

3 シートベルトハンガーに外側席シートベルトを格納し、プレートをハンガー穴部に挿し込む

シートベルトが損傷するのを防ぎます。

使用するときはシートベルトがシートベルトハンガーにかかっていないことを確認します。



4 中央席のシートベルトを格納する（→ P. 30）

■ **サードシートの背もたれの前倒し**

1 “サードシートを格納する前に”の操作をおこなう（→ P. 142）

2 シートを前倒しする

サードシート背もたれ前倒しスイッチを押し、シートを自動的に折りたたみます。

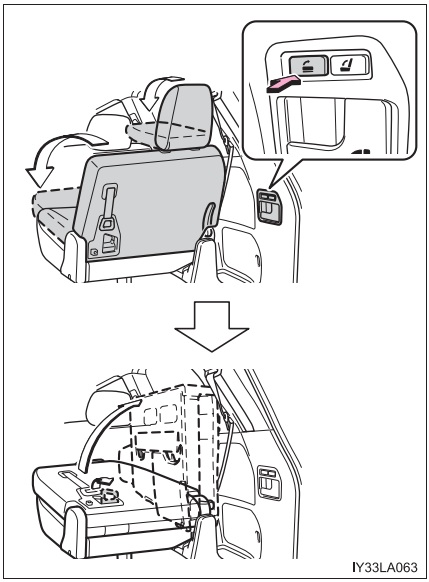
■ **サードシートの格納のしかた**

1 “サードシートを格納する前に”の操作をおこなう（→ P. 142）

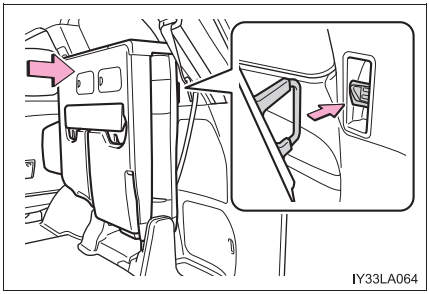
2 シートを格納する

サードシート格納スイッチを押すと、自動的にシートが格納されます。

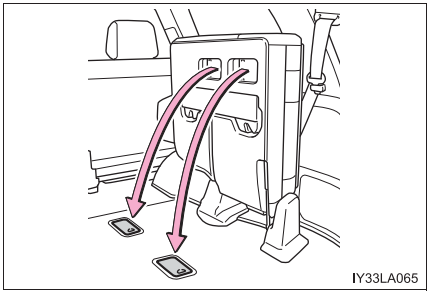
操作前に背もたれうしろにある背もたれ引き起こしハンドルが操作できることを確認してください。


IY33LA063

3 シートを側面に押し付けて、確実に固定する

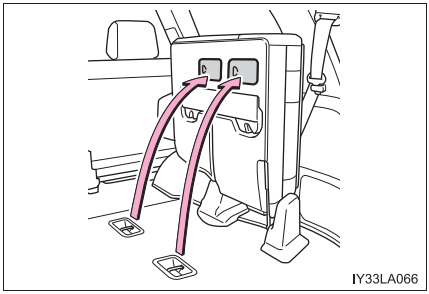

IY33LA064

4 シートクッション裏からシートフックカバーを取りはずし、シートフックの位置に取り付ける

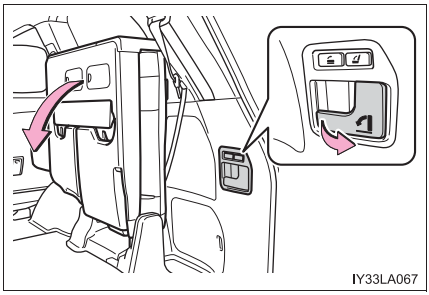


■ **サードシートのもどし方**

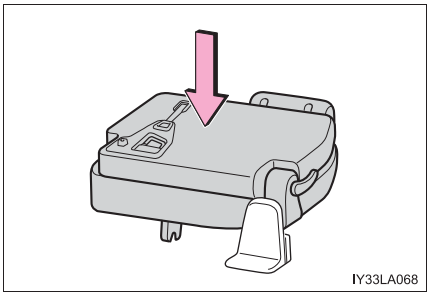
1 フロアに取り付けたシートフックカバーを取りはずし、もとの位置に取り付ける



2 スペースアップロック解除レバーを引き、シートをおろす

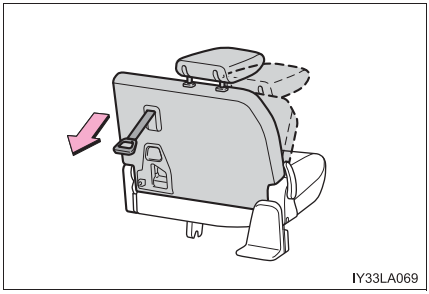


3 シートを押し付けて、確実に固定する

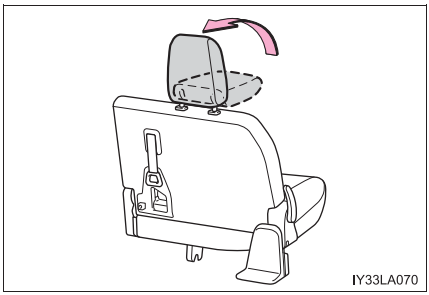


4 背もたれうしろにある背もたれ引き起こしハンドルを引き、背もたれを起こす

ハンドルを使用したあとは、もとの位置に確実に固定してください。



5 ヘッドレストを起こす



⚠ 警告

■リヤシートを操作するときは

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中にリヤシートを操作しない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを P にする
- 倒した背もたれやラゲージルームに人を乗せて走行しない
- お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する

■リクライニング調整について

背もたれを必要以上に倒さないでください。事故のときに体がシートベルトの下にもぐり腹部などに強い圧迫を受けたり、肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シート格納時は

- 走行中は、格納したシートに乗ったり、ものを置いたりしないでください。
- シートフックの位置に確実にシートフックカバーを取り付けてください。
  お守りいただかないと、やけどをするおそれがあり危険です。

■背もたれをもとの位置にもどしたあとは

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートのあいだに手や足などを挟まないよう注意する
- 背もたれを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する
- シートベルトがねじれていたり、シート下に挟み込まれていないか確認する
- シートベルトがシートベルトハンガーからはずれているか確認する

⚠ 注意

■ シートを操作するときは

●可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意してください。

●シートに人が乗っている状態でシートアレンジ操作をしないでください。

■ 部品の損傷を防ぐために

ストライカーにものをかけたり取り付けたりしないでください。

■ シートを格納する前に

シートベルトとバックルを格納してください。

■ サードシート★をもどしたあとは

サードシートの背もたれうしろにある背もたれ引き起こしハンドルが固定されていることを確認してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ドライビングポジションメモリー★

自動で運転席・ハンドル・ドアミラーを動かし、乗り降りしやすい位置に調整したり、お好みのドライビングポジションに調整したりします。

ポジションの登録

お好みのドライビングポジション（運転席・ハンドルの位置・ドアミラーの角度）を登録して、ワンタッチで呼び出すことができます。ドライビングポジションは 3 パターンまで登録できます。

■ 登録方法

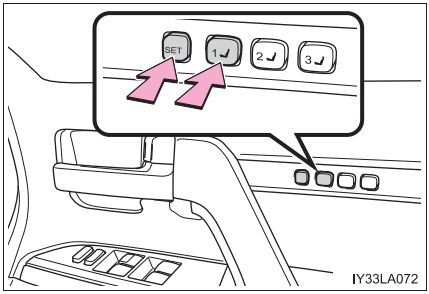
1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

2 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

3 運転席・ハンドル・ドアミラー角度をお好みの位置に調整する

4 SET ボタンを押しながら、または SET ボタンを押したあと 3 秒以内に 1 ～ 3 のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す

すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。

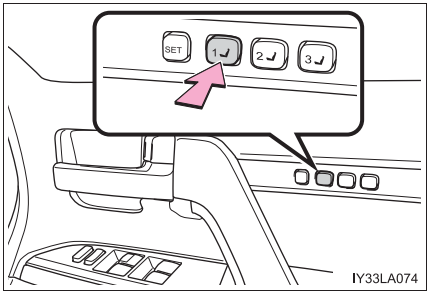


■ 呼び出し方法

1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

2 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

3 1 ～ 3 のうち呼び出したいポジションのボタンをブザーが鳴るまで押す



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ポジションの呼び出し作動を途中で止めたいとき

以下のいずれかの操作をします。

- SET ボタンを押す
- 1 ～ 3 のボタンを押す
- シート調整スイッチのいずれかを操作する（シートのみ作動停止）
- ハンドル位置調整スイッチを操作する（ハンドルのみ作動停止）

■登録できるシート位置（→ P. 132）

腰部硬さ調整（ランバーサポート）以外の位置が登録できます。

■エンジンスイッチ OFF 後の作動

運転席ドアを開けて 180 秒以内、または運転席ドアを閉めて 60 秒以内に呼び出したいポジションのボタンを押すと、シートの位置が調整されます。

■ポジションメモリーを正しくお使いいただくために

登録位置がシート各調整位置の最端部にある状態で、さらに同じ方向に操作をすると、呼び出し位置にずれが生じることがあります。

メモリーコール機能（運転席のみ）

お好みのドライビングポジションを電子キーに登録することで、電子キーごとにお好みのドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。

■ 登録方法

お好みのドライビングポジションをあらかじめ１～３のいずれかのボタンに登録しておきます。

登録させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉めてください。
車内にキーが２つ以上あると、正確に登録できません。

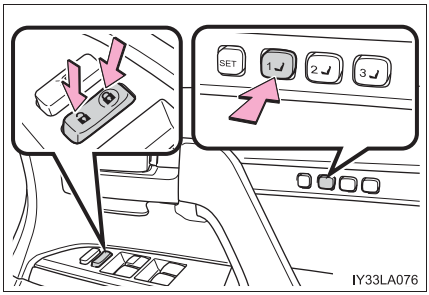
1 シフトレバーがＰの位置にあることを確認する

2 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

3 登録させたいドライビングポジション（1 ～ 3）を呼び出す

4 呼び出したドライビングポジションのボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を“ピー”とブザーが鳴るまで押す

登録できなかった場合は、約３秒間ブザーが鳴り続けます。



■ 呼び出し方法

ドライビングポジションを登録した電子キーを携帯し、運転席ドアをスマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスリモコンで解錠してドアを開ける

シートやミラーが登録されたポジションへ動きます。

ドライビングポジションがすでに登録された位置にある場合は、シートやミラーは動きません。

■ 解除方法

解除させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉めてください。
車内にキーが 2 つ以上あると、正確に解除できません。

1 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

2 SET ボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を“ピッピッ”とブザーが鳴るまで押す

解除できなかった場合は、約 3 秒間ブザーが鳴り続けます。

知識

■メモリーコール機能によるドライビングポジションの呼び出しについて

- 電子キーごとにドライビングポジションを登録できるため、携帯する電子キーによっては呼び出されるドライビングポジションが異なる場合があります。
- 運転席ドア以外のドアをスマートエントリー＆スタートシステムで解錠した場合は、ドライビングポジションの呼び出しは行われません。その場合は、登録したドライビングポジションのボタンを押してください。

■カスタマイズ機能

メモリーコール機能による解錠ドアの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 539）

⚠ 警告

■シート調整時の警告

シート調整中は、シートがセカンド席乗員にあたったり、運転者の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

ヘッドレスト

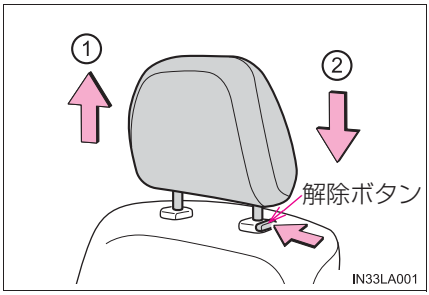
フロントシート

上下調整

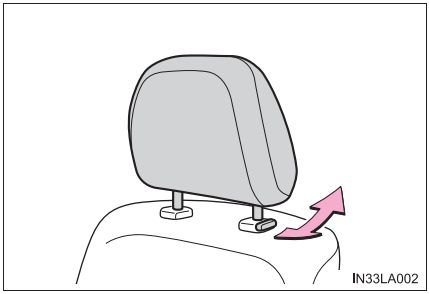
① 上げる

② 下げる

解除ボタンを押しながら操作します。



前後調整★

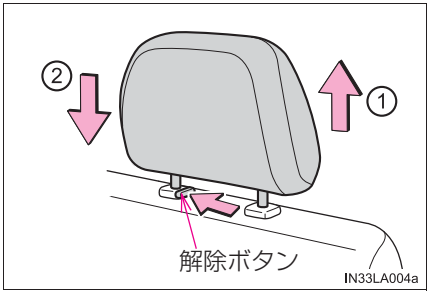


セカンドシート

① 上げる

② 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

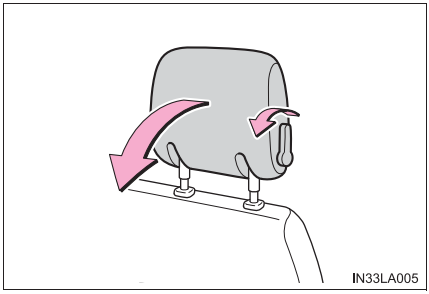


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

サードシート（外側席）★

格納時

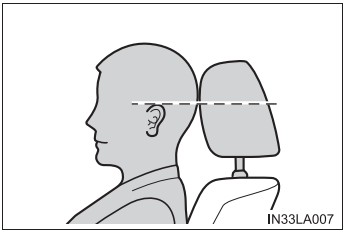
ヘッドレスト格納レバーを引きながら格納します。



知識

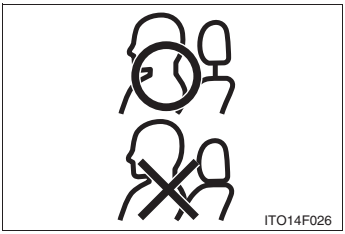
■ヘッドレストの高さについて

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上の辺りになるよう調整してください。



■セカンドシート中央席のヘッドレストの使用について（GX のみ）

使用するときは、常に格納位置（ヘッドレストが最も下がった位置）から“カチッ”と音がするまで上げた位置にしてください。また、ヘッドレストを押し下げ、確実に固定されていることを確認してください。

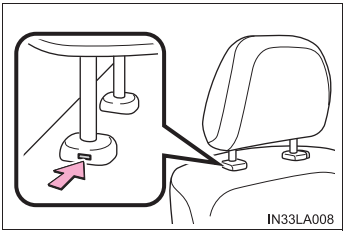


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ヘッドレストの取りはずし

▶ フロントシート

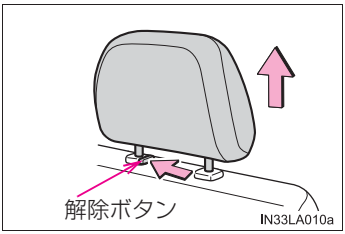
1 スロットにマイナスドライバーを挿し込む（スロットはヘッドレスト右側にあります）



2 マイナスドライバーを挿し込みながらヘッドレストを引き抜く

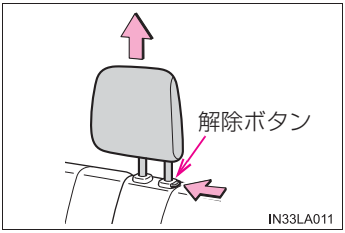
▶ セカンドシート

解除ボタンを押しながら取りはずす



▶ サードシート中央席★

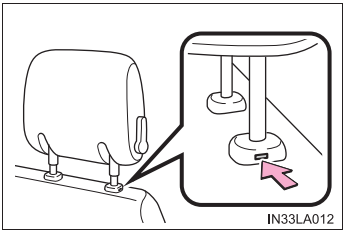
解除ボタンを押しながら取りはずす



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶サードシート外側席（サードシート A タイプ）★

1 スロットにマイナスドライバーを挿し込む（スロットはヘッドレスト左側にあります）



2 マイナスドライバーを挿し込みながらヘッドレストを引き抜く

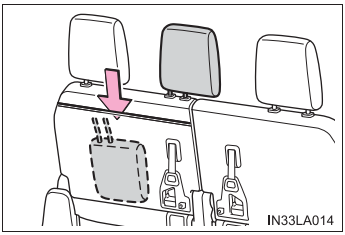
■ヘッドレストの取り付け

1 挿入穴にヘッドレストを挿入する

2 ヘッドレストがロックする位置まで押し込む

■サードシート中央席のヘッドレストの格納について★

サードシート背面のファスナーを開けてヘッドレストを格納します。



⚠警告

■ヘッドレストについて

以下のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

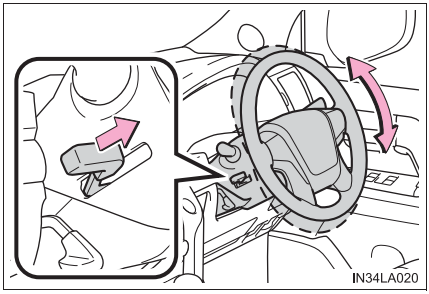
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ハンドル

調整のしかた

▶ マニュアルチルト&テレスコピックステアリング

■ 上下位置調整

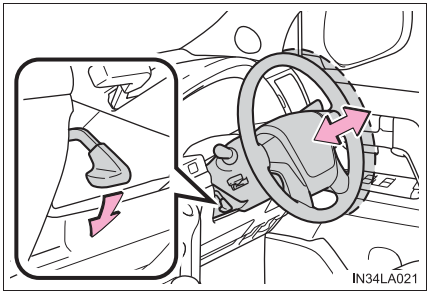


1 ハンドルを持ち、チルトステアリングレバーを手前に引いて保持する

2 ハンドルを上下に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、チルトステアリングレバーから手を離してください。

■ 前後位置調整



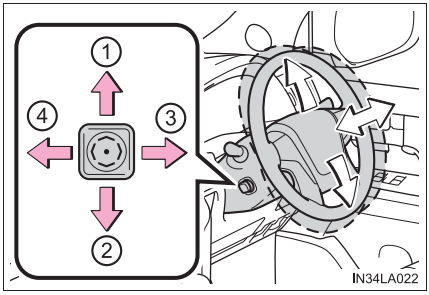
1 ハンドルを持ち、テレスコピックステアリングレバーを下げる

2 ハンドルを前後に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、テレスコピックステアリングレバーを上げてハンドルを固定してください。

▶ 電動チルト&テレスコピックステアリング

スイッチを操作すると、ハンドルを次の方向に動かします。

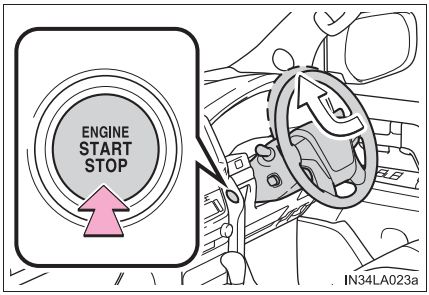


① 上
② 下
③ 手前
④ 前方

オートアウェイ&オートリターン機能★

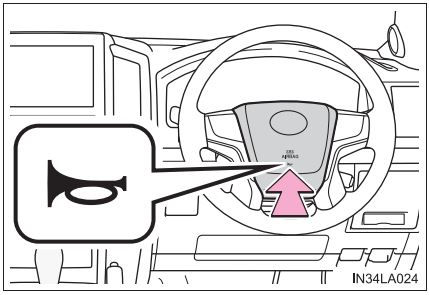
エンジンスイッチをOFFにすると、乗り降りがしやすいようにハンドルが動きます。

エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにすると、もとの位置にもどります。



ホーン（警音器）

ハンドルの 周辺部を押すとホーンが鳴ります。



知識

■ハンドル位置調整の作動条件（電動チルト&テレスコピックステアリング装着車）

エンジンスイッチがアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードのとき

■ハンドル位置の自動調整（ドライビングポジションメモリー装着車）

お好みのハンドル位置をドライビングポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。（→ P. 149）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■走行中の警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ハンドル位置を調整したあとは（マニュアルチルト＆テレスコピックステアリング装着車）

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

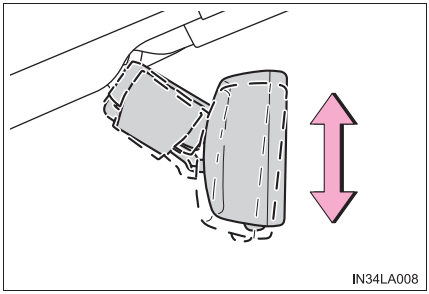
インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



防眩機能

後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に減少させます。

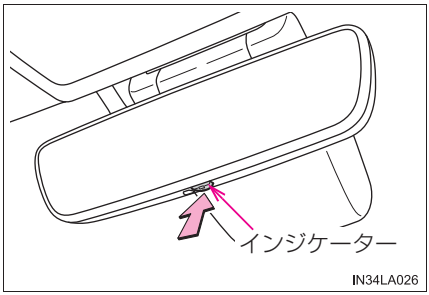
自動防眩機能の切りかえ

ON ／ OFF

ON のときはインジケーターが点灯します。

エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたときは、ミラーは常に自動防眩機能がONになっています。

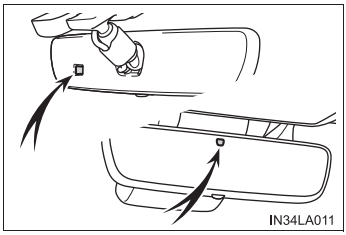
ボタンを押すとOFFになりインジケーターが消灯します。



知識

■センサーの誤作動防止

センサーの誤操作を防ぐため、センサーにふれたり、センサーを覆ったりしないでください。



警告

運転中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

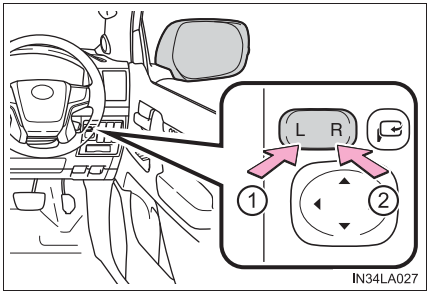
ドアミラー

調整のしかた

1 調整するミラーを選ぶには、スイッチを押す

① 左

② 右



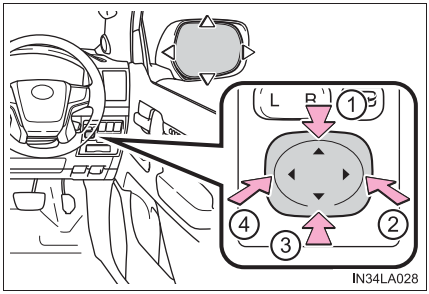
2 ミラーの鏡面を調整するには、スイッチを押す

① 上

② 右

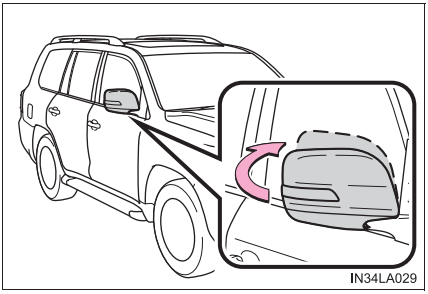
③ 下

④ 左



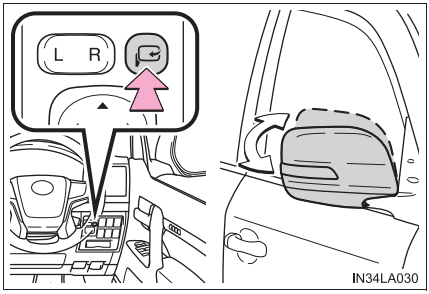
ドアミラーを格納する

▶ マニュアルタイプ



ミラー全体を手で押して格納する

▶ 電動タイプ



ボタンを押してドアミラーを格納する

もう一度押すと、もとの位置にもどります。

リバース連動機能について★

ミラー選択スイッチのＬまたはＲどちらかが選択されているときは、後退時に鏡面が下向きになり、下方が見やすくなります。
この機能を使用しないときは、ミラー選択スイッチを中立の位置（L・Rともに選択していない状態）にしてください。

■ 後退時に下向きになる角度を調整するときは

シフトレバーをＲに入れた状態で、鏡面位置を調整することで、下向きに動く角度を調整できます。
次回からシフトレバーをＲにするたびに、その角度で作動します。

通常時（シフトレバーがＲ以外のとき）の鏡面位置を基準に下向きに動く角度を記憶するため、調整後に通常時の鏡面位置を変更すると、それに伴って後退時の鏡面位置も変化します。
通常時の鏡面位置を変更したときは、後退時に下向きになる角度も調整してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■作動条件

エンジンスイッチがアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードのとき

■ミラーが曇ったときは（ミラーヒーター装着車）

リヤウインドウデフォッガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。（→ P. 378、389）

■ミラー角度の自動調整（ドライビングポジションメモリー装着車）

お好みのミラー角度をドライビングポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。（→ P. 149）

■自動防眩機能

インナーミラーを自動モードにしておくと、ドアミラーも連動して防眩機能が作動します。（→ P. 160）

⚠警告

■走行しているときは

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ミラーを格納したまま走らない
  必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ミラーが動いているときは

手をふれないでください。
手を挟んでけがをしたり、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

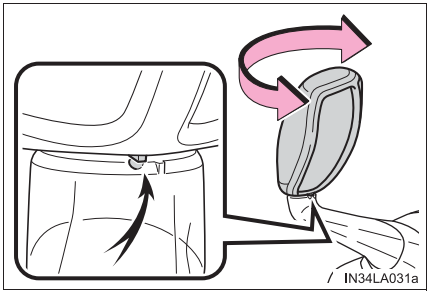
■ミラーヒーターが作動しているときは（ミラーヒーター装着車）

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

補助確認装置★

発進時またはごく低速時に、車両前面と助手席側車両側面を確認するときに役立ちます。

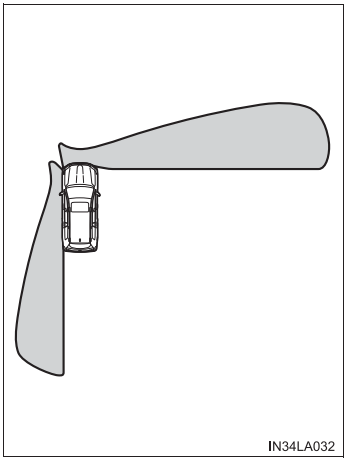
ミラーが動いてしまったときは、突起とマークの位置を合わせて、ミラーの位置をもどします。



知識

■ミラーに映るおよその範囲

身長・シートの位置により、確認できる範囲は異なります。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意

■補助確認装置について

●補助確認装置の鏡面部に汚れが付着しているときは、やわらかい布などを使用して汚れをふき取ってください。

●車両直前・直左部や後方の確認は、直接確認するかインナーミラー・ドアミラーなども併用し十分注意して行ってください。

パワーウインドウ

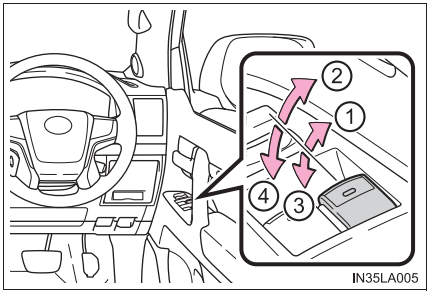
調整のしかた

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを下記のように動かします。

① 閉める
② 自動全閉※
③ 開ける
④ 自動全開※

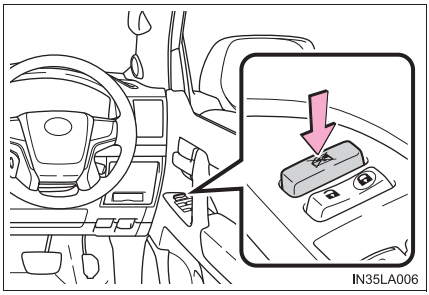
※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。



ウインドウロックスイッチ

スイッチを押すと、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。



知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■エンジン停止後の作動

エンジンスイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間ドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■巻き込み防止機能

ドアガラスを開けているときに、異物がドア内に巻き込まれると作動が停止します。

■ドアガラスを開閉することができないときは

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウインドウスイッチで、次の操作を行ってください。

- 車を停止し、エンジンスイッチをイグニッション ON モードの状態で、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続ける。または、「自動全開」の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。
- 上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

1. エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする
2. パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする
3. いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で約 4 秒以上引き続ける
4. パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上押し続ける
5. 再度、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。
以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ドアロック連動ドアガラス開閉機能

●メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。※（→ P. 523）

●ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。※（→ P. 106）

※ カスタマイズ機能での設定変更が必要です。（→ P. 539）

■窓開警告ブザー

エンジンスイッチが OFF でドアガラスが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■カスタマイズ機能

ドアロック連動ドアガラス開閉機能などを設定することができます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 539）

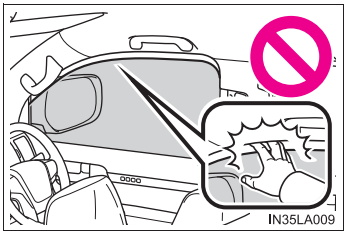
⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ドアガラスを開閉するときは

●運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。（→ P. 167）

●ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないように声かけをしてください。



●ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーよる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

●車から離れるときはエンジンスイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 警告

■挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

■巻き込み防止機能

- 巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。
- 巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服など巻き込まないように注意してください。

ムーンルーフ★

頭上のスイッチでムーンルーフを開閉・チルトアップ／ダウンできます。

開閉

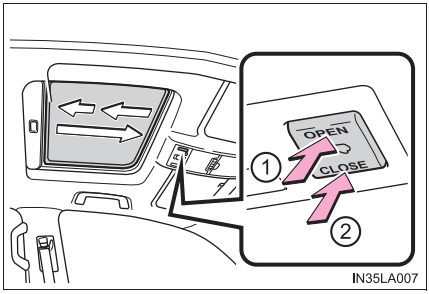
① ムーンルーフを開く※

全開の手前の位置で止まります。（風切音の低減機能）

全開にしたいときは、スイッチをもう一度押してください。

② ムーンルーフを閉める※

※ 途中で停止するときは、ムーンルーフスイッチを軽く押します。

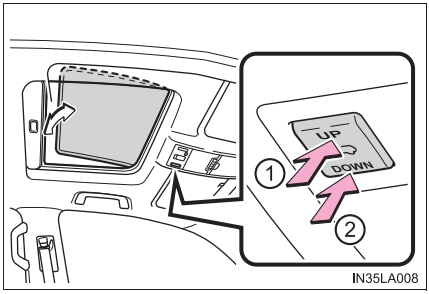


チルトアップ／ダウン

① チルトアップ※

② チルトダウン※

※ 途中で停止するときは、ムーンルーフスイッチを軽く押します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■エンジン停止後の作動

エンジンスイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間は操作できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするときに、ムーンルーフが異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

■サンシェード

手動で開閉できます。また、ムーンルーフが開くと連動して開きます。

■ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能

メカニカルキーでムーンルーフを開閉できます。※（→P. 523）

ワイヤレスリモコンでムーンルーフを開閉できます。※（→P. 106）

※ カスタマイズ機能での設定変更が必要です。（→P. 539）

■ムーンルーフ開警告ブザー

エンジンスイッチが OFF で、ムーンルーフが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■カスタマイズ機能

ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→P. 539）

■ムーンルーフが正常に閉まらないときは

下記の操作を行ってください。

●閉まるときに反転し、閉じ切らない場合

1 車を停止する

2 スイッチの“CLOSE”側を押し続ける※1

ムーンルーフが閉じ、再び開き、10 秒間停止します※2。その後再び閉じ、チルトアップし、1 秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

3 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

●チルトダウン時に反転し、閉じ切らない場合

1 車を停止する

2 スイッチの“UP”側を押し続け※1、ムーンルーフをチルトアップ位置にする

3 スイッチから一度手を離し、再度“UP”側を押し続ける※1

ムーンルーフがチルトアップの状態で 10 秒間停止し※2、微調節後 1 秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

4 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

※1 途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

※2 10 秒間停止したあとにスイッチから手を離すと、それ以降オート作動できなくなります。その場合は、スイッチの“UP”、または、“CLOSE”側を押し続けてください。ムーンルーフがチルトアップし、1 秒間停止します。その後、チルトダウンし、いったん開いてから閉じます。ムーンルーフが完全に閉まったことを確認したら、スイッチから手をはなしてください。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

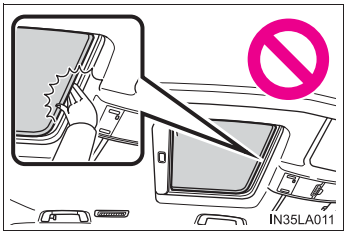
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

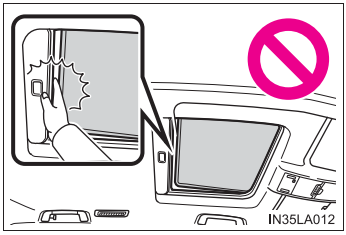
■ムーンルーフを開けているときは

- 走行中はルーフから手や顔を出さない
- 開口部に腰かけない

■ムーンルーフを開閉するときは

- 運転者は、ムーンルーフの開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはムーンルーフの操作をさせないでください。お子さまや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
- ムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。
- ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってムーンルーフを操作するときは、ムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーよる操作をさせないでください。お子さまや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
- 車両から離れるときはエンジンスイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。





■挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

運転 4

4-1. 運転にあたって

運転にあたって 178
荷物を積むときの注意..... 188

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション）スイッチ 190
オートマチックトランスミッション 196
方向指示レバー 203
パーキングブレーキ..... 204

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ 205
オートマチックハイビーム... 208
フォグランプスイッチ..... 213
ワイパー＆ウォッシャー（フロント）..... 216
ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）..... 221
ヘッドランプクリーナー..... 223

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方 224

4-5. 運転支援装置について

Toyota Safety Sense P ...227
PCS（プリクラッシュセーフティシステム）.....233
LDA（レーンディパーチャーアラート).....243
レーダークルーズコントロール.....251
ドライブモードセレクトスイッチ 263
クリアランスソナー.....265
4-Wheel AHC（アクティブハイトコントロール）.....275
フルタイム 4WD 284
クロールコントロール（ターンアシスト機能付き）.....289
マルチテレインセレクト 295
マルチテレインモニター 300
BSM（ブラインドスポットモニター）.....347
・BSM 機能 351
・RCTA 機能 355
運転を補助する装置.....360

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転.....367

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

エンジンをかける

→ P. 190

発進する

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→ P. 196）

2 パーキングブレーキを解除する（→ P. 204）

3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

停車する

1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にします。（→ P. 196）

駐車する

1 車を完全に停止させる

2 パーキングブレーキをかけて（→ P. 204）、シフトレバーを P にする（→ P. 196）

3 エンジンスイッチを押してエンジンを停止する

4 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※ 輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

上り坂の発進のしかた

1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを D にする

2 アクセルペダルをゆっくり踏む

3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

知識

■上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。（→ P. 360）

■雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■走行中のエンジン回転数について

次の場合、走行中にエンジン回転数が高くなることがあります。これは走行状況に合わせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うためで、急加速を示すものではありません。

- 車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき
- アクセルペダルを離したとき
- パワーモード選択時にブレーキペダルを踏んだとき（→ P. 197）

■エンジン出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

- アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、エンジン出力を抑制する場合があります。
- ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

■運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

■オーバーヒートについて

次のようなきびしい走行状況ではオーバーヒートになるおそれがあります。

- 暑い日に長い上り坂を走行する
- 高速走行直後に急減速や急停止をする

⚠ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転するとき

- 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。
  排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。
- 通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
  なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 486を参照してください。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。（→ P. 197）
- 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
  運転を誤るおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。
- シートの上や付近に荷物を置いて走行しないでください。
  急ブレーキをかけたときや、旋回しているときなどに荷物が飛び出したりして乗員にあたったり、荷物を破損したり、荷物に気をとられたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 4-Wheel AHC 装着車で渡河走行をするときは、車高を HI（ハイ）モードに切り替えてから車高制御を停止させ、30km/h 以下で走行してください。お守りいただかないと、オートレベリング機能により車高がかわり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。（→ P. 275）

⚠ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■すべりやすい路面を運転するとき

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- 急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどのおそれがあります。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■シフトレバーを操作するとき

- シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
  エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車両が動いているあいだは、シフトレバーをPに入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーをRに入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーをNにすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
  シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。
必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■停車するとき

- 空ぶかしをしないでください。
  シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。
  排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■駐車するとき

●炎天下では、メガネ・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

●車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P に入れ、エンジンを停止し、施錠してください。
エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトレバーを P にした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●トランスファースイッチを操作した際、L4 作動表示灯が点灯または消灯する前にシフトレバーを操作すると、トランスファーの切り替えが完了せず、シフトポジションに関係なく駆動軸が拘束されません。（表示灯が点滅し、ブザーが鳴ります）
この場合、シフトレバーを P に入れても車両が動くおそれがあり危険です。必ず、トランスファーの切り替えを完了させてください。

●エンジン回転中またはエンジン停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

⚠ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■仮眠するとき

必ずエンジンを停止してください。
エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
  ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。
- ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
  この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- 万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。
- ブレーキシステムは２つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■万一脱輪したとき

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■運転中しているとき

●運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。
アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、エンジン出力を抑制する場合があります。

●坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけシフトレバーをＰにしてください。パーキングブレーキをかけシフトレバーをＰにしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■部品の損傷を防ぐために

●パワーステアリングポンプの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

●ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

●ハンドルがとられる

●異常な音や振動がある

●車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は、P. 504 を参照してください。

⚠ 注意

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を受けるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは、必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン・オートマチックトランスミッション・トランスファー・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

⚠ 警告

■積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- ●燃料が入った容器
- ●スプレー缶

■荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- ●できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。
- ●次の場所には荷物を積まないでください。
  - ・運転席足元
  - ・助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
  - ・トノカバー（装着車のみ）
  - ・インストルメントパネル
  - ・ダッシュボード
  - ・フタのない小物入れ／トレイ
- ●室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
- ●シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。
- ●後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。
- ●ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。
  乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。
  お守りいただかないと、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ●ルーフレールには直接荷物を置かないでください。荷くずれを起こしたりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。（ルーフレール装着車）

⚠ 警告

■荷物の重量・荷重のかけ方について

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■荷物を積むとき

ムーンルーフ★に荷物が触れないようにしてください。お守りいただかないと傷が付いたり割れたりするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

エンジン（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、エンジンの始動またはエンジンスイッチのモードを切りかえることができます。

エンジンのかけ方

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

3 ブレーキペダルをしっかり踏む

マルチインフォメーションディスプレイに とメッセージが表示されます。

表示されないと、エンジンは始動しません。

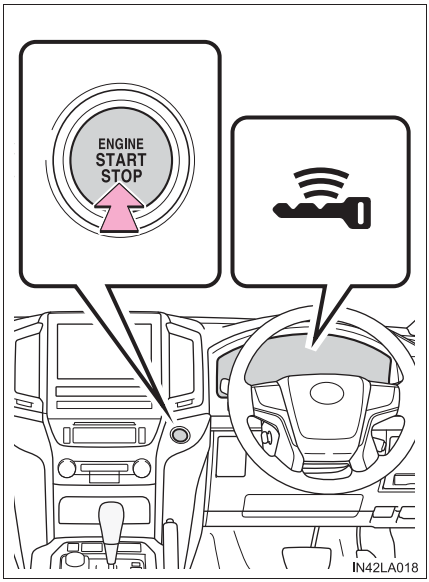
4 エンジンスイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

エンジンが始動するまで最大 30 秒間スターターが回転します。

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

エンジンスイッチのどのモードからでもエンジンを始動できます。



エンジン停止のしかた

1 車両を完全に停止させる

2 パーキングブレーキをかけて（→ P. 204）、シフトレバーを P の位置にする

3 エンジンスイッチを押す

4 ブレーキペダルから足を離してメーターの表示が消灯していることを確認する

エンジンスイッチのモード切りかえ

ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります）

① OFF ※

非常点滅灯が使用できます。

② アクセサリーモード

オーディオなどの電装品が使用できます。

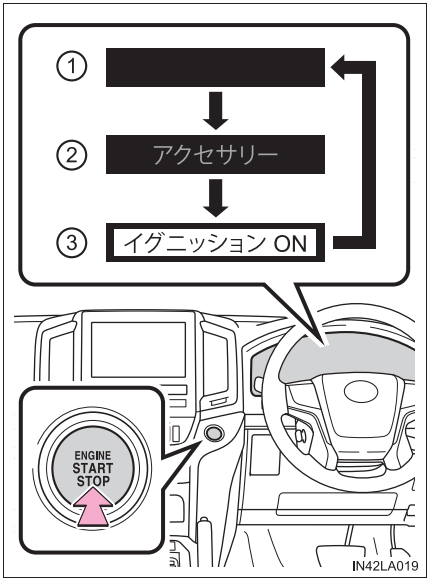
マルチインフォメーションディスプレイに「アクセサリー」が表示されます。

③ イグニッション ON モード

すべての電装品が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイに「イグニッション ON」が表示されます。

※ シフトレバーが P 以外のときはアクセサリーモードになり、OFF になりません。



シフトレバーが P 以外でエンジンを停止したとき

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンは停止しますが、エンジンスイッチのモードは OFF になりません。次の手順で OFF にしてください。

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 シフトレバーを P の位置にする

3 マルチインフォメーションディスプレイに「電源を Off してください」が表示されていることを確認し、エンジンスイッチを 1 回押す

4 マルチインフォメーションディスプレイの「電源を Off してください」の表示が消灯していることを確認する

知識

■自動電源 OFF 機能

シフトレバーが P にあるとき、20 分以上アクセサリーモードか 1 時間以上イグニッション ON モード（エンジンがかかっていない状態）にしたままにしておくと、エンジンスイッチが自動で OFF になります。
ただし、自動電源 OFF 機能は、バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■エンジンスイッチの操作について

- スイッチを短く確実に押せていない場合は、モードの切りかえやエンジン始動ができない場合があります。
- エンジンスイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、エンジンが始動しない場合があります。エンジンスイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■電子キーの電池の消耗について

→ P. 104

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 128

■ご留意いただきたいこと

→ P. 129

■エンジンが始動しないとき

●エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。（→ P. 68）

トヨタ販売店へご連絡ください。

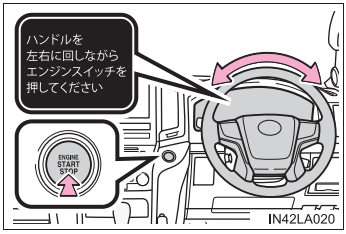
●シフトレバーが P の位置にあるか確認してください。エンジンを始動するときに、シフトレバーが傾いたり、P 以外の位置にするとエンジンを始動することができない場合があります。

■ステアリングロックについて

エンジンスイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。エンジンスイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

■ステアリングロックが解除できないとき

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。シフトレバーが P の位置にあることを確認してハンドルを左右にまわしながら再操作してください。



■ステアリングロックモーターのオーバーヒート防止について

短時間にエンジン始動・停止をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。10 秒程度でもとの状態にもどります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「スマートエントリー&スタートシステム故障　取扱書を確認」が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■電子キーの電池が切れたときは

→ P. 462

■カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたときは

→ P. 523

⚠ 警告

■エンジンを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

エンジンの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■緊急時のエンジン停止方法

- 走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、エンジンスイッチを2秒以上押し続けるか、素早く3回以上連続で押してください。(→P. 486)
  ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
- 走行中にエンジンスイッチを操作すると、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、警告ブザーが鳴ります。
- 走行中にエンジンを緊急停止したあと、エンジンを再始動させる場合は、シフトレバーをNにし、エンジンスイッチを押してください。

⚠ 注意

■バッテリーあがりを防止するために

- エンジンスイッチのインジケーターが消灯していない場合、エンジンスイッチが OFF になっていません。
  エンジンスイッチを OFF にしてから車両を離れてください。
- エンジンがかかっていないときに、マルチインフォメーションディスプレイの「アクセサリー」または「イグニッション ON」の表示が消灯していない場合、エンジンスイッチが OFF になっていません。エンジンスイッチを OFF にしてから車両を離れてください。
- シフトレバーがP以外でエンジンを停止させないでください。シフトレバーがP以外でエンジンを停止させた場合、エンジンスイッチがアクセサリーモードとなるため、そのまま放置するとバッテリーあがりの原因になります。

■エンジンを始動するとき

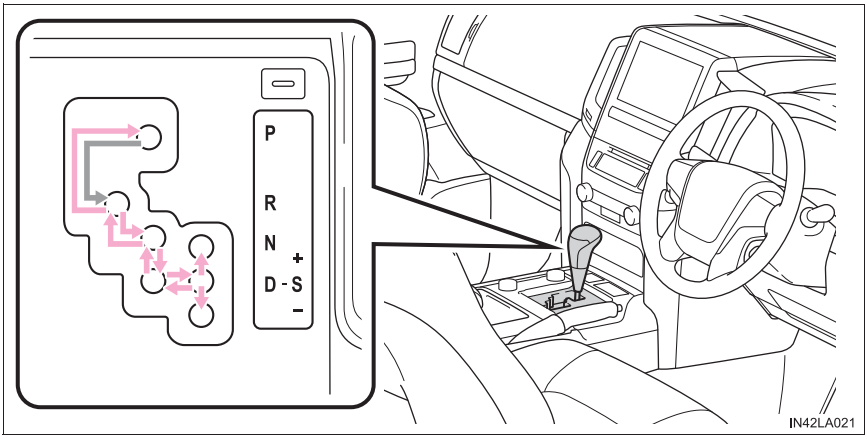
- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■エンジンスイッチの操作について

エンジンスイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

オートマチックトランスミッション

シフトレバーの動かし方



エンジンスイッチがイグニッション ON モードの状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的
P	駐車またはエンジンの始動・停止
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※1
S	S モード走行※2（→P. 199）

※1 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

※2 S モードではエンジンブレーキ力の選択が可能です。また、D ポジションにくらべエンジン回転数を高く制御するため、加速応答性が向上します。

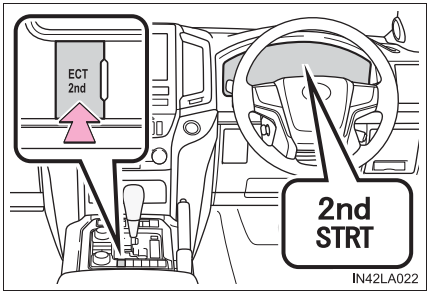
走行モードの選択

▶ ドライブモードセレクト装着車

雪道など、滑りやすい路面での発信・走行時に、走行モードをセカンドスタートモードに切りかえます。

セカンドスタートモードにするにはスイッチを押す

解除するには再度スイッチを押します。

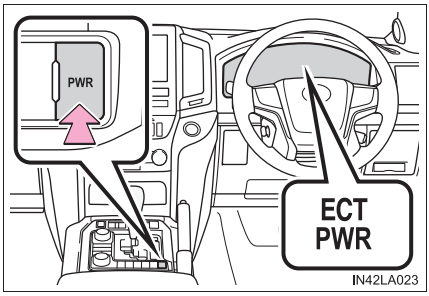


▶ ドライブモードセレクト非装着車

走行・使用条件に合わせて以下のモードを選択できます。

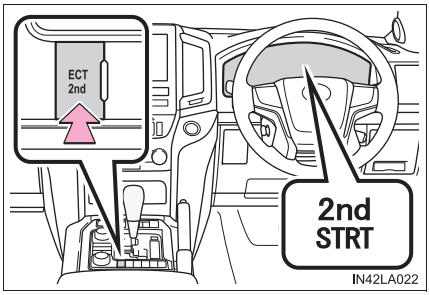
■ **パワーモード（パワフルな運転や山間地などの走行）**

解除するには再度スイッチを押します。



■ **セカンドスタートモード（雪道など、すべりやすい路面での発進・走行）**

解除するには再度スイッチを押します。



S モードでのシフトレンジ切りかえ

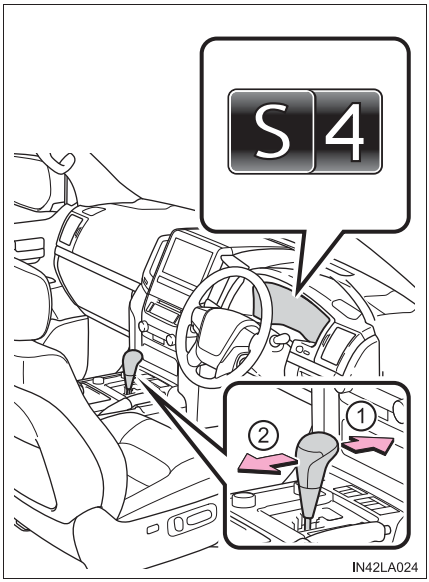
シフトレバーが S の位置にあるとき、シフトレバーを次のように操作できます。

① シフトアップ

② シフトダウン

1 ～ 6 レンジのあいだで選択されているレンジがメーターに表示されます。

S ポジションへ操作したときの初期シフトレンジは4レンジに設定されます。ただし、D ポジションにて AI-SHIFT 制御中はそれに従い、初期のシフトレンジが 3 レンジまたは 2 レンジになる場合があります。（→ P. 201）



■ シフトレンジ機能

- エンジンブレーキ力は、6 段階から選択が可能です。
- シフトレンジの数字の小さい方がエンジンブレーキ力は大きくなり、エンジン回転数も高くなります。
- 車速と走行状況によって、1 ～ 6 速を自動的に選択します。しかし、選択したシフトレンジによってギヤは制限されます。

知識

■リバース警告ブザー

シフトレバーをRに入れるとブザーが鳴り、Rにあることを運転者に知らせます。

■Sモード

5レンジ以下のとき、シフトレバーを＋側へ保持すると、6レンジに設定されます。

■シフトダウン制限警告ブザー（Sモード走行時）

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、シフトレバーを操作してもシフトダウンできない場合があります。（このときブザーが 2回鳴ります）

■レーダークルーズコントロールを使って走行しているとき

エンジンブレーキを目的に次の操作を行っても、レーダークルーズコントロールが解除されないためエンジンブレーキは効きません。

●Sモードで走行中に5または4にシフトダウンしたとき（→P. 251）

●Dポジションで走行中にパワーモード、またはスポーツモードにしたとき（→P. 198, 263）

■セカンドスタートモードの自動解除

セカンドスタートモードを選択して走行後、エンジンを停止すると、自動的に通常走行モードに切りかわります。

■シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。エンジンスイッチがイグニッションONモードでブレーキペダルを踏んだ状態でなければ、シフトレバーをPからシフトできません。

■シフトレバーを P からシフトできないときは

ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

シフトロックの解除のしかた：

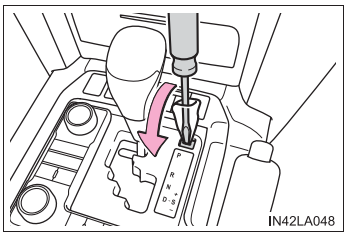
1 パーキングブレーキをかける

2 エンジンスイッチを OFF にする

3 ブレーキペダルを踏む

4 マイナスドライバーなどを使ってカバーを取りはずす

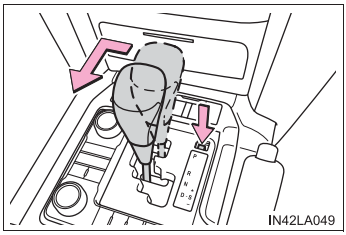
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



IN42LA048

5 シフトロック解除ボタンを押す

ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。



IN42LA049

■シフトレバーを S にしても “ S ” が点灯しないときは

システム異常のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。この場合、シフトレバーを D にしているときと同じ制御になります。

■AI-SHIFT について

AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に適切なギヤ段に切りかえます。

AI-SHIFT は、シフトレバーを D にしているときに自動的に作動します。
（シフトレバーを S にすると、機能が解除されます）

⚠ 警告

■ すべりやすい路面では

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

■ シフトロック解除時の事故を防ぐために

シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。
誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な障害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

方向指示レバー

操作のしかた

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。

① 左折

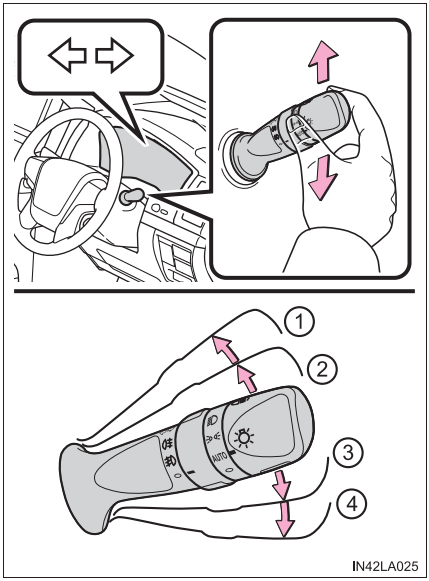
② 左側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。

③ 右側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。

④ 右折



知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

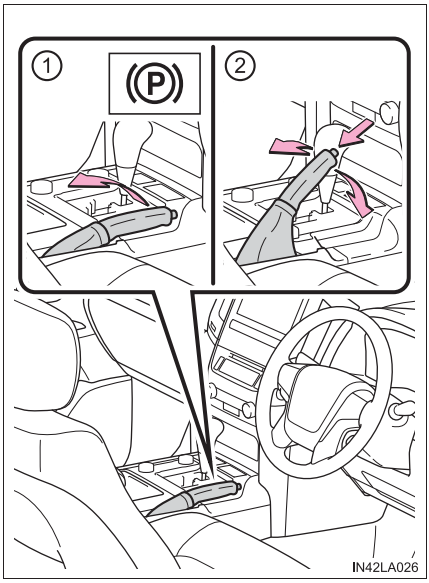
■表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

① パーキングブレーキをかけるには、ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキレバーをいっぱいまで引く

② パーキングブレーキを解除するには、レバーを少し引き上げ、ボタンを押しながら完全に下までもどす



知識

■駐車するときは

→P. 178

■パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、警告ブザーが鳴ります。マルチインフォメーションディスプレイ★に警告メッセージが表示されます。

■冬季のパーキングブレーキの使用について

→P. 368

⚠ 注意

■走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯できます。

操作のしかた

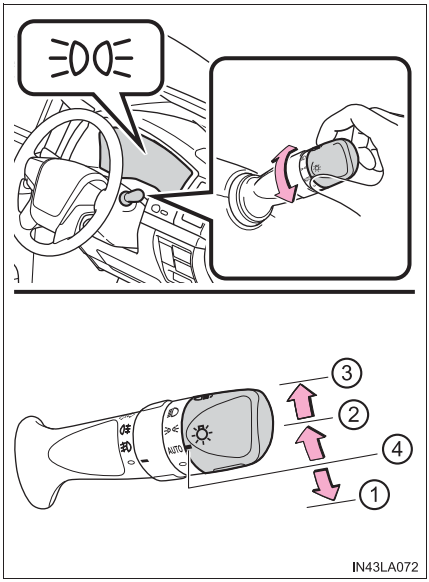
① ○ 消灯

② 車幅灯・尾灯・番号灯・メーター照明（アナログメーターのみ）を点灯

※ オプティトロンメーター装着車は、尾灯表示灯が点灯します。

③ 上記ランプとヘッドランプを点灯

④ AUTO ヘッドランプ、LED デイライト（→ P. 206）、車幅灯などを自動点灯・消灯（エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき）



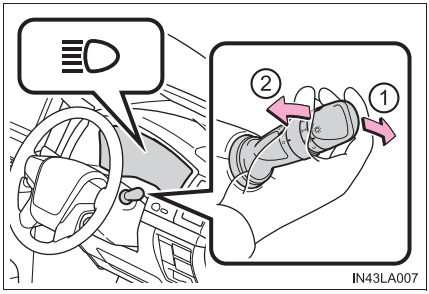
ハイビームにする

① ランプ点灯時、レバーを前方に押しハイビームに切り替え

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

② レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。
レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。



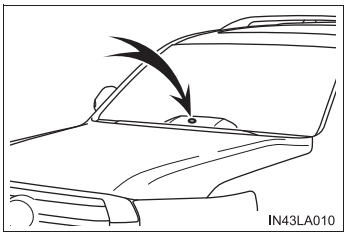
知識

■LED デイライト

日中での走行時、自車が他の運転者から見やすくなるように、エンジンを始動後、パーキングブレーキを解除して、ランプスイッチを AUTO にすると LED デイライトが自動で点灯します。（車幅灯より明るく点灯します。）
LED デイライトは夜間の使用を意図したものではありません。

■ライトセンサー

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ランプ消し忘れ防止機能

エンジンスイッチをアクセサリーモード、または OFF にして運転席ドアを開けると、ヘッドランプや尾灯などが消灯します。

再びランプを点灯する場合は、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにするか、一度ランプスイッチを OFF にもどし、再度 または の位置にします。

■オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■おもてなし照明★

ランプスイッチが AUTO の位置で車両周辺が暗いとき、スマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスリモコンでドアを開錠すると、車幅灯と尾灯が自動で点灯します。

■ランプ消し忘れ警告ブザー★

ヘッドランプ・尾灯が点灯している状態で運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

■カスタマイズ機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 539）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でランプを長時間点灯しないでください。

オートマチックハイビーム★

オートマチックハイビームは、インナーミラーに設置されたカメラセンサーにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■オートマチックハイビームの誤操作を防ぐために

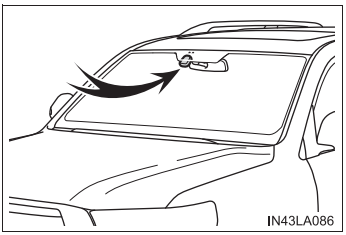
荷物を積み過ぎないでください。

⚠ 注意

■オートマチックハイビームを正しく作動させるために

▶PCS（プリクラッシュセーフティシステム）非装着車：

オートマチックハイビームを正しく作動させるために次のことをお守りください。



- カメラセンサーのレンズにふれない
- インナーミラーやカメラセンサーに強い衝撃を与えない
- カメラセンサーを分解しない
- インナーミラーやカメラセンサーに液体をかけない
- カメラセンサーの近くのフロントウインドウガラスにステッカーを貼らない
- ダッシュボードの上にものを置かない
- インナーミラーやカメラセンサー周囲にアクセサリーを取り付けない
- 車両を改造しない
- トヨタ純正品以外のフロントウインドウガラスに交換しない
- トヨタ純正品以外のヘッドランプに交換しない

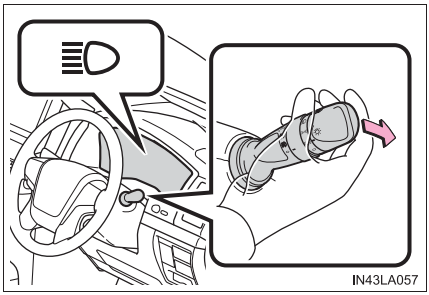
▶PCS（プリクラッシュセーフティシステム）装着車：

→P. 231

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

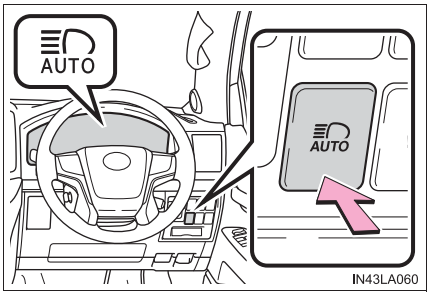
オートマチックハイビームの使い方

1 ランプスイッチをAUTOまたは にし、レバーを前方へ押す



2 オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビームが作動すると、オートマチックハイビーム表示灯が点灯します。



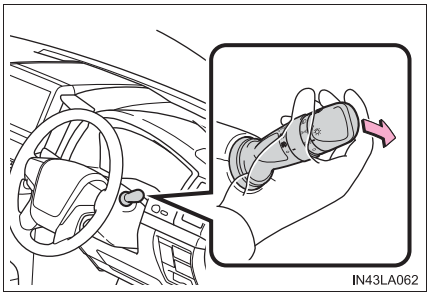
手動切りかえのしかた

■ ロービームへの切りかえ

レバーをもとの位置にもどす

オートマチックハイビーム表示灯が消灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度レバーを前方に押します。

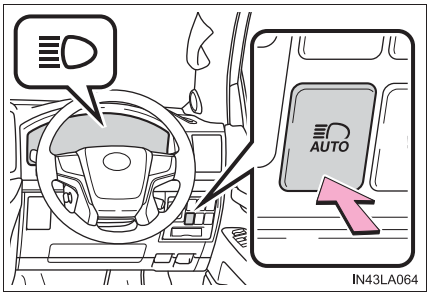


■ ハイビームへの切りかえ

オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビーム表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度スイッチを押します。



知識

■ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

●次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。

・車速が約 30km/h 以上
・車両前方が暗い
・前方にランプを点灯した車両がいない
・前方の道路沿いの街路灯の光が少ない

●次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。

・車速が約 25km/h 以下
・車両前方が明るい
・前方車両がランプを点灯している
・前方の道路沿いの街路灯の光が多い

■カメラセンサーの検知について

●次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。

・見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
・他車が前方を横切ったとき
・連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
・前方車両が離れた車線から接近してきたとき
・前方車両が無灯火のとき

●前方車両のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。

●街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。

●次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。

・前方車両のランプの明るさ
・前方車両の動きや向き
・前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
・前方車両が二輪車のとき
・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
・乗車人数や荷物の量

●ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

・悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
・フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
・フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
・インナーミラーやカメラセンサーが変形しているときや、汚れているとき
・カメラセンサーが極端に高温になっているとき
・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
・前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
・急激な明るさの変化が連続するとき
・起伏や段差が多い道路を走行しているとき
・カーブが多い道路を走行しているとき
・車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
・コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
・自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
・パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
・ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
・ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき

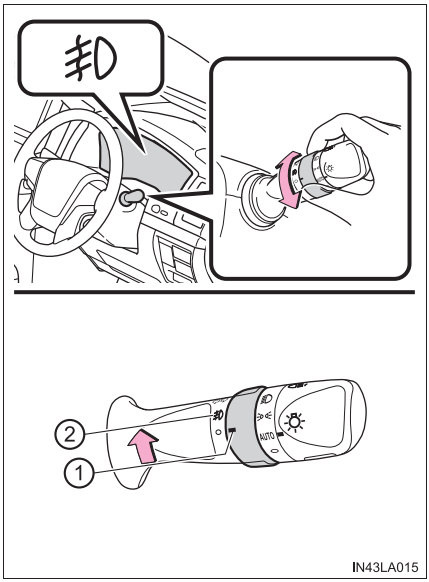
フォグランプスイッチ★

雨や霧などの悪天候下で視界を確保します。

▶ フロントフォグランプスイッチ

① o 消灯する

② 点灯する



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

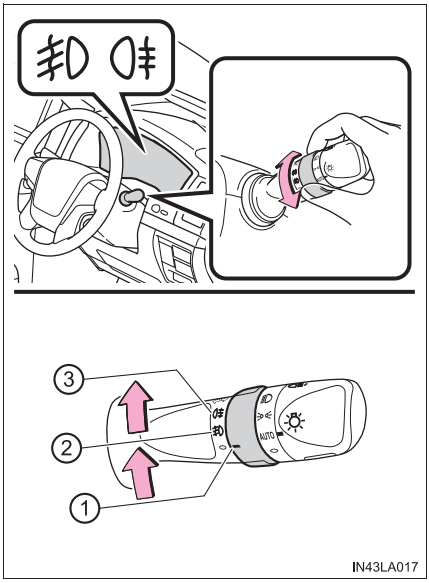
▶ フロント&リヤフォグランプスイッチ

① o 消灯する

② フロントフォグランプを点灯する

③ フロント&リヤフォグランプを点灯する

手を離すと の位置までもどります。
再度操作すると、リヤフォグランプのみ消灯します。

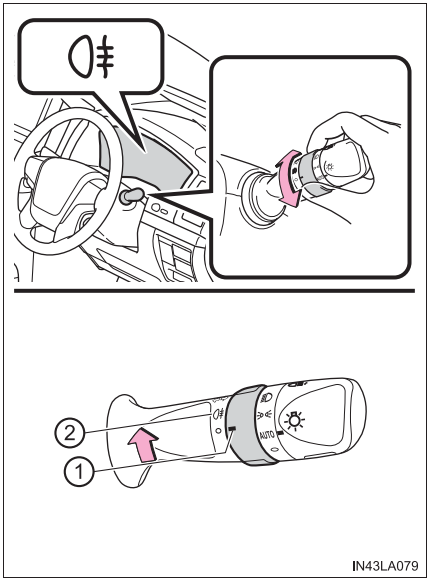


▶ リヤフォグランプスイッチ

① o 消灯する

② 点灯する

手を離すと o の位置までもどります。
再度操作すると消灯します。



知識

■点灯条件

▶フロントフォグランプ装着車またはリヤフォグランプ装着車

ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

▶フロント&リヤフォグランプ装備車

フロントフォグランプ：
ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

リヤフォグランプ：
リヤフォグランプは、フロントフォグランプが点灯しているときのみ使用できます。

■リヤフォグランプ★について

●リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。

●雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。
視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。
必要なとき以外は使用しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

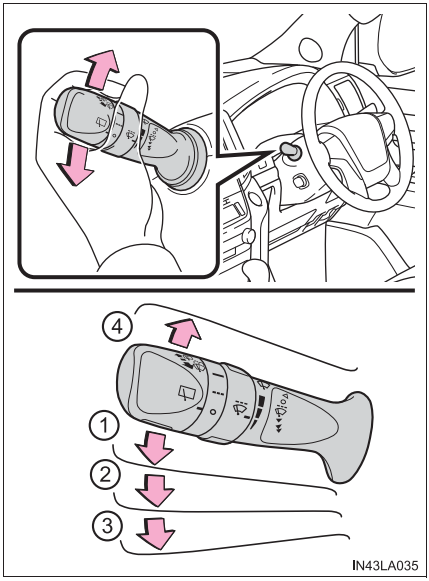
ワイパー&ウォッシャー（フロント）

操作のしかた

次のようにレバーを操作して、ワイパーの作動を選択します。

▶ 間欠作動調整式ワイパー

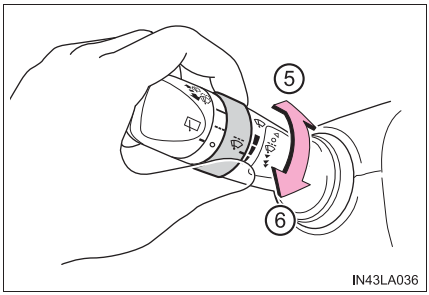
① 間欠作動（INT）
② 低速作動（LO）
③ 高速作動（HI）
④ 一時作動（MIST）



間欠作動が選択されているときは、次のようにツマミをまわして間欠時間を調整できます。

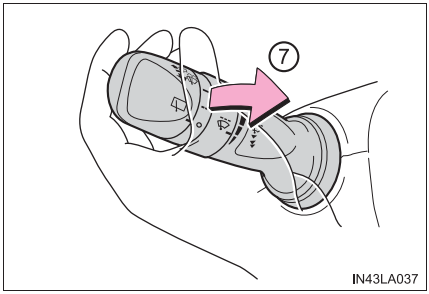
⑤ 間欠ワイパーの作動頻度（増）

⑥ 間欠ワイパーの作動頻度（減）



⑦ ウォッシャー液を出す

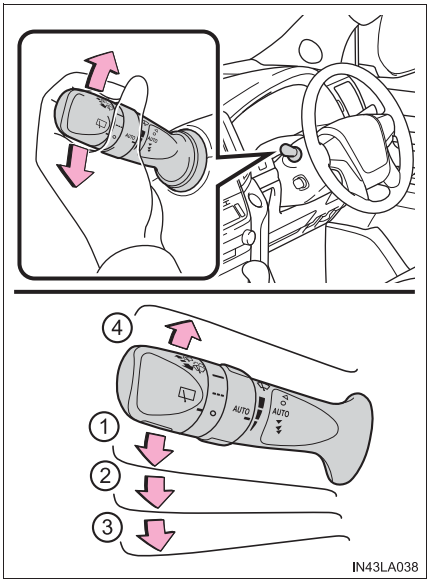
ワイパーが連動して作動します。



▶ 雨滴感知式ワイパー

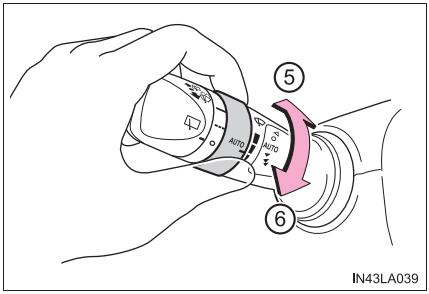
“AUTO”を選択したときは、雨滴量や車速に応じてワイパーが自動で作動します。

① 雨滴感知オート作動（AUTO）
② 低速作動（LO）
③ 高速作動（HI）
④ 一時作動（MIST）



“AUTO”が選択されているときは、次のようにツマミをまわして雨滴センサーの感度を調整できます。

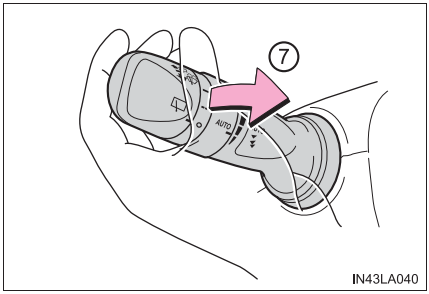
⑤ 雨滴センサーの感度調整（高）
⑥ 雨滴センサーの感度調整（低）



⑦ ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。(数回作動したあと、液だれ防止としてさらに 1 回作動します)

ヘッドランプクリーナー装着車：
ヘッドランプが点灯しているときは、ヘッドランプクリーナーが 1 回作動します。



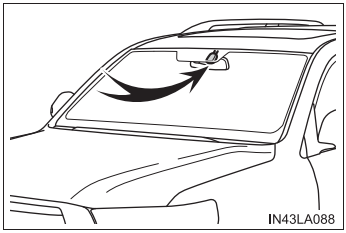
知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■雨滴感知センサー（雨滴感知式ワイパー装着車）

●雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。光学センサーを使用しているため、フロントガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに正しく作動しないことがあります。



●エンジンスイッチがイグニッション ON モードのときにワイパースイッチを AUTO モードにすると、作動確認のためワイパーが 1 回作動します。

●ワイパースイッチがAUTOモードのときに雨滴感知センサーの感度調整を高側へ調整すると、作動確認のためにワイパーが 1 回作動します。

●雨滴感知センサーの温度が80℃以上または－30℃以下のときは、AUTO作動しないことがあります。その場合は、AUTO モード以外でワイパーを使用してください。

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

⚠ 警告

■AUTO モード時のワイパー作動に関する警告（雨滴感知式ワイパー装着車）

AUTO モードでは、センサーにふれたり、フロントガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが働くおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

■ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■フロントガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

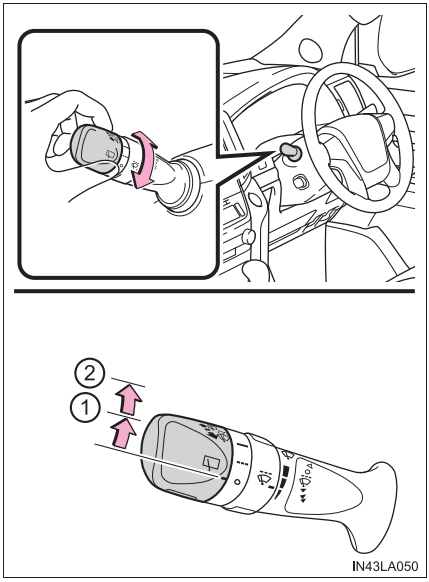
■ノズルがつまったときは

ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

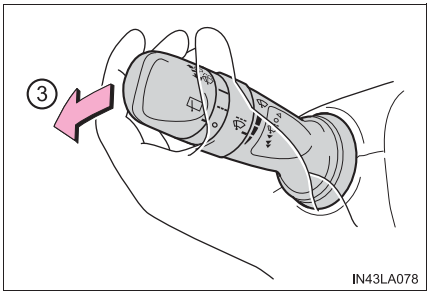
ワイパー&ウォッシャー（リヤ）

次のようにレバーをまわして、ワイパーの作動を選択します。

① 間欠作動（LO）
② 通常作動（HI）



③ ウォッシャー液を出す
ワイパーが連動して作動します。



知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッションONモードのとき

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■液だれ防止機能（ZX）

ウォッシャー液を出すと、数秒後に液だれ防止としてワイパーがもう 1 度作動します。

■リバース連動機能（ZX）

LO または OFF 選択時は、フロントワイパーが作動中またはフロントワイパーの作動停止から約 17 秒以内のとき、シフトレバーを R にするとリヤワイパーが 1 回作動します。

■販売店で設定可能な機能

液だれ防止機能などを変更できます。
（ユーザーカスタマイズ機能一覧→ P. 539）

注意

■リヤウインドウが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

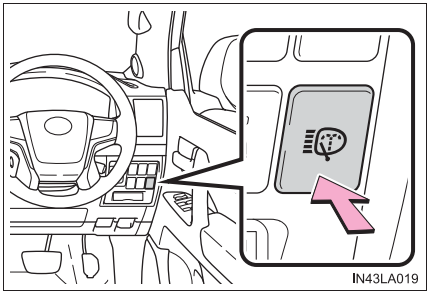
■ノズルがつまったときは

ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

ヘッドランプクリーナー★

ヘッドランプにウォッシャー液を噴射します。

スイッチを押してヘッドランプを洗浄する



知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッションONモードでヘッドランプが点灯しているとき

注意

■ウォッシャー液が出ないとき

ヘッドランプクリーナースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

給油口の開け方

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉め、エンジンスイッチを OFF にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■燃料の種類

無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）

■エタノール混合燃料について

エタノール混合燃料（エタノールの混合率 3%以下、含酸素化合物の含酸素率 1.3%以下）も使用することができます。

⚠警告

■給油するときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。
  静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。
  すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。
- 気化した燃料を吸わないようにしてください。
  燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しないでください。
- 給油口にノズルを確実に挿入してください。
- 継ぎ足し給油をしないでください。
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

⚠ 注意

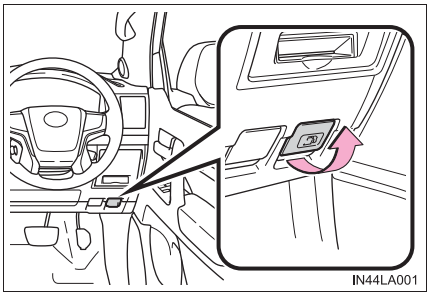
■給油するとき

指定のガソリンを使用してください。
指定以外のガソリン（無鉛レギュラーガソリン）や他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度アルコール含有燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
次のような状態になるおそれがあります。

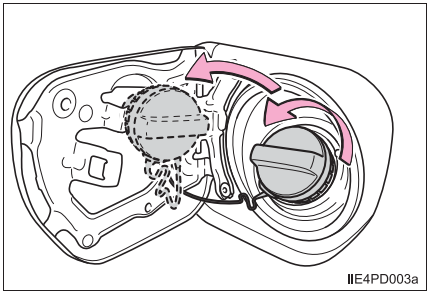
- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

給油口の開け方

1 オープナーを上げて、給油扉を開ける



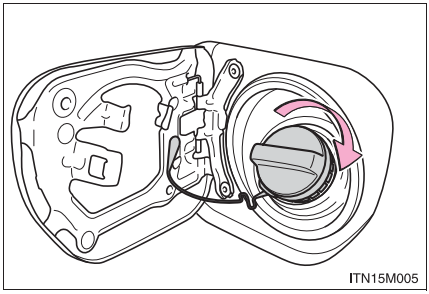
2 キャップをゆっくりまわして開け、ハンガーにかける



給油口のキャップを閉めるときは

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。



⚠ 警告

■キャップが正常に閉まらないとき

必ずトヨタ販売店へご連絡ください。
正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

Toyota Safety Sense P

Toyota Safety Sense P は、次の運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

◆ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）

→ P. 233

◆ LDA（レーンディパーチャーアラート）

→ P. 243

◆ レーダークルーズコントロール

→ P. 251

◆ オートマチックハイビーム

→ P. 208

⚠ 警告

■ Toyota Safety Sense P について

Toyota Safety Sense P は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。
本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

車両データの記録について

プリクラッシュセーフティシステムには、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、主に次のようなデータを記録します。

・アクセルペダルの操作状況
・ブレーキペダルの操作状況
・車速
・プリクラッシュセーフティシステムの各機能の作動状況
・先行車などの障害物との距離、相対速度などの情報
・カメラセンサーの画像情報（プリクラッシュブレーキまたはプリクラッシュブレーキアシスト作動時のみ）

なお、会話などの音声や車内の映像は記録しません。

● データの取扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・トヨタが訴訟で使用する場合
・統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

● 記録した画像情報は特別な装置を使用して消去することが可能です。

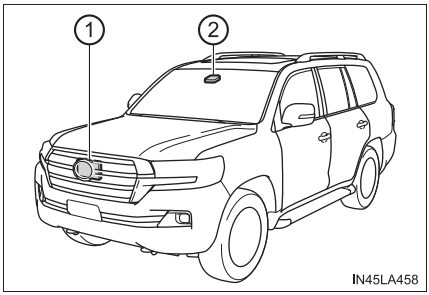
また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとプリクラッシュセーフティシステム作動時のデータは残りません。

前方センサー

フロントグリルとフロントウインドウガラスにある 2 種類のセンサーにより、各運転支援装置に必要な情報を認識します。

① レーダーセンサー

② カメラセンサー



⚠ 警告

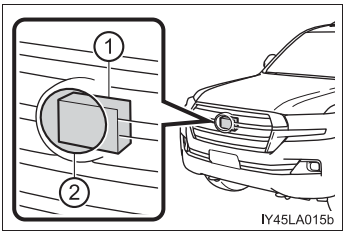
■レーダーセンサーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、レーダーセンサーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●レーダーセンサーとフロントグリルエンブレムは常にきれいにしておく

① レーダーセンサー

② フロントグリルエンブレム



レーダーセンサー前面やフロントグリルエンブレム前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

お手入れをする際は、レーダーセンサーやフロントグリルエンブレムを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。

●レーダーセンサーやフロントグリルエンブレム周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない

●レーダーセンサー周辺への強い衝撃を避ける
レーダーセンサー・フロントグリル・フロントバンパーに強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

●レーダーセンサーを分解しない

●レーダーセンサーやフロントグリルエンブレムを改造したり、塗装したりしない

●レーダーセンサー・フロントグリル・フロントバンパーの脱着や交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

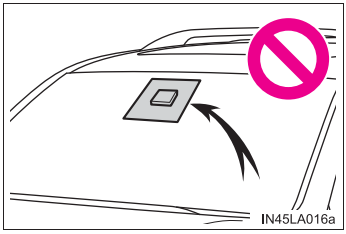
■カメラセンサーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、カメラセンサーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく

・フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。
・フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、カメラセンサー前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
・フロントウインドウガラス内側のカメラセンサー取り付け部が汚れた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

●カメラセンサー前部のフロントウインドウガラス（図に示す範囲）にアンテナを取り付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない



●カメラセンサー前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、フロントデフロスターで取り除く（→P. 372）

●カメラセンサー前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する
ワイパーゴムまたはワイパーブレードの交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

●フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない

●フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する
フロントウインドウガラスの交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

●カメラセンサーに液体をかけない

●カメラセンサーに強い光を照射しない

⚠ 警告

- カメラセンサーのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
  フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
  レンズに汚れ・傷がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- カメラセンサーに強い衝撃を加えない
- カメラセンサーの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- カメラセンサーを分解しない
- カメラセンサー付近に電子機器や、強い電波を発信する機器を取り付けない
- インナーミラーなどのカメラセンサー周辺部品や天井を改造しない
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、カメラセンサーの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない
  詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、カメラセンサーの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

知識

■レーダーセンサーの取り扱い

- レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。レーダーセンサーに貼り付けられているラベルはその証明ですのではがさないでください。また、レーダーセンサーを分解・改造すると罰せられることがあります。日本国内で使用ください。

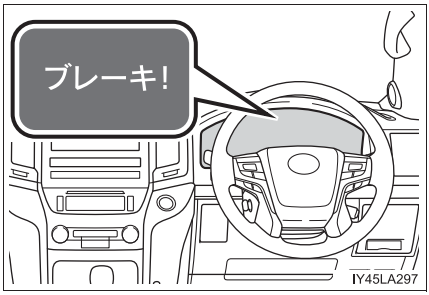
PCS（プリクラッシュセーフティシステム）

進路上の車両や歩行者を前方センサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは乗員や車両への衝撃の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティシステムの ON/OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。（→ P. 236）

◆ 衝突警報

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、回避操作をうながします。



◆ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに応じてブレーキ力を増強します。

◆ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに衝突警報を行い、さらに衝突の可能性が高まったと判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突速度の低減に寄与します。

◆ サスペンションコントロール★

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、AVS（→ P. 360）によってショックアブソーバーの減衰力を制御することで、安定した車両姿勢の維持に寄与します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティシステムを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●プリクラッシュセーフティシステムは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

・衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあるとき:→P. 238
・システムが正常に作動しないおそれがあるとき：→P. 240

●お客様ご自身でプリクラッシュセーフティシステムの作動テストを行わないでください。状況によってシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■プリクラッシュブレーキについて

●プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。

●プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、約２秒後にプリクラッシュブレーキが解除されます。必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。

●プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。

●プリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

●ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

⚠ 警告

■ **プリクラッシュセーフティシステムを OFF にするとき**

次のときは、システムを OFF にしてください。
システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

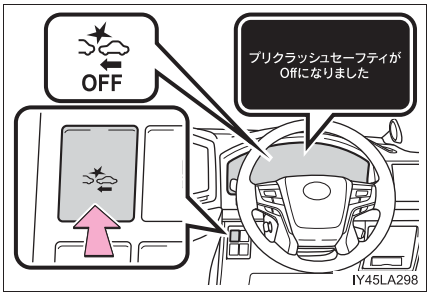
- けん引されるとき
- けん引するとき
- トラック・船舶・列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、エンジンを始動しタイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- 事故などにより、フロントバンパーやフロントグリルに強い衝撃が加わったとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく磨耗したタイヤを装着しているとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 応急用タイヤやタイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- 車両に前方センサーをさえぎるような装備品（除雪装置など）を一時的に取り付けているとき

プリクラッシュセーフティシステムの設定変更

■ プリクラッシュセーフティシステムを OFF にする

PCS スイッチを 3 秒以上押す

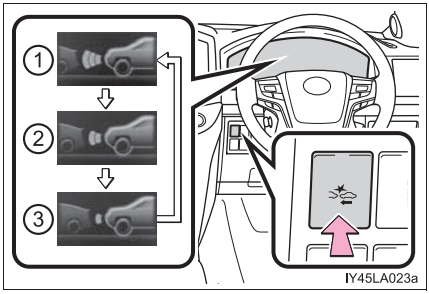
PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
システムを ON にするには、もう一度 PCS スイッチを押します。
エンジンスイッチがイグニッション ON モードになるたびシステムは ON になります。



■ プリクラッシュセーフティシステムの警報タイミングを変更する

PCS スイッチを押すと、マルチインフォメーションディスプレイに現在の警報タイミングが表示され、表示された状態で PCS スイッチを押すごとに、次のように警報タイミングが切りかわります。

エンジンスイッチを OFF にしても選択した警報タイミングは継続します。



① 遠い

「中間」より警報タイミングが早くなる

② 中間

初期設定

③ 近い

「中間」より警報タイミングが遅くなる

知識

■システムの作動条件

プリクラッシュセーフティシステムが ON で、前方の車両や歩行者と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。各機能の作動速度は次のとおりです。

●衝突警報

・自車速度約 10 ～ 180km/h（検出対象が歩行者のときは、自車速度約 10 ～ 80km/h）
・自車から見た前方の車両や歩行者との相対速度約 10km/h 以上

●プリクラッシュブレーキアシスト

・自車速度約 30 ～ 180km/h（検出対象が歩行者のときは、自車速度約 30 ～ 80km/h）
・自車から見た前方の車両や歩行者との相対速度約 30km/h 以上

●プリクラッシュブレーキ

・自車速度約 10 ～ 180km/h（検出対象が歩行者のときは、自車速度約 10 ～ 80km/h）
・自車から見た前方の車両や歩行者との相対速度約 10km/h 以上

ただし、次のときシステムは作動しません。

●バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ

●シフトレバーが R のとき

●VSC が OFF のとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

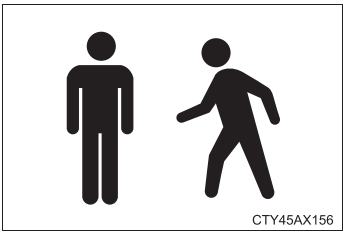
●L4 作動表示灯が点灯しているとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

●PCS 警告灯が点滅または点灯しているとき

■歩行者検出について

対象となる歩行者の大きさ・輪郭・動きなどから検出します。

周囲の明るさや、歩行者の動き・姿勢・角度などによっては、歩行者を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。（→ P. 242）



■プリクラッシュブレーキの作動解除

プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

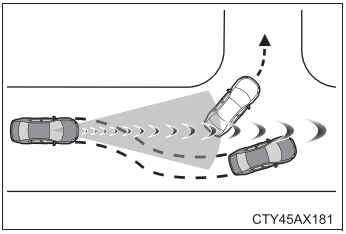
●アクセルペダルを強く踏み込む

●ハンドルを大きくきる、またはすばやく操作する

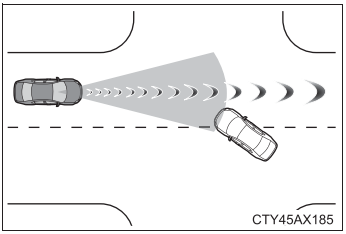
■衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあるとき

●例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性があると判断し、作動するおそれがあります。

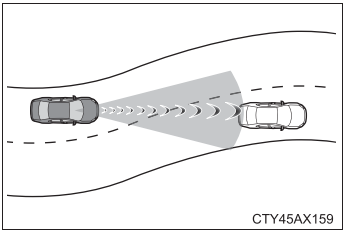
・車両や歩行者のすぐそばを通過するとき
・車線を変更して先行車を追い越すとき
・車線変更している先行車を追い抜くとき
・右左折する先行車を追い越すとき



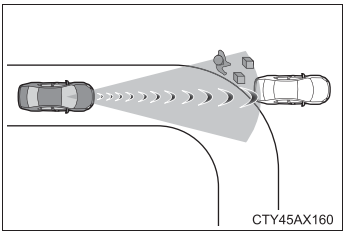
・右左折待ちの対向車とすれ違うとき



・隣の車線の前方車両との位置関係がずれる道（曲がりくねった道など）を走行するとき

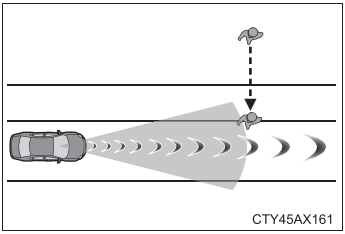


・前方車両に急接近したとき
・路面にうねり・凹凸があるときなど、車両姿勢が変化しているとき
・道路脇の構造物（ガードレール・電柱・木・壁など）に近づいたとき
・カーブ入り口の道路脇に車両・歩行者・構造物が存在するとき

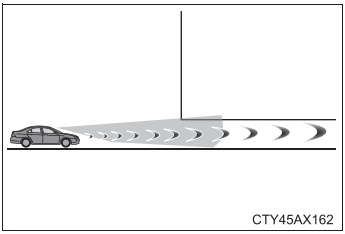


・道路脇が構造物に囲まれた狭い道（狭いトンネル・鉄橋など）を走行するとき
・路上または道路脇に金属物（マンホール・鉄板など）・段差・突起物があるとき

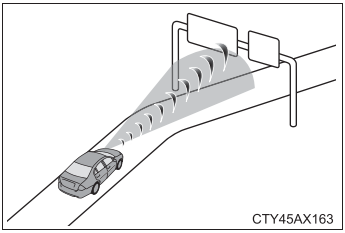
・横断する歩行者が車両のすぐそばに近づいたとき



・道路上方に構造物（天井の低いトンネル・道路標識など）がある場所を走行するとき

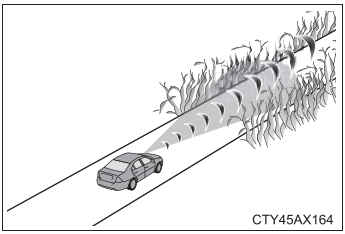


・上り坂で道路上方に構造物（看板など）がある場所を走行するとき



・ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに急速に接近したとき
・洗車機を使用するとき

・車両に覆い被さるような障害物（生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など）がある場所を走行するとき

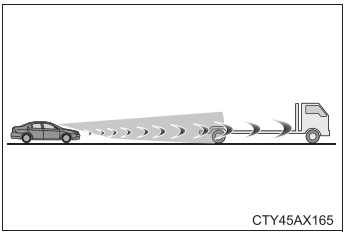


・前方車両から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
・車両前方に水蒸気や煙などがあるとき
・路面または壁面に車両や歩行者との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき
・電波の反射が強い物体（大型トラック・ガードレールなど）の横を走行するとき
・テレビ塔・放送局・発電所など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき

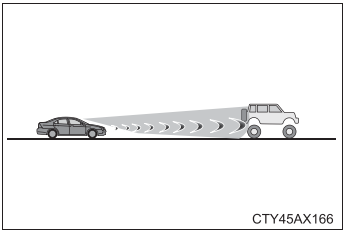
■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●例えば次のような状況では、前方センサーが対象となる車両を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

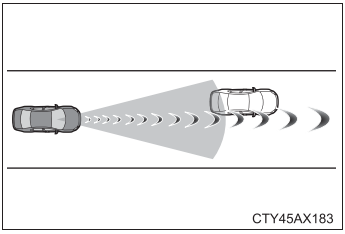
・前方から自車に向かって車両が近づいてくるとき
・前方車両がオートバイ・自転車のとき
・車両の側面または前面に近付いたとき
・先行車の後端面積が小さいとき（空荷のトラックなど）
・先行車の後端が低い位置にあるとき（低床トレーラーなど）


CTY45AX165

・前方車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
・前方車両の最低地上高が極端に高いとき

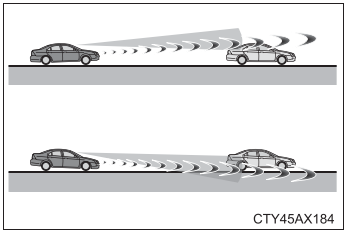

CTY45AX166

・前方車両が特殊な形状のとき（トラクター・サイドカーなど）
・前方車両が太陽光などを強く反射しているとき
・車両が横から割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
・前方車両が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
・自車が車線変更を行い、変更した車線の先行車に急接近したとき
・前方車両と自車の中心がずれているとき


CTY45AX183

・悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき
・前方車両から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
・車両前方に水蒸気や煙などがあるとき
・周囲の明るさが急激に変化する場所を走行するとき（トンネルの出入り口など）

・強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）がカメラセンサーに直接あたっているとき
・薄暗いとき（朝方・夕方など）、および夜間やトンネル内
・エンジンを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
・右左折中および右左折後の数秒間
・カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからの数秒間
・自車が横すべりしているとき
・路面にうねり・凹凸があるときなど、車両姿勢が変化しているとき
・車両姿勢が変化しているとき


CTY45AX184

・ホイールアライメントがずれているとき
・ワイパーブレードがカメラセンサーの視界をさえぎっているとき
・ふらつき運転をしているとき
・過度な高速走行をしているとき
・坂道を走行しているとき
・前方センサーの向きがずれているとき

●例えば次のような状況では、制動力が十分に得られず、システムの性能を発揮できないおそれがあります。

・ブレーキ性能が十分に発揮できない場合（ブレーキ部品が極度に冷えている・過熱している・ぬれているなど）
・車両の整備状態（ブレーキ部品・タイヤの磨耗や空気圧など）が良好でないとき
・砂利道やすべりやすい路面を走行しているとき

●例えば次のような歩行者は、前方センサーが検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

・身長が約 1m 以下、または約 2m 以上の歩行者
・合羽・ロングスカートなどを着ていて、全身の輪郭があいまいな歩行者
・大きな荷物を抱えていたり、傘をさしていたりして、体の一部が隠れている歩行者
・前かがみになっている、またはしゃがんでいる歩行者
・ベビーカー・車いす・自転車などを押している歩行者
・集団でいる歩行者
・白っぽい服を着ていて、極端に明るく見える歩行者
・夜間やトンネル内など、暗闇にいる歩行者
・服装の色合いや明るさなどが背景に溶け込んでいる歩行者
・壁際や車両・フェンス・ガードレールなどのそばにいる歩行者
・路面の金属物（マンホール・鉄板など）上にいる歩行者
・歩く速度が速い歩行者
・歩く速度を急激に変化させている歩行者
・物陰から飛び出してきた歩行者
・車両の側端（ドアミラーなど）すれすれの位置にいる歩行者

■PCS 警告灯が点滅、およびマルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

システムが一時的に作動しない、またはシステムに異常があるおそれがあります。

●次のときは、状況が改善されると PCS 警告灯・警告メッセージが消え、作動可能状態になります。

・炎天下などで、前方センサーや前方センサー周辺の温度が高いとき
・極寒の環境などで、前方センサーや前方センサー周辺の温度が低いとき
・レーダーセンサーやフロントグリルエンブレム周辺に雪や汚れなどが付着しているとき
・カメラセンサー前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりしているとき（フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→ P. 378）
・ボンネットが開いているときや、フロントウインドウガラスのカメラセンサー付近にシールが貼り付けられているときなど、カメラセンサーの前方がさえぎられているとき

●PCS 警告灯が点滅したままのとき、および警告メッセージが表示されたままのときは、システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■VSC を停止したとき

●VSC の作動を停止（→ P. 362）したときは、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。

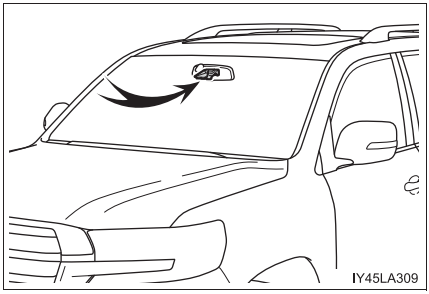
●PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「VSC が Off のためプリクラッシュブレーキも停止します」が表示されます。

LDA（レーンディパーチャーアラート）※

機能概要

白（黄）線が整備された道路を走行中、車線からの逸脱の可能性を運転者に警告します。

LDA は、フロントウインドウガラス上部のカメラセンサーで、白（黄）線を認識します。

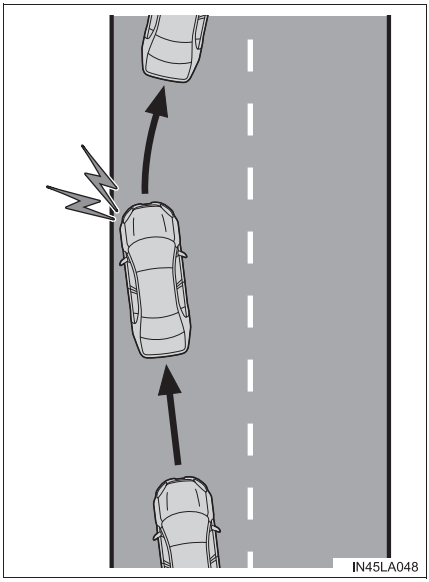


LDA に含まれる機能

◆ 車線逸脱警報機能

車両が車線から逸脱する可能性がある場合に、マルチインフォメーションディスプレイの表示および、警報ブザーにより注意をうながします。

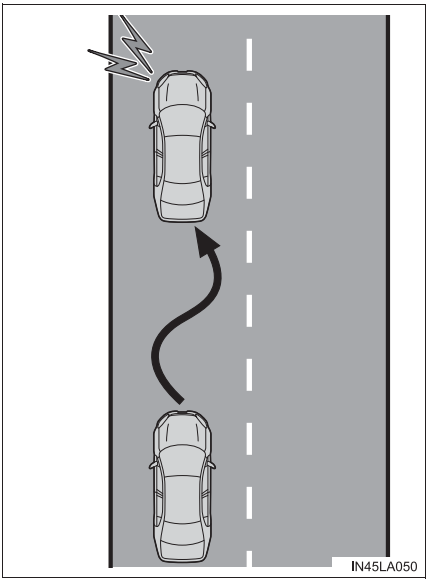
警報ブザーが鳴ったときは、まわりの道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、白（黄）線内の中央付近にもどってください。



※：車線逸脱警報

◆ ふらつき警報機能

車両がふらついて走行しているとき、または車線から何度もはみだしそうになった場合に、警報ブザーおよびマルチインフォメーションディスプレイの表示により注意をうながします。



⚠ 警告

■LDA をお使いになる前に

LDA を過信しないでください。LDA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。
適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

■誤作動を防ぐために

LDA を使用しないときは、LDA スイッチでシステムを OFF にしてください。

■LDA を使用してはいけない状況

次の状況では、LDA を使用しないでください。
システムが適切に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- ●応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき
- ●路側物に白（黄）線と見間違えるような構造物や模様があるとき（ガードレール・縁石・反射ポール）
- ●雪道を走行しているとき
- ●雨・雪・霧・砂ぼこりなどで白（黄）線が見えにくいとき
- ●道路の修復で、アスファルト修復跡や白（黄）線の跡などが残っているとき
- ●工事によって規制された車線・仮設の車線を走行しているとき
- ●工事区間を走行しているとき

■LDA の故障、または誤作動を防ぐために

- ●ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。
- ●サスペンションなどを改造しないでください。交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- ●ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）を取り付けたりしないでください。
- ●フロントウインドウガラスの修理が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

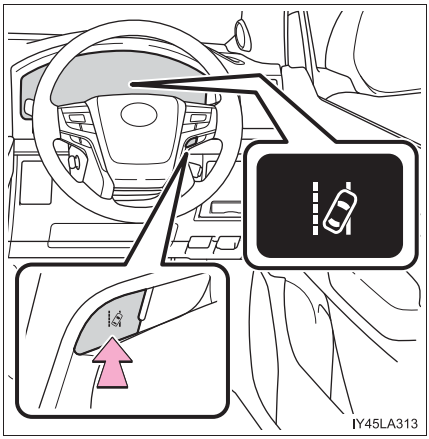
設定のしかた

LDA を ON にするには LDA スイッチを押す

LDA 表示灯が点灯します。

OFF にするには、再度スイッチを押します。

いったん LDA を ON ／ OFF すると、次回エンジンを始動したときにも、そのままの状態が続きます。



マルチインフォメーションディスプレイ表示

車線逸脱警報機能表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報に切りかえると表示されます。

IY45LA312

▶ 白線表示の内側が白いとき

IY45LA310

システムが白（黄）線を認識していることを示しています。車両が車線から逸脱した場合、逸脱している側の白線表示が橙色で点滅します。

▶ 白線表示の内側が黒いとき

IY45LA311

システムが白（黄）線を認識できていない、またはシステムが一時的に解除されていることを示しています。

知識

■各機能の作動条件

●車線逸脱警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・LDA を ON にしているとき
・車速が約 50km/h 以上のとき
・システムが白（黄）線を認識しているとき
・車線の幅が約 3m 以上のとき
・方向指示レバーを操作していないとき
・直線路または半径が約 150m よりゆるいカーブを走行しているとき
・システムの異常が検知されていないとき（→ P. 250）

●ふらつき警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・マルチインフォメーションディスプレイの「設定」で「ふらつき警報機能」を「有」に設定しているとき（→ P. 539）
・車速が約 50km/h 以上のとき
・車線の幅が約 3m 以上のとき
・システムの異常が検知されていないとき（→ P. 250）

■機能の一時解除

作動条件（→ P. 248）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

■車線逸脱警報機能について

外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。

■白（黄）線が片側しかないとき

白（黄）線が認識できていない方向への車線逸脱警報は作動しません。

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、カメラセンサーが白（黄）線を正しく検知できず、各機能が正しく作動しないおそれがあります。

●白（黄）線に平行するような影がある、または白（黄）線が影の中にあるとき
●料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき
●白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイ（道路鋲）や置き石などがあるとき
●白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき
●雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行しているとき
●車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）
●白（黄）線が縁石等の上に引かれているとき
●コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき
●照り返しなどにより明るくなった路面を走行しているとき
●トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行しているとき
●対向車のヘッドランプ光・太陽光などがカメラに入射しているとき
●分岐・合流路などを走行しているとき
●坂道を走行しているとき
●左右に傾いた道路やうねった道路を走行しているとき
●舗装されていない道路や荒れた道路を走行しているとき
●急カーブを走行しているとき
●車線の幅が極端に狭いとき、または広いとき
●重い荷物の積載やタイヤ空気圧の不足などで、車両が著しく傾いているとき
●先行車との車間距離が極端に短くなったとき
●走行中の路面状況（悪路・道路の継ぎ目など）により、車両が上下に大きく揺れているとき
●夜間にヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
●車線変更をした直後、または交差点を通過した直後

■警告メッセージ

次のメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示され、LDA 表示灯が消灯した場合は、対処方法に従って適切に対処してください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
「LDA 故障 販売店で 点検してください」	システムが正常に作動しなくなっているおそれがある → トヨタ販売店で点検を受けてください。
「前方カメラシステム 利用不可 フロントガラス汚れを 取ってください」	カメラセンサーの前のフロントウインドウガラスの汚れ・雨滴・結露・氷雪などが付着している → いったん LDA を OFF にして、汚れ・雨滴・結露・氷雪などを取り除いてから、再度 LDA を ON にしてください。
「前方カメラシステム 一時使用不可 少々お待ちください」	カメラセンサーの作動条件（温度など）が満たされていない → カメラセンサーの作動条件（温度など）が満たされると、LDA は使用可能になります。いったん LDA を OFF にして、しばらく待ってから、再度 LDA を ON にしてください。
「LDA 現在使用できません」	カメラセンサー以外のセンサーの異常によりシステムが一時停止している → いったん LDA を OFF にして、警告メッセージの内容に対処したあと、しばらくしてから再度、LDA を ON にしてください
「LDA 約 50km/h 以下で 使用できません」	車速が約 50km/h 以下のため LDA が使用できません → 約 50km/h より速い速度で走行してください。

その他の警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■カスタマイズ機能

次の設定を変更できます。

機能	設定内容
車線逸脱警報	警報感度
ふらつき警報機能	機能の ON ／ OFF
	警報感度

設定変更のしかたは、P. 539 を参照してください。

レーダークルーズコントロール

機能概要

アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードでは、先行車の車速変化にあわせた追従走行を行い、自動的に加速・減速をします。定速制御モードでは、一定の車速で走行できます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

- 車間制御モード（→ P. 254）
- 定速制御モード（→ P. 259）

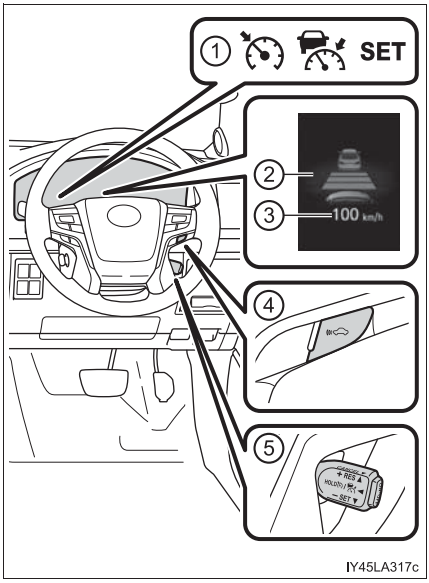
① 表示灯

② マルチインフォメーションディスプレイ

③ 設定速度

④ 車間距離切りかえスイッチ

⑤ レーダークルーズコントロールスイッチ



⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。
レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。
システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながる恐れがあります。

■システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。
システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者が見る過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。
運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

⚠ 警告

■誤操作を防ぐために

レーダークルーズコントロールを使わないときはON-OFFスイッチでシステムを OFF にしてください。

■レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況

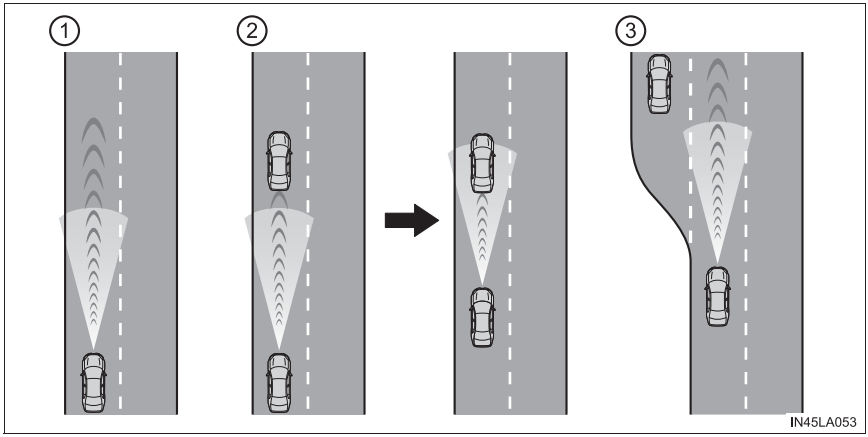
次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。
適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●歩行者や自転車等が混在している道
- ●交通量の多い道
- ●急カーブのある道
- ●曲がりくねった道
- ●雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- ●急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
  急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。
- ●高速道路や自動車専用道路の出入り口
- ●センサーが正しく検知できないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）
- ●レーダーセンサー前面または、カメラセンサー前面に雨滴や雪などが付着しているとき
- ●頻繁に加速・減速を繰り返すような交通状況のとき
- ●トレーラー、または車両けん引時
- ●接近警報がひんぱんに鳴るとき

車間制御モードでの走行

車間制御モードでは、レーダーセンサーにより車両前方約 100m 以内の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。

長い下り坂を走行しているときは、車間距離が短めになります。



① 定速走行：
先行車がいないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

② 減速走行ー追従走行：
設定した速度より、車速が遅い先行車が現れたとき

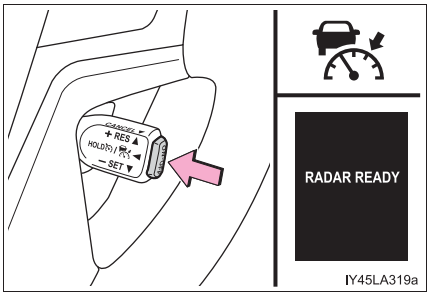
先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の車速変化にあわせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

③ 加速走行：
設定した速度より、車速が遅い先行車がいなくなったとき

設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

速度を設定する（車間制御モード）

1 ON-OFF スイッチを押して、システムを ON にする



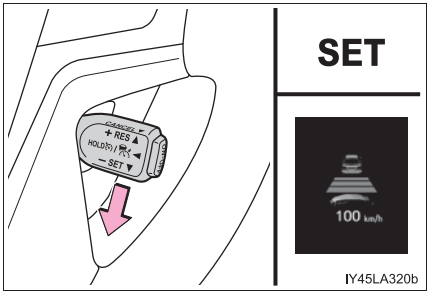
IY45LA319a

レーダークルーズコントロール表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

OFF にするには再度スイッチを押します。

ON-OFF スイッチを 1.5 秒以上押し続けると定速制御モードでシステムが ON します。（→ P. 259）

2 希望の車速（約 50 ～約 100 km/h）までアクセルペダル操作で加速／減速し、レバーを下げて速度を設定する



IY45LA320b

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

レバーを離したときの車速で定速走行できます。

設定速度をかえる

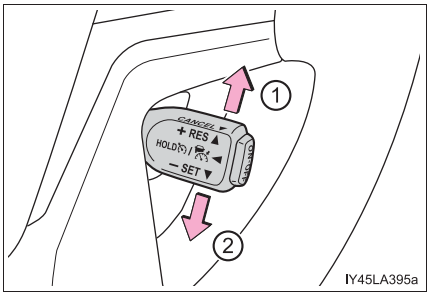
設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまでレバーを操作します。

① 速度を上げる

② 速度を下げる

微調整：レバーを上または下に軽く操作して手を離す

大幅調整：レバーを上または下に保持して速度をかえ、希望の速度で手を離す



車間制御モードでは、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：レバー操作をするごとに 1km/h

大幅調整：レバーを保持しているあいだ、5km/h ずつ

定速制御モード（→ P. 259）では、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：レバー操作をするごとに 1km/h

大幅調整：レバーを保持しているあいだ連続して変化

車間距離を変更する（車間制御モード）

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。

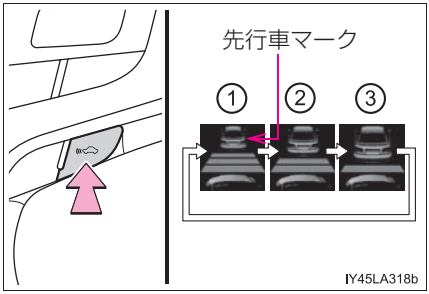
① 長い

② 中間

③ 短い

エンジンスイッチをイグニッション ON モードにするたびに車間距離は①にもどります。

先行車がいる場合、先行車マークも表示されます。



車間距離選択の目安（車間制御モード）

次の目安を参考に車間距離を選択してください。
（車速 80km/h で走行している場合）
なお、車速に応じて車間距離は増減します。

車間距離選択	車間距離
長い	約 50m
中間	約 40m
短い	約 30m

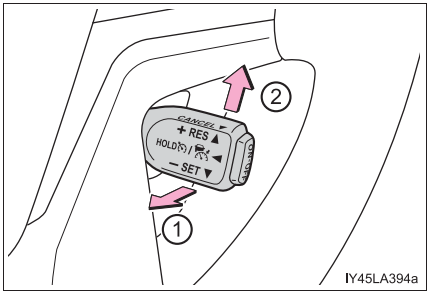
制御を解除する・復帰させる

① 制御を解除するには、レバーを手前に引く

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。

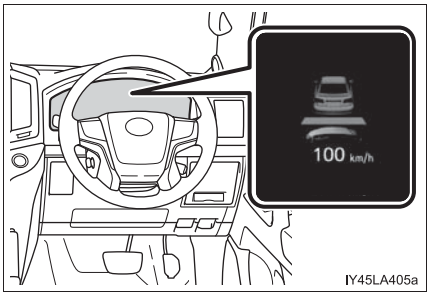
② 制御を復帰させるには、レバーを上げる

ただし、車速が約 40km/h 以下の時は復帰しません。



接近警報（車間制御モード）

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。



■ 警報されないとき

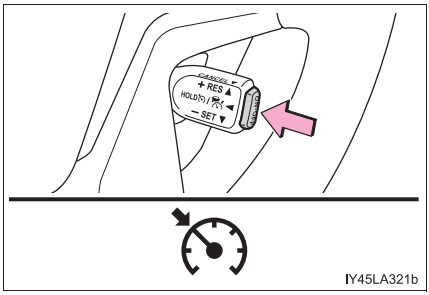
車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルを踏んだとき

定速制御モードでの走行

定速制御モードでは、先行車の車速変化にあわせた追従走行を行わず、一定の車速で走行します。レーダーセンサーの汚れなどにより、車間制御モードで走行できない場合のみご使用ください。

1 クルーズコントロールが OFF の状態で、ON-OFF スイッチを 1.5 秒以上押し続ける

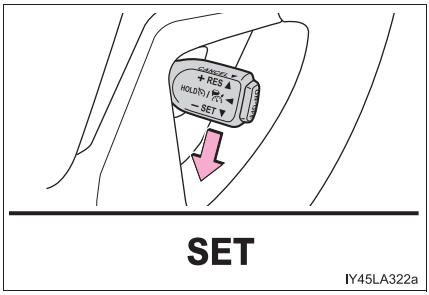


IY45LA321b

ON-OFF スイッチを押した直後は、レーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。その後、クルーズコントロール表示灯に切りかわります。

システムがOFFの状態から操作したときのみ、定速制御モードへの切り替えが可能です。

2 希望の車速（約 50 ～約 100 km/h）までアクセルペダル操作で加速／減速し、レバーを下げて速度を設定する



IY45LA322a

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

レバーを離したときの車速で定速走行できます。

設定速度をかえる
→ P. 256

制御を解除する・復帰させる
→ P. 257

知識

■設定条件について

●シフトレバーが D または S の 4 レンジ以上のとき設定できます。

●車速は約 50 ～約 100km/h の範囲で設定できます。

■速度設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■車間制御モードの自動解除

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。

●車速が約 40km/h 以下になったとき

●VSC が作動したとき

●アクティブ TRC が一定時間作動したとき

●アクティブ TRC または VSC を OFF にしたとき

●走行モードをセカンドスタートモードにセットしたとき

●センサーが何かでふさがれて正しく検知できないとき

●プリクラッシュブレーキが作動したとき

その他の理由で車間制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■定速制御モードの自動解除

次のとき、自動的に定速制御モードが解除されます。

●設定速度より車速が約 16km/h 以上低下したとき

●車速が約 40km/h 以下になったとき

●VSC が作動したとき

●アクティブ TRC が一定時間作動したとき

●アクティブ TRC または VSC を OFF にしたとき

●プリクラッシュブレーキが作動したとき

その他の理由で定速制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

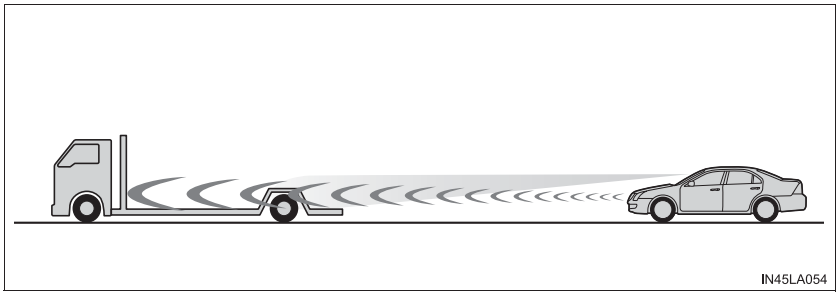
■レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

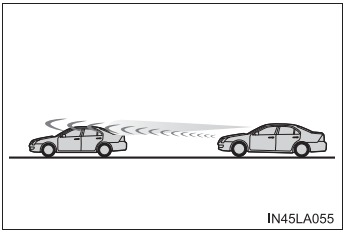
■センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。
センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→ P. 258）も作動しないおそれがあります。

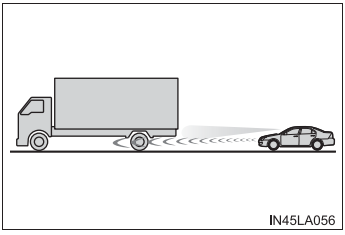
- 先行車が急に割り込んできたとき
- 先行車が低速で走行中のとき
- 同じ車線に停車中の車がいるとき
- 先行車の後部分が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）


IN45LA054

- 同じ車線を二輪車が走行中のとき
- 周囲の車より水や雪がまき散らされ、レーダーセンサーの検知のさまたげになる場合
- 自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）


IN45LA055

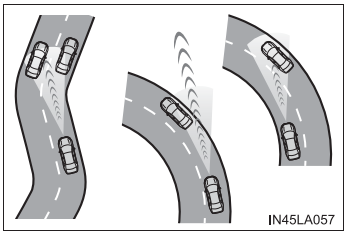
- 先行車の車高が極端に高いとき


IN45LA056

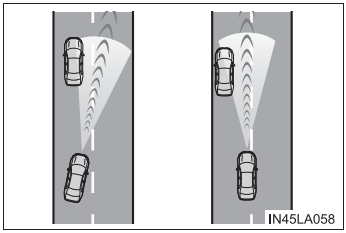
■車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況

次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってアクセルペダルを操作）してください。
センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

●カーブや車線幅が狭い道路などを走行する場合



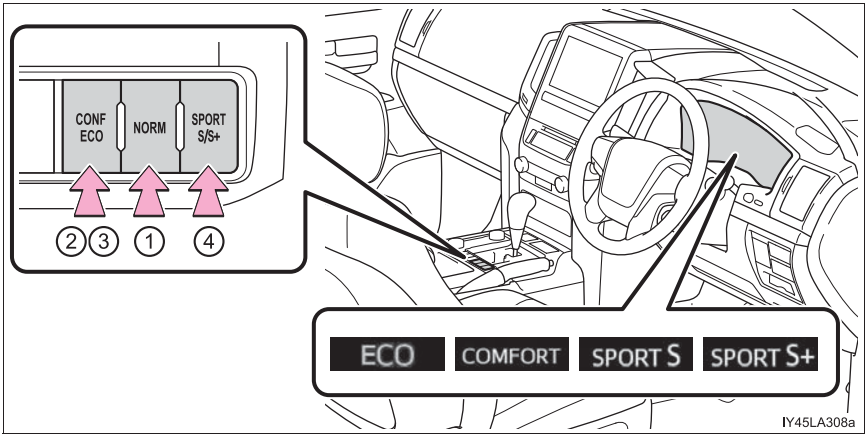
●ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合



●先行車が急ブレーキをかけた場合

ドライブモードセレクトスイッチ★

走行・使用状況に合わせて次のモードを選択できます。



① ノーマルモード

通常の走行に適しています。

ノーマルモード以外のときに“NORM”スイッチを押すと、ノーマルモードにもどります。

② コンフォートモード

サスペンションを制御することにより、より快適な乗り心地になります。市街地走行に適しています。

コンフォートモード以外のときに“COMF ECO”スイッチを押すとコンフォートモードに切りかわり、マルチインフォメーションディスプレイに「COMFORT」と表示されます。

② エコドライブモード

通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになり、またエアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費を向上させる走行に適しています。

コンフォートモードのときに“COMF ECO”スイッチを押すとエコドライブモードに切りかわり、マルチインフォメーションディスプレイに「ECO」と表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

③ スポーツモード

・スポーツ S モード

トランスミッションとエンジンの制御により、アクセルレスポンスを向上させ、力強い加速をしたいときに適しています。

スポーツ S モード以外のときに“SPORT S/S+”スイッチを押すとスポーツ S モードに切りかわり、マルチインフォメーションディスプレイに「SPORT S」と表示されます。

・スポーツ S +モード

トランスミッションとエンジンに加え、ステアリングやサスペンションを総合的に制御することにより操縦性・安定性の確保に貢献し、スポーティーな走りを楽しみたいときに適しています。

スポーツ S モードのときに“SPORT S/S+”スイッチを押すとスポーツ S +モードに切りかわり、マルチインフォメーションディスプレイに「SPORT S +」と表示されます。

知識

■エコドライブモード時のエアコン作動について

エコドライブモードは、暖房／冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。空調の効きをよりよくしたいときは、風量の調整またはエコドライブモードの解除をしてください。（→ P. 372）

■スポーツモードの自動解除

スポーツモードを選択して走行後、エンジンスイッチを OFF にし、再度エンジンスイッチをイグニッション ON モードにした場合は、自動でノーマルモードにもどります。

■サイド画面の割り込み表示

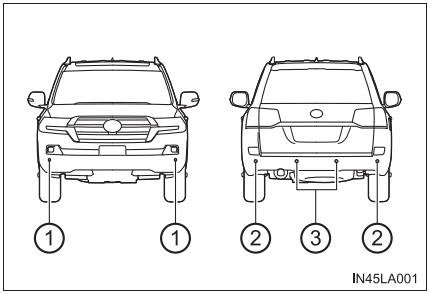
モードを切りかえるごとに、選択したモードがサイド画面に表示されます。

クリアランスソナー★

クリアランスソナーは、車両と障害物とのおおよその距離を超音波センサーによって感知して、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイおよびナビゲーション画面★の距離表示とブザー音で運転者にお知らせします。

センサーの位置・種類

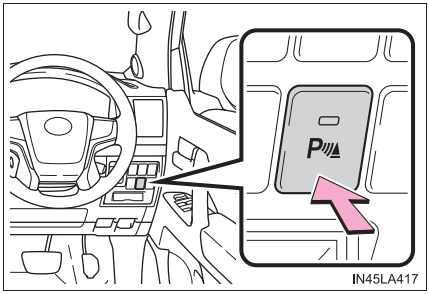
① フロントコーナーセンサー
② リヤコーナーセンサー
③ バックセンサー



クリアランスソナースイッチ

ON ／ OFF

スイッチを押すとクリアランスソナーは ON になり、表示灯が点灯し、ブザーが鳴ります。
OFF にするには再びスイッチを押します。

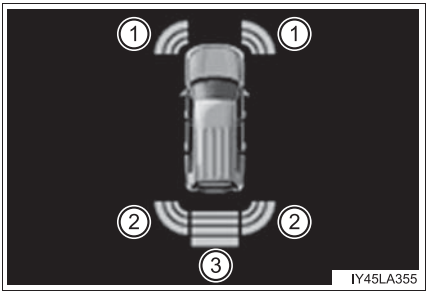


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

クリアランスソナーの表示のしかた

■ マルチインフォメーションディスプレイの表示

① フロントコーナーセンサー作動表示
② リヤコーナーセンサー作動表示
③ バックセンサー作動表示



■ ナビゲーション画面の表示★

障害物を感知すると自動的に表示されます。

① クリアランスソナー表示

バックガイドモニター★・マルチテレインモニター★非表示時

表示されないように設定することができます。(→ P. 270)

:ブザー音ミュート（消音）スイッチ
ブザー音を一時的に消すことができます。

② クリアランスソナー

③ RCTA（リヤクロストラフィックアラート）(→ P. 347)

バックガイドモニター★・マルチテレインモニター★表示時

画面上に簡略表示されます。
(右の画面はマルチテレインモニターの場合です。バックガイドモニター表示時の割り込み表示については、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

距離表示の見方

マルチインフォメーションディスプレイ	ナビゲーション画面		障害物までのおおよその距離	
		割り込み表示	コーナーセンサー	バックセンサー
（点灯）	（点灯）	（遅い点滅）	—	150cm～80cm
（点灯）	（点灯）	（点滅）	60cm～45cm	80cm～65cm
（点灯）	（点灯）	（速い点滅）	45cm～35cm	65cm～50cm
（点滅）	（点灯）	（点灯）	35cm 以下	50cm 以下

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声案内とブザー音

障害物を感知すると、ブザーが鳴ります。

ナビゲーションシステム装着車は、ブザー音と同時に音声案内を行います。

■ フロント側またはリヤ側のみで障害物を感知しているとき

- 障害物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。障害物との距離が次のとき、ブザーは断続音「ピピピ」から連続音「ピー」になります。
  - ・フロントコーナーセンサーが感知した障害物との距離が約 35cm 以下
  - ・リヤコーナーセンサーが感知した障害物との距離が約 35cm 以下
  - ・バックセンサーが感知した障害物との距離が約 60cm 以下
- 複数のセンサーが同時に障害物を感知しているときは、もっとも近い障害物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。

■ 障害物を車両の前後で同時に感知したとき

- フロント側、またはリヤ側で障害物を感知してブザーが連続で鳴っているとき、反対の側（フロントまたはリヤ）で新たに障害物を感知すると、ブザー音は「ピピピピピピピ　ピー」をくり返します。
- フロント側、またはリヤ側で障害物を感知してブザーが連続で鳴っているとき、反対の側（フロントまたはリヤ）でもブザーが連続で鳴る範囲内に障害物を感知すると、ブザー音は「ピピピ　ピー」をくり返します。

ブザーの音量と鳴るタイミングを変更することができます。

- ナビゲーションシステム装着車：→ P. 270
- ナビゲーションシステム非装着車：→ P. 539

障害物を感知できる範囲

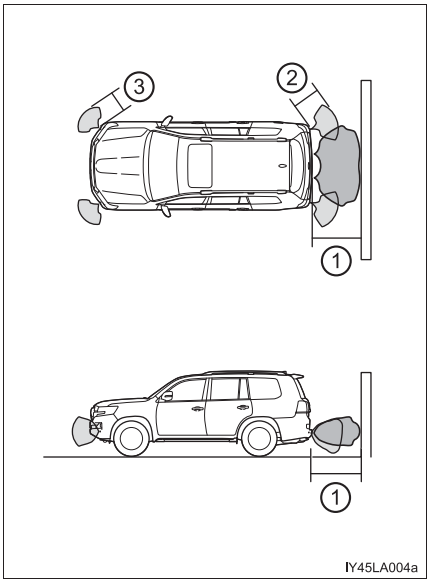
① 約 150cm

② 約 60cm

③ 約 60cm

感知できる範囲は右図のとおりです。ただし、障害物がセンサーに近付きすぎると感知できません。

障害物の形状・条件によっては、感知できる距離が短くなることや、感知できないことがあります。



IY45LA004a

音声案内・ナビゲーション画面表示・ブザーの設定（ナビゲーションシステム装着車のみ）

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき、クリアランスソナーの設定をすることができます。

1 画面外の「設定・編集」を押す

2 画面内の「運転支援」を選択する

3 画面内の「クリアランスソナー設定」を選択する

① ブザー音量設定

② 画面表示の ON・OFF

③ 画面表示・ブザータイミング

IY45LA003J

■ ブザー音量設定

設定したい音量を選択する

ブザー音量を調整することができます。

■ 画面表示の ON・OFF（ソナー表示）

画面内の「ソナー表示なし」を選択する

● 選択するごとに、「表示される」と「表示されない」が切りかわります。

●「表示されない」にすると、スイッチの作動表示灯が点灯します。

障害物が感知されたとき、自動的にクリアランスソナー画面が表示されるかどうか設定することができます。

■ 画面表示・ブザータイミング

画面内の「切替え」を選択する

選択するごとに、感知範囲が「遠」（緑色、約 150cm 以内）と「近」（黄色、約 65cm 以内）に切りかわります。

バックセンサーの割り込み表示が表示される感知範囲と、ブザーが出力される感知範囲を調整することができます。

知識

■作動条件

●フロントコーナーセンサー：

・エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき
・シフトレバーが P 以外にあるとき
・車両の速度が約 10km/h 以下のとき（シフトレバーが R にあるときは除く）

●リヤコーナーセンサー・バックセンサー：

・エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき
・シフトレバーが R にあるとき

■センサーの感知について

●センサーの感知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。

●障害物の形状・条件によって感知できる範囲が短くなることや、感知できないことがあります。

●センサーが障害物に近づきすぎると感知できないことがあります。

●障害物を感知してから、表示やブザーが出るまでに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示やブザーが出る前に、障害物まで約 25cm 以内に接近するおそれがあります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「ソナーの汚れを除去してください」が表示されたときは

クリアランスソナーのセンサーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。
この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。
また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、障害物があっても感知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。

■マルチインフォメーションディスプレイに「クリアランスソナー故障」が表示されたときは

センサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。
トヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

■クリアランスソナーをお使いになる前に

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車両の速度が約 10km/h をこえないようにしてください。
- センサーの感知範囲、作動速度には限界があります。車を前進・後退するときは、必ず車両周辺（特に車両側面など）の安全を確認し、ブレーキで車速を十分に制御し、ゆっくり運転してください。
- センサーが感知する範囲にはアクセサリー用品などを取り付けないでください。

⚠ 警告

■センサーについて

次のとき、クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

- センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
  特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、障害物があっても感知しないことがあります。
- センサーを手などで覆ったとき
- 炎天下や寒冷時
- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など
- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のクリアランスソナーなどの超音波を発生するものが近付いたとき
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- 車両姿勢が大きく傾いたとき
- 市販のフェンダーポール、無線機アンテナ、フォグランプを車に付けたとき
- 背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき
- 標識などのものによっては感知距離が短くなります。
- バンパー真下付近は感知しません。
  センサーより低いものや細い杭などは、一度感知しても接近すると突然感知しなくなることがあります。
- センサーに障害物が近付きすぎたとき
- バンパーやセンサー部付近にものをぶつけたときや、たたくなどの強い衝撃を与えたとき
- トヨタ純正品以外のサスペンションを取り付けたとき
- けん引フックを取り付けたとき
- 字光式ナンバープレートを取り付けたとき

障害物の形状・条件によっては感知できる範囲が短くなることや、感知できないことがあります。

⚠ 警告

■正確に感知できないことがある障害物

次のようなものは感知しないことがあります。注意して運転してください。

●針金・フェンス・ロープなどの細いもの

●綿・雪などの音波を吸収しやすいもの

●鋭角的な形のもの

●背の低いもの

●背が高く上部が張り出しているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

⚠ 注意

■クリアランスソナー使用時の注意

次のとき、センサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

・障害物を状態で、クリアランスソナーの作動表示が点滅し、ブザーが鳴ったとき

・センサー部付近に物をぶつけたときや、たたくなどの強い衝撃を与えたとき

・バンパーをぶつけたとき

・ブザー音がしないのに表示が点灯したままのとき

■洗車時の注意

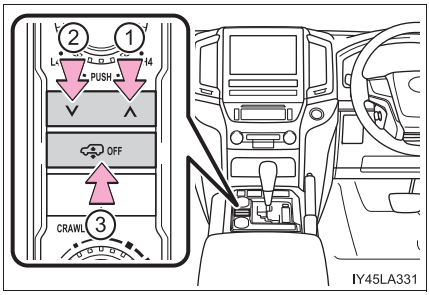
●高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。

●スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近づけすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

4-Wheel AHC（アクティブハイトコントロール）★

4-Wheel AHC は、走行の状況に応じて車高を HI（ハイ）モード、N（標準）モード、LO（ロー）モードの 3 つから選択することができます。

車高切り替えスイッチ／車高制御 OFF スイッチ



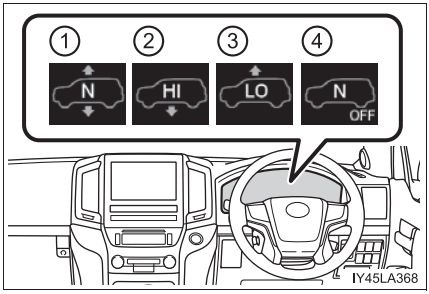
① “∧”（車高上昇）スイッチ

② “∨”（車高下降）スイッチ

③ 車高制御 OFF スイッチ

車が停止しているときにスイッチを押すと、ハイトコントロール OFF モードになり、車高制御が停止されます。もう一度スイッチを押すと、車高の調整ができるようになります。

マルチインフォメーションディスプレイ



① N（標準）モード

マルチインフォメーションディスプレイに表示される、の矢印は、現在の車高から矢印の方向への調整ができることを示しています。

② HI（ハイ）モード

③ LO（ロー）モード

④ ハイトコントロール OFF モード

ハイトコントロール OFF モードのとき、“∧”（車高上昇）や“∨”（車高下降）スイッチを押しても車高はかわりません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車高モード

車高モードは、車高切り替えスイッチや車高制御 OFF スイッチを操作することで以下の表のように切り替わります。

現在の車高モード	操作するスイッチ	
	∨	∧
HI（ハイ）モード	N（標準）モード	現在のまま
N（標準）モード	LO（ロー）モード	HI（ハイ）モード
LO（ロー）モード	現在のまま	N（標準）モード
ハイトコントロール OFF モード	現在のまま	

■ HI（ハイ）モード

N（標準）モードと比べ、フロントの車高が約 50mm、リヤの車高が約 60mm 高くなります。

- 凹凸のある路面や渡河走行するときに適しています。
- HI（ハイ）モードは、車速が約 30km/h 以下のときに選択できます。

■ N（標準）モード

標準車高です。一般的な走行に適しています。
高速走行時は、自動的にフロントの車高が約 20mm、リヤの車高が約 15mm 低くなり、優れた空力特性や走行安定性を確保します。車速が低くなると、自動的に標準車高にもどります。

■ LO（ロー）モード

N（標準）モードと比べ、フロントの車高が約 60mm、リヤの車高が約 40mm 低くなります。

- 車への乗り降りや、荷物の積み降ろしが容易になります。
- LO（ロー）モードは車速が約 12km/h 以下のときに選択できます。車速が約 12km/h を超えると、自動的に N（標準）モードに移行します。

車高モード切り替え条件

車速により選択できない車高モードがあります。以下の表を参照してモードを切り替えてください。

※ トランスファースイッチが L4 のときの車高モードの切り替えは、下記の表と異なる場合があります。

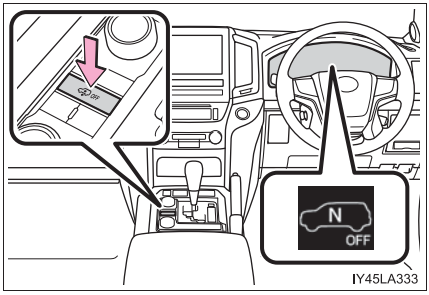
○：選択可　×：選択不可

車両の状態	車高モード		
	LO（ロー）	N（標準）	HI（ハイ）
車速約 12km/h 以下	○	○	○
車速約 12km/h ～ 30km/h	×	○	○
車速約 30km/h 以上	×	○	×

車高制御の停止方法

停車中に車高制御 OFF スイッチを押す。

マルチインフォメーションディスプレイに“OFF”が表示されます。
車高制御の停止を解除するときは、スイッチを再度押します。



知識

■作動条件

- ●エンジンがかかっていること
- ●車高制御が停止されていない（ハイトコントロール OFF モードでない）こと
- ●すべてのドア（バックドアを含む）が閉まっていること

■エンジン停止中の車高モードの切り替え

- ●車高が下降中にエンジンを停止した場合、下降を継続します。
- ●エンジンスイッチをOFFにしてから約30秒間は、人が降りたり荷物を降ろしたりして車高が上がると、オートレベリング機能により車高が下がることがあります。
- ●エンジン停止中は、車高切り替えスイッチの操作は受け付けません。

■トランスファースイッチが L4 のときの車高モードの自動切り替え

トランスファースイッチが L4 で、車速が約 3km/h を超えて不整地を走行する場合は、自動的に車高が HI（ハイ）モードへ移行します。（平坦路では車高モードはかわりません）

■HI（ハイ）モードでの車高自動変更

- ●トランスファースイッチがH4で車速が約30km/hを超えたとき、車高は自動的に N（標準）モードへ移行します。
- ●トランスファースイッチが L4 で車速が約 50km/h を超えたとき、車高は N（標準）モードより約 25mm 高い位置まで移行します。車速が約 20km/h 以下になったら自動的に HI（ハイ）モードの位置へもどります。

■エクストラハイモード

HI（ハイ）モードでトランスファースイッチが L4、またはクロールコントロールが作動した状態のときに車がスタックすると、自動的にエクストラハイモードへ移行します。車高が HI（ハイ）モードより約 20mm 高くなります。

●HI（ハイ）モードにもどる条件

・車速が約 10km/h 以上になる
・トランスファースイッチを H4 にする

●エクストラハイモードで“∨”（車高下降）スイッチを押すと、N（標準）モードへ移行します。

●エクストラハイモードはスイッチ操作による選択はできません。

■車高制御の停止について

●エンジンを停止しても、車高制御の停止状態は記憶されています。

●車高制御 OFF スイッチにより車高制御を停止しても、下記の車速を超えると、停止状態が解除されます。

・HI（ハイ）・LO（ロー）モード：車速約 30km/h 以上
・N（標準）モード：車速約 80km/h 以上

■オートレベリング機能

すべてのモードで乗員数や荷物などの積載条件がかわっても、常に一定の高さになるように車高が自動で制御されます。

■積載量について

●下記の積載量を越えた場合、車高切り替えスイッチを操作しても目的の車高にならないことがあります。

・HI（ハイ）モード：大人 4 名※＋約 270kg
・N（標準）モード：大人 4 名※＋約 370kg

※ 1 名あたり 55kg とした場合

●N（標準）モードで車高が上がらず、マルチインフォメーションディスプレイに「LO」と表示されたとき、または HI（ハイ）モードで「LO」または「N」と表示されたときは、車両の積荷が重すぎることを示しています。この状態で走行するときは、十分に注意してください。積荷を降ろしても車高が上がらないときは、“∨”（車高下降）スイッチを押して一度車高を下げたあと、“∧”（車高上昇）スイッチを押して車高を上げてください。
それでも車高が上がらないときは、一度エンジンを停止し、再始動後、車高切り替えスイッチによる再操作をおこなってください。

■運転中に停車したとき

オートレベリング機能が作動し車高がかわる場合がありますが、異常ではありません。

■車高がかわらないときは

積荷が重すぎる場合、車高を上げることができません。また、車両下部が路面と接触している場合、車高を下げることができません。

■4-Wheel AHC が作動しないとき

●車両が停止しているときに、ブレーキペダルを数秒間踏んだとき
●車高の切り替えをひんぱんにおこなったとき
●サスペンションフルードの油温が約－ 30 ℃以下のとき
●サスペンションに氷が付いているとき
●サスペンションが伸びきるような凹凸の激しい路面を走行しているとき
●センターデフロック作動状態（→ P. 284）で、ハンドルを約 3/4 回転以上まわしたとき

■寒冷時の取り扱い

●サスペンションフルードの油温が約－15℃以下になると、車高の調整に必要な時間が長くなります。

●サスペンションフルードの油温が約－30℃以下になると、4-Wheel AHCは作動しません。

・この場合、車高切り替えスイッチを押しても車高はかわりません。一度しばらく走行し、サスペンションフルードを通常の温度まで上げると、4-Wheel AHC が作動し、自動的に選択したモードの車高に調整されます。
・サスペンションフルードの油温が約－30℃付近のとき、4-Wheel AHC が作動しても車高が上がらないことがあります。この場合、しばらく走行したあとで、“▼”（車高下降）スイッチを押してから“▲”（車高上昇）スイッチを押し、車高を上げてください。

■駐停車について

●オフロード走行後、すぐにエンジンを停止して駐車する場合、車高が少し下がります。駐車時は、車両が下がった際に車体に接触するものがないか確認してください。なお、車高はエンジンを始動するともとにもどります。

●長期間にわたって駐車する場合、気温の変化により車高がかわる場合があります。長期間駐車するときは、車高がかわった際に車体に接触するものがないか確認してください。なお、車高はエンジンを始動するともとにもどります。

■プロペラシャフトの音

坂道での車高調整や、駐停車中にシフトレバーが P または N 以外で車高調整した場合、プロペラシャフトの伸縮により作動音が発生することがありますが、異常ではありません。

■4-Wheel AHC が故障したときは

●4-Wheel AHC が故障した場合、N（標準）モードが自動的に選択されます。また、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示され、修理を受けるまで 4-Wheel AHC を使用することができません。

●エンジンを停止して、再始動したときに警告が表示されなければ、システムは正常です。警告が表示されたままのときは、ただちにトヨタ販売店で修理を受けてください。

⚠ 警告

■車高モードの切り替え時の警告

車高を下げる前に車の下やまわりに人がいないこと、障害物がないことを確認してください。お守りいただかないと、車両に体が挟まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■HI（ハイ）モードについて

このモードはオフロードなど悪路を走行するときのみ使用してください。重心が高くなるため、ハンドル・ブレーキ・アクセルなどを慎重に操作してください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ジャッキアップ時やタイヤチェーンを取り付けるときは

車高制御を停止させてエンジンを停止してください。お守りいただかないと、オートレベリング機能により車高がかわり車両に体が挟まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■渡河走行するときは

車高を HI（ハイ）モードに切り替えてから車高制御を停止させ、30km/h 以下で走行してください。お守りいただかないと、オートレベリング機能により車高がかわり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■他車にけん引してもらうときは

4 輪接地でかつエンジンがかかっている状態で他車にけん引してもらうときは、車高を N（標準）モードにしてから車高制御を停止させてください。お守りいただかないと、オートレベリング機能により車高がかわり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■脱輪したときは

車高制御を停止させてください。お守りいただかないと、オートレベリング機能により車高がかわり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ルーフラックに荷物を積んでいるときは

HI（ハイ）モードに切り替えないでください。重心が高くなるため、急施回時など不安定となり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
また、RSCA システム（→ P. 46）の誤作動につながるおそれがあります。
トヨタ純正アルミラックを装着している場合は、付属の取扱書をご覧ください。

⚠ 注意

■高さ制限のある場所に駐車するときは

乗員が降りたときや積荷を降ろしたときは、通常より車高が高めになりますので、高さ制限のある場所では注意してください。

■車高モードの切り替え時の注意

- LO（ロー）モードにしても、車が発進すると自動的に N（標準）モードになるため、高さ制限のある場所では注意してください。
- 凹凸のある路面では、LO（ロー）モードにしないでください。車が路面に接触し、損傷するおそれがあります。
- 車高の切り替えをひんぱんにおこなうと、ポンプが損傷するおそれがあります。車高を連続して切り替えるときは、数秒間待ってから次の切り替えをおこなってください。

フルタイム 4WD

トランスファースイッチおよびセンターデフロックスイッチを操作して駆動系の作動状態を切り替えます。

トランスファースイッチ

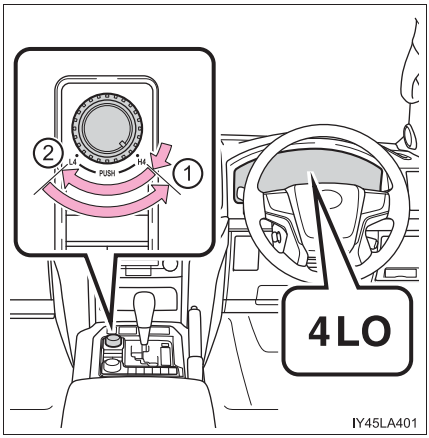
① H4（ハイレンジ）

一般走行に適しています。通常はこの位置で使用します。

② L4（ローレンジ）

悪路・氷雪路・砂地・泥地など、とくに大きな駆動力を必要とする走行時に適しています。

L4 作動表示灯が点灯します。

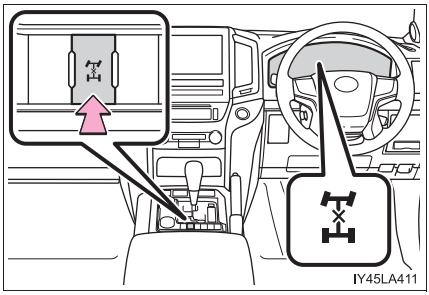


センターデフロックスイッチ

ぬかるみなどでスタック（立ち往生）した場合の脱出時や急な降坂路の走行など、大きな駆動力を必要とする走行時に使用します。

センターデフロック状態になると、センターデフロック作動表示灯が点灯します。

もう一度押すと、センターデフロック状態が解除されます。



トランスファーレンジの切り替え

■ H4 から L4 へ切り替え

1 車両を完全に停車させる

2 シフトレバーを N にする

3 トランスファースイッチを押しながら右（L4）へまわす

L4 に切り替わると L4 作動表示灯が点灯します。点灯するまで他の操作をしないでください。

■ L4 から H4 へ切り替え

1 車両を完全に停車させる

2 シフトレバーを N にする

3 トランスファースイッチを左（H4）へまわす

H4 に切り替わると L4 作動表示灯が消灯します。消灯するまで他の操作をしないでください。

知識

■ トランスファースイッチの使用条件

- エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき
- シフトレバーが N にあるとき
- 車両が完全に停車しているとき

■ L4 作動表示灯について

H4 と L4 の切り替え作動中は、表示灯が点滅します。

■ すべりやすい路面を走行するときは

- 険しいオフロードを走行する場合、トランスファースイッチを L4、シフトレバーを S モードの 2 レンジにすることで、アクティブ TRC のブレーキ制御をより効果的に活用できます。
- スタック（立ち往生）した場合の脱出時や急な降坂路の走行など、最大の駆動力やエンジンブレーキを必要とする場合にはシフトレバーを S モードの 1 レンジにします。

■センターデフロックスイッチの使用条件

●エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

●車両の速度が 100km/h 以下のとき

■センターデフロック作動表示灯について

センターデフの切り替え作動中は、表示灯が点滅します。

■センターデフロックについて

●L4 でセンターデフロック状態にした場合、VSC OFF 表示灯が点灯し、VSC は作動しません。

●センターデフロックスイッチを操作後、表示灯が点滅したままのときや、センターデフロックを解除しても表示灯が消灯しないときは、周囲の安全を確認して、加減速または後退をしてください。

●センターデフロック状態での急旋回は避けてください。急旋回した場合、前・後輪の回転差によりブレーキをかけた状態と同じような現象を起こし、運転しにくくなります。

■フルタイム 4WD の取り扱い

●4WD 車といっても万能車ではありません。アクセル・ハンドル・ブレーキの操作は一般の車と同じく慎重におこない、常に安全運転を心がけてください。

●スタック（立ち往生）したら、タイヤの下に石や木などをあてがい脱出するか、前進・後退を繰り返し慣性を利用して脱出します。また、ぬかるみがひどいときはタイヤチェーンを利用するのも効果的です。

●急坂路を登るときは、登る前にあらかじめ路面の状態を確かめ、凹凸の少ないところを選びます。登りはじめと終わりはなだらかな斜面を選びます。

●急坂路を降りるときは、降りる前にあらかじめ路面の状態を確かめ、斜度にあった変速ギヤを選びます。降りる途中での変速は避けてください。

■L4 作動表示灯もしくはセンターデフロック作動表示灯が点滅したときは

●トランスファーレンジ切り替え時にL4作動表示灯が点滅し続けたときは、車両を完全に停車しシフトレバーがNに入っていることを確認してから、もう一度トランスファースイッチを操作し直してください。

●トランスファースイッチを操作した際、L4作動表示灯が点灯または消灯する前にシフトレバーを操作すると、トランスファーの切り替えが完了せず、シフトポジションに関係なく駆動軸が拘束されません。（表示灯が点滅し、ブザーが鳴ります）

この場合、シフトレバーを P に入れても車両が動くおそれがあり危険です。必ず、トランスファーの切り替えを完了させてください。

切り替えを完了させるためには、車両を完全に停車しシフトレバーをNにして、切り替えが完了したこと（表示灯が点灯または消灯したこと）を確認してください。

●エンジンが極端に冷えているときは、トランスファーレンジが切り替わらないことがあります。エンジンが暖まってから、もう一度トランスファースイッチを操作してください。

以上を実施しても、L4 作動表示灯もしくはセンターデフロック作動表示灯が点滅し続けたときは、エンジン・ブレーキ系統もしくはトランスファーの異常のおそれがあります。この場合、トランスファーレンジやセンターデフの切り替えはできません。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■渡河について

●4WD 車といえども水中走行に対しては万全ではありません。やむを得ず渡河する場合は次の事項を厳守してください。

・水中走行する前にあらかじめ河川の深さ・地形などを確かめてください
・河川進入時は最徐行（5km/h 以下）してください
・河川に対し、直角または下流方向へ横断してください
・渡河途中での変速操作は避け、一気に渡りきってください

●渡河など水中走行したときは、次の項目を必ず点検し、メンテナンスをおこなってください。

・ブレーキの効き具合
・エンジン・トランスミッション・トランスファー・ディファレンシャルなどのオイル量および質の変化（白濁している場合、水が混入していますのでオイルの交換が必要です）
・プロペラシャフト・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

⚠ 警告

■走行中の警告

必ず以下のことをお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●脱輪などにより、いずれかの車輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください

●車両旋回中や車輪空転中は、トランスファースイッチ操作およびセンターデフロックスイッチ操作をおこなわないでください

●タイヤが空転中に急激なブレーキ操作をしないでください

⚠ 注意

■センターディファレンシャルの損傷を防ぐために

乾燥した舗装路面では、必ずセンターデフロックスイッチを OFF にして走行してください。また、高速道路ではトランスファースイッチを H4 で走行してください。

クロールコントロール（ターンアシスト機能付き）

アクセルペダルやブレーキペダルを踏まなくても、凹凸の大きなオフロードを一定の低速度で走行でき、すべりやすい路面でのスリップや車輪の空転を最小限に抑え、安定して走行できます。

クロールコントロールスイッチ

① ON／OFF スイッチ

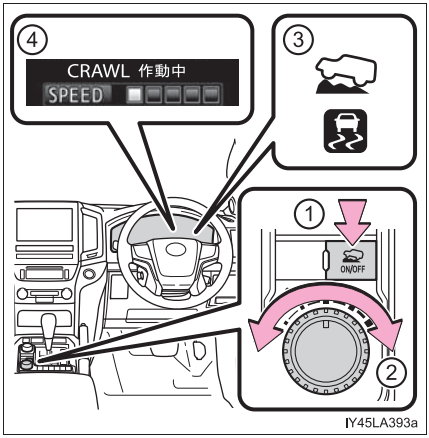
② 速度切り替えスイッチ

③ 表示灯

作動中はクロールコントロール作動表示灯が点灯し、スリップ表示灯が点滅します。

④ マルチインフォメーションディスプレイ

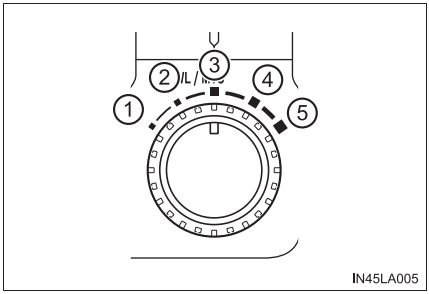
選択したモードがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。



IY45LA393a

選択可能なモード

次の5つのモードから路面状況に合わせてモードを選択することができます。



IN45LA005

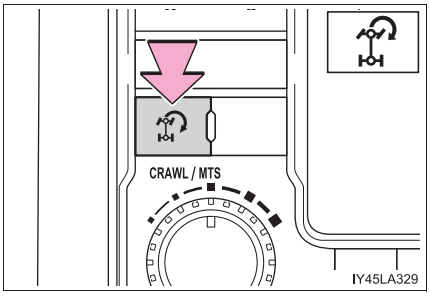
モード		路面状況
①	ロー	岩石路や下り坂を走行するときなどに適しています。
②	ロー - ミディアム	モーグル路の登り坂を走行するときなどに適しています。
③	ミディアム	モーグル路・ガレキ路の登り坂、雪・泥・ぬかるみ・砂利・草地などの上を走行するときなどに適しています。
④	ミディアム - ハイ	
⑤	ハイ	

ターンアシスト機能

切り返し操作なしでは通過困難なタイトコーナーを走行するときに、一定の低速度を維持しながら、運転者のハンドル操作に応じて回頭性を向上させる制御を実施し、切り返し操作回数を低減します。

クロールコントロール作動中にターンアシストスイッチを押す

ターンアシスト表示灯が点灯します。
OFF にするには再度スイッチを押します



クロールコントロール＆ターンアシスト機能を解除するときは

▶ クロールコントロール

クロールコントロール作動中に ON ／ OFF スイッチを押します。スイッチを OFF にすると、スリップ表示灯とターンアシスト表示灯（ターンアシスト機能使用時のみ）が消灯し、機能が完全に解除されるまでクロールコントロール作動表示灯が点滅し、マルチインフォメーションディスプレイにクロールコントロールが解除されたことを示すメッセージが数秒間表示されます。
走行中にクロールコントロールを解除するときは、クロールコントロール作動表示灯が消灯する前に停車するか、とくに慎重に運転してください。

▶ ターンアシスト機能

ターンアシスト機能作動中にターンアシストスイッチを押します。スイッチを押すとターンアシスト表示灯が消灯し、マルチインフォメーションディスプレイにターンアシスト機能が解除されたことを示すメッセージが数秒間表示されます。

知識

■作動条件

▶クロールコントロール

●エンジンが回転しているとき

●シフトレバーが P、N 以外にあるとき

●トランスファースイッチが L4 にあるとき

●運転席ドアが閉まっているとき

▶ターンアシスト機能

●クロールコントロールが作動しているとき

●センターデフをロックしていないとき

●アクセルとブレーキ操作をしていないとき

●シフトレバーが P、R、N 以外にあるとき

●ハンドル操作角度が大きいとき

■機能の自動解除

▶クロールコントロール

次のいずれかの場合、ブザーが断続的に鳴り、クロールコントロールが自動的に解除されます。この場合、クロールコントロール表示灯が点滅後、消灯し、ターンアシスト表示灯が消灯し（ターンアシスト機能使用時のみ）、マルチインフォメーションディスプレイにクロールコントロールが解除されたことを示すメッセージが数秒間表示されます。

●シフトレバーを P または N にしたとき

●トランスファースイッチを H4 にしたとき

●運転席ドアを開けたとき

▶ターンアシスト機能

センターデフをロックしたとき、ブザーが断続的になり、ターンアシスト機能が自動的に解除されます。この場合、ターンアシスト表示灯が消灯し、マルチインフォメーションディスプレイにターンアシスト機能が解除されたことを示すメッセージが数秒間表示されます。

■機能制限

▶クロールコントロール

●以下の場合は、下り坂を一定の速度で降りるようなブレーキ制御はできますが、上り坂を一定の速度で登るエンジン制御はできません。

・走行モードにセカンドスタートモードを選択したとき
・車速が約 10km/h を超えたとき

●以下の場合は、エンジン制御・ブレーキ制御とも一時的に機能を停止します。この場合、クロールコントロール表示灯が点滅します。

・車速が約 25km/h を超えたとき

▶ターンアシスト機能

以下の場合は、ターンアシスト機能を一時的に停止します。

●車速が約 10km/h を超えたとき

●シフトレバーを R にしたとき

■長時間の使用について

●クロールコントロールを長時間連続的に使用すると、ブレーキシステムの異常過熱を招くため、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに異常を知らせる表示が出され、クロールコントロール表示灯が点滅後消灯し、クロールコントロールが一時的に作動できなくなります。この場合、速やかに安全な場所に停車して、表示が消えるまでブレーキシステムを十分に冷却してください。(この間の通常走行は可能です)

●クロールコントロールを長時間連続的に使用すると、オートマチックトランスミッションシステムの異常過熱を招くため、ブザーが鳴り機能が自動的に解除され、マルチインフォメーションディスプレイに異常を知らせる表示が出ることがあります。表示が消えるまで、安全な場所に停車してください。

■クロールコントロール作動中に、アクセルペダルを踏むと

マルチテレインセレクトが AUTO モードで作動します。(→ P. 289)

■作動音や振動について

●エンジン始動時や発進直後に、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●クロールコントロールが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

・車体やハンドルに振動を感じる
・車両停止後もモーター音が聞こえる

■システムに異常があるときは

警告灯や警告表示が点灯します。(→ P. 495, 500)

⚠ 警告

■ クロールコントロール & ターンアシスト機能をお使いになる前に

クロールコントロール & ターンアシスト機能を過信しないでください。車両の限界性能を高めるものではないので、常に路面状況をよく確認した上で、安全運転に心がけてください。

■ 正しく作動しないおそれのある状況

以下の路面を走行する場合、車両の一定速度を維持できないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 極端な急勾配
- 凹凸の激しい路面
- 積雪路などのすべりやすい路面

⚠ 注意

■ ターンアシスト機能をお使いになる前に

ターンアシスト機能は、オフロード路面での回頭性を向上させる機能です。舗装された路面では制御の効果が十分発揮できない場合があります。

マルチテレインセレクト

マルチテレインセレクトは、オフロードでの走破性を向上させるシステムです。

- クロールコントロールが OFF のとき

  あらかじめ用意された 5 つのモードの中から、走行する路面状況に適したモードを選択することで、各状況に合わせてブレーキ制御が最適化されます。

- クロールコントロールが ON のとき

  アクセルペダルを踏むことで路面状況に適したモードが自動で選択されます。(AUTO モード)

マルチテレインセレクトスイッチ／表示灯

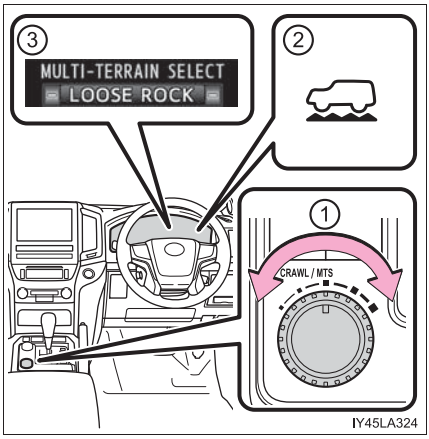
① マルチテレインセレクトモードセレクトスイッチ

② マルチテレインセレクト表示灯

作動中はマルチテレインセレクト表示灯が点灯します。

③ マルチインフォメーションディスプレイ

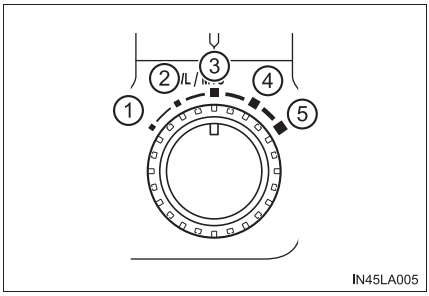
マルチテレインセレクトの作動状態や、路面選択状態などが表示されます。



選択可能なモード

クロールコントロールが OFF のときは、次の 5 つのモードから路面状況に合わせてモードを選択することができます。

① MUD & SAND
② LOOSE ROCK
③ MOGUL
④ ROCK & DIRT
⑤ ROCK



	モード	路面状況
①	MUD & SAND	泥濘路・砂地路・深雪路・ダート路などのすべりやすい状況やダート路に適しています。
②	LOOSE ROCK	土と動きやすい石が混じった、すべりやすい状況に適しています。
③	MOGUL	モーグル路など路面の凹凸の激しい状況に適しています。
④	ROCK & DIRT	モーグル路や岩石路など路面の凹凸の激しい状況に適しています。
⑤	ROCK	岩石路の走行に適しています。

クロールコントロールが ON のときは、クロールコントロールで選択しているモードに応じて、最も適したマルチテレインセレクトのモードが自動で選択されます。

制御の開始条件

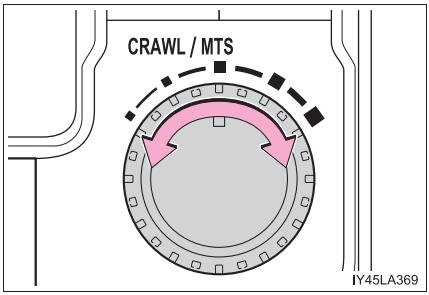
以下の条件をすべて満たしたとき、マルチテレインセレクト表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにモード選択画面が表示され、マルチテレインセレクトの制御を開始します。

- トランスファースイッチが L4 にあるとき
- アクティブ TRC と VSC を OFF にしていないとき

モードの切りかえ方（クロールコントロールが OFF のとき）

マルチテレインセレクト制御中にマルチテレインセレクトモードセレクトスイッチを操作してモードを選択する

モードが確定すると、モード名が表示され制御が切りかわります。



知識

■機能の自動解除

次のいずれかの場合、マルチテレインセレクト表示灯が消灯し、マルチテレインセレクトが自動的に解除されます。

- トランスファースイッチを H4 にしたとき
- アクティブ TRC と VSC を OFF にしたとき

■トラクションが発生しにくいときは

タイヤのスリップ量は「ROCK」→「ROCK & DIRT」→「MOGUL」→「LOOSE ROCK」→「MUD & SAND」の順に大きくなるため、スリップが大きいときは「ROCK」側、スリップが小さいときは「MUD & SAND」側のモードへ切りかえることで走破性が向上します。

■スタックしたときは

トランスファースイッチと 4WD システムを切りかえてください。
切りかえについては、以下のページを参照してください。

- フルタイム 4WD（→ P. 284）
- センターデフロック（→ P. 284）

■長時間の作動について

ブレーキシステムが異常過熱するおそれがあるため、ブザーが鳴り、TRC OFF 表示灯が点滅し、マルチテレインセレクトが一時的に作動出来なくなります。この場合、速やかに安全な場所に停車して、表示が消えるまでブレーキシステムを十分に冷却してください。
（この間の通常走行は可能です）
しばらくして、TRC OFF 表示灯が消えれば、マルチテレインセレクトが作動可能となります。

■マルチテレインセレクトが正常に作動しないときは

スリップ表示灯が点灯します。その場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

■マルチテレインセレクトを使用するときは

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車両が損傷したり、乗員が重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- モードの選択は、勾配・すべり度合い・起伏などの状況によっては、必ずしも最適でない場合があります。(→ P. 296)
- マルチテレインセレクトは車両の限界を高める装置ではありません。路面状況をよく確認した上で、安全に注意して走行してください。

⚠ 注意

■使用上の注意

マルチテレインセレクトは、オフロード走行時のみ使用してください。

マルチテレインモニター★

マルチテレインモニターは、車両周辺の状況確認を補助するシステムです。オフロード走行時の状況把握や車庫入れ時の障害物の確認など、幅広い場面で運転者の状況判断を支援します。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- マルチテレインモニターを過信しないでください。
  一般の車と同様、必ず後方・周囲の安全を直接確認しながら、慎重に運転してください。特に、周辺に駐車している車や障害物などに接触しないように注意してください。
- カメラのレンズの特性により、マルチテレインモニター画面に映る人や障害物などは、実際の位置・距離と異なります。必ず周囲の安全を直接確認した上で運転してください。
- 画面だけを見ながらの走行は絶対にしないでください。
  走行時は、必ず目視やミラーなどにより周囲の安全を直接確認してください。
- 外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像が薄れたりすることがあります。特に動いているものの映像がゆがむ、または画面から見えなくなることがあるため、必ず周囲の安全を直接目で確認しながら運転してください。

マルチテレインモニターで表示できる画面

走行状況に応じて、次の各画面表示を選択できます。

・現在のシフトポジションや車速などの条件により、選択できる画面は異なります。（→ P. 304）

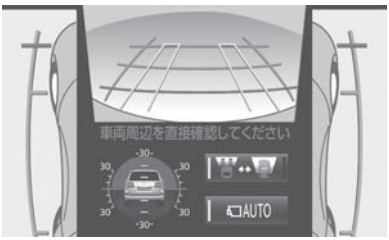
・表示する画面によっては、通常表示からワイドビュー表示への切りかえが可能です。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ トランスファーレンジがL4のとき

● 車両前方・側方を確認するとき

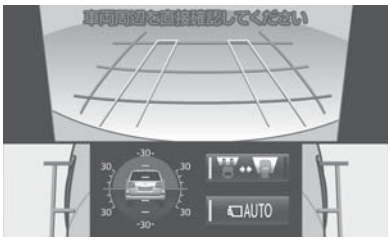
▶ フロントビュー＆両サイドビュー



IN45LA066

→P. 310

▶ フロントビュー＆両サイドビュー（前方拡大時）



IN45LA067

→P. 310

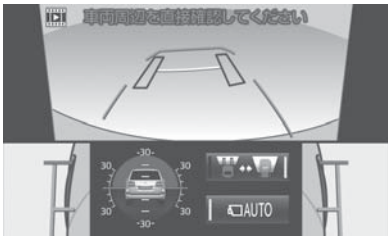
● フロア下の路面状況を確認するとき

▶ アンダーフロアビュー＆両サイドビュー

IN45LA068

→P. 314

▶ アンダーフロアビュー＆両サイドビュー（前方拡大時）

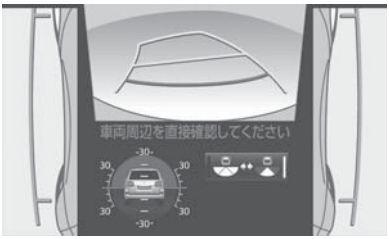


IN45LA069

→P. 314

● 車両後方を確認するとき

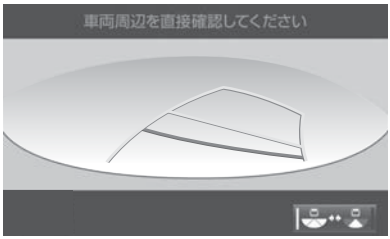
▶ バックビュー&両サイドビュー



IN45LA070

→ P. 316

▶ ワイドバックビュー



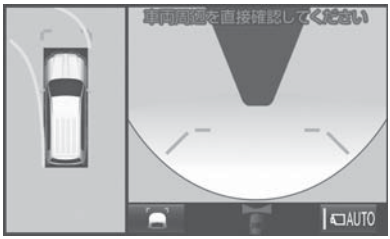
IY45LA062a

→ P. 316

■ **トランスファーレンジが H4 のとき**

● 車両前方を確認するとき（パノラミックビュー&ワイドフロントビュー）

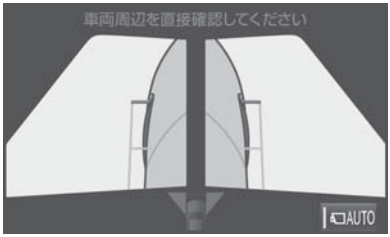
→ P. 318



IN45LA059

● 車両側方を確認するとき（両サイドビュー）

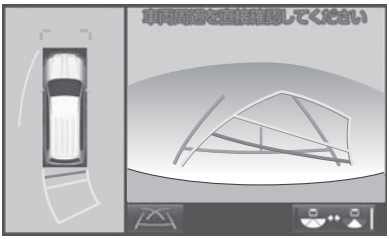
→ P. 320



IN45LA060

● 車両後方を確認するとき

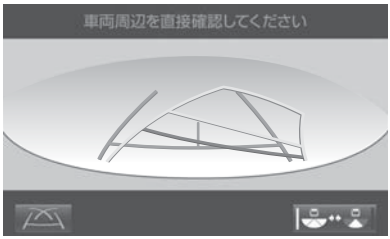
▶ パノラミックビュー＆バックビュー



IN45LA061

→ P. 323

▶ ワイドバックビュー



IN45LA062

→ P. 323

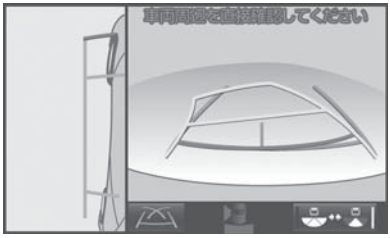
● 車両の側方 / 前方 / 後方を確認したいとき（ドアミラー格納時）

▶ サイドビュー＆ワイドフロントビュー

IN45LA063

→ P. 327

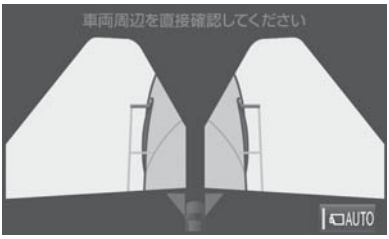
▶ サイドビュー＆バックビュー



IN45LA064

→ P. 327

▶ 両サイドビュー



IN45LA065

→ P. 327

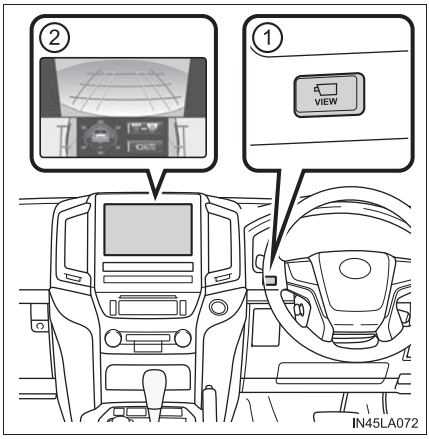
マルチテレインモニター画面の操作

■ マルチテレインモニター画面を表示させるには

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのときにカメラスイッチを押すと、マルチテレインモニター画面がディスプレイに表示されます。

一定の車速を上まわっているときは、一定時間が経過すると、ナビゲーション画面、または情報表示画面にもどります。
マルチテレインモニター画面が表示される時間は、現在の車速等の条件によりかわります。(→ P. 309)

① カメラスイッチ
② ディスプレイ



■ スイッチの操作について

いくつかの画面では、スイッチ操作により表示モードの切りかえや表示設定などの操作が行えます。

● 自動表示モード設定スイッチ

自動表示モードを ON にすると、カメラスイッチを操作しなくても、次の状況で自動的にマルチテレインモニター画面が表示されます。

・シフトポジションを D または N にしたとき
・走行中、車速が約 10km/h 以下になったとき（シフトポジションが R のときを除く）

AUTO を選択するたびに、自動表示モードの ON/OFF が切りかわります。

自動表示モードが ON のときは、アイコン上にインジケーターが点灯します。

自動表示モードが ON のときでも、カメラスイッチによる切りかえ操作は可能です。

● 表示切りかえスイッチ

次の各スイッチを押すことで、マルチテレインモニターに表示する画面を切りかえたり、標準ビューからワイドビュー表示に切りかえたりできます。

スイッチ		スイッチの機能
カメラスイッチ		画面表示を切りかえる（→ P. 304）
画角モード切りかえスイッチ		バックビュー表示とワイドバックビュー表示を切りかえる（→ P. 316, 323）
アンダーフロアビュー切りかえスイッチ		フロントビュー表示とアンダーフロアビュー表示を切りかえる（→ P. 310, 314）

マルチテレインモニターの画面遷移

マルチテレインモニター画面の表示中にスイッチを操作することで、次のように画面表示を切りかえることができます。(現在のトランスファーレンジ・シフトポジションにより、表示できる画面は異なります)

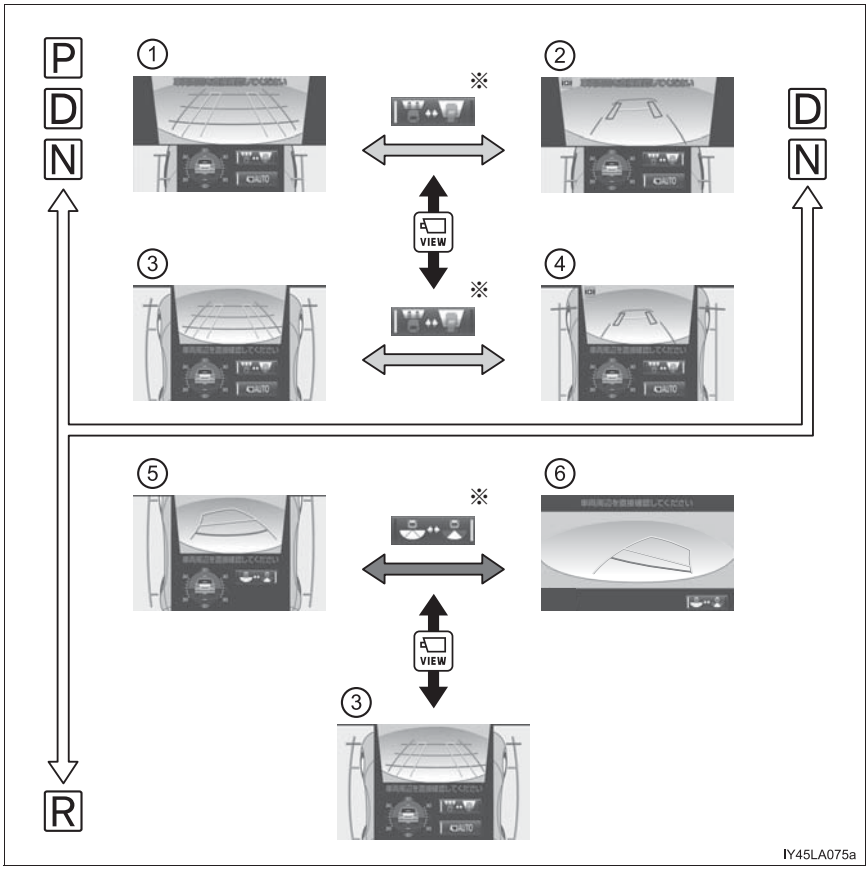
■ トランスファーレンジが L4 のとき

➡ : VIEW を押す

➡ : を選択する

⇨ : を選択する

⇨ : シフトレバーの操作



① フロントビュー＆両サイドビュー（前方拡大）：→P. 316
② アンダーフロアビュー＆両サイドビュー（前方拡大）：→P. 316
③ フロントビュー＆両サイドビュー：→P. 316
④ アンダーフロアビュー＆両サイドビュー：→P. 316
⑤ バックビュー＆両サイドビュー：→P. 316
⑥ ワイドバックビュー：→P. 316

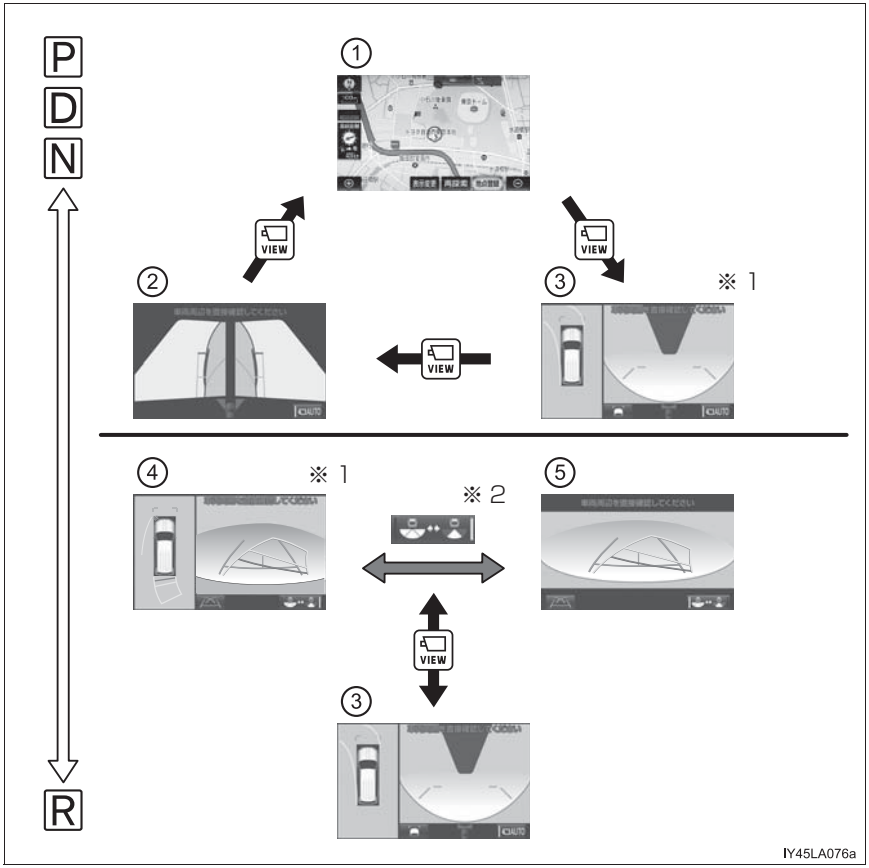
※ カメラ画像表示部に触れることでも表示を切りかえることができます。

■ トランスファーレンジが H4 のとき

➡：VIEW を押す

➡： を選択する

⇨：シフトレバーの操作



① ナビゲーション画面または情報設定画面など

② 両サイドビュー：→ P. 320

③ パノラミックビュー＆ワイドフロントビュー：→ P. 318

④ パノラミックビュー＆バックビュー：→ P. 323

⑤ ワイドバックビュー：→ P. 323

※ 1 ドアミラー格納時は表示される画面が異なります。

※ 2 カメラ画像表示部に触れることでも表示を切りかえることができます。

知識

■マルチテレインモニター画面の表示について

カメラスイッチを操作したときの車速により、マルチテレインモニター画面が表示される時間は次のようにかわります。

- 車速が約12km/h以下のときは、車速が約12km/hをこえるとマルチテレインモニターの表示が解除されます。※
- 車速が約 12km/h をこえていたときは、車速が約 12km/h 以下にならない限り、約 4 分 30 秒間マルチテレインモニター画面の表示が継続します。車速が約 12km/h 以下になったときは、ふたたび車速が約 12km/h をこえるとマルチテレインモニター画面の表示が解除されます。※

※ ただし、カメラスイッチを操作してから約 8 秒間は、車速にかかわらず表示が継続されます。

各画面表示の見方や機能などについて

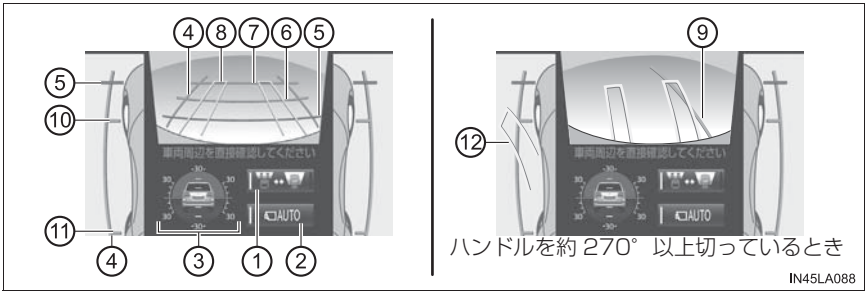
マルチテレインモニターの各画面には、前進・後退時の障害物の確認や、オフロード走行時の路面状況の把握など、さまざまな走行状況を補助する情報が表示されます。

■ フロントビュー&両サイドビュー

車両前方付近の状況確認に利用できます。

・車両前方の映像に加えて、進行方向を決定する際の目安となる、ガイド線が合成表示されます。
・表示中にカメラスイッチを押すと、通常表示から拡大表示に切りかわります。(再度スイッチを押すと、通常表示にもどります)
・ハンドルを約 270° 以上まわしているときは、右左折を補助するガイド線などが自動で表示されます。

● 画面の見方



① アンダーフロアビュー切りかえスイッチ

押すたびに、フロントビュー表示とアンダーフロアビュー表示が切りかわります。

② 自動表示モード切りかえスイッチ

→P. 305

③ 傾斜計 / スリップ表示

車両の傾き具合の目安・空転しているタイヤを表示します。(→P. 312)

④ 車幅平行線（青）

ドアミラーを含む車幅の目安を表示します。

⑤ 0.5m 距離目安線（赤）

⑥ 1.0m 距離目安線（青）

⑦ 2.0m 距離目安線（青）

⑤～⑦は、それぞれ車両前端からの距離の目安を示します。

⑧ フロントタイヤ進路線（黄）

ハンドル操作に連動して、前輪の進路の目安を示します。

⑨ 前進ガイド線（青）

最も小まわりして前進した場合の軌跡の目安を示します。

⑩ フロントタイヤ接地線（青）

⑪ リヤタイヤ接地線（青）

⑩～⑪は、それぞれ映像上におけるタイヤの位置の目安を示します。

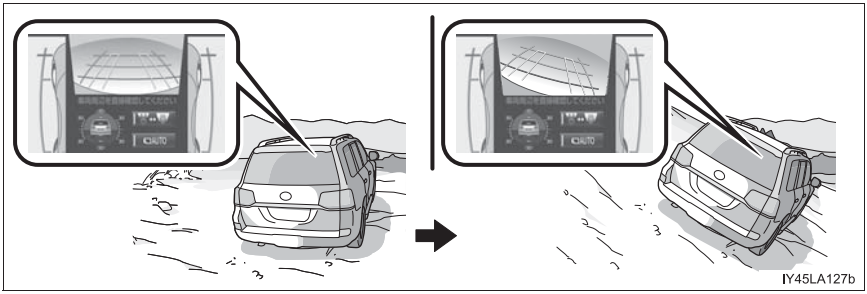
⑫ リヤタイヤ進路線（黄）

後輪の軌跡の目安を示します。

● フロントビューの回転表示機能

トランスファーレンジがL4のときに働きます。

車両の傾きに関わらず、フロントビュー画像上の地平線が水平に近くなるように自動調整され、路面形状の把握を補助します。



● 傾斜計

0°～約30°までの範囲で、車両の前後・左右のおおよその傾きを表示します。

① 前後傾斜角目盛り

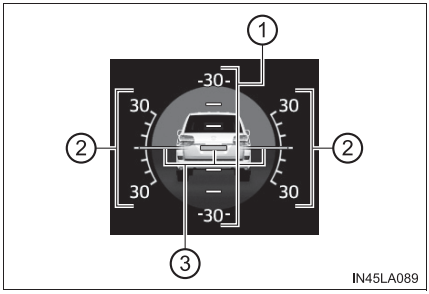
前後方向の傾きを角度で示します。

② 左右傾斜角目盛り

左右方向の傾きを角度で示します。

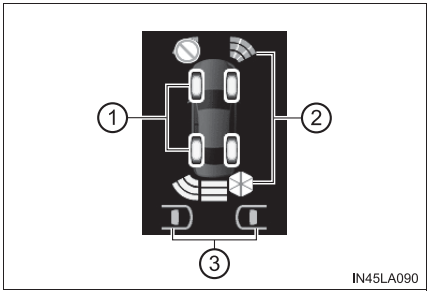
③ ポインター

水平状態に対する車両の傾き具合を示します。



● スリップ表示

タイヤのスリップを検知すると、傾斜計の表示部が自動でスリップ表示に切りかわります。



① タイヤ表示

タイヤが空転している場合は空転しているタイヤの位置が黄色で表示されます。（CRAWL 制御中は全タイヤが黄色表示になります。）

② クリアランスソナーの割り込み表示

クリアランスソナーが ON のとき、障害物を検知すると表示されます。

③ RCTA の割り込み表示

RCTA が ON のとき、車両の右後方または左後方から接近している車両を検知すると表示されます。

4 運転

知識

■フロントビュー&両サイドビュー表示について

シフトポジションが P・D・N のときに表示できます。

■フロントビューの回転表示機能について

- 映像はあくまで目安であり、画面の表示と実際の車両の傾きが異なる場合があります。
- 回転表示されているときは、フロントバンパー両端の映像が見えなくなることがあります。

■傾斜計表示について

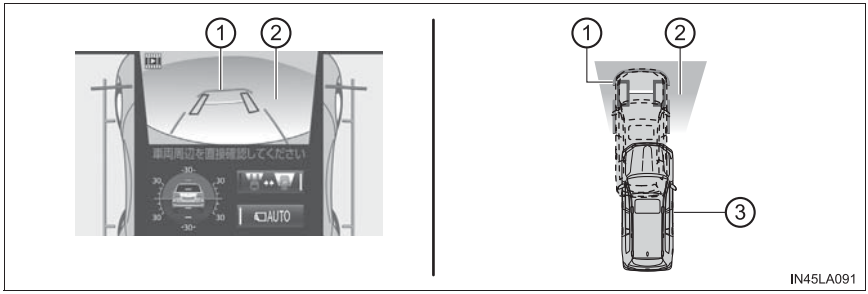
- ポインターの移動と車両イメージの回転により、車両の傾きを角度で示します。
- 現在の傾きに応じて、前後・左右傾斜角目盛りの色がかわります。
- エンジンスイッチを ON モードにしたあと、傾き角度の情報が確定するまでは、傾斜角度が表示されません。
- 傾斜計が示す角度は目安であり、他の計測装置によって計測した角度とは異なる場合があります。

■傾斜計 / スリップ表示について

クリアランスソナー・RCTA が障害物や他の車両などを検知した場合、傾斜計 / スリップ表示部に警報が割り込み表示されます。

■ アンダーフロアビュー&両サイドビュー

現在の車両位置から約 3m 手前で撮影された映像の上に、現在の車両位置・タイヤ位置を示す線が合成表示され、車両下方の状況や前輪位置の把握などを補助します。



① 現在の車両の位置

② アンダーフロアビューで表示される映像（現在より約 3m 手前で撮影された映像）

③ 撮影時の車両の位置（現在より約 3m 後方）

● アンダーフロアビューを表示するには

フロントビュー表示中に車両を完全に停止させ、 を押します。

再度 を押すと、フロントビュー表示に戻ります。

● 画面の見方

① タイヤ位置目安線（黒）

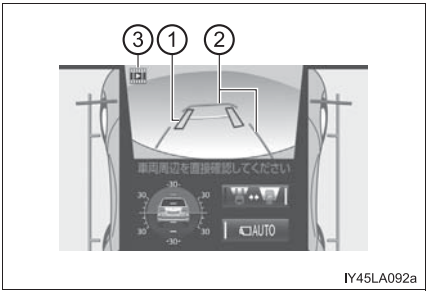
前輪の現在位置の目安を示します。

② 車両形状目安線（青）

車両の現在位置の目安を示します。

③ アイコン（点滅表示）

アンダーフロアビュー表示が過去に撮影された映像であることを示しています。



知識

■アンダーフロアビュー&両サイドビューについて

●シフトポジションが D・N のときに表示できます。

●アンダーフロアビュー表示中に車速が約 5km/h 以上になると、自動でフロントビュー表示にもどります。

●次の場合は、アンダーフロアビュー切りかえスイッチを操作できません。

・車両が完全に停止していないとき
・エンジン始動後、一定以上の距離を走行していないとき
・トランスファーを L4 に切りかえたあと、一定以上の距離を走行していないとき

●次のような状況では、システムが正常に作動しない、またはアンダーフロアビューへの切りかえができない場合があります

・積雪路
・照明がない夜道
・カメラレンズに汚れや異物などが付着しているとき
・水面（川、海など）

⚠警告

■ガイド線について

乗車人数・積載量・路面の勾配・路面状況・周囲の明るさなどにより、タイヤ位置目安線・車両形状目安線と実際の車両の位置とがずれる場合があります。必ず、周囲の安全を確認しながら運転してください。

■アンダーフロアビュー表示について

表示される映像は、約 3m 手前の時点で撮影された過去の映像です。よって、撮影後にものが動くなど、アンダーフロアビュー表示と現在の状況とが必ずしも一致しない場合があります。

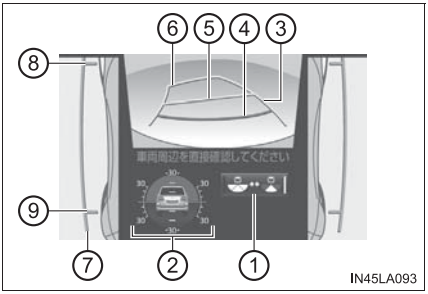
■ バックビュー&両サイドビュー／ワイドバックビュー

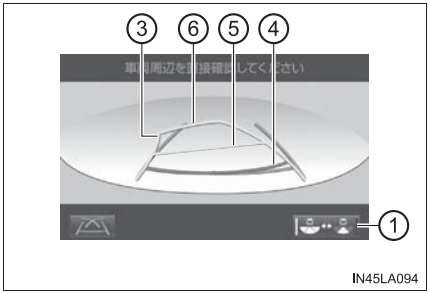
車両後方の映像に合わせて、進路を決定する際の目安となるガイド線が合成表示され、車両後方の安全確認や車庫入れ操作などを補助します。

● 画面の見方

状況に応じて、次の 2 種類の表示方法を選択できます。

▶ バックビュー&両サイドビュー表示　▶ ワイドバックビュー表示





① 画角切りかえスイッチ

押すたびに、バックビュー&サイドビュー表示とワイドバックビュー表示とが切りかわります。

② 傾斜計／スリップ表示

→P. 312

③ 予想進路線（黄）

ハンドル操作と連動して、進路の目安を示します。

④ 0.5m 距離目安線（赤）

⑤ 1.0m 距離目安線（黄）

⑥ 2.5m 距離目安線（黄）

④～⑥は、それぞれ車両後端からの距離の目安を示します。

⑦ 車幅延長線（青）

ドアミラーを含む車幅の目安を表示します。

⑧ フロントタイヤ接地線（青）

⑨ リヤタイヤ接地線（青）

⑧～⑨は、それぞれ映像上におけるタイヤの位置の目安を示します。

知識

■バックビュー&両サイドビュー／ワイドバックビューについて

●シフトポジションがRのときに表示できます

●バックビュービ&両サイドビュー表示、またはワイドバックビュー表示のときにカメラスイッチを押すと、フロントビュー&両サイドビュー表示に切りかわります。

■ガイド線について

バックドアが閉じていないと、ガイド線が表示されません。バックドアが閉まっているのにガイド線が表示されない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■クリアランスソナーの割り込み表示について

→P. 265

⚠警告

■ガイド線について

乗車人数・積載量・路面の勾配・路面状況・周囲の明るさなどにより、タイヤ位置目安線・車両形状目安線と実際の車両の位置とがずれる場合があります。必ず、周囲の安全を確認しながら運転してください。

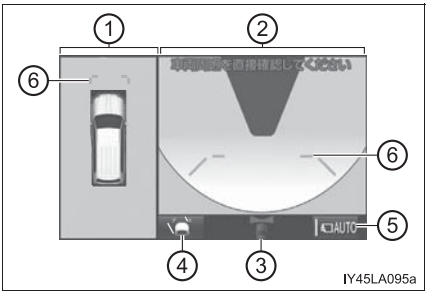
■ パノラミックビュー&ワイドフロントビュー

車両上方からのイメージと前方カメラからの映像を同時に表示します。見通しの悪い交差点やＴ字路などで、車両の前方と左右方向の状況確認を補助します。

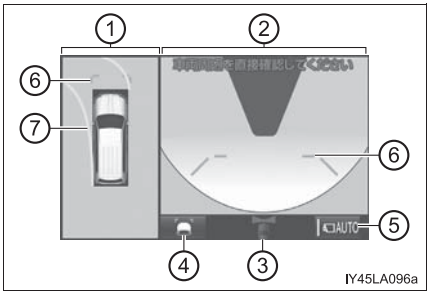
● 画面の見方

状況に応じて、次の 2 種類の表示方法を選択できます。

▶ 距離目安線表示モード



▶ 予想進路線表示モード



① パノラミックビュー

上方から車両を見たイメージを表示します

② ワイドフロントビュー

車両前方の映像を表示します

③ 表示エリア

④ ガイド線表示切りかえスイッチ

→P. 319

⑤ 自動表示モード切りかえスイッチ

→P. 305

⑥ 前方距離目安線（青）

車両前端から約 1m 先を示します。

⑦ 前進予想進路線

直進状態から約 90°以上ハンドルをまわすと、自動的に表示されます。
ハンドル操作に連動して、進路の目安を示します。

● 自動表示モードの切りかえ

→ P. 305

● ガイド線表示モードの切りかえ

ガイド線表示切りかえスイッチを押すたびにモードが切りかわり、スイッチの表示がかわります。

選択したモード	距離目安線表示モード	予想進路線表示モード
スイッチの表示		

知識

■パノラミックビュー&ワイドフロントビューについて

シフトポジションがP・D・Nのときに表示できます。

■クリアランスソナーの割り込み表示について

→ P. 265

警告

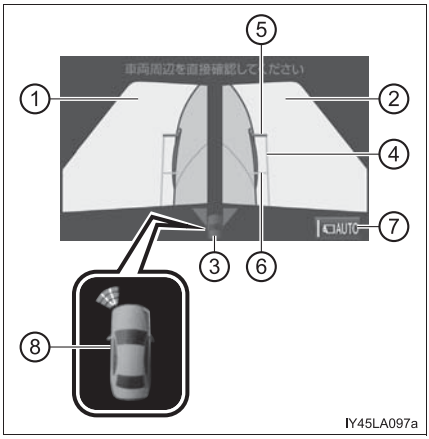
■ガイド線について

乗車人数・積載量・路面の勾配・路面状況・周囲の明るさなどにより、タイヤ位置目安線・車両形状目安線と実際の車両の位置とがずれる場合があります。必ず、周囲の安全を確認しながら運転してください。

■ 両サイドビュー

車両の左右に設置されたカメラからの映像を表示し、車両側方の状況把握や狭い道での安全確認などを補助します。

● 画面の見方



① サイドビュー（左前側方）

② サイドビュー（右前側方）

③ 表示エリア

④ 車幅平行線（青）

ドアミラーを含む車幅の目安を表示します。

⑤ 前方距離目安線（赤）

車両前端から約 0.5m 先を示します。

⑥ フロントタイヤ接地線（青）

映像上における前輪の位置の目安を示します。

⑦ 自動表示モード切りかえスイッチ

→ P. 305

⑧ クリアランスソナー

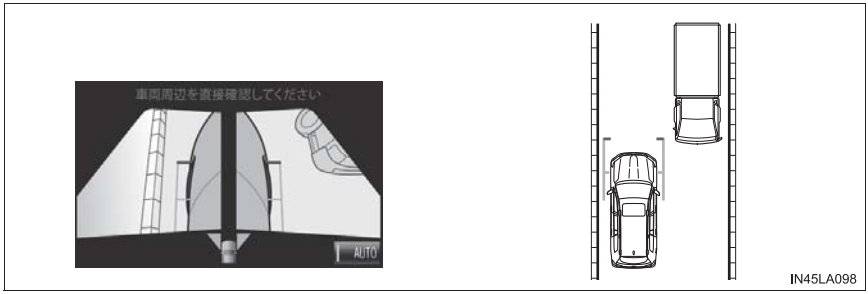
クリアランスソナーが On のとき、障害物の検知に従ってアイコンが割り込み表示されます。（クリアランスソナーについては、P. 265 を参照してください）

● 車幅平行線の使い方

車幅平行線と障害物との位置関係を確認できます。

例 1：前方に障害物があるとき

車幅平行線が障害物と重ならないようにハンドルを操作してください。



例 2：路肩に沿って駐停車したいとき

車幅平行線が縁石などと重ならないように、車両を路肩に寄せます。

路肩からの間隔を決めたあと、車幅平行線と縁石などが平行になるように運転操作すれば、傾きなく駐停車できます。

知識

■両サイドビューについて

- シフトポジションがP・D・Nのときに表示できます。
- ドアミラーを格納しているときは、表示される領域（画面上で黒くマスクされていない映像領域）がかわります。（→P. 327）

■クリアランスソナーの割り込み表示について

→P. 265

警告

■ガイド線について

乗車人数・積載量・路面の勾配・路面状況・周囲の明るさなどにより、タイヤ位置目安線・車両形状目安線と実際の車両の位置とがずれる場合があります。必ず、周囲の安全を確認しながら運転してください。

■ パノラミックビュー&バックビュー／ワイドバックビュー

・パノラミックビュー&バックビュー：

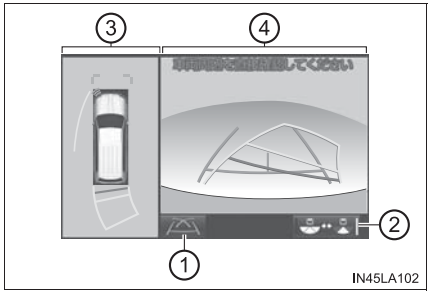
上方から車両を見たイメージと後方カメラからの映像を表示し、駐車時の安全確認を補助します。

・ワイドバックビュー：

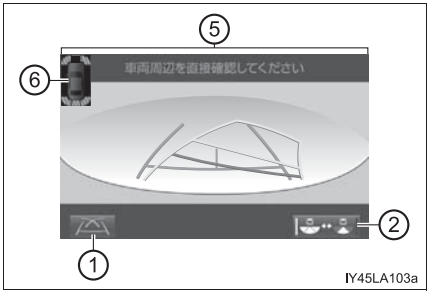
後方カメラからの映像を約 180° の範囲で表示し、後退時の安全確認を補助します。

● 画面の見方

▶ パノラミックビュー



▶ ワイドバックビュー



① ガイド線切りかえスイッチ

→ P. 324

② 画角モード切りかえスイッチ

押すたびに、パノラミックビュー&バックビューとワイドバックビュー表示とが切りかわります。

③ パノラミックビュー

④ バックビュー

表示をタッチすると、ワイドバックビュー表示に切りかわります。

⑤ ワイドバックビュー

表示をタッチすると、パノラミックビュー&バックビュー表示に切りかわります。

⑥ クリアランスソナー

クリアランスソナーが On のとき、障害物の検知に従ってアイコンが割り込み表示されます。(クリアランスソナーについては、P. 265 を参照してください)

● モードの切りかえ

ガイド線表示切りかえスイッチを押すごとに表示モードが切りかわり、併せてアイコンの表示がかわります。

選択したモード	予想進路線表示モード	駐車ガイド線表示モード	距離目安線表示モード
アイコンの表示			

・距離目安線表示モード：

距離目安線のみ表示されるモードです。
ガイド線が不要な場合にご利用ください。

・予想進路線表示モード：

ハンドル操作に連動した予想進路線などが表示されます。

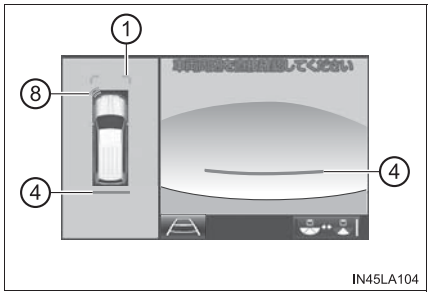
・駐車ガイド線表示モード：

ハンドルの切り返し点（駐車ガイド線）が表示されます。
車両感覚に慣れた方（進路線表示を必要とせずに駐車できる方）はご使用ください。

● ガイド線の見方

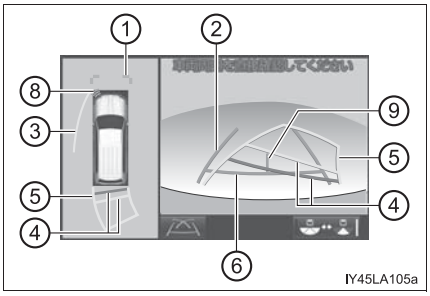
ここでは、パノラミックビュー&バックビュー画面を例にして説明しています。

▶ 距離目安線表示モード



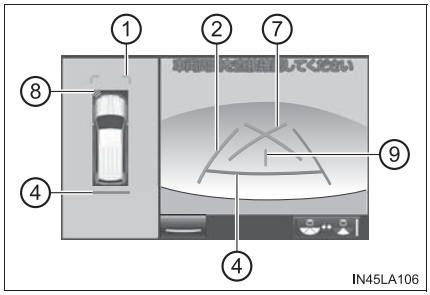
IN45LA104

▶ 予想進路線表示モード



IY45LA105a

▶ 駐車ガイド線表示モード



① 前方距離目安線（青）

車両前端から約 1.0m 先を示します。

② 後方車幅延長線

車両をまっすぐ後退させたときの進路の目安を示します。
・ 実際の車幅より広く表示されます。
・ 予想進路線表示モードの場合、直進状態では予想進路線と重なります。

③ 側方予想進路線（黄）

ハンドルの角度から算出した、後退予想進路を示します。

ハンドルの方向に応じて、旋回方向外側の後退予想進路を前側に表示します。

④ 後方距離目安線

リヤバンパー後端（中心位置）からの距離の目安を示します。（赤線：約 0.5 先・黄線：約 1m 先）

予想進路線表示モードでは、ハンドル操作に連動します。

⑤ 後方予想進路（黄）

ハンドル操作と連動して、進路の目安を示します。

⑥ 後方距離目安線（青）

リヤバンパー後端（中心位置）から約 0.5m 先を示します

⑦ 駐車ガイド線（青）

最も小まわりで後退した場合の進路の目安を示します。

⑧ クリアランスソナー

クリアランスソナーが On のとき、障害物の検知に従ってアイコンが割り込み表示されます。（クリアランスソナーについては、P. 265 を参照してください）

⑨ 車両中央線（青）

車両中央の目安を示します。

● 駐車のしかた

詳細については別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。

知識

■パノラミックビュー&バックビュー／ワイドバックビューについて

●シフトポジションがRのときに表示できます

●パノラミックビュー&バックビュー表示、またはワイドバックビュー表示のときにカメラスイッチを押すと、パノラミックビュー&ワイドフロントビュー表示に切りかわります。

■ガイド線について

バックドアが閉じていないと、ガイド線が表示されません。バックドアが閉まっているのにガイド線が表示されない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■クリアランスソナーの割り込み表示について

→P. 265

⚠警告

■ガイド線について

乗車人数・積載量・路面の勾配・路面状況・周囲の明るさなどにより、タイヤ位置目安線・車両形状目安線と実際の車両の位置とがずれる場合があります。必ず、周囲の安全を確認しながら運転してください。

■ご使用時の注意

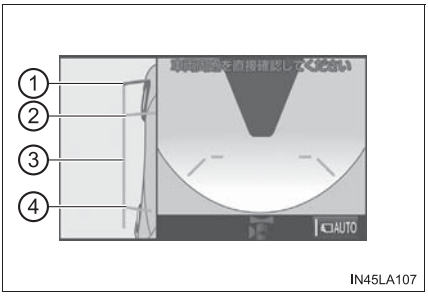
後方車幅延長線は、実際の車幅より広く表示されます。後退するときは、必ず後方や周囲の状況を直接確認しながら運転してください。

■ ドアミラー格納時の表示（サイドビュー・両サイドビュー）

ドアミラー格納時は次のいずれかの画面が表示され、車両周辺の安全確認や幅寄せ駐車操作などを補助します。

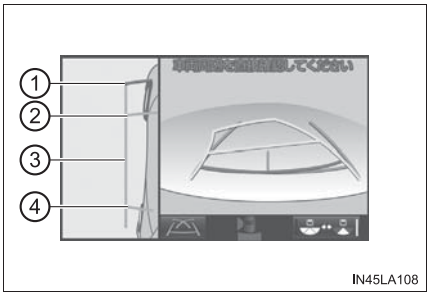
● 画面の見方

▶ ワイドフロントビュー表示のとき



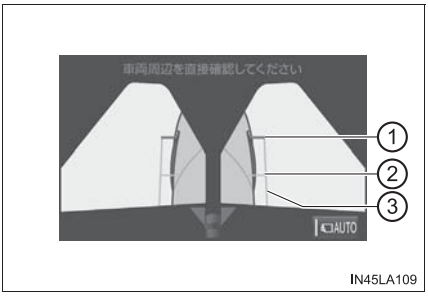
IN45LA107

▶ バックビュー表示のとき



IN45LA108

▶ 両サイドビュー表示のとき



IN45LA109

サイドビュー・両サイドビュー表示部以外の表示内容については、各画面の説明ページを参照してください。

① 前方距離目安線（赤）

車両前端から約 0.5m 先を示します。

② フロントタイヤ接地線（青）

映像上における前輪の位置の目安を示します。

③ 車幅平行線（青）

ドアミラーを含む車幅の目安を表示します。

④ リヤタイヤ接地線（青）

映像上における後輪の位置の目安を示します。

● 車幅平行線の使い方

車幅平行線と障害物との位置関係を確認できます。

・車幅平行線が縁石などと重ならないように、車両を路肩に寄せます。

・路肩からの間隔を決めたあと、車幅平行線と縁石などが平行になるように運転操作すれば、傾きなく駐停車できます。

知識

■ クリアランスソナーの割り込み表示について

→ P. 265

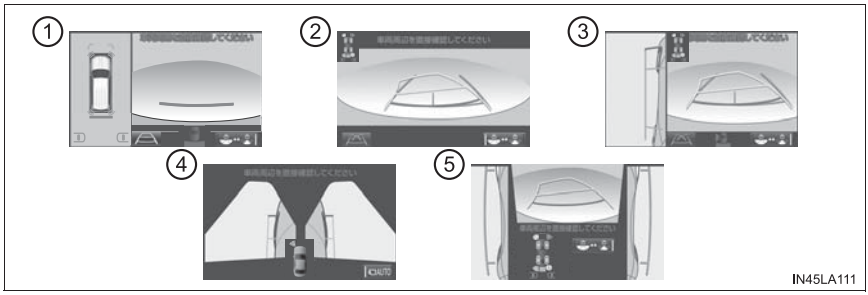
警告

■ ガイド線について

乗車人数・積載量・路面の勾配・路面状況・周囲の明るさなどにより、タイヤ位置目安線・車両形状目安線と実際の車両の位置とがずれる場合があります。必ず、周囲の安全を確認しながら運転してください。

■ クリアランスソナー・RCTA 協調表示

クリアランスソナー（→P. 347）・ブラインドスポットモニター（→P. 265）がそれぞれ ON のとき、障害物を検知すると、アイコンの割り込み表示で警報します。



① パノラミックビューでの割り込み表示例

② ワイドバックビューでの割り込み表示例

③ サイドビュー（ミラー格納時）での割り込み表示例

④ 両サイドビュー表示での割り込み表示例

⑤ フロントビュー＆両サイドビュー／アンダーフロアビュー＆両サイドビュー／バックビュー＆両サイドビューでの割り込み表示例

知識

■ クリアランスソナーの割り込み表示について

クリアランスソナーの使用中は、障害物の検知に従って割り込み表示（→P. 265）がされますが、あくまで障害物の接近を知らせる機能であり、検知した障害物が画面上には表示される訳ではありません。必ず目視で安全を確認してください。

ご使用上の注意

マルチテレインモニターを使用するときは、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、運転操作時は必ず後方・周囲の安全を直接確認してください。

⚠ 警告

■マルチテレインモニターを使用してはいけないとき

次のような状況では、マルチテレインモニターを使用しないでください。使用すると、システムが正常に働かず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- ●凍結路や雪道など、またはすべりやすい路面
- ●タイヤチェーン・応急用タイヤを使用しているとき
- ●フロントドア・バックドアが完全に閉まっていないとき
- ●坂道など平坦でない道路
- ●指定以外のタイヤやサスペンション部品などが装着されているとき
  タイヤを交換すると、画面に表示されるガイド線の示す位置に誤差が生じることがあります。

■ガイド線について

乗車人数・積載量・路面の勾配・路面状況・周囲の明るさなどにより、タイヤ位置目安線・車両形状目安線と実際の車両の位置とがずれる場合があります。必ず、周囲の安全を確認しながら運転してください。

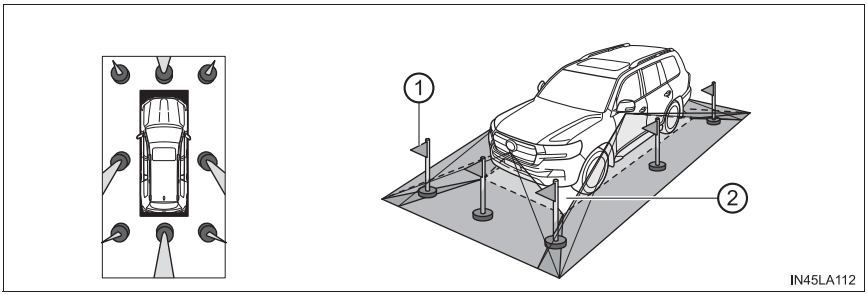
⚠ 注意

■パノラミックビューについて

- パノラミックビューは、フロントカメラとバックカメラ、左右サイドカメラが撮影した映像を合成処理した映像です。表示可能な範囲や表示内容には限界があるため、特性を十分理解した上で使用してください。
- パノラミックビューの四隅には、それぞれのカメラの映像境界位置を中心に映像合成処理領域が存在し、映像の鮮明度が低下することがありますが、故障ではありません。
- それぞれのカメラ付近の照度条件により、パノラミックビューに明暗ができる場合があります。
- パノラミックビューでは、各カメラの取り付け位置や撮像範囲より上部は表示されません。
- 車両付近には死角があり、パノラミックビューモニターには表示されない領域があります。
- ワイドフロントビューまたはバックビューに表示されている立体物が、パノラミックビューでは表示されない場合があります。
- パノラミックビューは、人物や障害物などの立体物が実際と異なって表示される場合があります。（倒れているように表示される場合や、映像合成処理領域付近で消えてしまう場合、映像合成処理領域付近から現れるように表示される場合、表示位置の距離感が実際と異なるなど）
- バックドア・フロントドアが開いていると、パノラミックビューは正しく表示されません。
- パノラミックビューに表示される車両アイコンは、コンピューターグラフィックスによる画像であり、実際の車両とは色や形状、大きさなどが異なります。そのため、車両付近の立体物が車両と接触しているように見える場合や、立体物との位置関係が実際と異なる場合があります。

■ **画面に映る範囲**

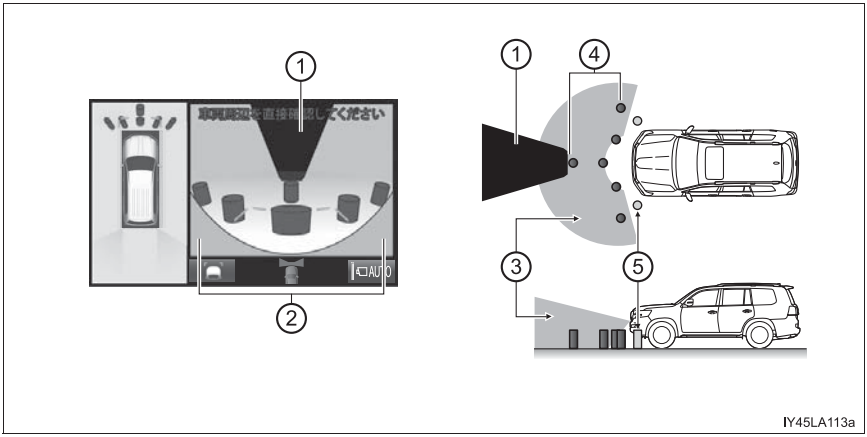
● パノラミックビュー



① 表示されません。

② 表示されません。（車両アイコンのまわりに黒色で示されている部分）

● ワイドフロントビュー



① マスキング

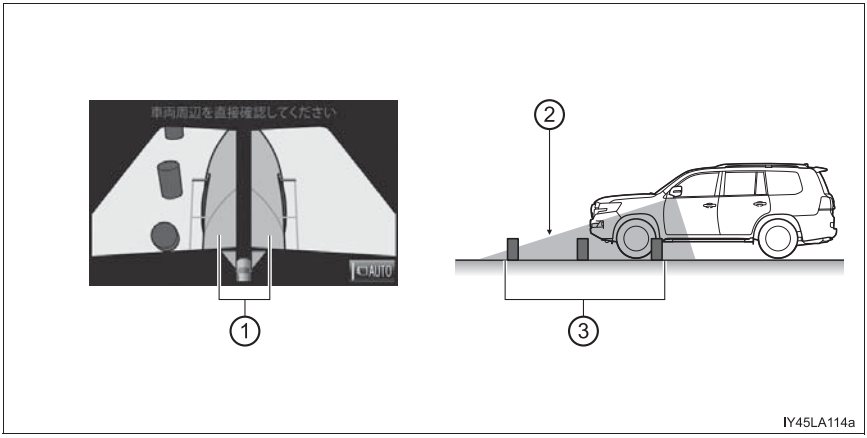
② 画面に車体の一部（バンパーやグリルなど）が映ります。

③ カメラの視野範囲

④ カメラで確認できる対象物

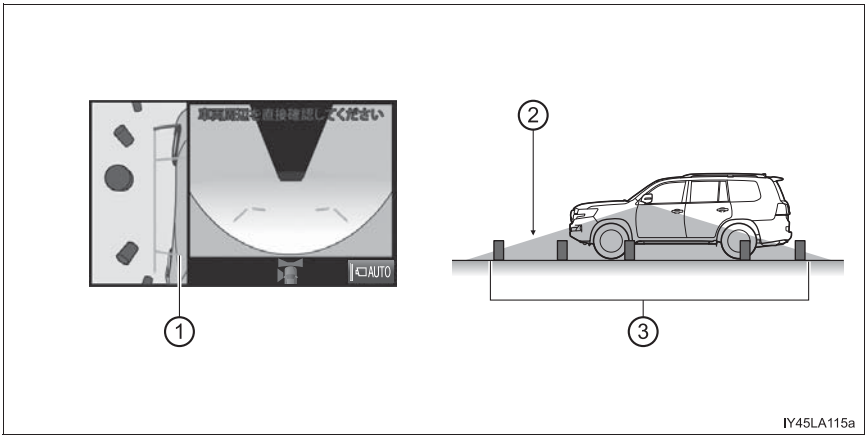
⑤ カメラで確認できない対象物

● 両サイドビュー



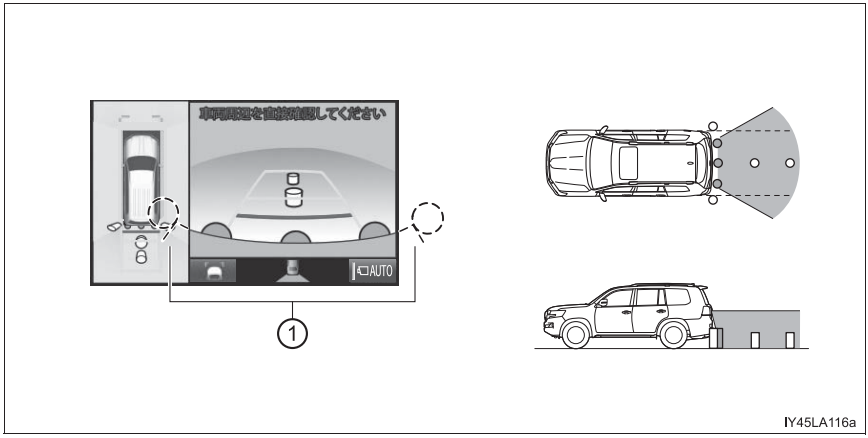
① 画面に車体の側方が映ります。
② カメラの視野範囲
③ カメラで確認できる対象物

● サイドビュー



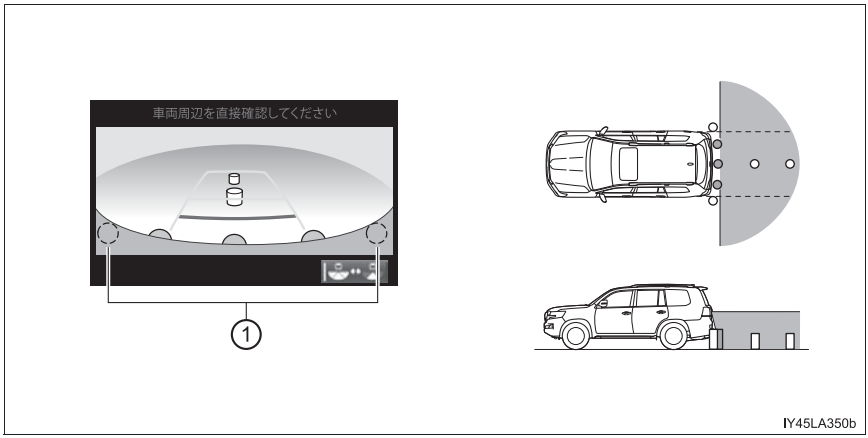
① 画面に車体の側方が映ります。
② カメラの視野範囲
③ カメラで確認できる対象物

● バックビュー



① バンパーの両端付近は映りません。

● ワイドバックビュー



① バンパーの両端付近は映りません。

知識

■パノラミックビューに映る範囲について

●パノラミックビューは､4つのカメラから得られた画像を平らな路面を基準に加工して表示しているため、次のように表示されることがあります。

・ 立体物が倒れて細長く、または大きく見える
・ 路面より高い位置にある立体物が実際より遠くに見える、または見えない
・ 高さのあるものが合成の継ぎ目から現れてくるように見える場合がある

●照度の条件により、カメラごとの映像の明るさにばらつきが出る場合があります。

●乗車人数・積載状況・ガソリン残量などによる車体の傾きや車高の変化などにより、映像表示がずれる場合があります。

●車高モードが N（標準）モード以外のときは、映像表示がずれる場合があります。（4-Wheel AHC 装着車）→ P. 275

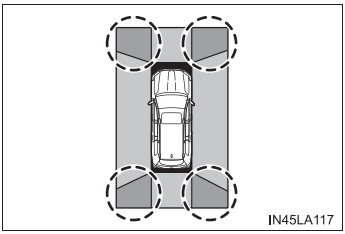
●ドアが完全に閉まっていないと、表示映像・ガイド線が正しく表示されない場合があります。

●パノラミックビューに表示されている車両アイコンと、路面・障害物との位置関係は、実際の位置とは異なる場合があります。

●字光式ナンバープレートを装着していると、画面上に映り込む場合があります。

●車両アイコンまわりの黒色部分は、カメラに映らない部分です。直接確認してください。

●右図の〇部分は画像を合成しているため、映像が見えにくい場合があります。



■ワイドフロントビューに映る範囲について

●車両前方は距離感が異なるため、画面に映らないように黒くマスキングされています。

●画面に映し出される範囲には限界があり、バンパーの両端付近やバンパーの真下付近にあるものは映し出されません。

●画面に映る映像の距離感覚は、実際の距離とは異なります。

■画面に映る映像について

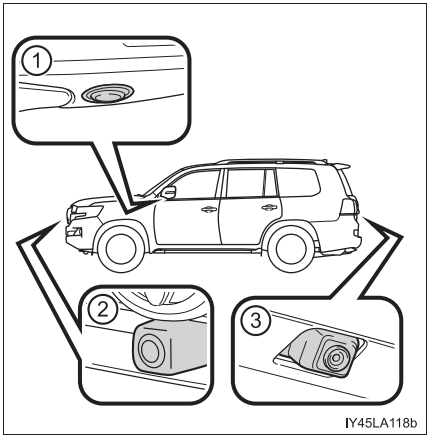
マルチテレインモニターのカメラは特殊なレンズを使用しているため、画面に映る映像の距離感は実際の距離と異なります。

■ マルチテレインモニターカメラ

● カメラの装着位置

マルチテレインモニターの各カメラは、次の位置に装着されています。

① サイドカメラ（左右両側）
② フロントカメラ
③ バックカメラ



● カメラのお手入れについて

カメラに水滴、雪、泥などの異物や汚れが付着していると、鮮明な画像を見ることができません。この場合、大量の水でカメラの汚れを流し、水で湿らせた柔らかい布でカメラレンズをふき取ってください。

⚠ 注意

■カメラについて

●マルチテレインモニターが正常に作動しなくなるおそれがありますので、以下のことにご注意ください。

・ カメラ部を強くたたいたり、物をぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置、取りつけ角度がずれるおそれがあります。
・ カメラ部は防水構造となっていますので、取りはずし・分解・改造をしないでください。
・ カメラレンズを洗うときは、大量の水でカメラの汚れを流した後、水で湿らせた柔らかい布でカメラレンズをふき取ってください。
カメラレンズを強くこするとカメラレンズが傷ついて、鮮明な画像を見ることができなくなるおそれがあります。
・ カメラのカバーは樹脂ですので、有機溶剤・ボディワックス・油膜取り剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。
・ 寒いときにお湯をかけるなどして急激な温度変化を与えないでください。
・ 洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。強い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。

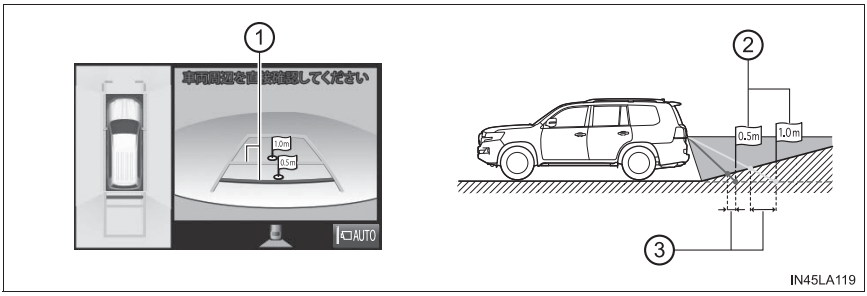
●カメラ部をぶつけたときは、カメラの故障などのおそれがあります。
早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ パノラミックビューと実際の路面との誤差について

距離目安線やパノラミックビューの合成映像・ガイド線などは、平らな路面に対しての距離の目安を示しています。そのため、次の状態のときは、画面上のガイド線と実際の路面上の距離・進路に誤差が生じます。

● 急な上り坂が後方にあるとき

実際の距離より手前に距離目安線が表示されます。そのため、上り坂にある障害物は、実際より遠くに見えます。同様にガイド線と実際の路面上の進路にも誤差が生じます。



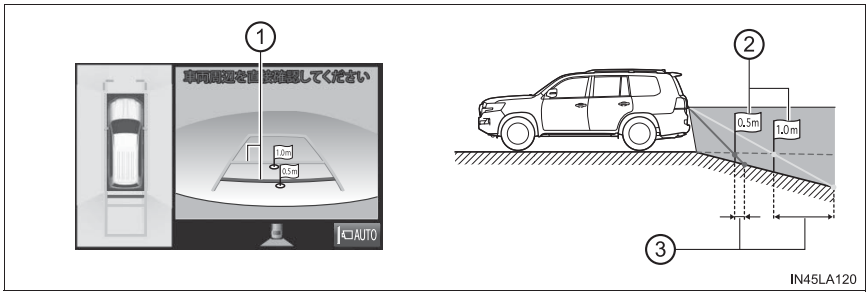
① 距離目安線

② 実際の距離

③ 誤差

● 急な下り坂が後方にあるとき

実際の距離よりうしろに距離目安線が表示されます。そのため、下り坂にある障害物は、実際より近くに見えます。同様にガイド線と実際の路面上の進路にも誤差が生じます。



① 距離目安線

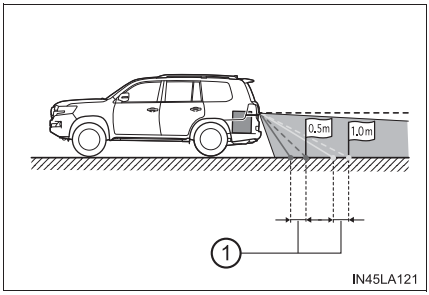
② 実際の距離

③ 誤差

● 車が傾いているとき

乗車人数や積載量などにより車が傾いているときは、実際の距離・進路と誤差が生じます。

① 誤差

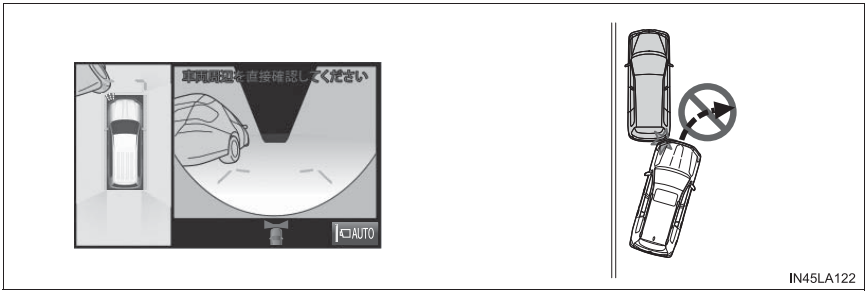


■ パノラミックビューと実際の立体物との誤差について

路面より高い位置にある立体物（車両バンパーなど）が近くにあるときは、次の点にご注意ください。

● パノラミックビューの表示について

パノラミックビューは、平らな路面を基準に画像を加工・表示しているため、路面より高い位置にある立体物（車両のバンパーなど）の位置を判断することはできません。画面ではぶつからないように見えても、実際には路面より高い位置にある障害物とのあいだに余裕がなく、ぶつかってしまうことがあります。そのような場合は、周囲の安全を直接確認してください。



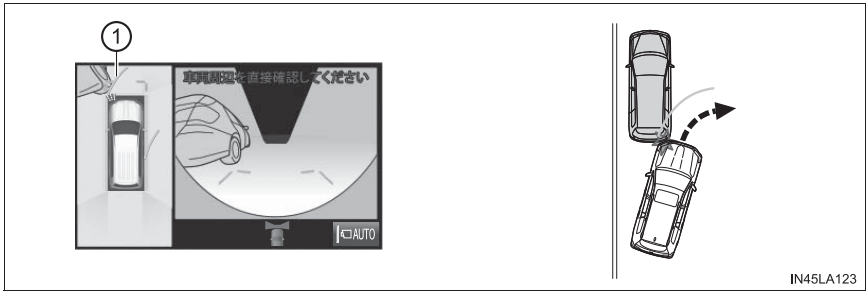
⚠ 警告

■ クリアランスソナーの割り込み表示について

クリアランスソナーの割り込み表示が赤色のときは、車両を停止して、必ず安全を直接確認してください。
確認しないまま車両を進めると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

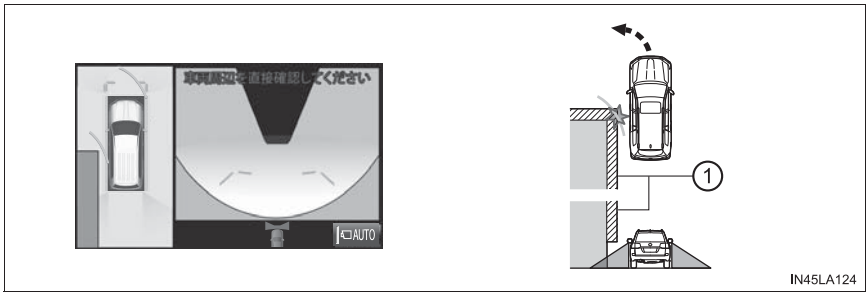
● 予想進路線について

予想進路線は平らな路面に対して表示しているため、路面より高い位置にある立体物（車両のバンパーなど）の位置を判断することはできません。画面では車両のバンパーが予想進路線の外側にあり、ぶつからないように見えても、実際には進路上の障害物にぶつかってしまうことがあります。



① 予想進路線

高い位置にある立体物（張り出しのある壁やトラックの荷台など）は、画面に映らない場合があります。周囲の安全を直接確認してください。



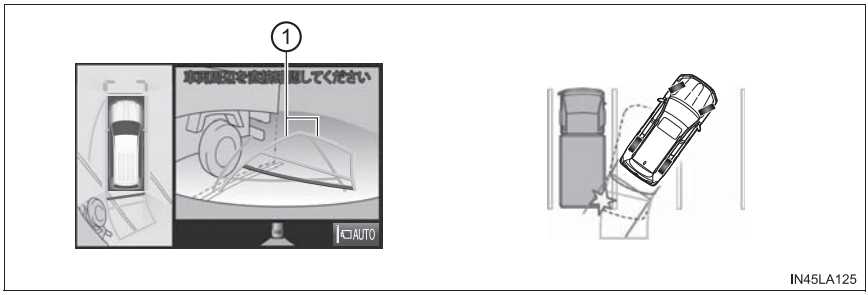
① 壁の張り出し部分

■ **バックビュー／ワイドバックビューと実際の路面との誤差について**

画面のガイド線は平面物（道路など）を対象にしています。張り出しのある立体物（トラックの荷台のような障害物）が近くにあるときは、次の点にご注意ください。

● 予想進路線について

ガイド線は路面に対して表示されているため、立体物の位置を判断することはできません。周囲の安全を直接確認してください。画面では、トラックの荷台が予想進路線の外側にあり、ぶつからないように見えても、実際には荷台が進路上に張り出していて、ぶつかってしまうことがあります。

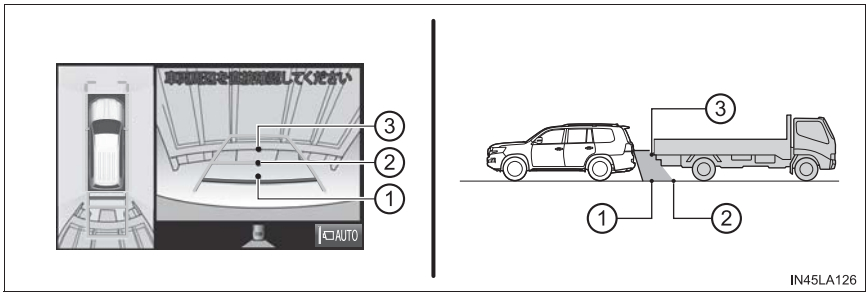


① 予想進路線

■ パノラミックビュー／バックビュー／ワイドバックビューと実際の路面との誤差について

● 距離目安線について

ガイド線は路面に対して表示されているため、立体物との距離を判断することはできません。周囲の安全を直接確認してください。画面では、距離目安線により②の位置にトラックが駐車してあるように見えますが、実際には①の位置まで後退すると、ぶつかります。画面では①・②・③の順に近く見えますが、実際には①と③が同じ距離で、②は①と③より遠い距離にあります。



● アンダーフロアビュー

乗車人数・積載量・路面の勾配・路面の状況・周囲の明るさなどにより、タイヤ位置目安線、車両形状目安線と実際の車両位置がずれる場合があります。必ず周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

知識

■アンダーフロアビューについて

●現在の位置より約3m手前で撮影した過去の映像を表示しているため、次のような場合は、画面と実際の状況が異なることがあります。

・撮影した時点よりあとに障害物が発生したとき
・砂や雪などが崩れたり動いたりしたとき
・障害物が動いたとき
・表示範囲内に水たまりやぬかるみなどがあるとき
・スリップなどで車両が滑ったとき

●次の場合は、車両形状とタイヤ位置目安線・車両形状目安線が異なって表示される場合があります

・タイヤを交換したとき
・オプション装備を取り付けたとき

⚠警告

■ガイド線について

表示されているガイド線は過去に撮影された映像に合成しているため、現在の状況と必ずしも一致しない場合があります。
必ず周囲の安全を確認しながら運転してください。

■ 故障と考える前に

マルチテレインモニターを使用中に次のような状況になったときは、それぞれ下記の内容に従って対処してください。システムの異常が原因のとき、または処置を行っても問題が解消しないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

考えられる原因	処置
❑ 画面が見にくい	
・夜間など暗いところで使用している ・レンズ付近の温度が高い、または低い ・外気温が低いとき ・カメラに水滴が付いている ・雨天などにより湿度が高くなっている ・カメラ付近に泥などの異物が付着している ・太陽やヘッドランプの光がカメラのレンズに直接あたっている ・蛍光灯・ナトリウム灯・水銀灯などの照明下で使用している	車両周辺の状況を直接確認しながら運転してください（カメラおよびその周辺環境が改善されてから、再びマルチテレインモニターをご使用ください）。マルチテレインモニターの画質調整の方法は、ナビゲーション画面の調整と同じです。
❑ 画像が不鮮明	
カメラのレンズに水滴・雪・泥などの異物や汚れが付着している	大量の水でカメラの汚れを流した後、水で湿らせた柔らかい布でカメラレンズをふき取ってください。
❑ 画面がずれている	
カメラ部に強い衝撃を受けた	トヨタ販売店で点検を受けてください。
❑ ガイド線が大きくずれる	
カメラの位置がずれている	トヨタ販売店で点検を受けてください。
・重い荷物やタイヤ空気圧の不足などで車両が傾いている ・車両が傾斜地にいる	車両周囲の状況を直接確認しながら、運転してください。

考えられる原因	処置
❑ ハンドルが直進状態であるにも関わらず、予想進路線がまがっている（車幅延長線と予想進路線がずれる）	
ステアリングセンサーの信号に異常が発生した	トヨタ販売店で点検を受けてください。
❑ 車両後方のガイド線が表示されない	
バックドアが開いている	バックドアを閉めてください。 直らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。
❑ ！マークが表示される	
バッテリーの脱着をした	車を止め、ハンドルを左右いっぱいにまわしてください。 直らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。
マルチテレインモニターに異常が発生している	トヨタ販売店で点検を受けてください。

BSM（ブラインドスポットモニター）★

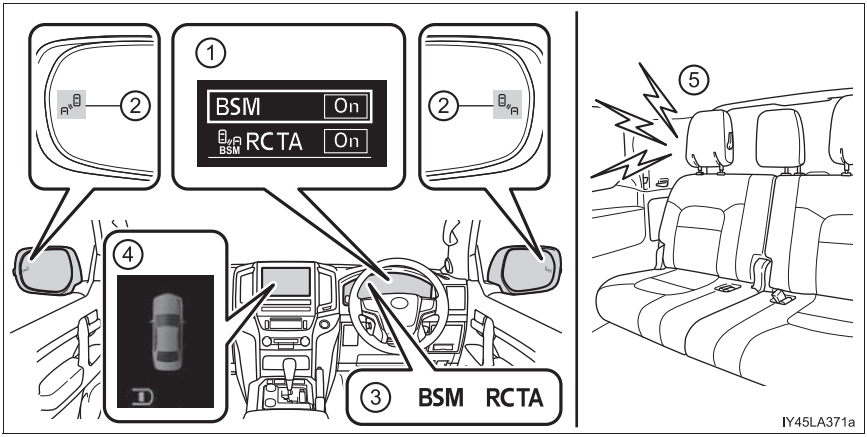
ブラインドスポットモニターの概要

ブラインドスポットモニターには 2 つの機能があります。

- BSM（ブラインドスポットモニター）機能
  運転者による車線変更時の判断を支援します。
- RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能★
  後退時に運転者を支援します。

これらの機能は同じセンサーを使用します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



① マルチインフォメーションディスプレイ

BSM 機能または RCTA 機能の ON ／ OFF を切り替えます。

BSM 機能が ON のとき、RCTA 機能を ON できます。

② ドアミラーインジケーター

BSM 機能：
ドアミラーの死角領域に車両を検知したとき、または後方からその死角領域に急速に接近してくる車両を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーターが点灯します。検知した側に方向指示レバーを操作している場合は、ドアミラーインジケーターが点滅します。

RCTA 機能：
自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、両側のドアミラーインジケーターが点滅します。

③ BSM 表示灯 /RCTA 表示灯

BSM 機能または RCTA 機能が ON のとき、それぞれのインジケーターが点灯します。

④ モニター画面の表示（RCTA 機能のみ）

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、モニター画面に検知した側の RCTA アイコン（→ P. 356）が点灯します。

イラストは左後方から車両が接近している例です。

⑤ RCTA ブザー（RCTA 機能のみ）

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、ブザーが鳴ります。

BSM 機能を ON にした直後の約 1 秒間はブザーが鳴ります。

設定のしかた

1 メーター操作スイッチで、を選択する。

2 「BSM」を選択し、ENTER を押す。

3 「BSM」／「RCTA」を選択し、ENTER を押す。

ENTER を押すたびに ON ／ OFF が切りかわります

知識

■ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■RCTA ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオなど大きな音がする場合、RCTA ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「BSM 現在使用できません」が表示されたときは

センサー周辺のバンパーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。センサー周辺のバンパーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、極めて高温または低温の環境で使用した場合正常に作動しないことがあります。

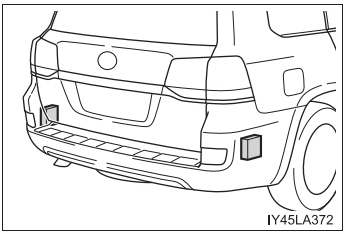
■マルチインフォメーションディスプレイに「BSM 故障 販売店で点検してください」が表示されたときは

センサーの故障や電圧異常などが考えられます。トヨタ販売店にて点検を受けて下さい。

⚠ 警告

■レーダーセンサーの取り扱い

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両リヤバンパー内側に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。


IY45LA372

●センサー周辺のリヤバンパーは常にきれいにしておく
センサー周辺のリヤバンパーに汚れや着雪がある場合、警告表示（→P. 349）とともにシステムが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落とした後、BSM 機能の作動条件（→ P. 353）でしばらく走行してください（目安：約 10 分）。それでも警告表示が消えない場合はトヨタ販売店にて点検を受けてください。

●センサー周辺のリヤバンパーへの強い衝撃を避ける
センサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなるおそれがあります。
次のような場合には、必ずトヨタ販売店にて点検を受けてください。

・ センサーやセンサー周辺に強い衝撃を受けた
・ センサー周辺のリヤバンパーなどに傷や凹みがある、一部が外れている

●センサーを分解しない

●センサーやセンサー周辺のリヤバンパーにステッカーを貼らない

●センサーやセンサー周辺のリヤバンパーを改造しない

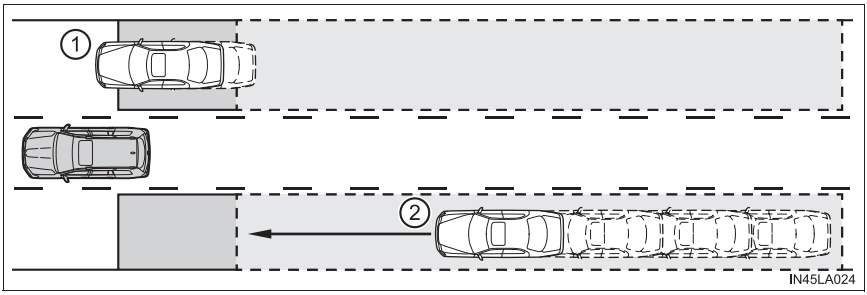
●リヤバンパーの塗装修理の際にはトヨタ設定色以外への変更は行わないでください

本製品は各国の電波法に適合しています。製品表面の印字はその証明ですので、消さないでください。
製品を改造しないでください。改造すると認証番号が無効となります。

R 202-LSC077

BSM 機能

BSM 機能はレーダーセンサーにより隣の車線を走行する次の車両を検知し、ドアミラーのインジケーターによってその車両の存在を運転者に知らせます。

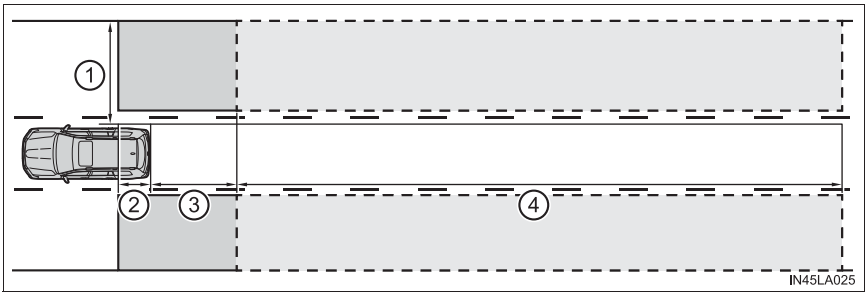


① ドアミラーに映らない領域（死角領域）を併走する車両

② 後方からドアミラーに映らない領域（死角領域）に急速に接近してくる車両

BSM 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



検知できる範囲：

① 車両の両側面について、側面から約 0.5m 離れた面から約 3.5m の領域※

※ 車両側面から外側に約 0.5m は検知しません。

② リヤバンパーから約 1m 前方の領域

③ リヤバンパーから約 3m 後方の領域

④ リヤバンパーから後方約 3m ～ 60m の領域※

※ 自車と他車の速度差が大きいほど、ドアミラーインジケーターは他車がより遠くにいる状況で点灯、点滅します。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

BSM 機能は、ドアミラーの死角領域に入った車両の存在とその死角領域に急速に接近してくる車両の存在を運転者に提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視とミラーによる安全確認をおこなう必要があります。

知識

■BSM 機能の作動条件

BSM 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- ●BSM 機能が ON のとき
- ●シフトレバーが R 以外の位置のとき
- ●車速が約 16km/h 以上のとき

■BSM 機能が車両を検知する条件

BSM 機能は、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

- ●隣の車線を走行する他車に自車が追い越されるとき
- ●他車が車線変更中に検知範囲に進入するとき

■BSM 機能が車両を検知しない状況

BSM 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- ●小型の二輪車、自転車、歩行者など※
- ●対向車
- ●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物※
- ●同じ車線を走行する後続車※
- ●2 つ隣の車線を走行する他車※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

■BSM 機能が有効に作動しないおそれがある状況

●BSM 機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。

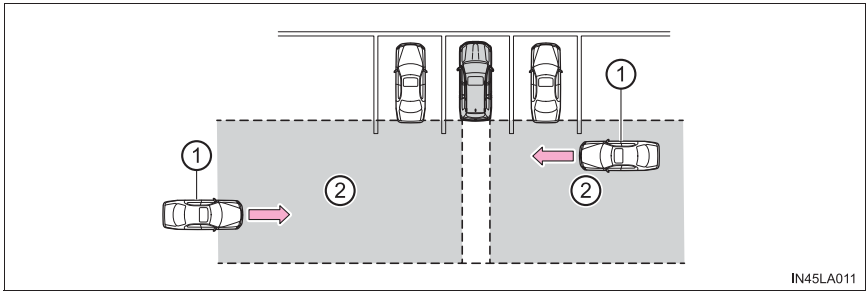
・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
・複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
・自車と後続車の車間距離が短いとき
・検知範囲に入る他車と自車の速度差が大きすぎるとき
・自車と他車の速度差に変化があるとき
・検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど等しいとき
・停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
・車線の幅が広い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
・検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
・BSM 機能を ON にした直後

●BSM 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
・車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線以外を走行する車両が検知範囲に入ったとき
・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
・タイヤがスリップ（空転）しているとき
・自車と後続車の車間距離が短いとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき

RCTA 機能

RCTA 機能はレーダーセンサーにより自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、ドアミラーのインジケーターとブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。



① 接近車両

② 接近車両を検知できる範囲

■ RCTA アイコンの表示

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、モニター画面上に次の表示をします。

画面表示	表示内容
	左後方から車両が接近しているとき
	右後方から車両が接近しているとき
	両方向から車両が接近しているとき
	RCTA 機能に異常があるとき（→ P. 349）

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

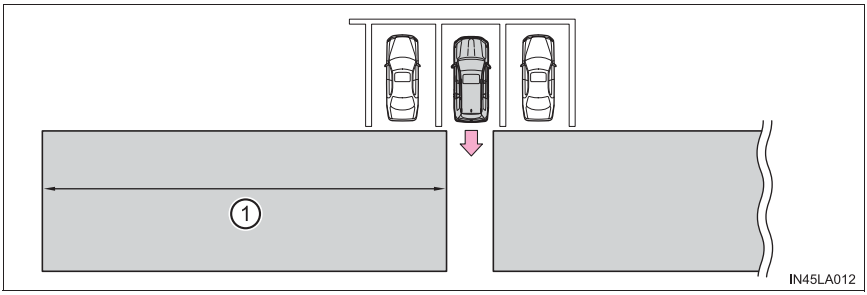
RCTA 機能は自車の右後方または左後方から接近してくる車両の存在を運転者に提供する補助的なシステムです。

RCTA 機能を使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

RCTA 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



速度が速い車両に対しては、より離れた位置で警報ブザーを鳴らします。

例：

接近車両	速度	①警報距離（概算）
速い	28km/h	20m
遅い	8km/h	5.5m

知識

■RCTA 機能の作動条件

RCTA 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- RCTA 機能が ON のとき
- シフトレバーが R のとき
- 自車の車速が約 8km/h 以下のとき
- 接近する他車の車速が約 8km/h ～ 28km/h の間のとき

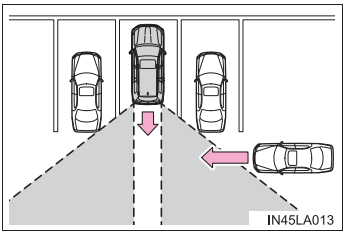
■RCTA 機能が車両を検知しない状況

RCTA 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●真後ろから接近する車両

●自車の隣の駐車スペースで後退する車両

●障害物のためにセンサーが検知できない車両



●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物※

●小型の二輪車、自転車、歩行者など※

●自車から遠ざかる車両

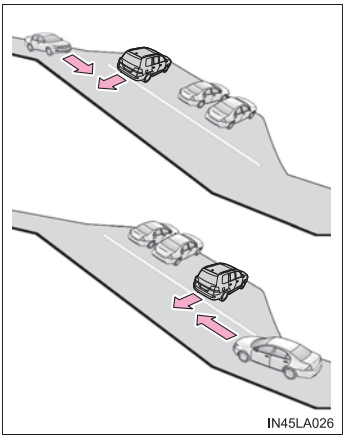
●自車の隣の駐車スペースから接近する車両※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

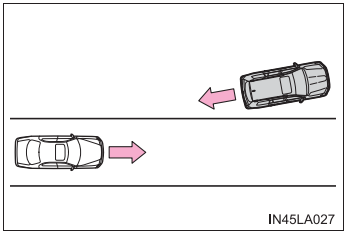
■RCTA 機能が有効に作動しないおそれがある状況

●RCTA 機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。

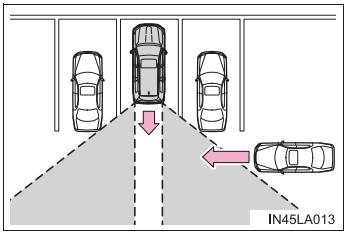
・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・ 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
・ 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
・ 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
・ 高速で接近する車両
・ 勾配の変化が激しい坂で後退しているとき



・浅い角度での駐車

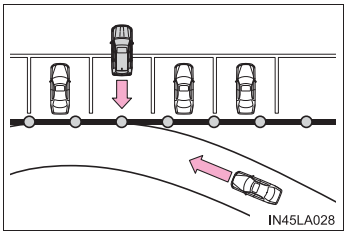


・RCTA 機能を ON にした直後
・RCTA 機能を ON にした状態で、エンジンを始動した直後
・障害物のためにセンサーが検知できない車両



●RCTA 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

・自車の横を通過する車両
・駐車場に面した道を走行する車両



・車両後方に電波の反射しやすい金属（ガードレール・壁・標識・駐車車両など）が存在するとき

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

◆ マルチテレイン ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時、またはすべりやすい路面やオフロード（砂利・砂地・泥地・氷雪路など）でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

◆ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

◆ アクティブ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面や険しいオフロードでの発進時や加速時に生じる車輪の空転を 4 輪別々に抑制すると共に、降坂時のエンジンブレーキ抜けによる加速を抑制し、車両の方向安定性と駆動力を確保します。

◆ ヒルスタートアシストコントロール

登り坂やすべりやすい丘面で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

◆ KDSS（キネティックダイナミックサスペンションシステム）★

オフロード走行時やカーブ時などの路面状況や運転状況に応じて、油圧によりサスペンションスタビライザーを制御して、走行安定性を確保します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

◆ VGRS（バリアブルギヤレシオステアリング）★

車速やハンドルの動きに合わせてホイールが切れる角度を調整します。

◆ AVS（アダプティブバリアブルサスペンションシステム）

路面の状態や運転操作などにに応じ、ショックアブソーバーの減衰力を 4 輪独立に制御することで、なめらかな乗り心地と優れた操縦安定性を両立し、車両姿勢を良好な状態に保ちます。

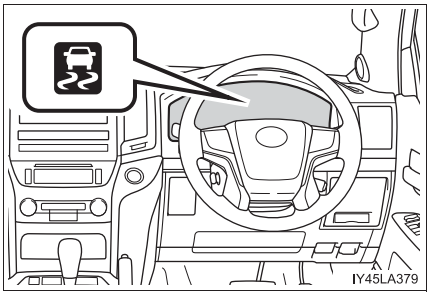
◆ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

VSC・アクティブ TRC・ヒルスタートアシストコントロールが作動しているとき

VSC･アクティブ TRC･ヒルスタートアシストコントロールが作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。

ヒルスタートアシストコントロールの作動時、制動灯とハイマウントストップランプが点灯します。



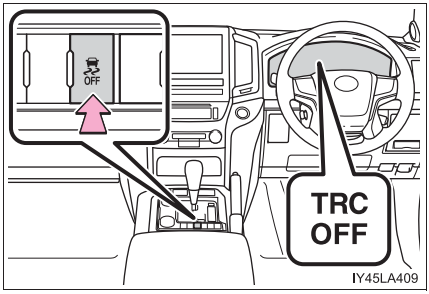
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アクティブ TRC を停止するには

ぬかるみや新雪などから脱出するときに、アクティブ TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに、アクティブ TRC を停止することにより脱出しやすくなります。

アクティブ TRC を停止するには
VSC OFF スイッチを押す

TRC OFF 表示灯が点灯します。
もう一度スイッチを押すと、システム作動状態にもどります。



知識

■アクティブ TRC と VSC を停止するには

アクティブ TRC と VSC を停止するには停車時に VSC OFF スイッチを押し 3 秒以上保持する

VSC OFF 表示灯と TRC OFF 表示灯が点灯します。※
もう一度スイッチを押すと、システム作動状態にもどります。

※ プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキも停止します。PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。(→ P. 233)

■アクティブ TRC や VSC の自動復帰について

アクティブ TRC や VSC を作動停止にしたあと、エンジンスイッチを OFF にすると、自動的にアクティブ TRC と VSC は作動可能状態にもどります。

■アクティブ TRC OFF の作動制限

アクティブ TRC のみ作動を停止している場合は、車速が高くなるとアクティブ TRC は作動を再開します。

■アクティブ TRC と VSC OFF の作動制限

アクティブ TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による作動再開はありません。

■マルチテレイン ABS・ブレーキアシスト・VSC・アクティブ TRC・ヒルストートアシストコントロール・VGRS ★の作動音と振動

- エンジン始動時や発進直後や、ブレーキを繰り返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、以下のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
  - 車体やハンドルに振動を感じる
  - 車両停止後もモーター音が聞こえる
  - マルチテレイン ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
  - マルチテレイン ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■ヒルストートアシストコントロールの作動条件

- シフトレバーが D または S の位置にあるとき
- ブレーキペダルが踏まれていないとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■VGRS の作動が停止する場合★

以下の状況では、VGRS が作動を停止することがあります。この場合、直進のハンドル位置がずれることがありますが、システムの復帰と共にもとにもどります。

●停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けたとき

●ハンドルをいっぱいに切った状態で長く力をかけ続けたとき

●バッテリーの充電が不十分、または電圧が一時的に下がったとき

●－ 30 ℃以下でエンジンを始動したあと

これらの状況が改善されれば、システムは復帰します。

■長時間の使用について

ブレーキシステムが異常過熱するおそれがあるため、ブザーが鳴り、TRC OFF 表示灯が点灯するかマルチインフォーメーションディスプレイに「TRC OFF」と表示され、アクティブ TRC とヒルスタートアシストコントロールが一時的に作動出来なくなります。この場合、速やかに安全な場所に停車して、表示が消えるまでブレーキシステムを十分に冷却してください。
（この間の通常走行は可能です）

しばらくして、TRC OFF 表示灯が消えれば、アクティブ TRC とヒルスタートアシストコントロールが作動可能となります。

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

●非常点滅灯が作動していないこと

●車速 55km/h 以上

●ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキと判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●非常点滅灯を点滅させた

●ブレーキペダルを離した

●車両の減速度から急ブレーキではないと判断された

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

以下の状況では、事故が起き、その結果重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■マルチテレイン ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界を超えたとき

●雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■マルチテレイン ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

マルチテレイン ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に以下の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥、砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■アクティブ TRC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、アクティブ TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、とくに慎重に運転してください。

■ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や、凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

■アクティブ TRC や VSC を OFF にするときは

アクティブ TRC や VSC は自動的にブレーキやエンジンの出力を制御して駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。
そのため、必要なとき以外はアクティブ TRC 機能、VSC 機能を作動停止状態にしないでください。アクティブ TRC 機能や VSC 機能を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、とくに慎重な運転を心がけてください。

⚠ 警告

■スリップ表示灯が点滅しているときは

VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したらとくに慎重に運転してください。

■タイヤを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→ P. 538）
異なったタイヤを装着すると、マルチテレイン ABS・アクティブ TRC・VSC が正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

⚠ 注意

■KDSS に関する注意★

以下の場合はシステム異常のおそれがあり、乗り心地や悪路走破性が損なわれる可能性がありますので、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

- コーナーを曲がる際に、車の傾きが通常より大きくなったと感じられるとき
- 縁石に乗り上げたり、傾斜地など車両が傾いた状態で長時間放置したあと、走行を続けても傾きがもどらないとき（水平地にもどした直後は傾いたままになることがあります）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える前の準備

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
  - ・エンジンオイル
  - ・冷却水
  - ・ウォッシャー液
- バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（後部タイヤ用）を使用してください。

  タイヤは 4 輪とも同一サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
  （タイヤについて：→ P. 370）

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を解かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ、車両の屋根、タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

- パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをPに入れて駐車し、必ず輪止め※1をしてください。
- パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーをPに入れた状態でシフトレバーが動かないこと※2を確認してください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

※1 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

※2 ブレーキペダルを踏まないでPからシフトするときにロックがかかります。シフトできる場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については、次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 後2輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取り扱い説明書に従う
- 取り付け後 0.5 ～ 1.0km 走行したら締め直しを行う

■寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

■4-Wheel AHC 装着車は

寒冷時は、4-Wheel AHC の作動に制限がかかる場合があります。（→ P. 281）

⚠ 警告

■冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●指定サイズのタイヤを使用する
- ●空気圧を推奨値に調整する
- ●装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- ●冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■タイヤチェーン取り付け時の警告

4-Wheel AHC 装着車は、車高制御を停止させてください。オートレベリング機能により車高がかわり車両に体が挟まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。（→ P. 275）

■タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- ●路面の凹凸や穴を避ける
- ●急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- ●カーブの入り口手前で十分減速して車のコントロールを失うのを防ぐ
- ●LDA（レーンディパーチャーアラート）を使用しない

⚠ 注意

■ タイヤチェーンの使用について

- トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります
  詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- アルミホイールにタイヤチェーンを取り付けると、ホイールに傷が付くことがあります。

■ フロントウインドウガラスに付いた氷を除去するときは

たたいて割らないでください。
ウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

室内装備・機能 5

5-1. エアコン・デフォッガーの使い方

フロントオートエアコン（ナビゲーションシステム非装着車）.....372

フロントオートエアコン（ナビゲーションシステム装着車）.....384

リヤエアコン.....394

ステアリングヒーター／シートヒーター&ベンチレーター.....397

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧.....401

・インテリアランプ.....402

・パーソナルランプ.....403

5-3. 収納装備の使い方

収納装備一覧.....405

・グローブボックス.....407

・コンソールボックス.....408

・オーバーヘッドコンソールボックス.....409

・カップホルダー.....410

・ボトルホルダー.....412

・カードホルダー.....413

・小物入れ.....414

ラゲージルーム内装備.....415

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備.....418

・クールボックス.....418

・サンバイザー.....419

・バニティミラー.....419

・時計.....420

・外気温度表示.....422

・アクセサリーソケット・アクセサリーコンセント...423

・おくだけ充電（ワイヤレス充電器）.....426

・アームレスト（セカンドシート）.....434

・コートフック.....434

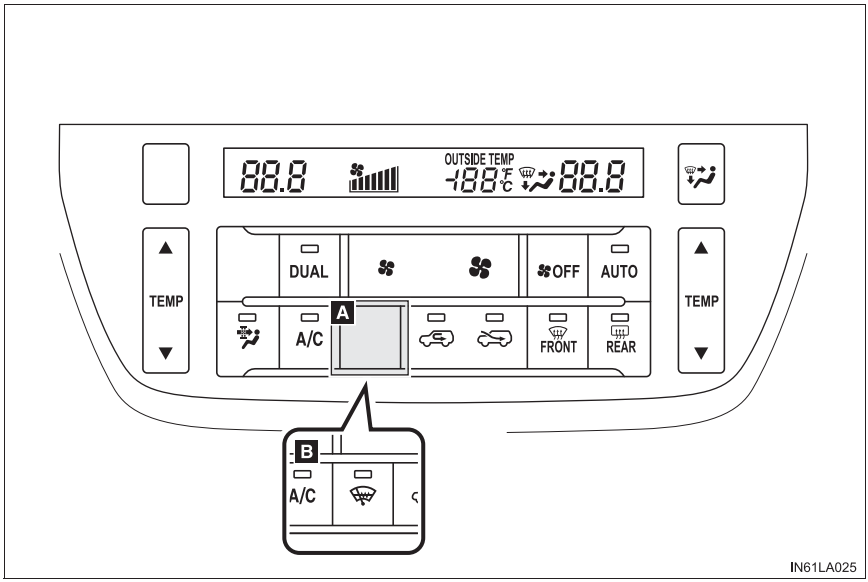
・アシストグリップ.....435

フロントオートエアコン（ナビゲーションシステム非装着車）

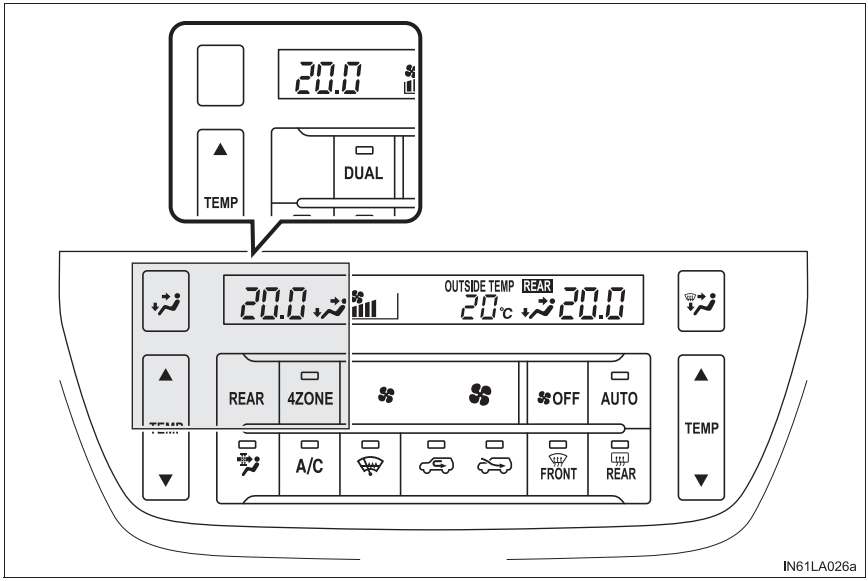
設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

操作パネル

▶ GX



▶ AX、ZX



■ **温度を調整する**

温度を上げるときは“TEMP”ボタンの“∧”を、下げるときは“∨”を押す

■ **風量を切りかえる**

風量を増やすときは の を、減らすときは

を押す

風量は７段階に調整できます。

送風を止めるときは OFF を押します。

■ 吹き出し口を切りかえる

を押す

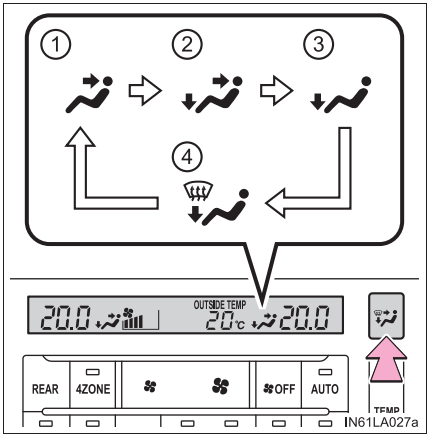
押すたびに吹き出し口が切りかわります。

① 上半身へ送風する

② 上半身と足元へ送風する

③ 足元へ送風する

④ 足元へ送風し、フロントウインドウデフォッガーが作動する



オート設定で使用する

1 AUTO を押す

2 温度を調整する

ファンをとめたいときは、OFF を押す

■ オート設定時の作動表示灯について

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

運転席と助手席の温度を別々で設定する

▶ 左右独立モード（GX）

運転席と助手席の温度を別々に調整できます。

次のいずれかの操作をすると、左右独立モードが ON になります。

- DUAL を押す
- 助手席側の設定温度を変更する

  左右独立モードになり、作動表示灯が点灯します。

  DUAL を押すと、連動モードへ戻ります。

  連動モードで全体の温度調整をするときは、運転席側の“TEMP”ボタンの“∧”や“∨”のみ使用可能です。

▶ 4-ZONE モード（AX、ZX）

運転席と助手席、リヤ席の温度を別々に調整できます。

次のいずれかの操作をすると、4-ZONE モードが ON になります。

●

を押す

● 助手席側またはリヤ席の設定温度を変更する

4-ZONE モードになり、作動表示灯が点灯します。

を押すと、連動モードへ戻ります。

連動モードで全体の温度調整をするときは、運転席側の“TEMP”ボタンの“∧”や“∨”のみ使用可能です。

前席からリヤエアコンを操作する（AX、ZX のみ）

リヤエアコンの設定モードへ切りかえるには REAR を押す

エアコン画面に“REAR”が表示されます。

■ 温度を調整する

リヤ席右側の設定には右側の“TEMP”ボタンの“∧”または“∨”を、リヤ席左側の設定には左側の“TEMP”ボタンの“∧”または“∨”を押す

リヤ席の右側と左側で異なる温度調整が可能です。上記操作を行うと4-ZONEモード（→P. 375）が ON になります。

■ 風量を切りかえる

風量を増やすときは の を、減らすときは を押す

風量は 7 段階に調整できます。

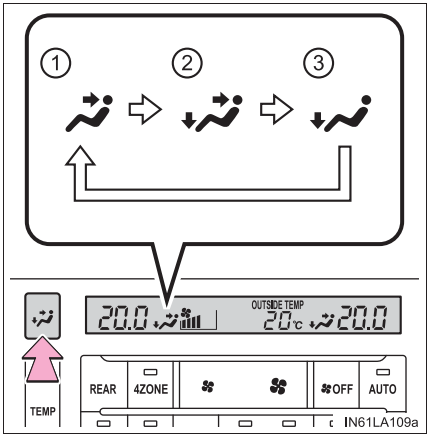
送風を止めるときは OFF を押します。

■ 吹き出し口を切りかえる

を押す

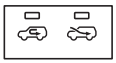
押すたびに吹き出し口が切りかわります。

① 上半身へ送風する
② 上半身と足元へ送風する
③ 足元へ送風する



その他の機能

■ 内気循環／外気導入を切りかえるには

 を押す

押すたびに （内気循環モード）と （外気導入モード）が切りかわります。

■ フロントウインドウガラスの曇りをとるには

を押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。（自動的に外気導入に切りかわることがあります。）

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度 を押すと前のモードにもどります。

■ リヤウインドウデフォッガー&ミラーヒーター★

リヤウインドウの曇りをとるときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用ください。

を押す

■ 花粉除去機能を使用するには

を押す

内気循環に切りかわり、上半身に送風して花粉を除去します。

通常約 3 分後に（外気温が低いときは約 1 分後に） を押す前のモードにもどります。

途中で動作を止めるときは再度 を押すと前のモードにもどります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ **フロントワイパーデアイサー★**

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用ください。

を押す

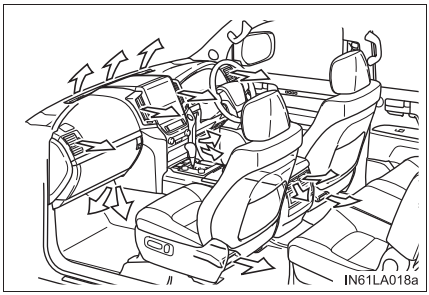
途中で動作を止めるときは再度 を押すと前のモードにもどります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

吹き出し口について

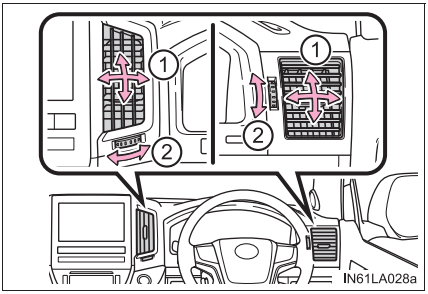
■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。

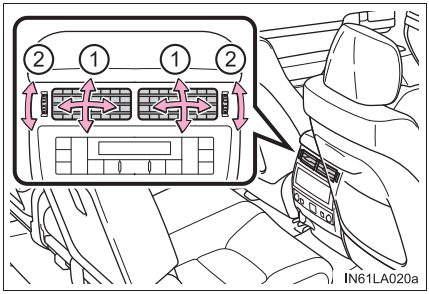


■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

▶ フロント



▶ リヤ



① 風向きの調整

② 吹き出し口の開閉

知識

■オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、AUTO を押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

■ガラスの曇りについて

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、A/C を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。
- A/C を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。
- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■内気循環／外気導入について

- トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。
- 設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■外気温度が 0 ℃近くまで下がったとき

A/C を押しても除湿機能が働かない場合があります。

■エコドライブモードのエアコン作動について

- エコドライブモードは燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。
  - ・ エンジン回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房 / 冷房の能力を抑制します。
  - ・ オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。
- 空調の効きをより良くしたいときは、次の操作を行ってください。
  - ・ 風量を調整する。
  - ・ エコドライブモードを解除する。

■花粉除去機能について

- 外気温が低いときは、フロントウインドウガラスの曇りを防止するために次のような作動をすることがあります。
  - ・ 内気循環に切り替わらない
  - ・ 除湿機能が作動する
  - ・ 約 1 分後に作動が停止する
- 湿度が非常に高いときに使うとガラスが曇る場合があります。
- 花粉除去機能が OFF のときも花粉はフィルターで取り除かれています。

■換気とエアコンの臭いについて

車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■リヤウインドウデフォッガー、ミラーヒーター★、フロントワイパーデアイサー★の作動条件

エンジンスイッチが IGNITION ON モードのとき

■クールボックスが ON のとき（クールボックス装着車）

フロントエアコンを停止することはできません。

■エアコンフィルターについて

→ P. 460

■設定可能な機能

AUTO スイッチを押したとき、除湿機能を連動させるかどうかなどを設定できます。（カスタマイズ一覧→ P. 539）

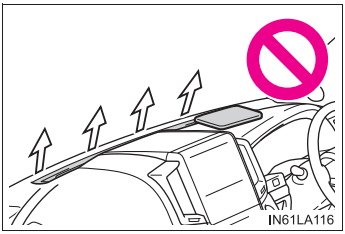
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

●外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、FRONTを押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

●フロントウインドウガラスの曇り取りを妨げないために、吹き出し口を遮るようなものを置かないでください。送風が遮られ、曇りが取れにくくなることがあります。



■リヤウインドウデフォッガー&ミラーヒーター／フロントワイパーデアイサー★作動中の警告

●ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

●フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

⚠ 注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

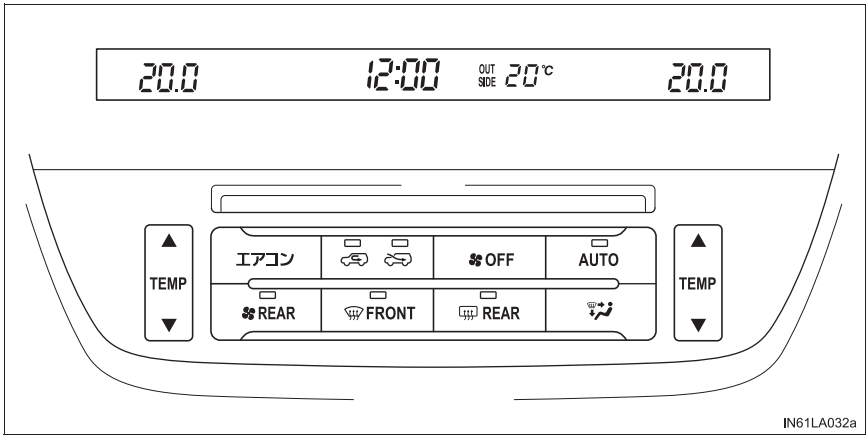
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フロントオートエアコン（ナビゲーションシステム装着車）

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

エアコン操作画面を表示するには［エアコン］を押してください。

操作パネル



■ 温度を調整する

温度を上げるときは ▲ を、下げるときは ▼ を押す

■ 吹き出し口を切りかえる

を押す

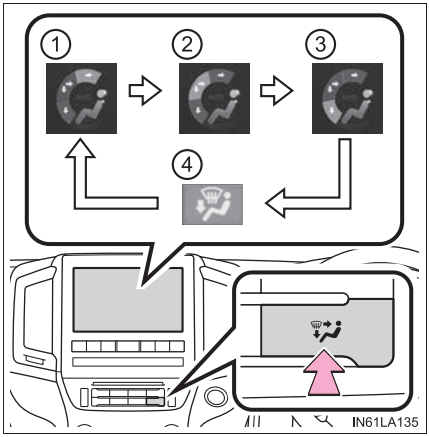
押すたびに吹き出し口が切りかわります。

① 上半身へ送風する

② 上半身と足元へ送風する

③ 足元へ送風する

④ 足元へ送風し、フロントウインドウデフォッガーが作動する



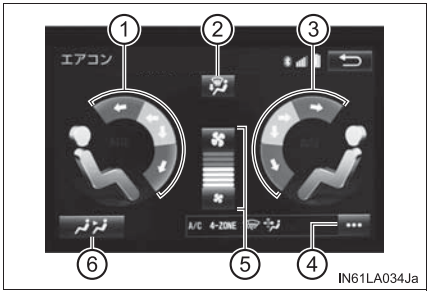
エアコン操作画面について

① 助手席側の吹き出し口を切りかえる※

② 足元へ送風し、フロントウインドウデフォッガーが作動する

③ 運転席側の吹き出し口を切りかえる※

④ オプション操作画面を表示する（→ P. 386）



⑤ 風量を切りかえる

⑥ リヤエアコンの操作画面を表示する（→ P. 388）

※： —上半身へ送風する

—上半身と足元へ送風する

—足元へ送風する

■ **オプション操作画面**

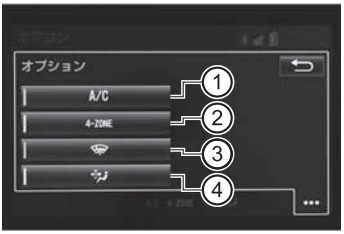
各機能の ON/OFF を切りかえることができます。

① 冷房・除湿する

② 運転席と助手席、リヤ席の設定温度を別々に設定する（→ P. 387）

③ フロントワイパーデアイサー★を ON にする

④ 花粉を除去する



IN61LA035Ja

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

オート設定で使用する

1 AUTO を押す

2 温度を調整する

ファンをとめたいときは、 OFF を押す

■ オートモードで使用中の手動操作について

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

運転席と助手席の温度を別々で設定する（4-ZONE モード）

運転席と助手席、リヤ席の温度を別々に調整できます。
次のいずれかの操作をすると、4-ZONE モードが ON になります。

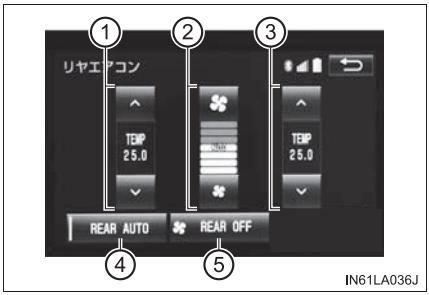
- オプション操作画面の“4-ZONE”を押す
- 助手席側の設定温度を変更する
- リヤエアコンの設定を変更する

4-ZONE モードになり、作動表示灯が点灯します。

“4-ZONE”を押すと、連動モードへ戻ります。

連動モードで全体の温度調整をするときは、運転席側の ▲ や ▼ のみ使用可能です。

前席からリヤエアコンを操作する



リヤエアコンの操作画面を表示するには、エアコン操作画面の を押す。

① 助手席側リヤ席の温度を調整する

② 風量を調整する

③ 運転席側リヤ席の温度を調整する

④ オートモードを使用する

⑤ 送風を停止する

■ オート設定で使用する

1 “REAR AUTO”を押す

エアコンが作動し、設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

2 温度を上げるときは“∧”を、下げるときは“∨”を押す

設定温度によっては、左右席で異なる吹き出し口を使用することが可能です。

■ 温度を調整する

温度を上げるときは“∧”を、下げるときは“∨”を押す

上記操作を行うと 4-ZONE モード（→P. 375）が ON になります。

■ 風量を切りかえる

風量を増やすときは を、減らすときは を押す

風量は 7 段階に調整できます。

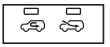
送風を止めるときは“REAR OFF”を押します。

■ リヤエアコンを停止する

“REAR OFF”を押す

その他の機能

■ 内気循環／外気導入を切りかえるには


を押す

押すたびに（内気循環モード）と（外気導入モード）が切りかわります。

■ フロントウインドウガラスの曇りをとるには

を押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。（自動的に外気導入に切りかわることがあります。）

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度 を押すと前のモードにもどります。

■ リヤウインドウデフォッガー&ミラーヒーター★

リヤウインドウの曇りをとるときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用ください。

を押す

■ 花粉除去機能を使用するには

エアコン操作画面の を押す

を押す

内気循環に切りかわり、上半身に送風して花粉を除去します。

通常約 3 分後に（外気温が低いときは約 1 分後に） を押す前のモードにもどります。

途中で動作を止めるときは再度 を押すと前のモードにもどります。

■ フロントワイパーデアイサー★

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用ください。

エアコン操作画面の を押す

を押す

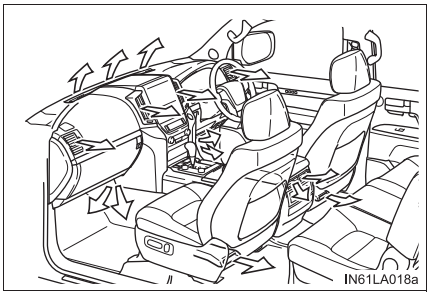
途中で動作を止めるときは再度 を押すと前のモードにもどります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

吹き出し口について

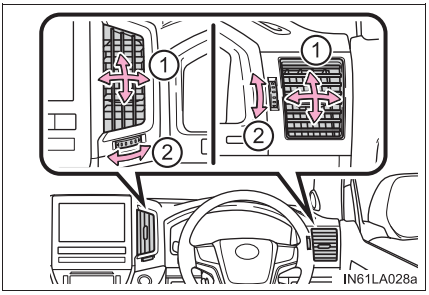
■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。

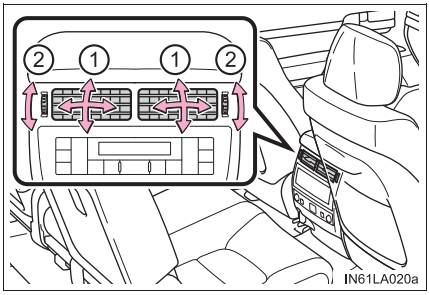


■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

▶ フロント



▶ リヤ



① 風向きの調整

② 吹き出し口の開閉

知識

■オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、 AUTO を押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

■ガラスの曇りについて

- ●車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、A/C を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。
- ●A/C を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。
- ●内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■内気循環／外気導入について

- ●トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。
- ●設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■外気温度が 0℃近くまで下がったとき

A/C を押しても除湿機能が働かない場合があります。

■エコドライブモードのエアコン作動について

- ●エコドライブモードは燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。
  - ・エンジン回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房 / 冷房の能力を抑制します。
  - ・オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。
- ●空調の効きをより良くしたいときは、次の操作を行ってください。
  - ・風量を調整する。
  - ・エコドライブモードを解除する。

■花粉除去機能について

- ●外気温が低いときは、フロントウインドウガラスの曇りを防止するために次のような作動をすることがあります。
  - ・内気循環に切り替わらない
  - ・除湿機能が作動する
  - ・約 1 分後に作動が停止する
- ●湿度が非常に高いときに使うとガラスが曇る場合があります。
- ●花粉除去機能が OFF のときも花粉はフィルターで取り除かれています。

■換気とエアコンの臭いについて

車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。

- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■リヤウインドウデフォッガー、ミラーヒーター★、フロントワイパーデアイサー★の作動条件

エンジンスイッチが IGNITION ON モードのとき

■クールボックスが ON のとき（クールボックス装着車）

フロントエアコンを停止することはできません。

■エアコンフィルターについて

→ P. 458

■設定可能な機能

AUTO スイッチを押したとき、除湿機能を連動させるかどうかなどを設定できます。（カスタマイズ一覧→ P. 539）

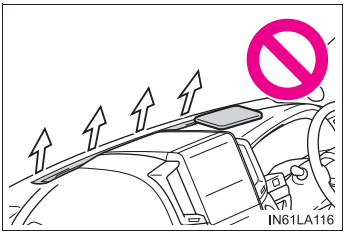
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

●外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、FRONT を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

●フロントウインドウガラスの曇り取りを妨げないために、吹き出し口を遮るようなものを置かないでください。送風が遮られ、曇りが取れにくくなることがあります。



■リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーター／フロントワイパーデアイサー★作動中の警告

●ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

●フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

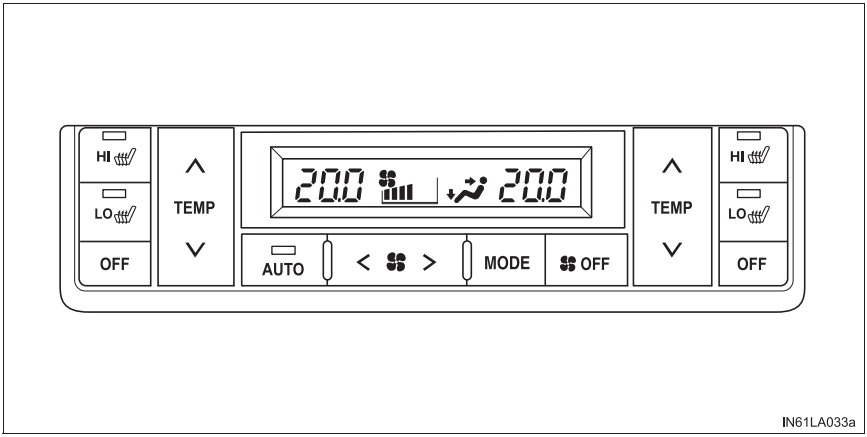
⚠ 注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

リヤエアコン★

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。



■ 温度を調整する

温度を上げるときは“∧”を、下げるときは“∨”を押す

右側席と左側席で異なる温度調整が可能です。

■ 風量を切りかえる

風量を増やすときは“>”を、減らすときは“<”を押す

風量は 7 段階に調整できます。

送風を止めるときは OFF を押します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 吹き出し口を切りかえる

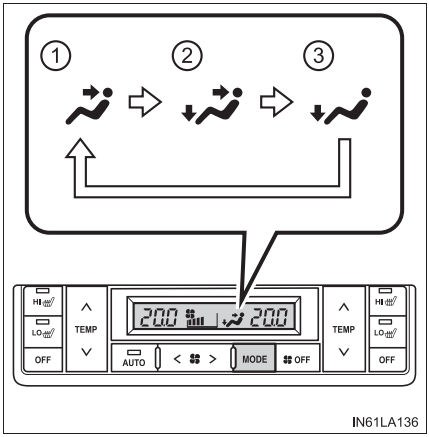
MODE を押す

押すたびに吹き出し口が切りかわります。

① 上半身へ送風する

② 上半身と足元へ送風する

③ 足元へ送風する



オート設定で使用する

1 AUTO を押す

2 温度を調整する

3 ファンをとめたいときは、OFF を押す

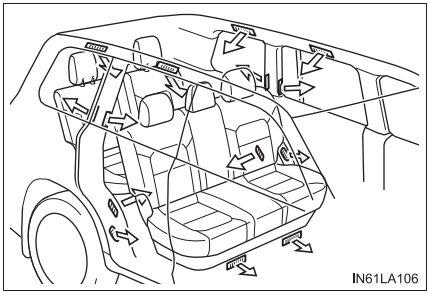
■ オートモードで使用中の手動操作について

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

吹き出し口について

■ 吹き出し口の位置

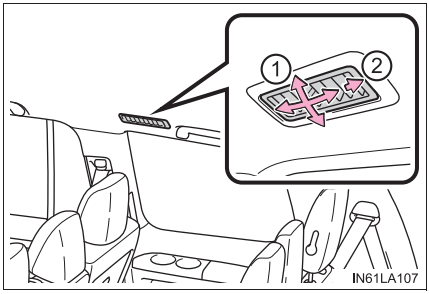
吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。



■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

① 風向きの調整

② 吹き出し口の開閉



⚠ 注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中はエアコンを使用しないでください。

ステアリングヒーター★／シートヒーター&ベンチレーター★

ハンドルの左右グリップ部やシートをあたためたり、シートから風を出して通気をよくできます。

⚠ 警告

- 低温やけどを負うおそれがあるため、以下の方がシートヒーターに触れないようにご注意ください。
  - ・乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由な方
  - ・皮膚の弱い方
  - ・疲労の激しい方
  - ・深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用された方
- 異常加熱や低温やけどの原因になるおそれがあるため、シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。
  - ・長時間連続使用しないでください。
  - ・毛布・クッションなどを使用しないでください。

⚠ 注意

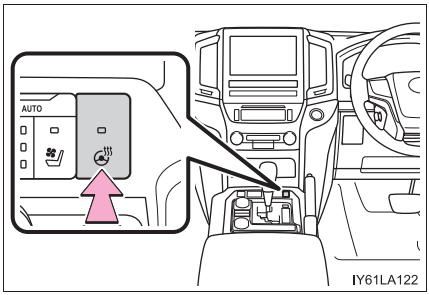
- シートヒーターの損傷を防ぐため、凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。
- バッテリーあがりを防ぐため、エンジンが停止した状態で使用しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ステアリングヒーター★

システムのON／OFFを切りかえる

作動中はインジケーターが点灯します。



知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON のとき

■タイマー機能

約 30 分後に自動で OFF になります。

■インジケーターが点滅した場合

スイッチを OFF にし、もう一度スイッチを押してください。点滅がさらに続く場合はシステムの異常が考えられます。作動を停止し、トヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フロントシートヒーター★／ベンチレーター★

① シートベンチレータースイッチ

作動中は、スイッチ上のインジケーター（緑）が点灯します。

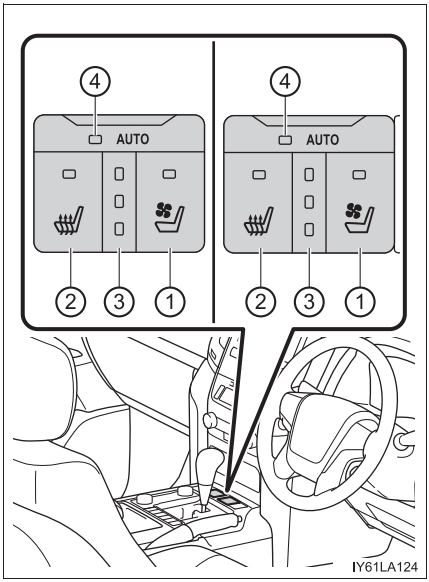
② シートヒータースイッチ

作動中は、スイッチ上のインジケーター（黄）が点灯します。

③ レベルインジケーター

シートヒーターの温度の強弱、またはシートベンチレーターの風量の強弱を表示します。

④ オートモードインジケーター



■ モードとインジケーター

スイッチを押すことで、モードが切りかわります。

モード	オートモードインジケーター	レベルインジケーター
OFF	消灯	消灯
オート※	点灯	3～1、または消灯
強	消灯	3
中	消灯	2
弱	消灯	1

※ オートモードを選択しているときは、エアコンの設定状態に応じて、レベルが自動的に切りかわります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■フィルターについて

ベンチレーターにはフィルターが入っています。交換の際はトヨタ販売店にご相談ください。

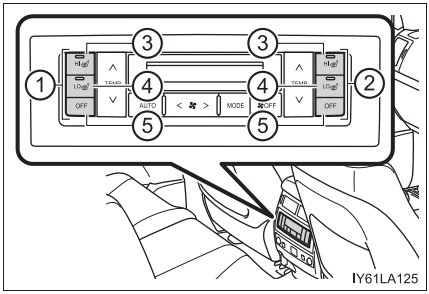
■カスタマイズ機能

シートヒーター&ベンチレーターのオート設定を変更することができます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 539）

セカンドシートヒーター★

① 助手席側用スイッチ
② 運転席側用スイッチ
③ 強
④ 弱
⑤ OFF

シートヒーターが ON のときは、インジケーターが点灯します。

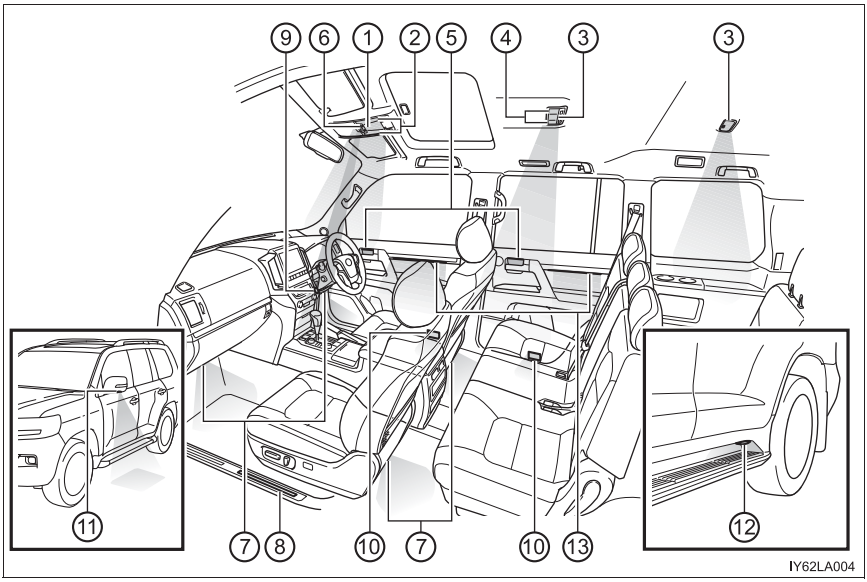


知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

室内灯一覧



※ イラストは 8 人乗り車で代表しています。

① フロントインテリアランプ（→ P. 402）
② フロントパーソナルランプ（→ P. 403）
③ リヤインテリアランプ（→ P. 402）
④ リヤパーソナルランプ★（→ P. 403）
⑤ インサイドハンドル照明★
⑥ シフト照明★（エンジンスイッチがアクセサリーまたはイグニッション ON モード）
⑦ 足元照明★
⑧ フロントスカッフプレート照明★
⑨ エンジンスイッチ照明
⑩ ドアカーテシランプ★
⑪ ドアミラー照明★
⑫ ステップ照明★
⑬ ドアトリム照明★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

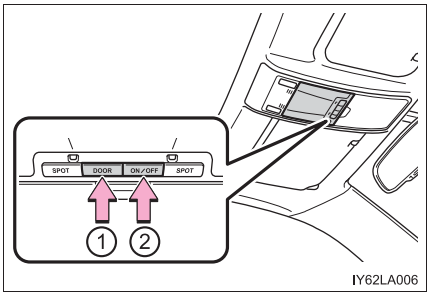
インテリアランプ

▶ フロント（A タイプ）

① ドア連動 ON ／ OFF

ドア連動 ON にしていると、ドアの開閉に連動して作動します。

② 点灯／消灯



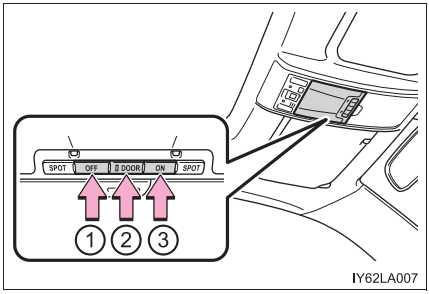
▶ フロント（B タイプ）

① 消灯

② ドア連動 ON ／ OFF

ドア連動 ON にしていると、ドアの開閉に連動して作動します。

③ 点灯

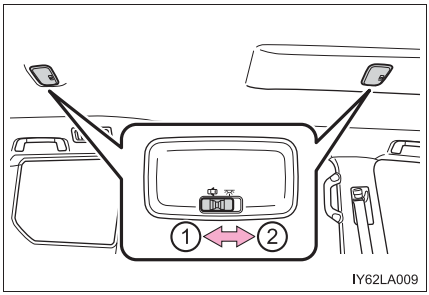


▶ リヤ（A タイプ）

① ドア連動

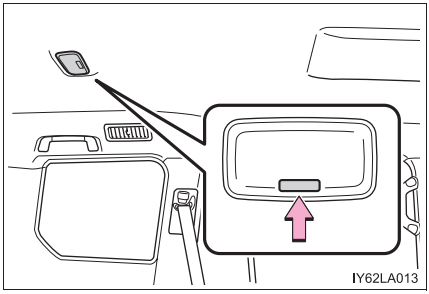
フロントインテリアランプをドア連動にしていると、ドアの開閉に連動して作動します。

② 点灯



▶ リヤ（B タイプ）

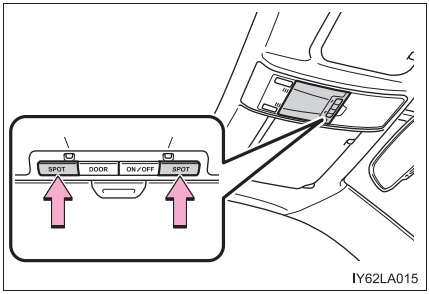
点灯／ドア連動



パーソナルランプ

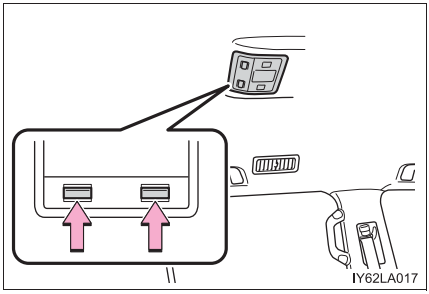
▶ フロント

点灯／消灯



▶ リヤ

点灯／消灯



知識

■イルミネーテッドエントリーシステム

電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・エンジンスイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンスイッチが OFF の場合、室内灯が点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

■販売店またはナビゲーション画面で設定可能な機能

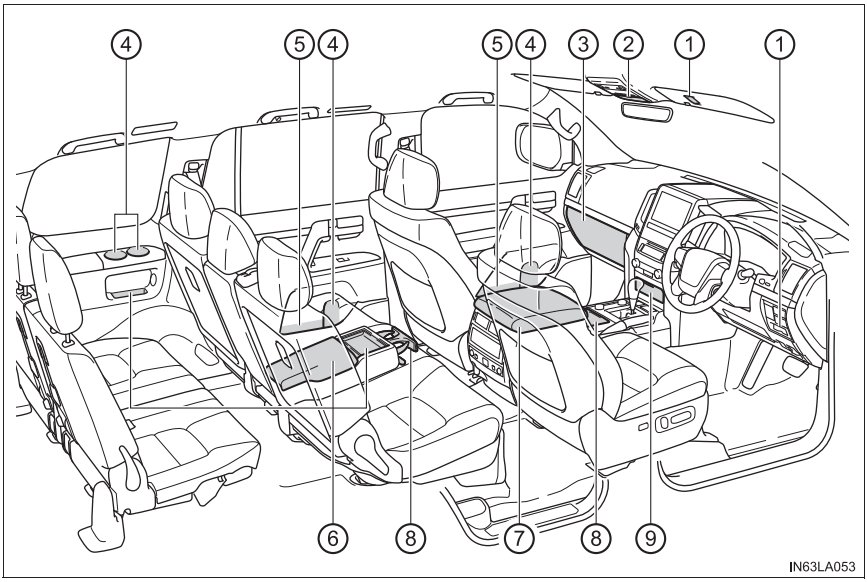
室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
（車両カスタマイズ機能一覧→ P. 539）

⚠ 注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、長時間点灯しないでください。

収納装備一覧



① カードホルダー（→P. 413）
② オーバーヘッドコンソールボックス（→P. 409）
③ グローブボックス（→P. 407）
④ ボトルホルダー（→P. 412）
⑤ ドアポケット
⑥ 小物入れ（→P. 414）
⑦ コンソールボックス（→P. 408）／クールボックス★（→P. 418）
⑧ カップホルダー（→P. 410）
⑨ 小物入れ★（→P. 414）／ワイヤレス充電器★（→P. 426）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

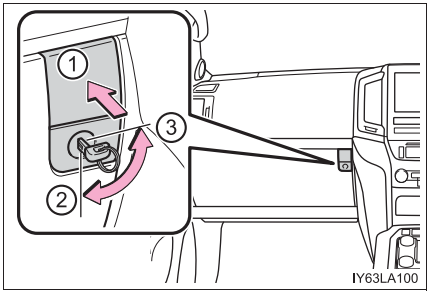
■収納装備に放置してはいけないもの

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

グローブボックス

① 開ける（ボタンを押す）
② メカニカルキーで施錠
③ メカニカルキーで解錠



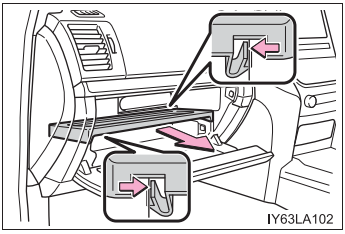
知識

■グローブボックスランプについて

車幅灯が点灯しているとき、グローブボックスを開くとランプが点灯します。

■仕切り板について

仕切り板下側にあるツメ（2ヶ所）をはずして取りはずすことができます。



⚠警告

■走行中の警告

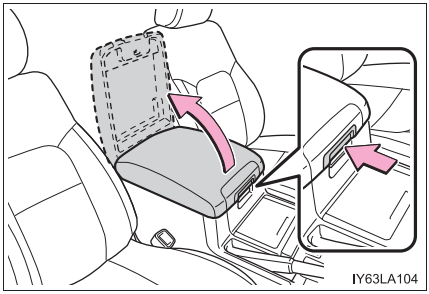
グローブボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたフタが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

コンソールボックス

下段ボックスには、保冷機能が付くタイプ（クールボックス）と付かないタイプ（下段コンソールボックス）があります。
クールボックスについては、P. 418 を参照してください。

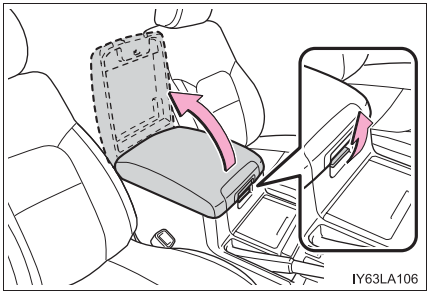
▶ 上段コンソールボックス

ノブを押してフタを持ち上げる



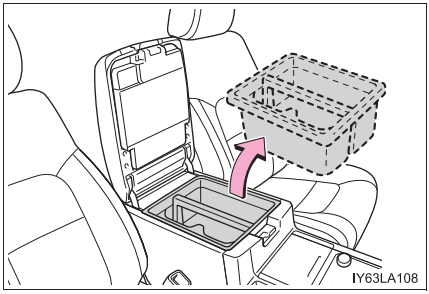
▶ 下段コンソールボックス★

1 レバーを引いてフタを持ち上げる



2 トレイをはずすときは、そのまま持ち上げる

トレイは AX、ZX に装着されます。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

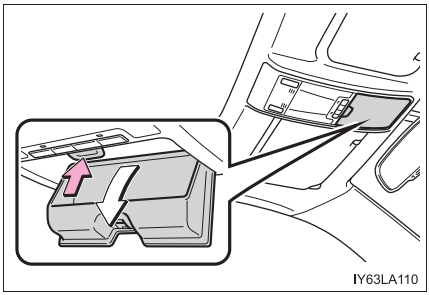
⚠ 警告

■走行中の警告

コンソールボックスのフタを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたフタが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

オーバーヘッドコンソールボックス

ボタンを押す



⚠ 警告

■オーバーヘッドコンソールボックスについて

オーバーヘッドコンソールボックスに 200g 以上のものを入れないでください。200g 以上のものを入れるとフタが開き収納されているものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

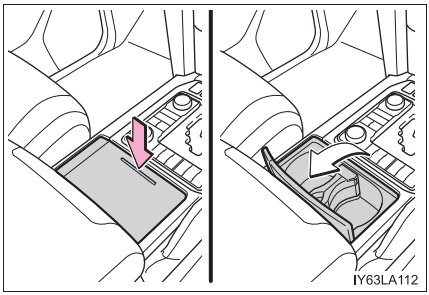
■走行中の警告

オーバーヘッドコンソールボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたフタが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

カップホルダー

▶ フロント

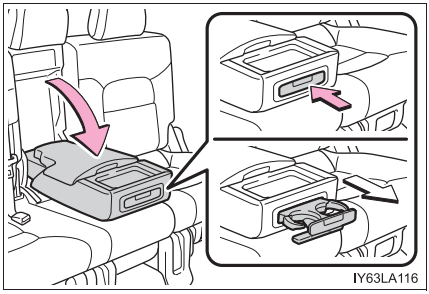
フタを押す



▶ リヤ★

1 セカンドシートアームレストを引き出す（→ P. 434）

2 ボタンを押す



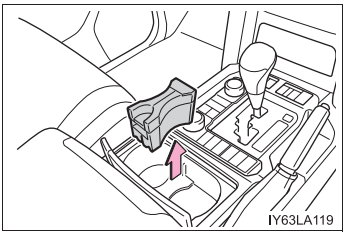
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■フロントカップホルダーの仕切り部を取りはずすには

ベース部分を持って仕切り部を引き上げます。

カップホルダー内を清掃するために、仕切り部を取りはずすことができます。



警告

■収納してはいけないもの

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。また、フタを閉じているときでも、ものを収納しないでください。
急ブレーキや事故により収納していたものが飛び出し、けがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

■カップホルダーを使わないときは

フタを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたフタが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

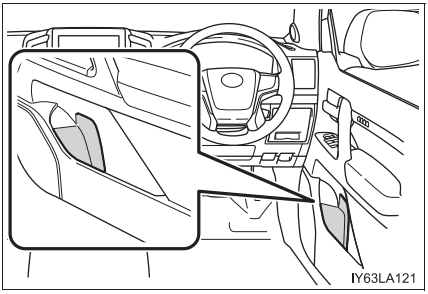
注意

■カップホルダーの破損を防ぐために

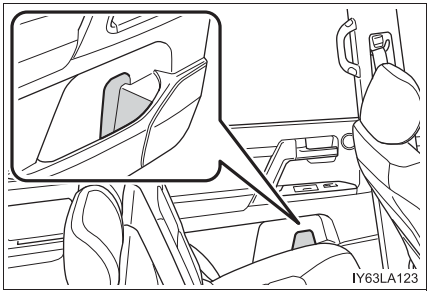
- カップホルダーのフタに手をついたり、足で踏んだりしないでください。
- リヤカップホルダーが出ている状態で、リヤアームレストを格納しないでください。

ボトルホルダー

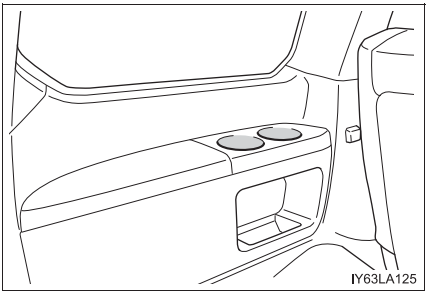
▶ フロントドア



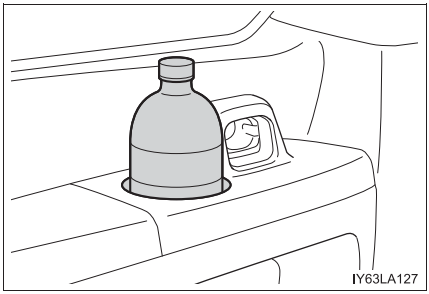
▶ リヤドア



▶ ラゲージルームサイド部（トノカバー非装着車）



▶ ラゲージルームサイド部（トノカバー装着車）



知識

■ボトルホルダーについて

●ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。

●ペットボトルの大きさ、形によっては収納できないことがあります。

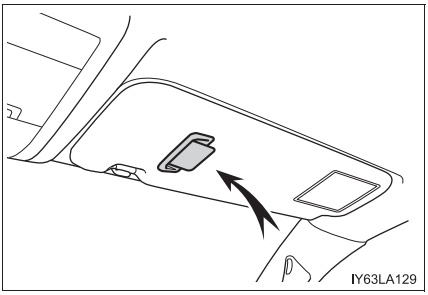
注意

■収納してはいけないもの

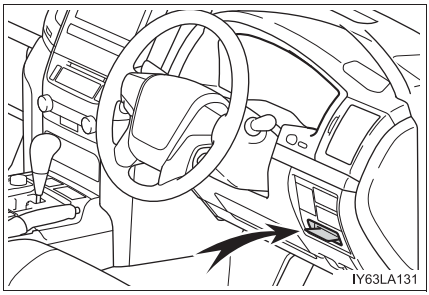
ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップやガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

カードホルダー

▶ サンバイザー（運転席側）



▶ 運転席横★



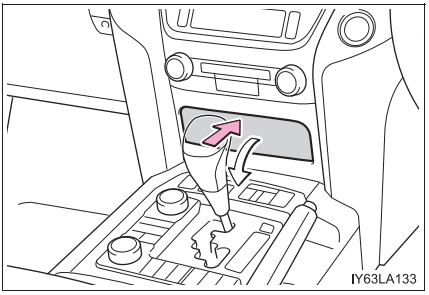
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

小物入れ

フロント部には、ワイヤレス充電機能が付くタイプと付かないタイプ（小物入れ）があります。

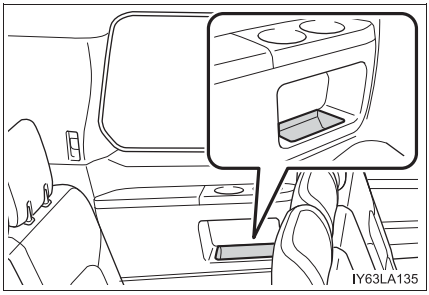
ワイヤレス充電器については、P. 426 を参照してください。

▶ フロント部★

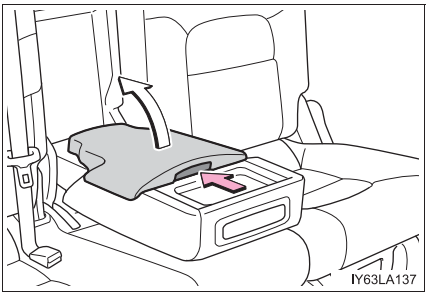


フタを押す

▶ リヤ部（A タイプ）



▶ リヤ部（B タイプ）（AX、ZX のみ）



フタを押す

※ イラストは 8 人乗り車で代表しています。

⚠ 警告

■走行中の警告

小物入れには、転がりやすいものや、凹面からはみ出るようなものを置かないでください。
急ブレーキ時などに収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

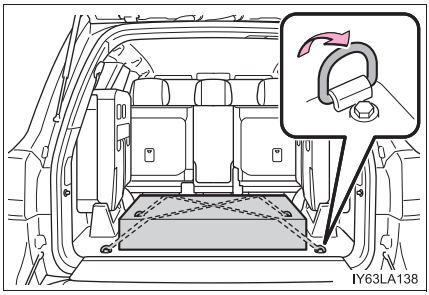
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ラゲージルーム内装備

カーゴフック

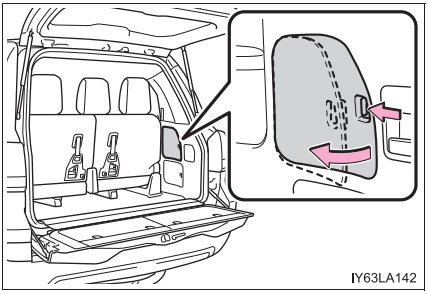
フックを起こして使用してください。

フックを使って、荷物を固定することができます。



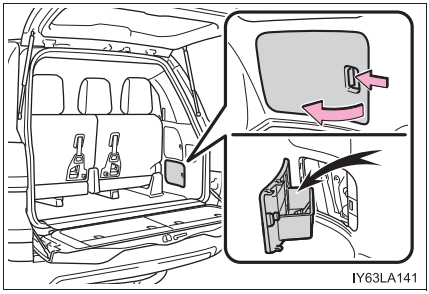
小物入れ★

▶ 上側



ツマミを押しながら、手前に引いてフタを開く

▶ 下側（フタ内側の収納ポケット）



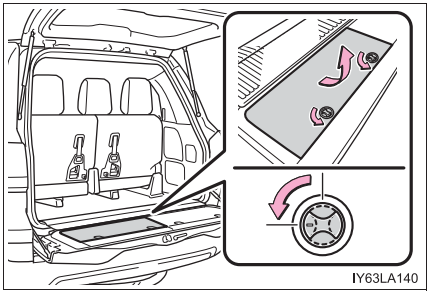
ツマミを押しながら、手前に引いてフタを開く

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

三角表示板等収納スペース

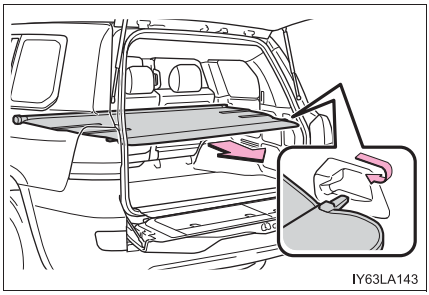
ダイヤルをまわしてロックをはずし、カバーを持ち上げて開く

三角表示灯等を収納し、中のバンドで固定します。



トノカバー★

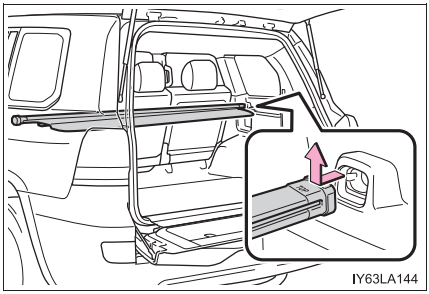
カバー部を手前に引き、左右のホルダーに取り付ける



■ トノカバーの取りはずし

トノカバー本体の両端を内側に押し込んで、ホルダーから取りはずす

取りはずしたあとは、車から降ろして保管してください。

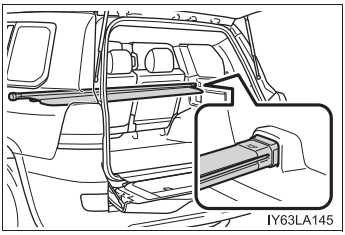


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■トノカバーを取り付けるときは★

両端の“TOP”を上にして取り付けてください。



⚠警告

- カーゴフックを使用しないときは、けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。
- 各収納スペースのフタを必ず閉じてください。
  急ブレーキ時などに収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- トノカバーの上には、お子さまが乗ったりしないようにしてください。
  トノカバーが破損しお子さまが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。（トノカバー装着車）
- トノカバーを操作するときは、トノカバーとまわりの部品のあいだに指や腕などを入れないように注意してください。指や腕を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。（トノカバー装着車）

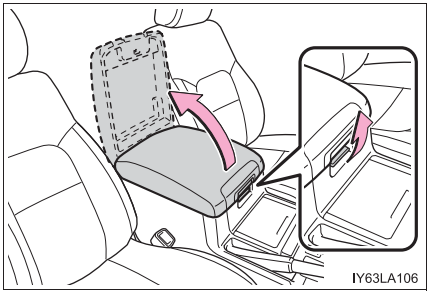
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

その他の室内装備

クールボックス★

エンジンがかかっているとき、エアコンを利用した保冷をすることができます。

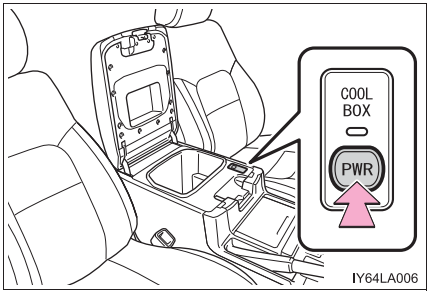
1 ノブを引き上げてロックを解除し、フタを持ち上げて開く



2 ON ／ OFF を切りかえる

クールボックスが ON のときは、作動表示灯が点灯します。

フロントエアコン停止中にクールボックスを ON にすると、自動的にフロントエアコンが作動します。



知識

■クールボックスが ON のとき

- フロントエアコンを停止することはできません。
- クールボックス内の温度を調整するために、一時的に作動停止する場合があります。

■外気温が約 0℃以下のとき

保冷機能が作動しない場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

クールボックスを開けたままにしないでください。
急ブレーキ時などに、開いたフタが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。

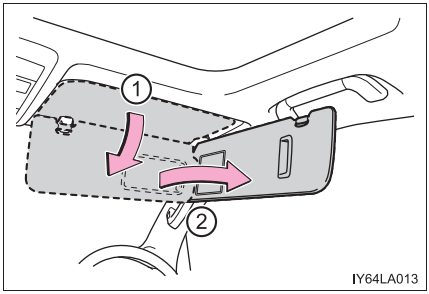
⚠ 注意

バッテリーあがりを防ぐために、エンジンが停止した状態で、クールボックスを長時間使用しないでください。

サンバイザー

① 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

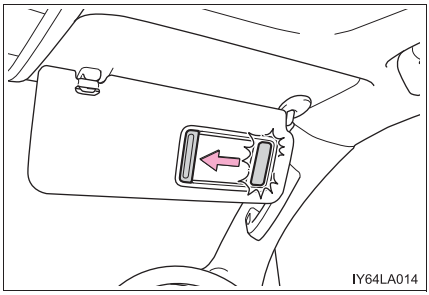
② 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす



バニティミラー

カバーをスライドして開ける

カバーを開けるとバニティミラーランプが点灯します。



知識

エンジンスイッチが OFF の場合、バニティミラーランプが点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

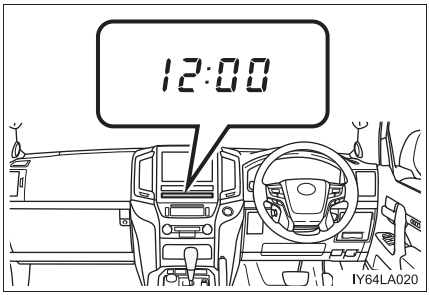
注意

バッテリーあがりを防ぐために、エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

時計

▶ ナビゲーションシステム装着車

メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車にお乗りの方は、別冊の「ナビゲーションシステム取扱書」をご覧ください。

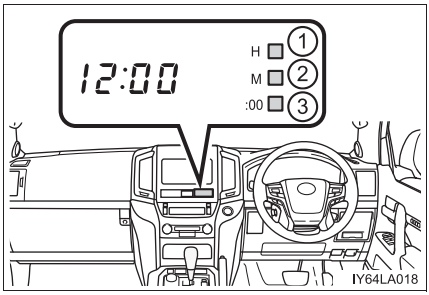


▶ ナビゲーションシステム非装着車

ボタンを押して時刻を調整することができます。

① “時” を調整する
② “分” を調整する
③ “分” を 00 にする※

※（例）1：00 ～ 1：29 → 1：00
1：30 ～ 1：59 → 2：00



知識

■作動条件

エンジンスイッチがアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードのとき

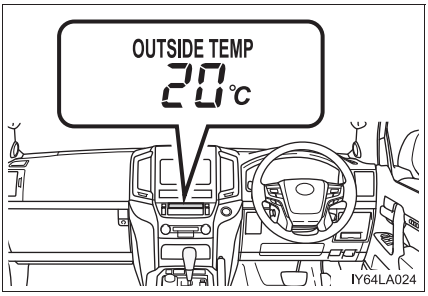
■バッテリー端子の脱着をしたとき（ナビゲーションシステム非装着車）

時計は自動的に 1：00 にセットされます。

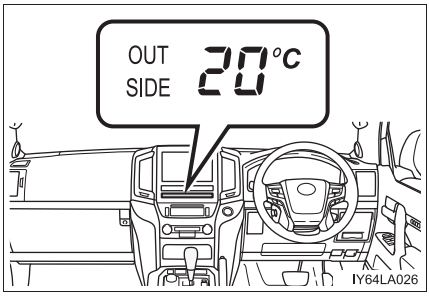
外気温度表示

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき、− 30 ℃から 50 ℃のあいだで表示されます。

▶ ナビゲーションシステム非装着車



▶ ナビゲーションシステム装着車



知識

■ “--” または “E” が表示されたときは

システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■表示について

次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

- 停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
- 外気温度が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出入り口付近など

アクセサリーソケット・アクセサリーコンセント★

次の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

アクセサリーソケット：
DC12V で最大電流 10A（最大消費電力 120W）以下の電気製品※

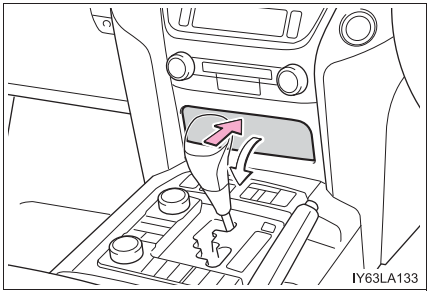
アクセサリーコンセント：
AC100V で最大消費電力 100W 以下の電気製品

※ 電気製品の使用時は、車両に装着されているすべてのアクセサリーソケットの合計で、最大消費電力が 120W 以下になるようにしてください。

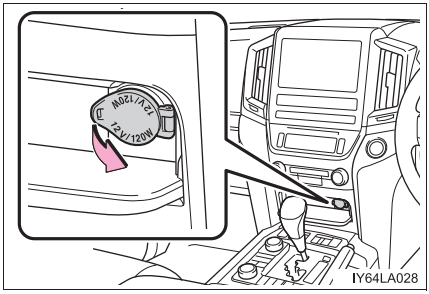
■ アクセサリーソケット

▶ フロント

フタを押す



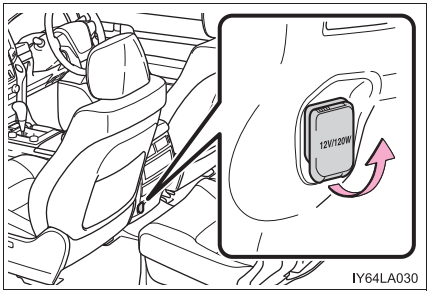
フタを開けて使用する



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

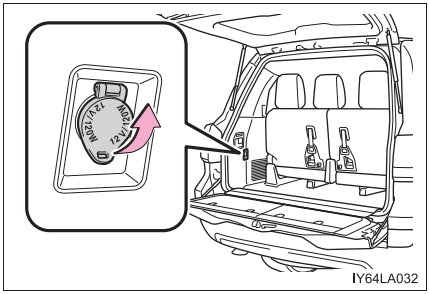
▶ リヤ

フタを開けて使用する



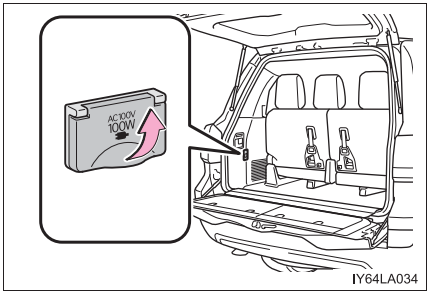
▶ ラゲージルーム（GX のみ）

フタを開けて使用する



■ **アクセサリーコンセント（AX、ZX のみ）**

フタを開けて使用する



知識

■**使用条件**

▶アクセサリーソケット

エンジンスイッチがアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードのとき

▶アクセサリーコンセント

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

⚠ 注意

■ショートや故障を防ぐために

挿し込み口に異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

■ヒューズが切れるのを防ぐために

▶アクセサリーソケット

DC12V で最大電流 10A（最大消費電力 120W）以上の電気製品を使用しないでください。

▶アクセサリーコンセント

AC100V で最大消費電力 100W 以上の電気製品を使用しないでください。消費電力が 100W をこえる電気製品を使用すると、保護回路が作動して電源を遮断します。この場合、コンセントをはずして消費電力が 100W 以下になれば使用することができます。

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、アクセサリーソケット・アクセサリーコンセントを長時間使用しないでください。

■正常に使用できないおそれのある電気製品（アクセサリーコンセント）

次のような AC100V の電気製品は、消費電力が 100W 以下の場合でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時のピーク電力が高い電気製品
- 精密なデータを処理する計測機器
- 電源周波数の切りかえ（50 ／ 60Hz）のある機器
- 極めて安定した電力供給を必要とするその他の電気製品

おくだけ充電（ワイヤレス充電器）★

ワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）によるワイヤレス充電規格 Qi に適合した携帯電話やスマートフォンなどの携帯機器を充電エリアに置くだけで、携帯機器を充電することができます。

充電エリアより大きい携帯機器には本機能を使用できません。また、携帯機器によっては、正常に作動しない場合があります。
ご使用になる携帯機器に付属の取扱説明書もお読みください。

■「Qi」マークについて

「Qi」および Qi マークは、ワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）の登録商標です。

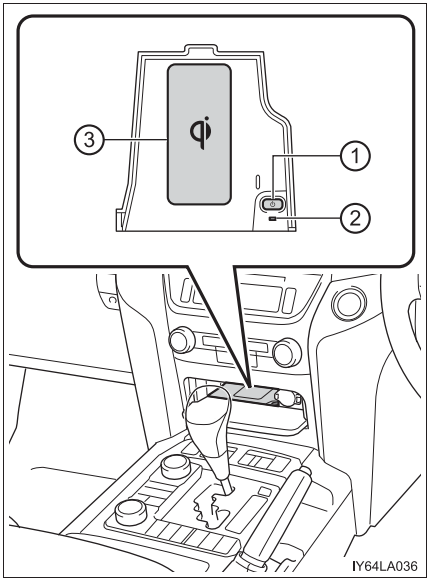
■「おくだけ充電」マークについて

「おくだけ充電」および「おくだけ充電」マークは、株式会社 NTT ドコモの登録商標です。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

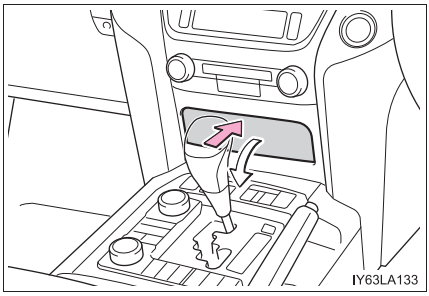
■ 各部の名称

① 電源スイッチ
② 作動表示灯
③ 充電エリア



■ 充電する

1 フタを押す

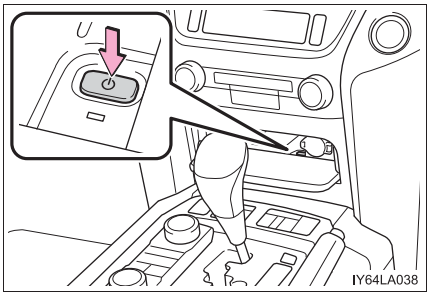


2 電源スイッチを押す

押すごとにONとOFFに切りかわります。

ON にすると作動表示灯が緑色に点灯します。

ワイヤレス充電器の電源の状態(ON／OFF)はエンジンスイッチを OFF にしても記憶されます。

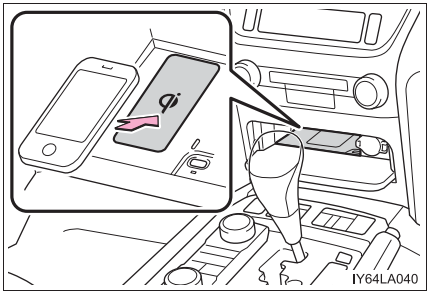


3 充電エリアに携帯機器を置く

携帯機器の充電面が下になるように置いてください。

充電中は作動表示灯が橙色に点灯します。

充電が行われないときは、できるだけ充電エリアの中央付近に携帯機器を置き直してください。



充電が完了すると作動表示灯が緑色に点灯します。

● 再充電機能

・ 充電が完了し、充電停止状態が一定時間経過すると充電を再開します。

・ 携帯機器が移動すると、いったん充電が停止しますが、ただちに充電を再開します。

■ 作動表示灯の点灯状況

作動表示灯	状況
消灯	ワイヤレス充電器の電源が OFF のとき
緑（点灯）	待機中（充電可能状態）
	充電完了時※
橙（点灯）	充電エリアに携帯機器を置いたとき（携帯機器を検出中）
	充電中

※ 携帯機器によっては、充電完了後も表示灯が橙色に点灯し続ける場合があります。

● 作動表示灯が点滅したときは

エラーが発生すると作動表示灯が橙色に点滅します。次の表に基づき、対処をしてください。

作動表示灯	想定される原因	対処方法
1 秒間に 1 回の点滅をくり返す（橙色）	**ワイヤレス充電器の故障**	トヨタ販売店へお問い合わせください。
3 回連続の点滅をくり返す（橙色）	**異物検知** 携帯機器と充電エリアの間に異物がある	携帯機器と充電エリアの間にある異物を取り除いてください。
	携帯機器のずれ 置かれた場所から携帯機器がずれている	携帯機器を充電エリアの中央付近に置き直してください。
4 回連続の点滅をくり返す（橙色）	**ワイヤレス充電器内の温度上昇**	いったん充電を停止し、しばらく待ってから充電を開始してください。

知識

■作動条件

エンジンスイッチがアクセサリーモードまたはイグニッションONモードのとき

■使用できる携帯機器について

- ワイヤレス充電規格 Qi 準拠機器を使用できます。ただし、すべての Qi 準拠機器と互換性を保証しているものではありません。
- 携帯電話やスマートフォンをはじめとする携帯機器を対象とした 5W 以下の低電力給電を対象としています。

■スマートエントリー&スタートシステムの使用について

スマートエントリー&スタートシステムが作動中は、一時的に充電が停止することがありますが、異常ではありません。

■携帯機器にカバーやアクセサリーを付けるときは

携帯機器に、「Qi」非対応のカバーやアクセサリーを付けた状態で充電しないでください。カバーやアクセサリーの種類によっては充電できない場合があります。充電エリアに携帯機器を置いても充電が行われないときは、カバーやアクセサリーをはずしてください。

■充電中に、AM ラジオにノイズが入るときは

ワイヤレス充電器の電源を OFF にして、ノイズが低減するか確認してください。ノイズが低減する場合は、充電中にワイヤレス充電器の電源スイッチを約 2 秒間押し続けることで、充電の周波数を切りかえてノイズを低減することができます。
また、その際、作動表示灯が橙色に 2 回点滅します。

■充電中の留意事項

充電中は、ワイヤレス充電器と携帯機器が温かくなりますが、異常ではありません。
充電中に携帯機器が温かくなったときは、携帯機器側の保護機能により、充電が停止することがあります。この場合、携帯機器の温度が十分に下がってから、再度、充電を行ってください。

■作動中の音について

電源スイッチを押して電源を ON にしたときや、携帯機器を検出中は“ジー”と作動音がしますが、異常ではありません。

⚠ 警告

■運転中に携帯機器の操作をしないでください

携帯機器を充電する場合、安全のため、運転者は運転中に携帯機器本体の操作をしないでください。

■電波がおよぼす影響について

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器などの医療用電気機器を装着されている方は、ワイヤレス充電器のご使用にあたっては医師とよくご相談ください。ワイヤレス充電器の動作が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。

■故障や火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと装置の故障や損傷、車両火災、発熱によるやけど、または感電につながるおそれがあります。

- 充電エリアと携帯機器の間に金属物をはさまない
- 小物入れがわりにものを置かない
- 強い力や衝撃をかけない
- 分解や改造、取りはずしをしない
- 指定された携帯機器以外は充電しない
- 磁気を帯びたものを近付けない
- 充電エリアに、ほこりがかぶった状態で充電しない
- ワイヤレス充電器に異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておく
- 布などをかぶせて充電しない
- 充電エリアにアルミなどのシールや金属製のものを貼り付けない

⚠ 注意

■機能が正常に働かないおそれのある状況

次のような場合は正常に充電しない場合があります。

- ●携帯機器が満充電
- ●充電エリアと携帯機器の間に異物がある
- ●充電により、携帯機器の温度が高温になっている
- ●携帯機器の充電面を上にして置いた
- ●携帯機器の置き場所が充電エリアからずれている
- ●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- ●携帯機器が、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
  - ・アルミ箔などの金属の貼られたカード
  - ・アルミ箔を使用したタバコの箱
  - ・金属製の財布やかばん
  - ・小銭
  - ・カイロ
  - ・CD や DVD などのメディア
- ●近くで電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

また、上記以外で、充電が正常に行われない、または、作動表示灯が点滅したままのときは、ワイヤレス充電器の異常が考えられます。トヨタ販売店へお問い合わせください。

■磁気カードや磁気記録メディア、精密機器などを近付けないでください。

充電エリアにクレジットカード・ETC カードなどの磁気カードや磁気記録メディアなどを近付けると、磁気の影響によりデータが消えることがあります。また、腕時計などの精密機器を近付けると、こわれたりすることがありますので、近付けないでください。

■バッテリーあがりを防止するために

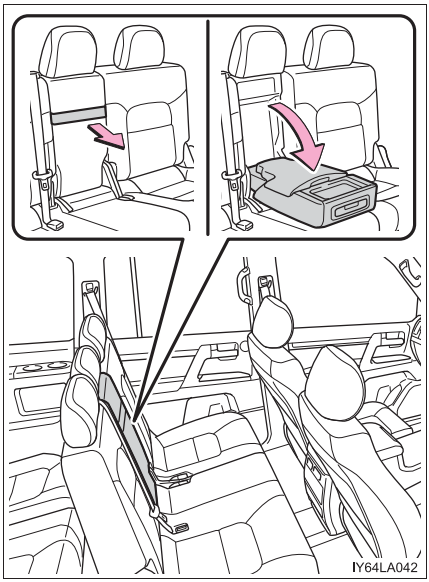
エンジンを停止した状態で、ワイヤレス充電器を長時間使用しないでください。

■携帯機器は車室内に放置しないでください

炎天下など、車室内が高温となり、故障の原因となります。

アームレスト（セカンドシート）★

手前に倒して使用します。

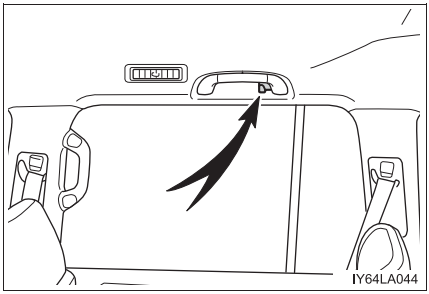


⚠ 注意

アームレストの破損を防ぐために、過度の負荷をかけないでください。

コートフック

リヤドアの上にあるアシストグリップには、コートフックが付いています。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

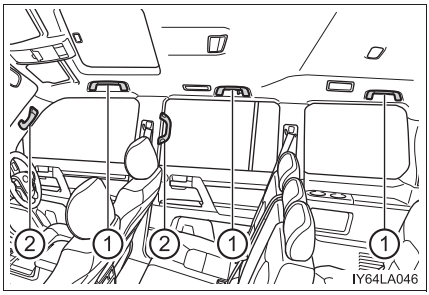
ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

アシストグリップ

アシストグリップ（回転式）は、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。

乗降時などでは、アシストグリップ（固定式）をお使いください。

① アシストグリップ（回転式）
② アシストグリップ（固定式）



⚠ 警告

アシストグリップ（回転式）は、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。

⚠ 注意

破損を防ぐために、アシストグリップに重いものをかけたり、過度の負荷をかけないでください。

お手入れのしかた 6

6-1. お手入れのしかた
外装の手入れ.....438
内装の手入れ.....442
6-2. 簡単な点検・部品交換
ボンネット.....445
エンジンルームカバー.....447
ウォッシャー液の補充.....449
タイヤについて.....450
タイヤ空気圧について.....458
エアコンフィルターの清掃・交換.....460
電子キーの電池交換.....462
ヒューズの点検・交換.....464
電球（バルブ）の交換.....467

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

  ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■自動洗車機を使うときは

- ドアミラーを格納し、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。
- 洗車機によっては、リヤスポイラーが引っかかり洗車できない場合や、傷付いたり、破損したりするおそれがあります。
- 自動洗車機に入れる前に、車両の給油口がしっかり閉まっていることを確認してください。

■高圧洗車機を使うときは

●車内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近付けすぎないでください。

●洗車の前に給油口が確実に閉まっていることを確認してください。

●駆動系部品（ディファレンシャルギヤなど）のベアリングやオイルシール部品に近付けすぎないでください。
近付けすぎると、水圧が高いため、内部への水入りやグリス流出により、性能が劣化するおそれがあります。

■アルミホイール

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。

●夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。

●洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■フロントドアガラスの撥水コーティングについて

●撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。

・ フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす
・ 汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
・ コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
・ 金属製の道具で霜取りをしない

●水滴のはじきが悪くなったときは補修することができます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

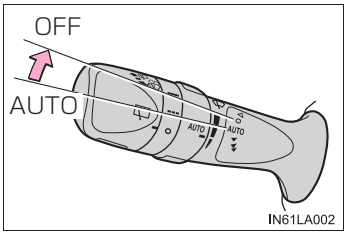
⚠ 警告

■洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■フロントウインドウガラスを清掃するときは（雨滴感知式ワイパー装着車）

ワイパースイッチを OFF にしてください。
AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。



- 雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき
- 水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき
- フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき
- 車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

■排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■ブラインドスポットモニター★について

リヤバンパーの塗装に傷がつくと、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。トヨタ販売店にご相談ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

●次のような場合はただちに洗車してください。

・ 海岸地帯を走行したあと
・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
・ コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
・ ばい煙･油煙･粉じん･鉄粉･化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
・ ほこり・泥などで激しく汚れたとき
・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ランプの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ランプを損傷させるおそれがあります。

●ランプにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■自動洗車機を使用するときは（雨滴感知式ワイパー装着車）

ワイパースイッチを OFF にしてください。AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

■高圧洗浄機を使用するときは

ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。
高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。

・ 駆動系部品
・ ステアリング部品
・ サスペンション部品
・ ブレーキ部品

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

車内の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約１%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
  水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る
  ウール用の中性洗剤を約 5% の水溶液までうすめたものを使用してください。
- 真水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

合成皮革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約１%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布かスポンジを使って洗ってください。
シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

⚠ 警告

■車両への水の浸入

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
  電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や配線などをぬらさないでください。(→ P. 37)
  電気の不具合により、エアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。

⚠ 注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

・シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
・シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他のアルカリ性や酸性の溶剤

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次の注意をお守りください。

●革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く

●直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する

●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは

Toyota Safety Sense P 用カメラ（→P. 231）にさわらないように注意してください。
誤って傷を付けたり衝撃を与えたりすると、Toyota Safety Sense P の誤作動や故障につながるおそれがあります。

■フロントウインドウガラス・リヤウインドウガラス・リヤクォーターガラスの内側を掃除するときは

●熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

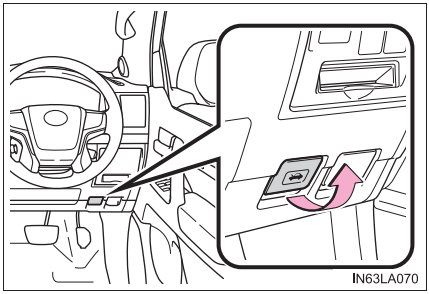
●熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

ボンネット

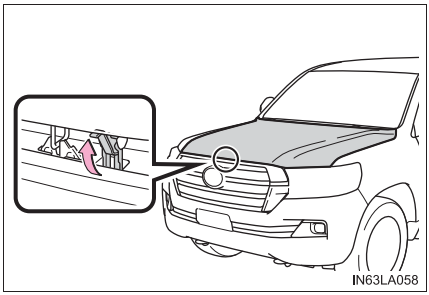
車内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

1 ボンネット解除レバーを引く

ボンネットが少し浮き上がります。



2 レバーを引き上げてボンネットを開ける



知識

■バッテリー端子をはずすときは

バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

■走行前の確認

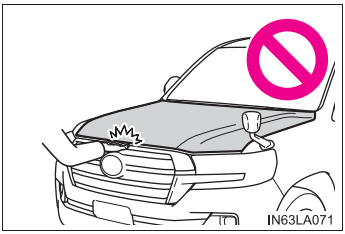
ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■エンジンルームを点検したあとは

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ボンネットを閉めるときは

手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



⚠ 注意

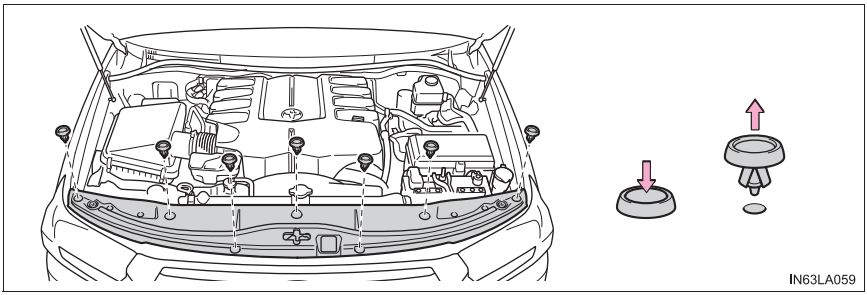
■ボンネットやダンパーステーへの損傷を防ぐために

- ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。
- ボンネットには、ボンネットを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。
  - ・ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
  - ・ロッド部を軍手などでふれない
  - ・ボンネットにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を付けない
  - ・ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

エンジンルームカバー

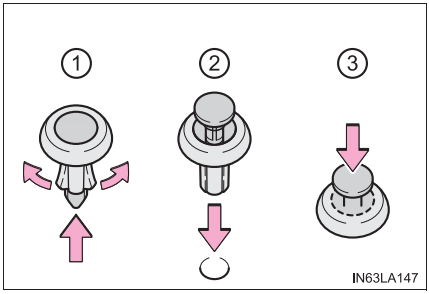
メンテナンス時など、必要に応じて取りはずすことができます。

エンジンルームカバーの取りはずし方



クリップの取り付け方

① 広げる
② 挿し込む
③ 押す



⚠ 警告

■けがを防ぐために

エンジンルームカバーを取りはずす前に、エンジンスイッチを OFF にしてください。熱くなった部品でやけどをしたり、作動中の部品に巻き込まれて重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

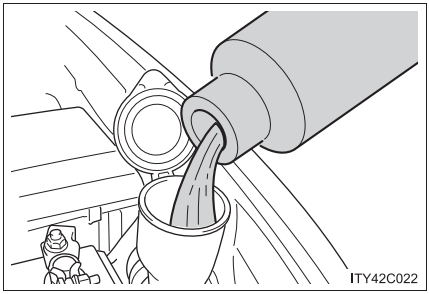
■エンジンルームカバーを取り付けたあとは

もとの場所に確実に取り付けられていることを確認してください。

ウォッシャー液の補充

補充のしかた

ウォッシャー液が出なかったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたら、ウォッシャー液を補充してください。



⚠ 警告

■ ウォッシャー液を補充するときは

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補充しないでください。
ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くおそれがあります。

■ ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

- タイヤ空気圧

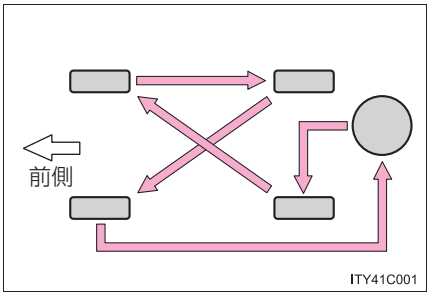
  空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。
- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

タイヤローテーションのしかた

図で示すようにタイヤのローテーションを行う

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

タイヤローテーション後は、タイヤ空気圧警報システムの初期化を確実に行ってください。



タイヤ空気圧警報システム★

ディスクホイールに装着された空気圧バルブ、および送信機が一定周期ごとに各輪のタイヤ空気圧を監視し、タイヤの空気圧の低下を早期に知らせるタイヤ空気圧警報システムが付いています。

- 空気圧が一定値をこえて低下している場合、画面表示と警告灯で警報します。(→ P. 496)
- タイヤ空気圧警報システムが検知した空気圧をマルチインフォメーションディスプレイに表示できます。

◆ 空気圧バルブ／送信機の装着について

タイヤやホイールを交換するときは、付けかえたホイールにも空気圧バルブ／送信機を装着してください。

新しいバルブ／送信機を装着する場合は専用のIDコードをコンピューターに登録する必要があります。登録の際は、トヨタ販売店へご依頼ください。(→ P. 452)

◆ タイヤ空気圧警報システム★の初期化

■ 初期化が必要な場合

- タイヤサイズの変更などにより、タイヤの指定空気圧が変更になった場合
- タイヤローテーションを実施した場合

システムを初期化すると、現在のタイヤの空気圧が標準値として記憶されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 初期化のしかた

1 車を安全な場所に駐車し、エンジンを停止する

車両が動いているときは、初期化できません。

2 タイヤの空気圧を指定の数値に調整する（→ P. 538）

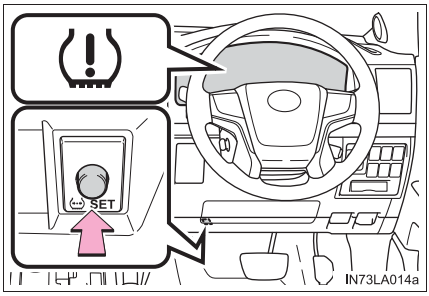
タイヤ空気圧の調整はタイヤが冷えた状態で行ってください。タイヤ空気圧警報システムは、この空気圧を基準として作動します。

3 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

4 タイヤ空気圧警告灯が 3 回点滅するまでリセットスイッチを押し続ける

マルチインフォメーションディスプレイのタイヤ空気圧表示が「--」になり、タイヤの位置判定を開始します。

位置判定が終了すると、再びタイヤ空気圧が表示されます。



5 約 40km/h 以上で約 10 ～ 30 分走行すると、タイヤの空気圧がマルチインフォメーションディスプレイに表示され、初期化は終了します。

車両状態や走行条件、走行環境によっては、初期化に約 1 時間かかる場合があります。

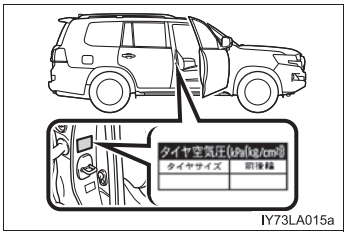
◆ ID コードの登録について

タイヤ空気圧バルブ／送信機には固有の ID コードが設定されており、タイヤ空気圧バルブ／送信機の交換時は、車両のコンピューターに ID コードを登録する必要があります。
ID コードの登録については、トヨタ販売店にご依頼ください。

知識

■タイヤ空気圧の数値

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。



タイヤサイズ	空気圧※ [kPa（kg/cm²）]	
	前輪	後輪
275/65R17 115S	230 (2.3)	230 (2.3)
285/6R18 116H	230 (2.3)	230 (2.3)
285/50R20 112H	230 (2.3)	230 (2.3)

※ タイヤが冷えているときの空気圧

■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■ホイールごとタイヤを交換するとき（タイヤ空気圧警報システム装着車）

タイヤ空気圧バルブ／送信機の ID コードが登録されていないと、タイヤ空気圧警報システムは正しく作動しません。その場合、約 10 分走行したあとシステム異常となり、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅、その後点灯します。

■タイヤ空気圧警報★システムについて

タイヤ空気圧警報システムは、日常点検の代用ではありません。
日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの点検方法は、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■タイヤ空気圧警報システム★が正常に働かないおそれのある状況

●次の場合は、タイヤ空気圧警報システムが正しく作動しない場合があります。

・純正ホイール以外を使用したとき
・純正装着タイヤ以外に交換したとき
・指定サイズ以外のタイヤに交換したとき
・タイヤチェーンなどを装着しているとき
・中子式ランフラットタイヤを装着しているとき
・電波を遮断するフィルムがウインドウに貼り付けられているとき
・車両（特にホイール・ホイールハウスの周辺）に多くの雪や氷などが付着しているとき
・タイヤ空気圧警報バルブ／送信機を搭載していないホイールを使用しているとき
・タイヤ空気圧警報バルブ／送信機の ID がタイヤ空気圧警報コンピューターに登録されていないとき

●次の場合は正しい性能が確保できない場合があります。

・近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港など、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器が車両付近にあるとき

●停車時は警報開始・警報解除までの時間が長くなる場合があります。

●タイヤが破裂（バースト）したときなど、空気圧が急激に低下したときは、警報できない場合があります。

■初期化操作について（タイヤ空気圧警報システム装着車）

●必ず指定空気圧に調整した上で初期化してください。
なお、空気圧の調整および初期化操作は、タイヤが冷えた状態で行ってください。

●初期化中にエンジンスイッチを OFF にしてしまった場合は、次回イグニッション ON モードにしたとき、自動的に初期化処理が再開されるため、あらためてリセットスイッチを押し直す必要はありません。

●初期化の必要がない状態で誤ってリセットスイッチを押してしまったときは、タイヤが冷えている状態で指定空気圧に調整し、再度初期化操作を行ってください。

●タイヤ位置判定中にタイヤ空気圧が表示されない場合でも、空気圧低下時はタイヤ空気圧警告灯が点灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■タイヤ空気圧警報システム★の初期化がうまくいかないとき

未舗装の場所では初期化に時間がかかる場合があるため、できるだけ舗装された場所を走行してください。走行環境やタイヤの状態によりますが、通常約 10 分で終了します。約 10 分走行しても終了しない場合は、しばらく走行を続けてください。約 1 時間走行し続けてもタイヤ空気圧が表示されない場合は、次の方法で走行してください。

- 安全な場所に約20分間停車したあと、約40km/h以上で適度に右左折や直進をしながら約 10 ～ 20 分走行する。

ただし、次の場合は、初期化されておらずシステムが適切に働かないおそれがありますので、初期化し直してください。

- スイッチ操作時に警告灯が3回点滅しない場合（走行中は初期化を受け付けません）
- 初期化してから約20分走行したあと、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅後点灯した場合。

■タイヤ空気圧警報システム★の警報作動について

タイヤ空気圧警報システムの警報は走行状況によってかわります。このため、タイヤ空気圧が低いレベルに達していないときや、初期化したときのタイヤ空気圧より高いときでも、警報することがあります。

■ID コードの登録について

車 1 台に対して、最大 2 セット分のホイールの ID コードを登録することができます。通常使用するタイヤとは別に、冬用タイヤを装着したホイールの ID コードをあらかじめ登録しておけば、冬用タイヤへの交換時に ID コードを登録しなおす必要がなく、便利です。
ID コードの切りかえについては、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

■点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

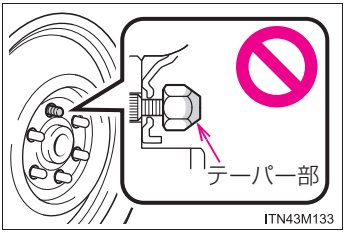
- ●破裂などの修理できない損傷を与える
- ●車両が横すべりする
- ●車の本来の性能（燃費・車両の方向安定性・制動距離など）が発揮されない

■タイヤ空気圧警報システム★を初期化するとき

必ず指定空気圧に調整してからリセットスイッチを押してください。
お守りいただかないと、タイヤ空気圧が低下してもタイヤ空気圧警告灯が点灯しない、または適切な空気圧でもタイヤ空気圧警告灯が点灯してしまうことがあります。

■タイヤ交換時の注意

- ●必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。
  テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ●ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。
  ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

■異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■走行中に空気もれが起こったら

走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■タイヤ・ホイール・空気圧バルブ／送信機（タイヤ空気圧警報システム装着車）・バルブキャップの修理・交換

- タイヤをホイールから脱着する際は、空気圧バルブ／送信機が損傷しないよう注意してください。脱着手順の詳細は、トヨタ販売店へご相談ください。
- トヨタ指定の純正ホイールを使用してください。
  トヨタ指定の純正ホイール以外を使用すると、空気圧警報システムが正しく作動しないおそれがあります。
- ホイールを交換したときは、空気圧バルブ／送信機を装着してください。空気圧バルブ／送信機が装着されていないと、タイヤ空気圧警告灯が消灯しません。
- バルブキャップを必ず取り付けてください。バルブキャップをはずしていると、水が浸入してバルブが固着する場合があります。
- バルブキャップを交換するときは、指定以外のバルブキャップを使用しないでください。バルブキャップが固着するおそれがあります。

■パンク修理剤を使用したとき

- 空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、空気圧バルブ／送信機を交換してください。

■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。(→ P. 538)

知識

■タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
  タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

⚠ 警告

■ タイヤの性能を発揮するために

適正なタイヤ空気圧を維持してください。
タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気漏れ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
  （路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

⚠ 注意

■ タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。
バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気が漏れ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

エアコンフィルターの清掃・交換

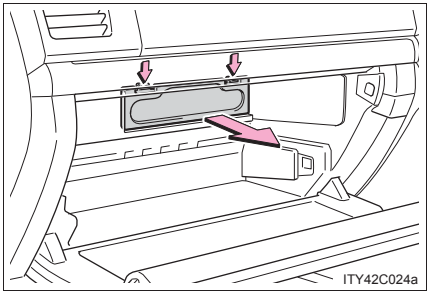
エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に清掃、または交換してください。

交換のしかた

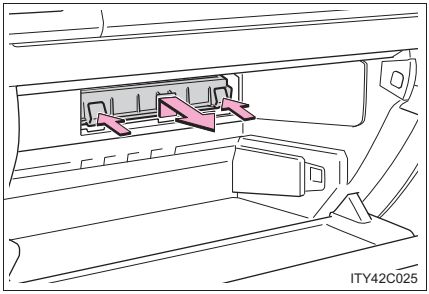
1 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにし、内気循環に切り替えて、エンジンスイッチを OFF にする

2 グローブボックスを開き、仕切り板を取りはずす（→ P. 407）

3 フィルターカバーを取りはずす

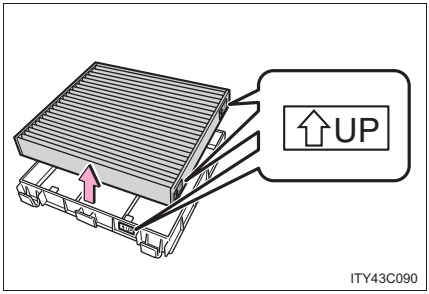

ITY42C024a

4 フィルターケースを取りはずす


ITY42C025

5 フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。



ITY43C090

6 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■エアコンフィルターの清掃・交換について

エアコンフィルターは下記の時期を目安に清掃、または交換してください。

清掃：15,000km［7,500km※］ごと
交換：30,000km［15,000km※］ごと

※ 大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目づまりが考えられますので、フィルターを清掃、または交換してください。
なお、フィルターの清掃については、トヨタ販売店にご相談ください。

注意

■エアコンを使用するときの注意

フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。

■エアコンフィルターを交換するときの注意

必ずエンジンスイッチが OFF の状態でおこなってください。

電子キーの電池交換

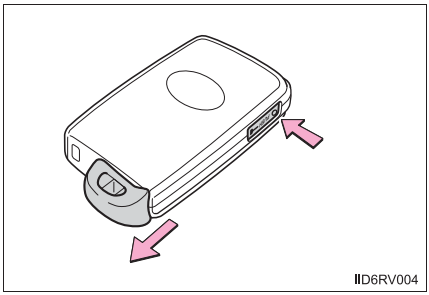
電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

用意するもの

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバーなど
- リチウム電池 CR2032

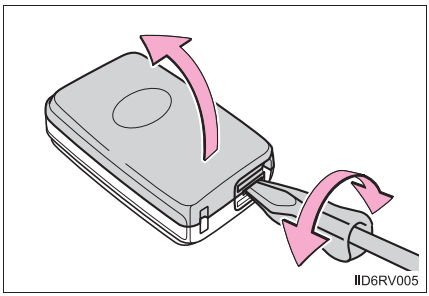
電池交換のしかた

1 メカニカルキーを抜く



2 カバーをはずす

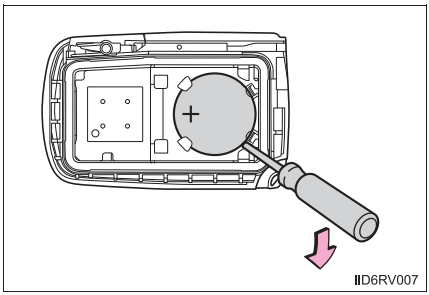
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



3 消耗した電池を取り出す

カバーをはずしたときに、上側のカバーに電子キーのモジュールが貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子キーのモジュールをひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。

新しい電池は、＋ 極を上にして取り付けます。



4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■リチウム電池 CR2032 の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

■電池が消耗していると

次のような状態になります。

- スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

■キーの電池を交換したときは

キーのスイッチを押し、本体の LED が点灯することを確認します。

⚠ 警告

■取りはずした電池と部品について

お子さまにさわらせないでください。
部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない
  錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

ヒューズの点検・交換

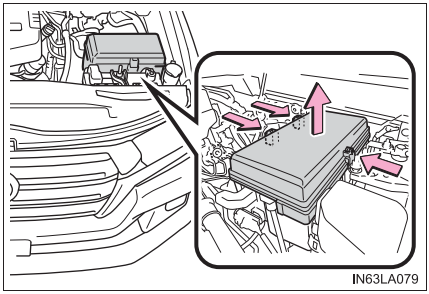
ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

1 エンジンスイッチを OFF にする

2 ヒューズボックスを開ける

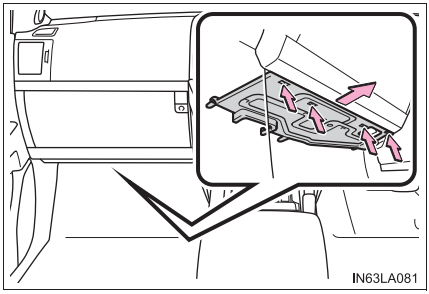
▶ エンジンルーム

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

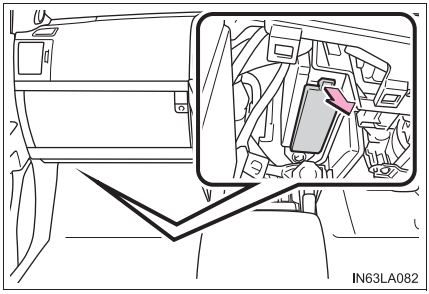


▶ 助手席足元

① 足元のカバーを取りはずす

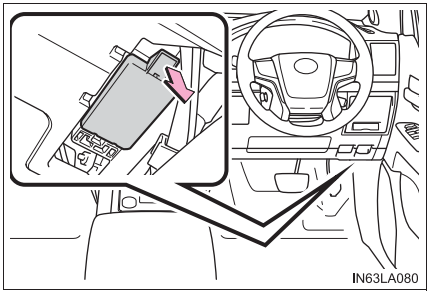


② ヒューズボックスカバーを取りはずす



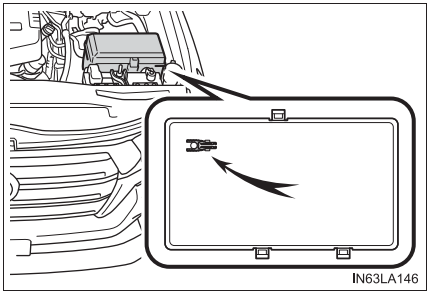
▶ 運転席足元★

カバーを取りはずす



3 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。

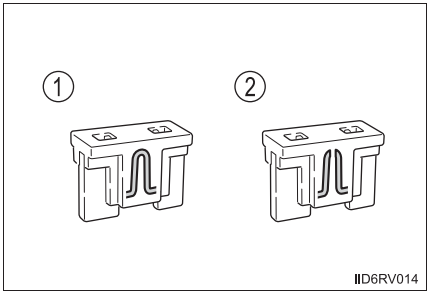


4 ヒューズが切れていないか点検する

① 正常

② ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ヒューズを交換したあと

●交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。（→P. 467）

●交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■電球（バルブ）を交換するときは

この車両に指定されているトヨタ純正品のご使用をおすすめします。一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のトヨタ純正品以外は使用できない場合があります。

⚠ 警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。

●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

⚠ 注意

■ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

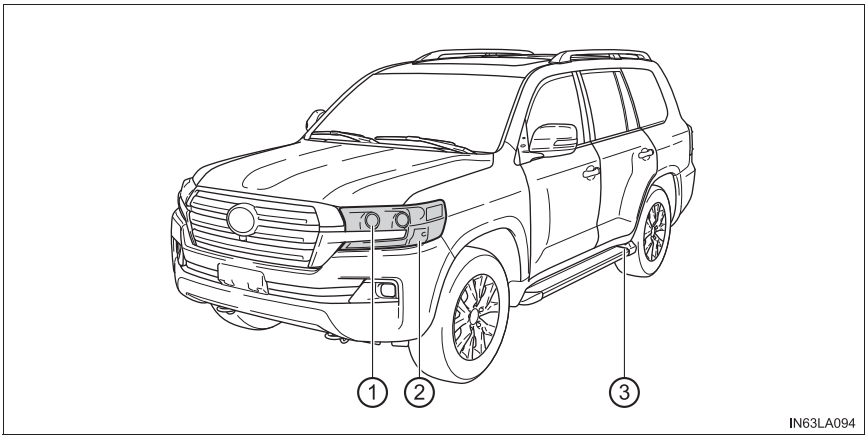
次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

電球の用意

切れた電球のW（ワット）数を確認してください。（→P. 538）

バルブ位置

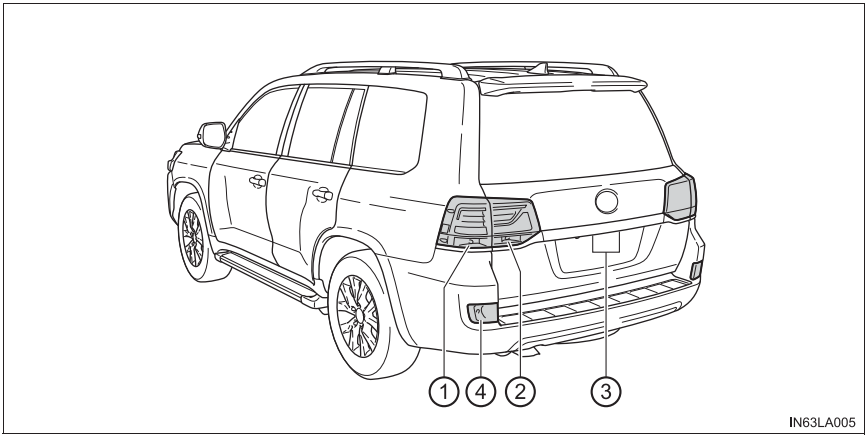
■ フロント



① ヘッドランプハイビーム※
② フロント方向指示／非常点滅灯
③ サイドステップ照明★

※（ハロゲンバルブ装着車）

■ リヤ



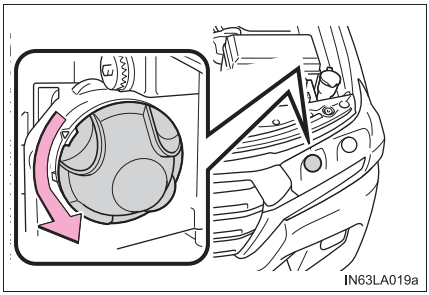
① リヤ方向指示灯／非常点滅灯
② 後退灯
③ 番号灯
④ リヤフォグランプ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

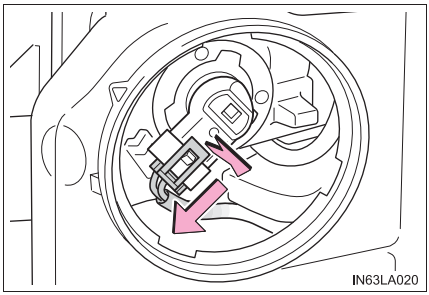
電球交換のしかた

■ ヘッドランプハイビーム（ハロゲンバルブ装着車）

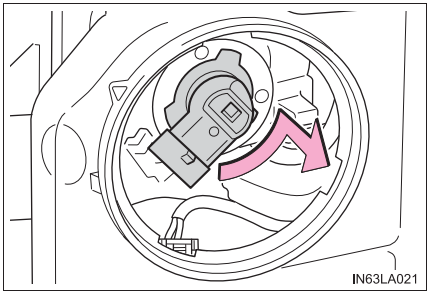
1 カバーを取りはずす



2 コネクターを取りはずす

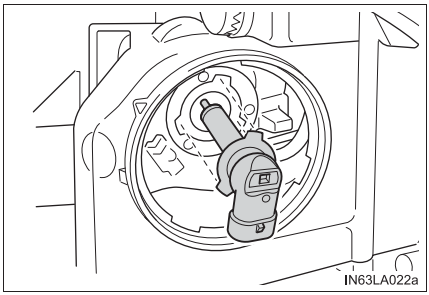


3 電球を取りはずす

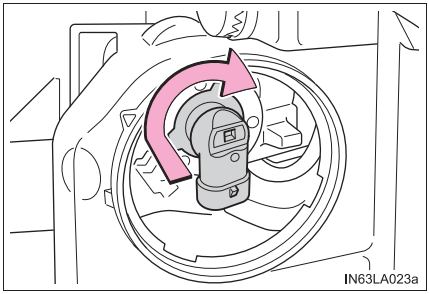


4 電球を交換する

取り付け部と電球のツメ（3 か所）を合わせて挿し込みます。

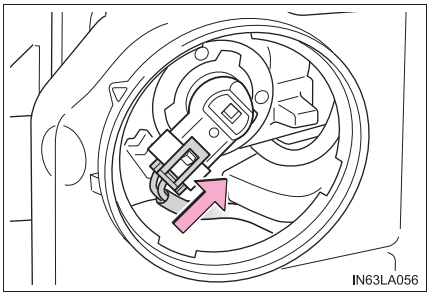


5 電球を取り付ける



6 コネクターを取り付ける

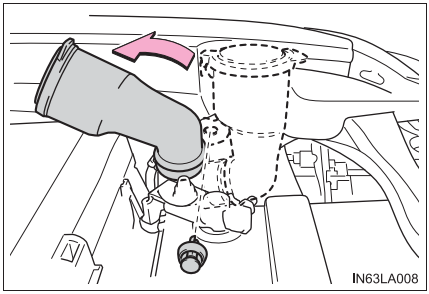
電球を軽くゆさぶってぐらつきがないことを確認し、いったんヘッドランプを点灯させ、電球の取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。



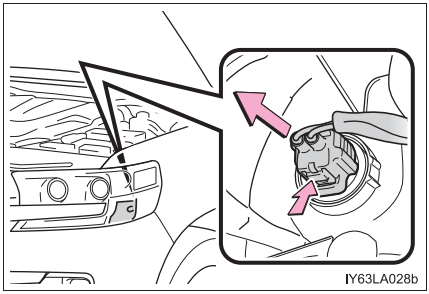
7 カバーを取り付けるときは、1 と逆の手順で取り付ける

■ フロント方向指示灯／非常点滅灯

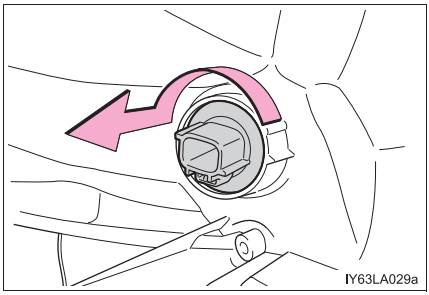
1 助手席側の交換時は、ウォッシャー液補給口の固定クリップ（1 個）をはずし、補給口を車両後方に傾ける



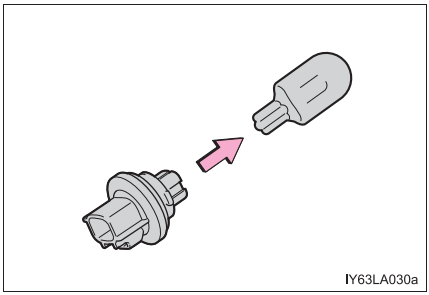
2 コネクターを取りはずす



3 ソケットを取りはずす



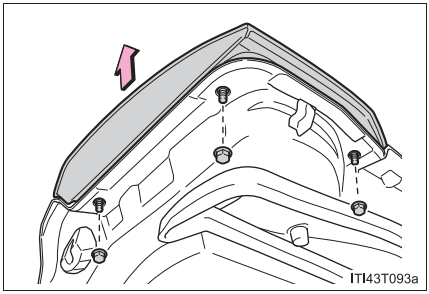
4 電球を取りはずす



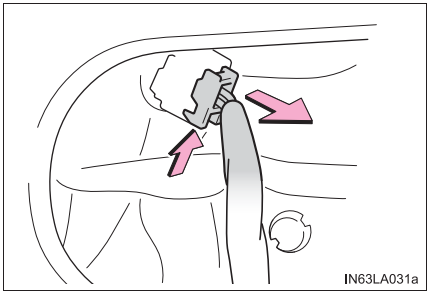
5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 後退灯

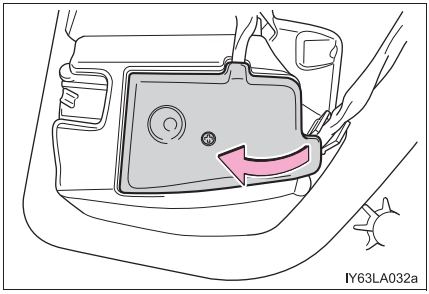
1 バックドアを開け、ナット（3個）をはずし、ランプ本体をはずす



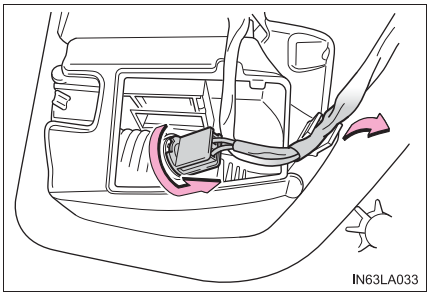
2 コネクターを取りはずす



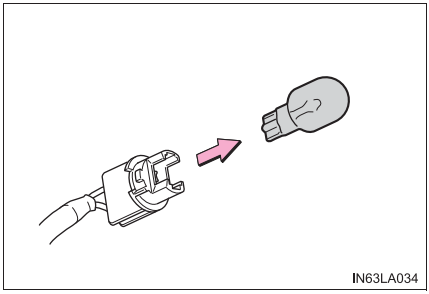
3 カバーをはずす



4 ハーネスを取りはずし、ソケットを取りはずす



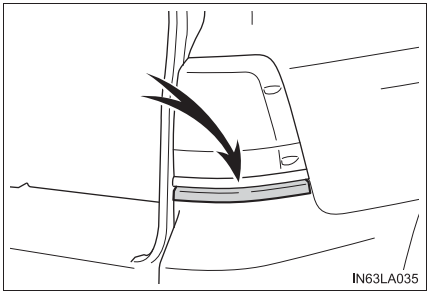
5 電球を取りはずす



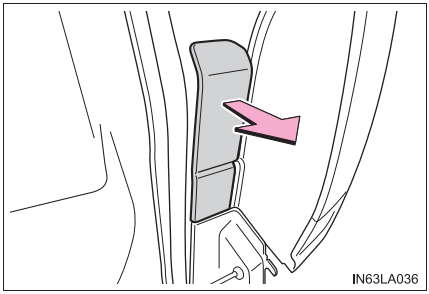
6 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ リヤ方向指示灯／非常点滅灯

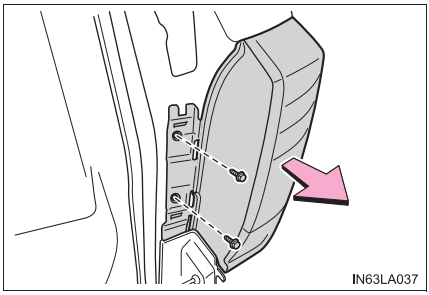
1 バックドアを開け、ランプ本体の下側に保護テープを貼る



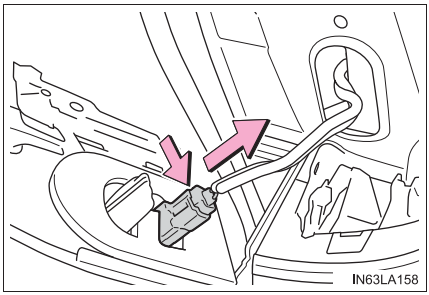
2 カバーを取りはずす



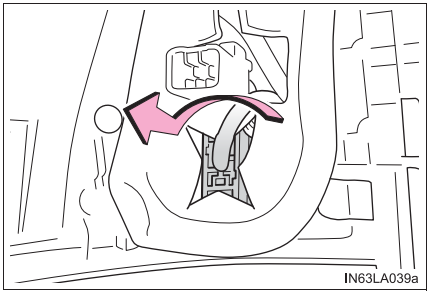
3 ボルト（2 本）をはずしランプ本体をはずす



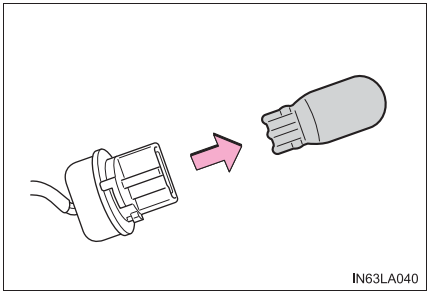
4 コネクターを取りはずす



5 ソケットを取りはずす



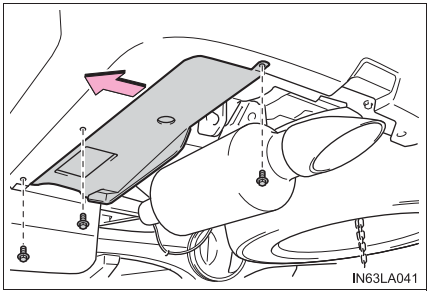
6 電球を取りはずす



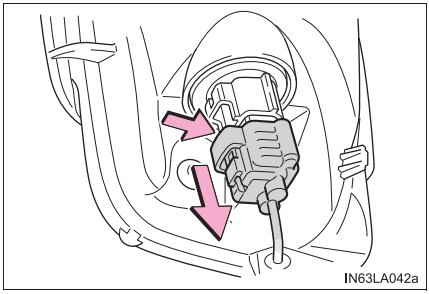
7 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ リヤフォグランプ★

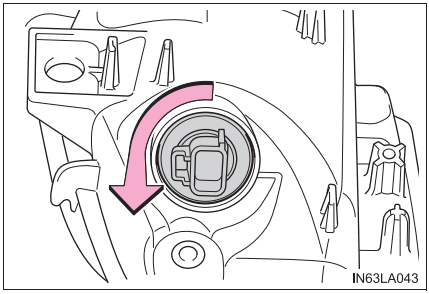
1 ネジ（3 本）をはずし、アンダーカバーを移動させる



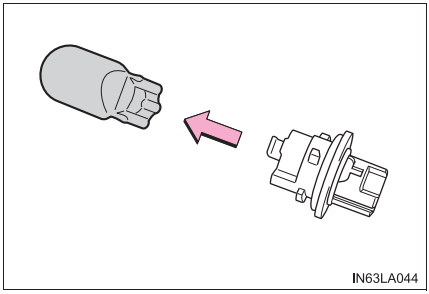
2 コネクターを取りはずす



3 ソケットを取りはずす



4 電球を取りはずす



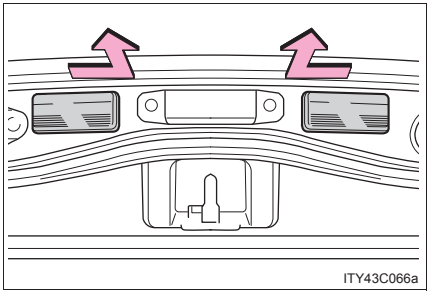
5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

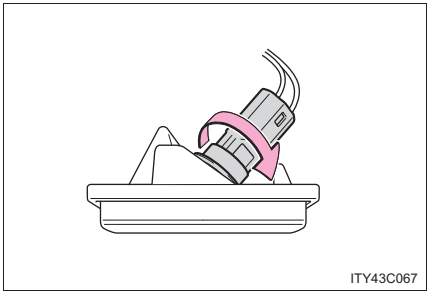
■ 番号灯

1 ランプ本体を取りはずす

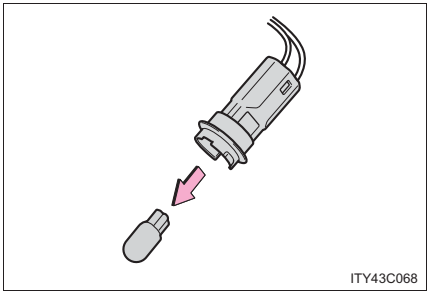
車両内側に押し付けながら、手前に引いてはずします。



2 ソケットを取りはずす



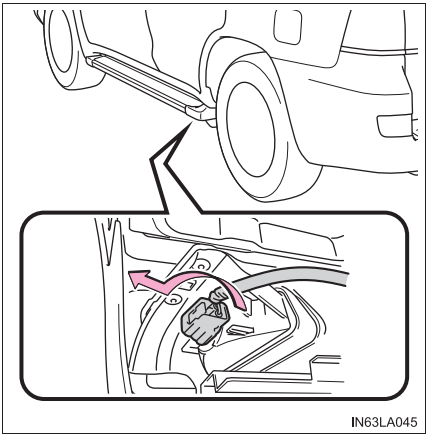
3 電球を取りはずす



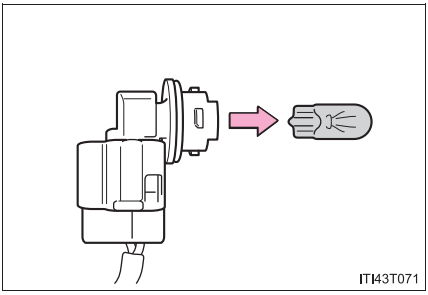
4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ **サイドステップ照明★**

1 ソケットを取りはずす


IN63LA045

2 電球を取りはずす


ITI43T071

3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ **次のランプを交換するには**

次のランプが切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ヘッドランプロービーム
- ヘッドランプハイビーム（LED バルブ装着車）
- 車幅灯／ LED デイライト
- フロントフォグランプ★
- サイド方向指示灯／非常点滅灯
- ドアミラー照明★
- 制動灯／尾灯
- 制動灯
- ハイマウントストップランプ

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■番号灯のカバーを取り付けるときは

必ずパッキンをもとどおりに取り付けてください。パッキンが正しく取り付けられていないと、水が入る原因になります。

■LED ランプについて

ヘッドランプロービーム、ヘッドランプハイビーム（LED バルブ装着車）、車幅灯／ LED デイライト、フロントフォグランプ、サイド方向指示灯／非常点滅灯、ドアミラー照明★、制動灯／尾灯、制動灯、ハイマウントストップランプは数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店でご相談ください。

■レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

■電球（バルブ）を交換するときは

→ P. 466

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■電球を交換するときは

- ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。
  やけどすることがあります。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。
  やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
  また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。
  取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。
- 電球・ソケット・電気回路・および構成部品を、修理または分解しないでください。
  感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

万一の場合には 7

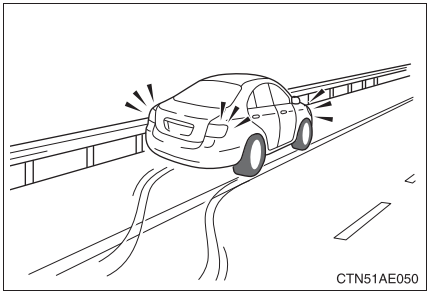
7-1. まず初めに
故障したときは.....482
非常点滅灯（ハザードランプ）.....483
発炎筒.....484
車両を緊急停止するには.....486
7-2. 緊急時の対処法
けん引について.....487
フューエルポンプシャットオフシステム.....493
警告灯がついたときは.....494
警告メッセージが表示されたときは.....500
パンクしたときは.....504
エンジンがかからないときは.....521
電子キーが正常に働かないときは.....523
バッテリーがあがったときは.....525
オーバーヒートしたときは.....528
スタックしたときは.....531

故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

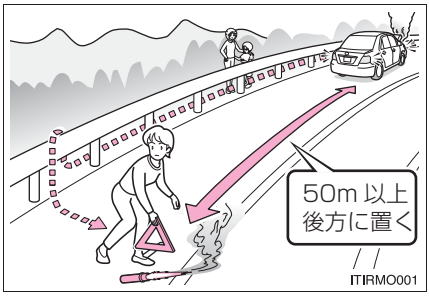
非常点滅灯（→ P. 483）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

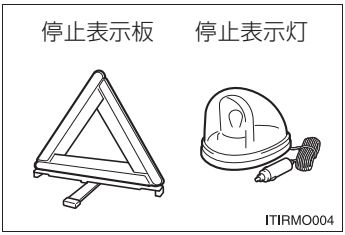
- 同乗者を避難させる
- 車両の 50m 以上後方に発炎筒（→ P. 484）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
  - ・見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
  - ・発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する



知識

■停止表示板・停止表示灯について

- ●高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- ●停止表示板・停止表示灯のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

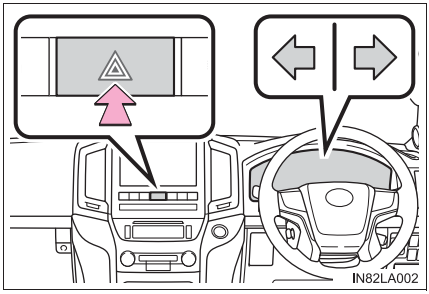


非常点滅灯（ハザードランプ）

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

スイッチを押す

すべての方向指示器が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



知識

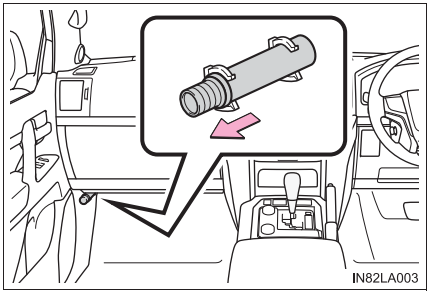
■非常点滅灯について

エンジン停止中に、非常点滅灯を長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

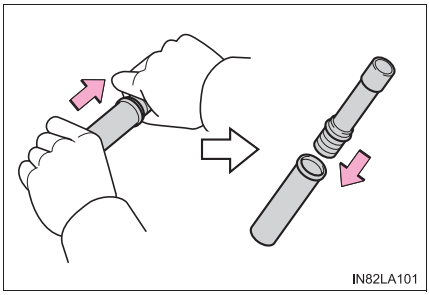
発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）
発炎時間は約５分です。非常点滅灯と併用してください。

1 助手席足元の発炎筒を取り出す

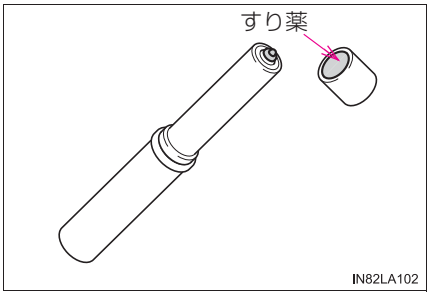


2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



3 先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けないでください。



知識

■発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

⚠ 警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトレバーを N に入れる

▶ シフトレバーが N に入った場合

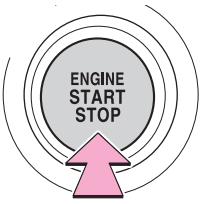
3 減速後、車を安全な道路脇に停める

4 エンジンを停止する

▶ シフトレバーが N に入らない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してエンジンを停止する



2 秒以上押すまたは 3 回以上連続で押す IN82LA124

5 車を安全な道路脇に停める

⚠ 警告

■走行中にやむを得ずエンジンを停止するとき

ブレーキの効きが悪くなると共にハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

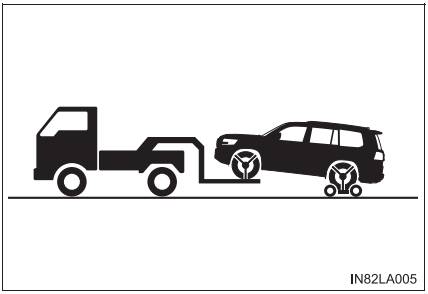
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

- エンジンはかかるが車が動かない
- 異常な音がする

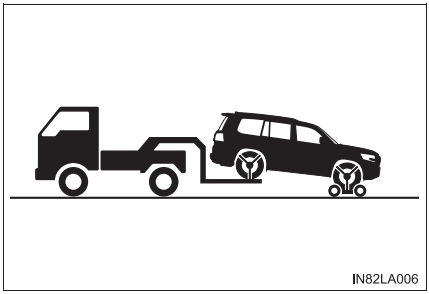
レッカー車でけん引するとき

▶ 前向きにけん引するときは



台車を使用して後輪を持ち上げる

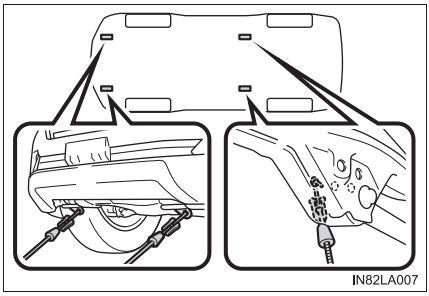
▶ うしろ向きにけん引するときは



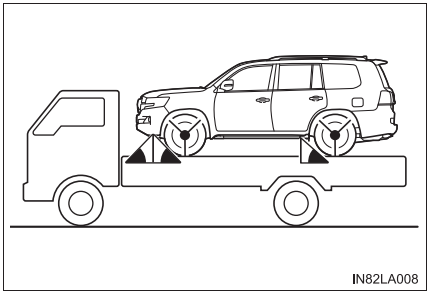
台車を使用して前輪を持ち上げる

車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送されているときは、図の場所で固縛する



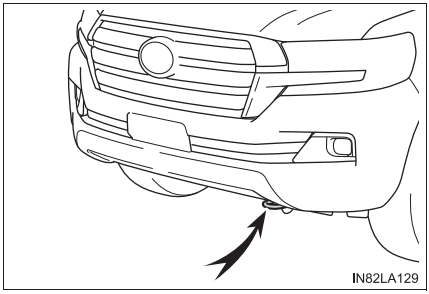
鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が 45° になるように固縛する



他車にけん引してもらうとき

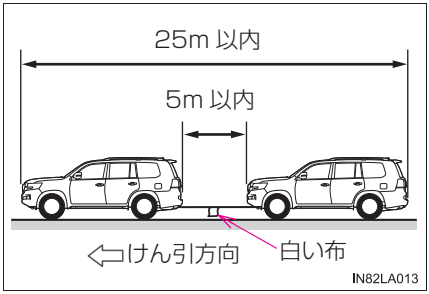
1 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。



2 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3m 平方（30cm × 30cm）以上



3 運転者はけん引される車両に乗り、エンジンをかける

エンジンがかからないときは、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしてください。

4 トランスファースイッチをH4かつセンターデフロックをOFFの状態にし、センターデフロック作動表示灯が消灯したことを確認する

5 4-Wheel AHC装着車：車高をN（標準）モードにして車高制御を停止する（→P. 275）

6 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

シフトレバーがシフトできないときは：→P. 201

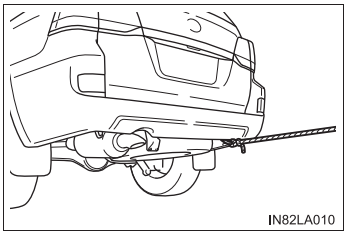
知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■リヤ側フックについて

このフックは、自車より軽い車をやむを得ず一般路上でロープによりけん引するときに使用することができます。

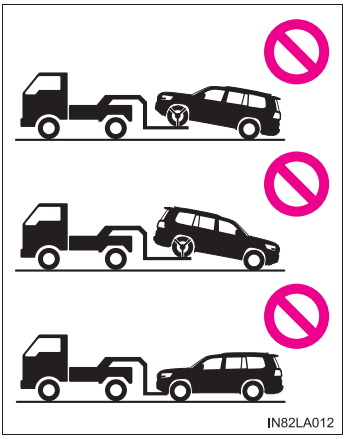


⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■レッカー車でけん引するとき

●4輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり車が台車から飛び出したりするおそれがあります。



■他車にけん引してもらうときの運転について

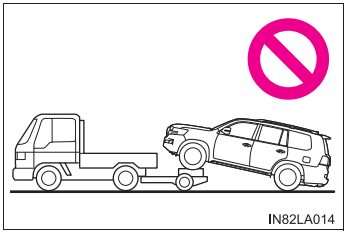
●けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。

●エンジンスイッチを OFF にしないでください。
ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

⚠ 注意

■ レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。



■ 車両運搬車に車を固縛するとき

ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

■ 駆動系部品の損傷を防ぐために

●他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。

・ ワイヤーロープは使用しない
・ 速度 30km/h 以下、距離 80km 以内でけん引する
・ 前進方向でけん引する
・ サスペンション部などにロープをかけない

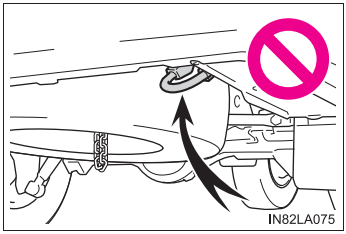
●この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■ 長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で 4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。
レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■ リヤ側フックについて

やむを得ない場合以外は使用しないでください。装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。



■ 輸送用フックについて

輸送用フックで他車に引っ張り出してもらったり、他車をけん引したりしないでください。装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

⚠ 注意

■緊急用フックについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

- やむを得ない場合以外は使用しないでください。
- 緊急用フックで他車をけん引しないでください。

フューエルポンプシャットオフシステム

エンジン停止時および SRS エアバッグ作動時は、フューエルポンプシャットオフシステムが作動し、燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。

システム作動後にエンジンを再始動するには

システムが作動したあと、エンジンを始動するには、次の手順に従ってください。

1 エンジンスイッチをアクセサリーモードまたは OFF にする

2 エンジンを再始動する

⚠ 注意

■エンジンを始動する前に

車両下をよく確認してください。
地面に燃料もれを見つけた場合は、燃料システムに損傷があり、修理する必要があります。その場合はエンジンを再始動しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザー一覧

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	ブレーキ警告灯（警告ブザー※1） ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ系統の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。**
	充電警告灯 充電系統の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。**
	エンジン警告灯 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 ・オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付シートベルトシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	ABS ＆ブレーキアシスト警告灯 ・マルチテレイン ABS の異常 ・ブレーキアシストの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	パワーステアリング警告灯★ ・パワーステアリングの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	スリップ表示灯（点灯したままのとき） 次のいずれかの機能の異常 ・VSC ・アクティブ TRC ・マルチテレインセレクト ・ヒルスタートアシストコントロール ・クロールコントロール **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** 上記のシステムの作動時は点滅します。
	ヘッドランプオートレベリング警告灯★ 自動光軸調整システムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	PCS 警告灯 警告灯が点滅した場合（ブザーあり）： プリクラッシュセーフティシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** 警告灯が点滅した場合（ブザーなし）： 次の原因などによりプリクラッシュセーフティシステムが一時停止している可能性があります。 ・前方センサー周辺に汚れ（くもり、結露、凍結などを含む）や付着物がある **→ 汚れや付着物を取り除いてください。（→ P. 229）** ・前方センサー温度が作動範囲外 **→ センサーの周辺温度が下がるまでしばらくお待ちください。** 警告灯が点灯した場合： VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムまたはプリクラッシュセーフティシステム、もしくは両方が OFF になっています。 **→ VSC システムとプリクラッシュセーフティシステムを ON にすると、プリクラッシュセーフティシステムが利用可能になります。（→ P. 242、363）**
	半ドア警告灯（警告ブザー※ 2） いずれかのドアガラス、またはバックドアガラスが確実に閉まっていない **→ 全ドア・バックドアガラスを閉める**
	燃料残量警告灯 燃料の残量が約 15L 以下になった **→ 燃料を補給する**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	運転席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー※3） 運転席・助手席シートベルトの非着用 **→ シートベルトを着用する**
	助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー※3） 助手席シートベルトの非着用 **→ シートベルトを着用する**
	タイヤ空気圧警告灯★ ・自然要因 ・タイヤのパンク ・タイヤ空気圧警報システムの異常 **→ ただちに安全な場所に停車してください。対処方法（→ P. 497）**
	マスターウォーニング システムの異常時にブザーと共に点灯・点滅し、マルチインフォメーションディスプレイ上に警告メッセージを表示します。 **→ P. 500**

※1 **ブレーキ液警告ブザー：**
警告灯が点灯している状態で、車速が約 5km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。
ブザーが鳴ったときは、ブレーキ液の不足が考えられます。

※2 **半ドア走行時警告ブザー：**
いずれかのドアが確実に閉まっていない状態で走行し、車速が 5km/h 以上になると、警告ブザーが鳴ります。

※3 **運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：**
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20km/h 以上になると警告ブザーが 1 回鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルトを非着用のまま 30 秒を経過すると、30 秒間断続的に鳴り、さらにブザーの音がかわり 90 秒間鳴ります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■助手席シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- ●乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
- ●座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■L4 作動表示灯・センターデフロック作動表示灯が点滅したままのときは

所定の対処方法に従って処置してください。(→ P. 287)
ブレーキ警告灯やエンジン警告灯が同時に点灯している場合や、所定の対処方法をおこなっても、L4 作動表示灯やセンターデフロック作動表示灯が点滅し続けている場合は、エンジンやブレーキシステム、4WD システムが故障しているおそれがあります。この場合は、トランスファーモードの H4 と L4 間の切り替えができなくなったり、センターデフロックのロック、アンロックができなくなることがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

タイヤがパンクしている可能性があるので確認してください。

タイヤがパンクしている場合：→ P. 504

タイヤがパンクしていない場合：
エンジンを停止する。エンジンを再始動したあとに、警告灯が点灯、または点滅するかを確認してください。

▶警告灯が点灯した場合

1 タイヤが十分に冷えたあと、指定空気圧に調整してください。

2 数分後に警告灯が消灯しない場合は、指定空気圧であるかを確認した上で、初期化してください。(→ P. 451)

数分後に警告灯が消灯しない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

▶警告灯が 1 分間点滅したあとに点灯した場合
タイヤ空気圧警報システムに異常があります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■自然要因によるタイヤ空気圧警報について

自然な空気もれ、外気温による空気圧の変化など、自然要因によりタイヤ空気圧警告灯が点灯することがあります。この場合、タイヤ空気圧を適切な値に調整してください。数分後に警告灯が消灯します。

■応急用タイヤに交換した場合

応急用タイヤにも空気圧バルブ／送信機が装備されています。応急用タイヤの空気圧が低下している場合、空気圧警告灯は点灯します。タイヤがパンクした場合、応急用タイヤに交換しても空気圧警告灯は消灯しません。正常なタイヤと交換後、タイヤ空気圧を適切な値に調整してください。

■タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれがある状況

→P. 454

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

⚠ 警告

■ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは

ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。
ABS またはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- できる限り速やかに安全な場所に停車し、タイヤ空気圧を調整してください。
- タイヤ空気圧を調整したあとも警告灯が点灯している場合はタイヤがパンクしている可能性がありますので、確認してください。
  タイヤがパンクしている場合は応急用タイヤに交換し、最寄りのトヨタ販売店でタイヤの修理をしてください。
- 急ハンドル・急ブレーキは避けてください。
  もしタイヤの状態が悪化した場合、ハンドル操作またはブレーキが効かなくなるおそれがあります。

■タイヤの破裂、突然の空気もれが発生した場合

急激にタイヤ空気圧が低下した場合は、タイヤ空気圧警報システムによる警報ができない場合があります。

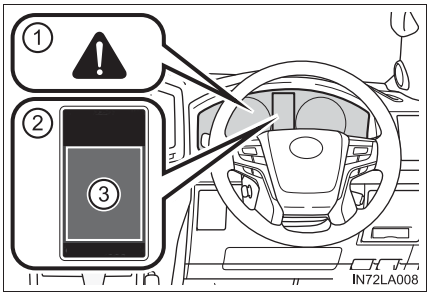
⚠ 注意

■ タイヤ空気圧警報システムについての注意

- 純正ホイール以外を使用した場合、バルブ／送信機から発信する電波の飛び方がかわり、システムが正常に作動しないことがあります。
- 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用しないでください。タイヤ空気圧警報システムが正常に作動しないことがあります。
- タイヤ空気圧警告灯の点灯および点滅は、初期化スイッチ操作（→ P. 451）では解除できません。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。



① マスターウォーニング

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。

② マルチインフォメーションディスプレイ

③ 対処方法

マルチインフォメーションディスプレイのメッセージに従ってください。

処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

メッセージと警告作動

メッセージの内容によって警告灯や警告ブザーの作動が次のように切りかわります。ディーラーで点検をするように表示されたときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

	専用警告灯	警告ブザー※	警告内容
点灯	点灯	あり	走行にかかわるシステムの故障や、そのまま放置すると思わぬ危険を招くおそれがあるなどの重要なメッセージを意味します。
点灯	―	あり	
―	点灯または点滅	あり	表示されたシステムに故障のおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点滅	―	あり	車両への損傷や、思わぬ危険を招くおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点灯	―	なし	電装品の故障や状態、メンテナンスのお知らせなどのメッセージを意味します。
点滅	―	なし	車両を正しく操作していない場合や、操作方法のアドバイスなどを意味します。

※ メッセージを最初に表示したときに作動します。

知識

■警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■専用警告灯について

次の内容のメッセージが表示されたときは、マスターウォーニングが点灯・点滅しません。その場合は個別の専用警告表示をおこないます。

●「プリクラッシュセーフティ現在使用できません」、「VSC が Off のためプリクラッシュブレーキも停止します」が表示されている：
PCS 警告灯が点灯します。（→ P. 495）

●開いているドアが表示されている：
半ドア警告灯が点灯します。（→ P. 495）

■「取扱書を確認」の警告メッセージが表示されたときは

●次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

・「スマートエントリー&スタートシステム故障 取扱書を確認」

●「AT オイル高温　取扱書を確認してください」が表示された時は次の対処法にしたがってください。
ただちに安全な場所に停車し、シフトレバーを P にして、エンジンをかけたまま温度が下がるまで待ってください。しばらくして表示が消えたら、走行可能になります。表示が消えないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

■「バッテリー保護のため自動で電源を off しました」が表示されたときは

自動電源 OFF 機能が作動したときに表示されます。
この場合、次回エンジン始動時にエンジン回転数を少し高めにし、約 5 分間その回転数を保持しバッテリーを充電してください。

■「駐車時は P レンジに入れてください」が表示されたときは

シフトレバーが P 以外の状態で、エンジンスイッチを OFF にせずに運転席ドアを開けたときに表示されます。
警告メッセージが表示されたときはシフトレバーを P にしてください。

■シフトレバーの操作を指示するメッセージが表示されたときは

誤操作や車両の意図せぬ動き出しなどを防止するため、シフトレバーの操作が指示されることがあります。その場合は、メッセージの指示に従ってシフトポジションを変更してください。

■「販売店で点検してください」の警告メッセージが表示されたときは

警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。
トヨタ販売店ですみやかに点検を受けてください。

■「ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください」が表示されたとき★

次のシステムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

●LED ヘッドランプ

●ヘッドランプオートレベリングシステム

●AHB（オートマチックハイビーム）

■「前方カメラシステム一時利用不可 少々お待ちください」または「前方カメラシステム利用不可 フロントガラス汚れを取ってください」が表示されたとき

次のシステムが一時的もしくは対処を行うまで使用できなくなります。表示された画面の指示に従ってください。

●PCS（プリクラッシュセーフティシステム）

●LDA（レーンディパーチャーアラート）

●レーダークルーズコントロール

●AHB（オートマチックハイビーム）

■「エンジンオイル量不足補充するか、交換してください」が表示されたとき

エンジンオイル量を点検し、オイルを補給してください。
傾斜路などに停車したとき表示される場合があります。水平な路面に移動し、警告メッセージが表示されるか確認ください。

■次のメッセージが表示されたときは、対処法に従ってください。表示が消えたら使用可能です。（→ P. 289）

●「CRAWL 操作時は L4 に切替え、D 又は R レンジに入れてください」

●「CRAWL 操作時は作動条件の確認をしてください」

●「ターンアシスト機能操作時は作動条件の確認をしてください」

●「ターンアシスト機能操作時は CRAWL を ON にしてください」

■警告ブザーについて

→ P. 498

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パンクしたときは

パンクしたタイヤを、備え付けのスペアタイヤと交換してください。(タイヤについての詳しい説明は、P. 450 を参照してください)

⚠ 警告

■タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。

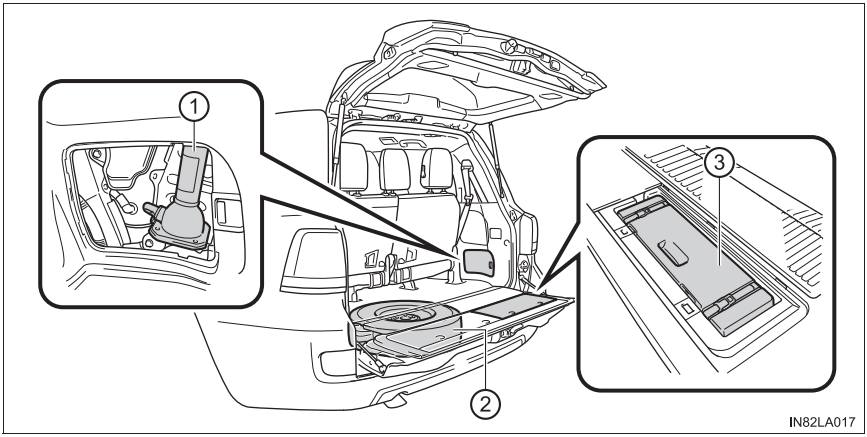
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- 侵入・傾斜センサー★を OFF にする（→P. 73）
- 4-Wheel AHC 装着車：
  車高制御を停止する（→P. 275）
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

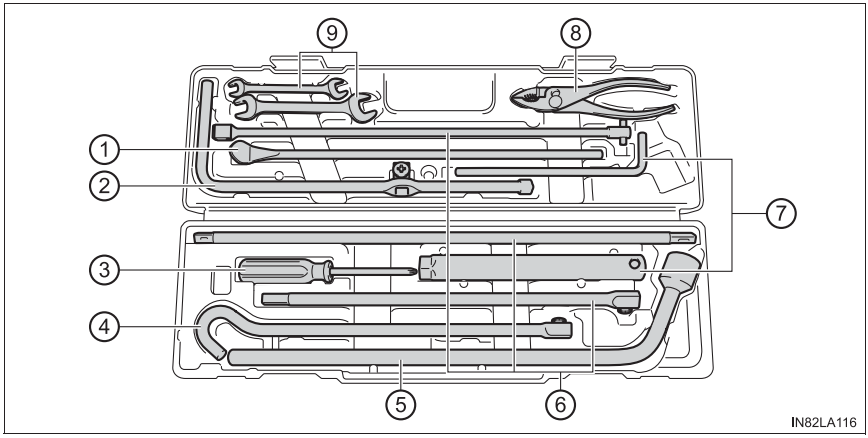
工具とジャッキの搭載位置



※ イラストは８人乗り車で代表しています。

① ジャッキ
② スペアタイヤ
③ 工具箱

■ 工具



① ホイールキャップレンチ
② ジャッキハンドル
③ ドライバー
④ ジャッキハンドルバー
⑤ ホイールナットレンチ
⑥ ジャッキハンドル延長バー
⑦ プラグレンチ
⑧ プライヤー
⑨ スパナ

⚠ 警告

■ジャッキの使用について

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して死亡またはけがにつながるおそれがあります。
以下のことをお守りください。

- ジャッキはタイヤ交換、タイヤチェーン取り付け、取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため他の車に使ったり、他の車のジャッキをお客様の車に使わない
- ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる
- 車高制御が停止の状態で、エンジンを停止する（→P. 275）（4-Wheel AHC装着車）
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- ジャッキで支えられている状態で、エンジンをかけたり走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを載せない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合はジャッキスタンドを使用する

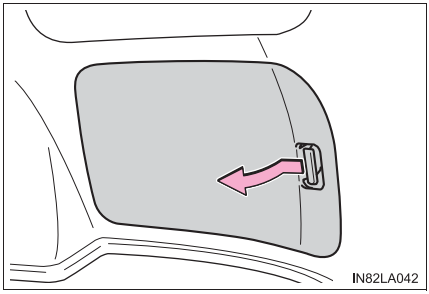
車両を下げる際はとくに、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

■ジャッキハンドルを使用するときは

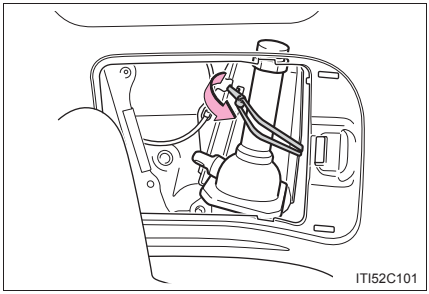
ジャッキハンドルが不意に分解しないように、ジャッキハンドルを組み付けたあと、搭載されているドライバーでネジ部を確実に締め付けてください。

ジャッキの取り出し方

1 カバーを取りはずす



2 固定バンドをはずす

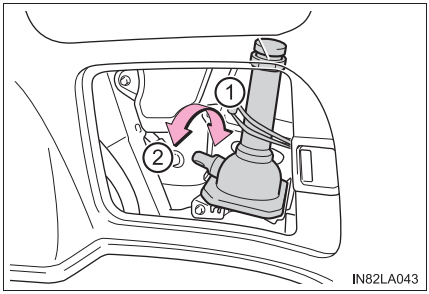


3 ジャッキをゆるめて取りはずす

① ゆるめる

② 締める

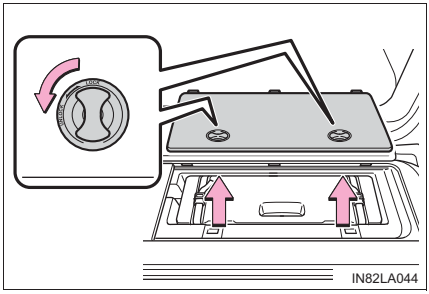
使用後はもとの位置にもどします。また、ジャッキはバンドで確実に固定してください。



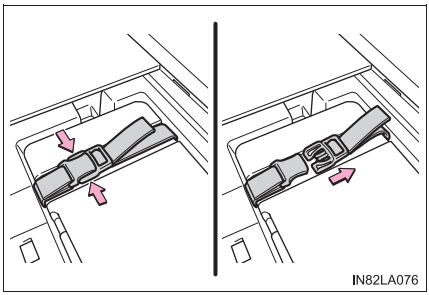
工具箱の取り出し方

1 カバーをはずす

ダイヤルをまわしてロックをはずし、カバーを開きます。



2 固定バンドをはずして取り出す

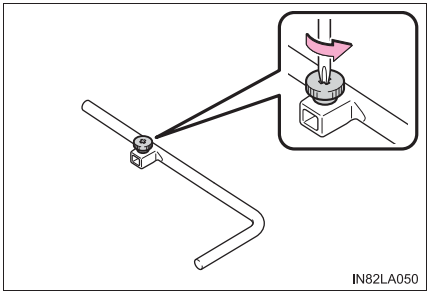


スペアタイヤの取り出し方

1 ジャッキハンドルを組み付ける

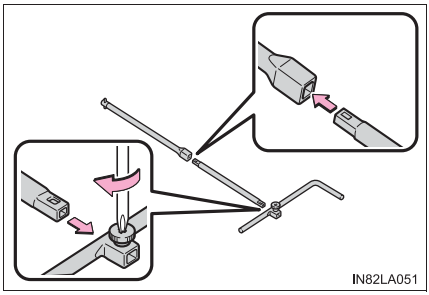
工具箱からジャッキハンドル・ジャッキハンドル延長バーを取り出し、次の手順で組み付けます。

ネジ部（1ヶ所）をドライバーを使用してゆるめる

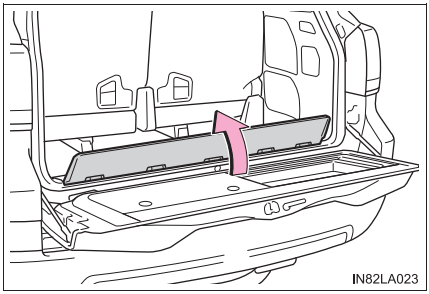

IN82LA050

ジャッキハンドル、ジャッキハンドル延長バーを組み付け、ネジ部（1ヶ所）を締め付ける

ネジ部がしっかりと固定されていることを確認します。


IN82LA051

2 フタをめくる

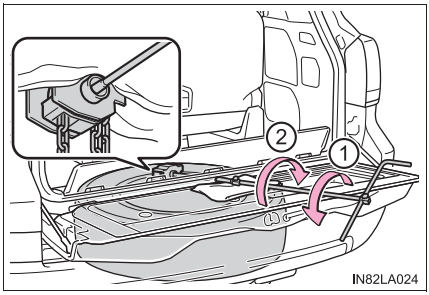

IN82LA023

3 組み付けたジャッキハンドルを挿し込む

① 下がる

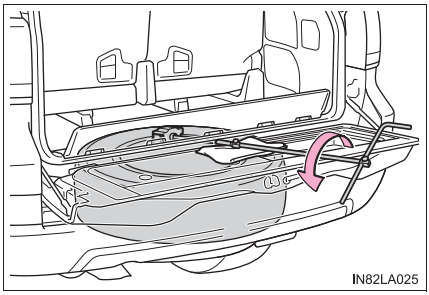
② 上がる

当て布をジャッキハンドルの下にしてバックドアを保護してください。

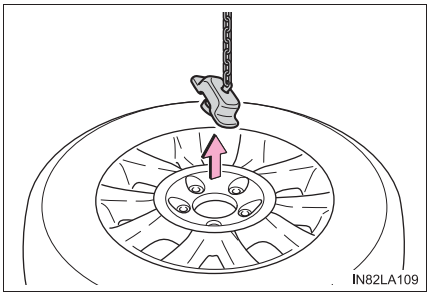


IN82LA024

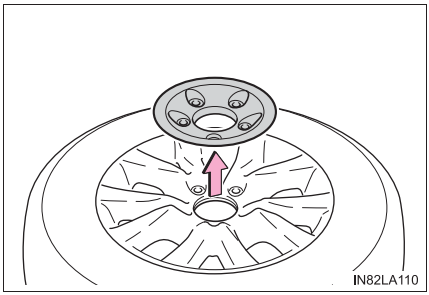
4 スペアタイヤが完全に地面に着くまで下げる



5 スペアタイヤを引き出し、アンカープレートを取りはずす

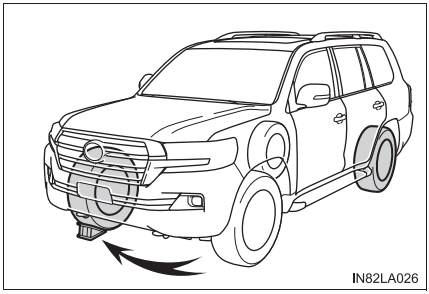


6 アルミホイール装着車：スペアホイールカバーを取りはずす



パンクしたタイヤの交換

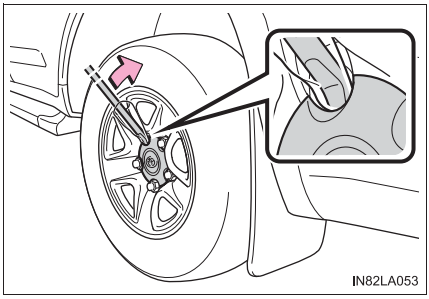
1 輪止め※をする



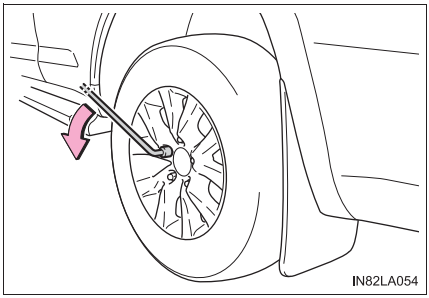
パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

2 スチールホイール装着車：センターオーナメントをはずす



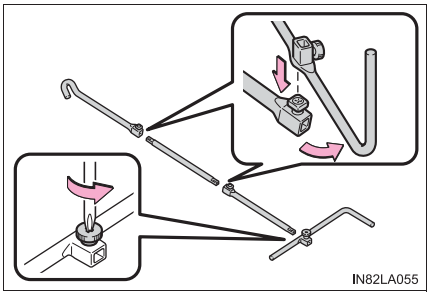
3 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる



4 ジャッキハンドルを組み付ける

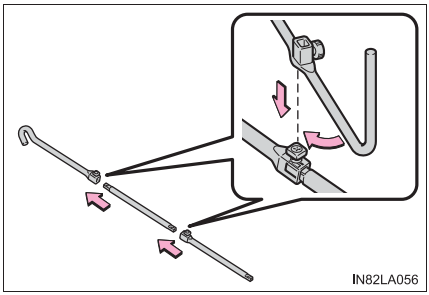
工具箱からジャッキハンドル・ジャッキハンドル延長バー・ジャッキハンドルバーを取り出し、次の手順で組み付けます。

ボルト（2本）・ネジ部（1ヶ所）をジャッキハンドルおよびドライバーを使用してゆるめる



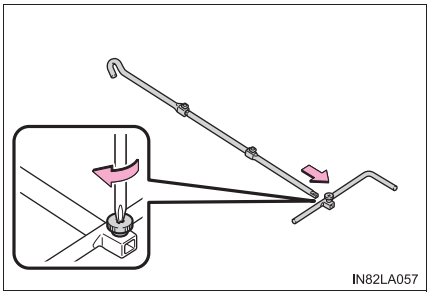
ジャッキハンドル延長バーとジャッキハンドルバーを組み付け、ボルト（2本）を締め付ける

ボルトがしっかりと固定されていることを確確認します。



ジャッキハンドル延長バーとジャッキハンドルを組み付け、ネジ部（1ヶ所）を締め付ける

ネジ部がしっかりと固定されていることを確認します。



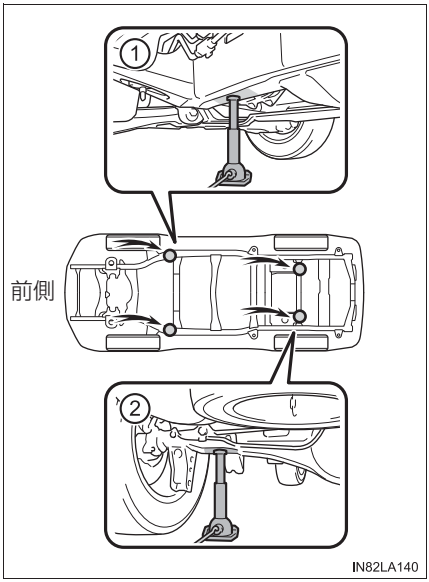
5 組み立てたジャッキハンドルをジャッキ穴部に挿し込み、ジャッキセット位置にジャッキをかける

① フロント

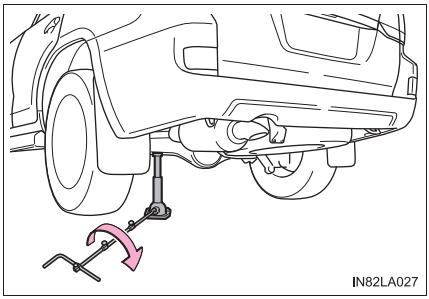
シャシーフレームサイドレール下

② リヤ

リヤアクスルハウジング下

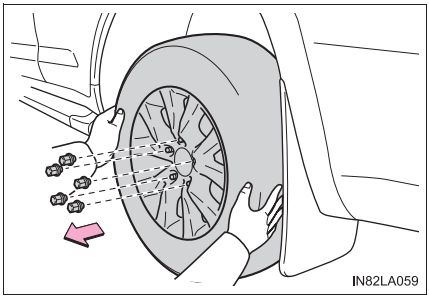


6 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



7 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を上にしてください。



⚠ 警告

■タイヤ交換について

●次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

・スペアタイヤは完全に地面に降ろしてから取り出す
・センターオーナメントは直接手をかけて取らない
取り扱いには十分に注意してください。けがをするおそれがあります。
・走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているため、タイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
・4-Wheel AHC 装着車は、車高制御を停止させてください。オートレベリング機能により車高がかわり車両に体が挟まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。（→P. 275）

●次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・ホイールの交換後はすぐに適正な締め付けトルクでナットを締める
アルミホイール装着車：131N・m（1336kgf・cm）
スチールホイール装着車：209N・m（2131kgf・cm）
・タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
・ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける
・ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける（→P. 456）

■パワーバックドア装着車のタイヤ交換について

タイヤ交換などをする際は、パワーバックドアメインスイッチ（→P. 116）をOFF にしてください。OFF にしないと、誤ってパワーバックドアスイッチを操作したときにバックドアが動き、指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。

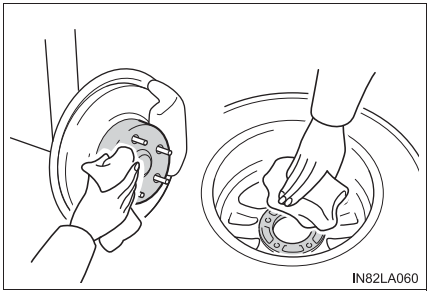
■工具・ジャッキを使用したあとは

走行前に必ず、指定の場所に確実に収納してください。車室内などに放置すると、急ブレーキ時などに工具類が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

タイヤの取り付け

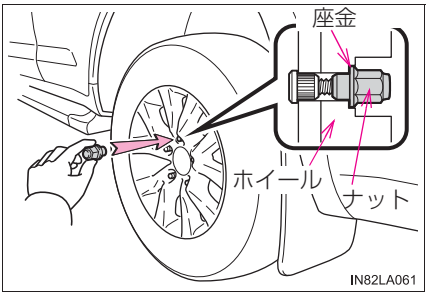
1 ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。



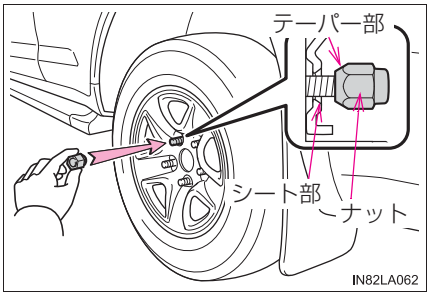
2 タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

▶ アルミホイール装着車



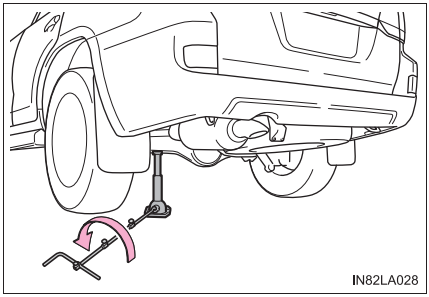
ナットの座金がホイールに軽くあたるまでまわす

▶ スチールホイール装着車



ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす

3 車体を下げる

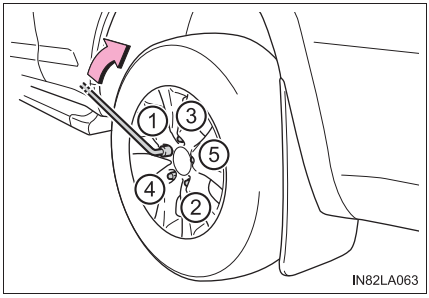


4 図の番号順でナットを 2、3 度しっかり締め付ける

締め付けトルク

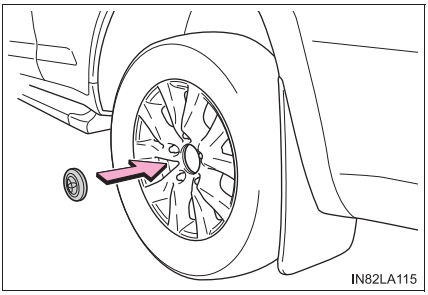
アルミホイール装着車：
131N・m（1336kgf・cm）

スチールホイール装着車：
209N・m（2131kgf・cm）

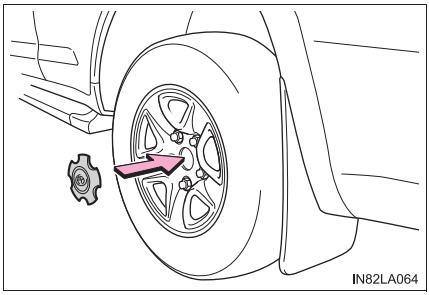


5 センターオーナメントを取り付ける

▶ アルミホイール装着車



▶ スチールホイール装着車



はずしたタイヤからセンターオーナメントを取りはずして、交換したタイヤに取り付けます。

⚠ 警告

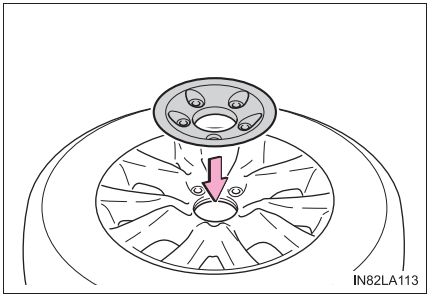
■パンクしたタイヤを収納するときは

以下の手順をお守りいただかないと、スペアタイヤキャリアの損傷やタイヤの落下により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

パンクしたタイヤ・ジャッキ・工具の収納

1 タイヤの外側が上になるように地面に置く

2 アルミホイール装着車：スペアホイールカバーを取り付ける

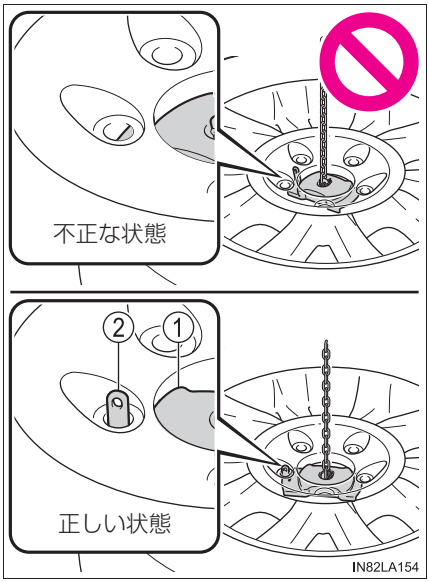


3 ツメをホイールの穴にかけてアンカープレートを取り付け、ジャッキハンドルをまわして鎖のたるみをなくす

ツメがホイールの穴に確実にかかっていること、アンカープレートがホイールの中心にあることを確認してください。

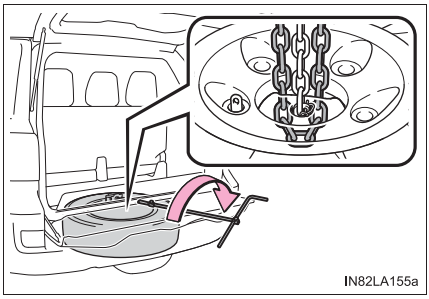
① アンカープレート

② ツメ



4 ジャッキハンドルをまわしてタイヤを上げる

タイヤはまっすぐ上げてください。走行中、急ブレーキや衝突の際にタイヤが前方に飛び出すのを防ぐため、周囲の部品を巻き込まないようにしてください。
タイヤを半分まで上げたら、鎖がタイヤの穴に正しく収まっていることを確認してください。


IN82LA155a

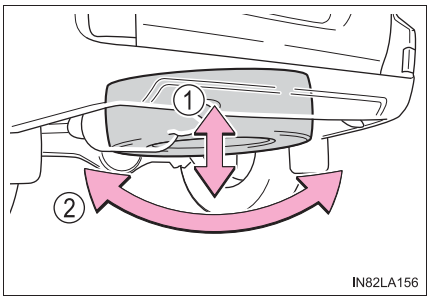
締め付けトルク
45 N・m （460 kgf・cm）

5 タイヤを巻き上げたら、タイヤが確実に固定されていることを確認する

① タイヤを上下にゆする

② 回転させる

タイヤが周囲の部品に干渉していないことを直接目で確認してください。



IN82LA156

ゆるんだり、正しく収納できなかったりした場合は、手順4と手順5を繰り返してください。

6 タイヤが下がったときや不安定なときは、手順5を繰り返す

7 工具・ジャッキを収納する

知識

■スペアタイヤについて

空気圧を必ず点検してください。（→P. 538）

■オートアラームについて

タイヤ交換をおこなう前に、必ず侵入・傾斜センサー★を停止してください。（→P. 73）
車両が動くとオートアラームが作動します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意

■ タイヤを格納するときは

- タイヤと車両とのあいだにものが挟まっていないことを確認してください。
- タイヤを格納後、タイヤが確実に固定されていることを確認してください。走行中にはずれるおそれがあります。

■ タイヤを交換するときは（タイヤ空気圧警報システム装着車）

タイヤ・ホイール・タイヤ空気圧警告システムのバルブや送信機を取りはずしたり、付けかえるときは、トヨタ販売店へご連絡ください。タイヤ空気圧警告システムのバルブと送信機の扱いを誤ると、バルブと送信機が損傷するおそれがあります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→ P. 190）に従っても、エンジンがかからないときは、次のことを確認してください。

スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
  給油してください。
- 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。
  再度、正しい手順（→ P. 190）に従って、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→ P. 68）

スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 525）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

スターターがまわらない場合

電装品の断線やヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。（→ P. 522）

スターターがまわらない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 525）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。

  対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもエンジンがかからないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急始動機能

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、次の手順でエンジンが始動する場合があります。

緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

3 エンジンスイッチをアクセサリーモードにする

4 ブレーキペダルをしっかり踏んで、エンジンスイッチを約 15 秒以上押し続ける

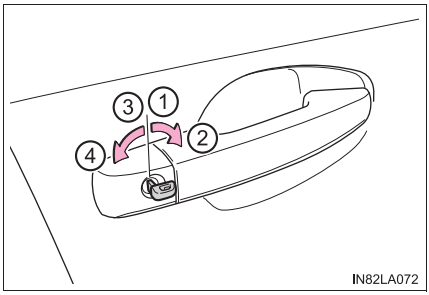
上記の方法でエンジンが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→ P. 128）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、エンジンを始動したりすることができます。

ドアの施錠・解錠とキー連動操作

メカニカルキー（→ P. 102）を使って次の操作ができます。



① 全ドア施錠

② ドアガラスとムーンルーフ★が閉まる（まわし続ける）※

③ 全ドア解錠

④ ドアガラスとムーンルーフ★が開く（まわし続ける）※

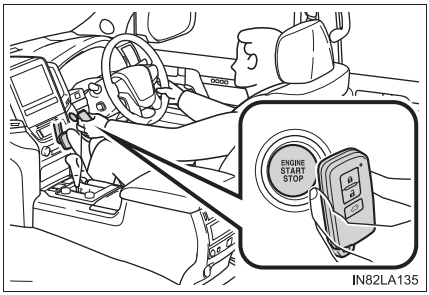
※ カスタマイズ機能での設定変更が必要です。（→ P. 539）

エンジン始動の方法

1 シフトレバーが P の状態でブレーキペダルを踏む

2 電子キーのトヨタエンブレム面で、エンジンスイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、イグニッション ON モードへ切りかわります。
車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムの設定が非作動になっているときは、アクセサリーモードへ切りかわります。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイに が表示されていることを確認する。

4 エンジンスイッチを押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

知識

■エンジンの停止のしかた

通常のエンジン停止のしかたと同様に、シフトレバーをPにしてエンジンスイッチを押します。

■電池交換について

ここで説明しているエンジンの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。（→P. 462）

■エンジンスイッチのモード切りかえ

エンジン始動方法の手順3で、ブレーキペダルから足を離してエンジンスイッチを押すと、エンジンが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。（→P. 191）

■電子キーが正常に働かない場合

- 車両カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。（→P. 539）
- 電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。設定されている場合は解除してください。（→P. 127）

⚠警告

■メカニカルキーを使ってドアガラスやムーンルーフを操作するとき

ドアガラスやムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

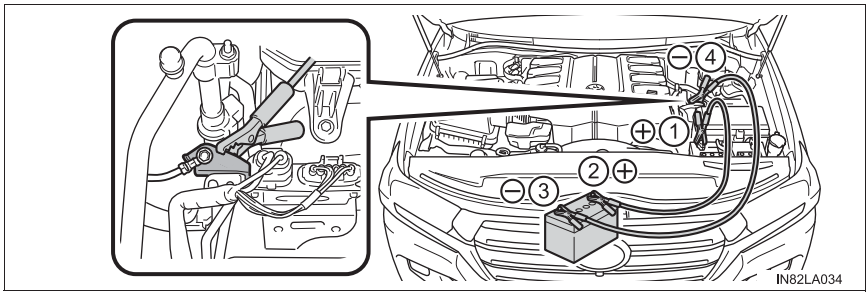
バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、以下の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、以下の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

1 電子キーを携帯していることを確認する
ブースターケーブル接続時、場合によっては、オートアラームが作動し自動的にドアが施錠されます。(→ P. 73)

2 ボンネットを開け、バッテリーの＋端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ



① 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの＋端子につなぐ

② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ

③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ

④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をバッテリーから離れた、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ

3 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する

4 エンジンスイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する

5 救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチをいったんイグニッション ON モードにしてから自車のエンジンをかける

6 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

エンジンがかかっても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンがかかっていないときは、ライトやオーディオの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■バッテリーあがり時や取りはずし時は

コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。（バッテリーは走行中に自動で充電されます）

⚠ 警告

■バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう以下のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に誤って接触させない
- ブースターケーブルは“+”と“−”の端子を絶対に接触させない
- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、以下のことを必ずお守りください。

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などをバッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入った場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
  また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまをバッテリーに近付けない

⚠ 注意

■ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- メーター内の水温計の針（→ P. 83）がレッドゾーンに入ったり、エンジン出力が低下する（スピードが出ないなど）
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

1 安全な場所に停車し、エアコンをOFFにしてから、エンジンを停止する

2 蒸気が出ている場合：

蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける

蒸気が出ていない場合：

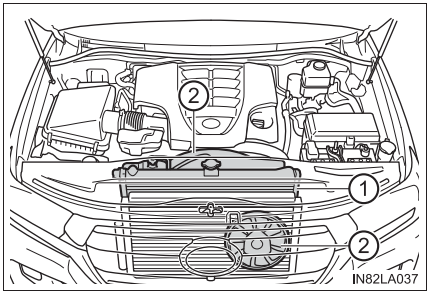
注意してボンネットを開ける

3 エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

① ラジエーター

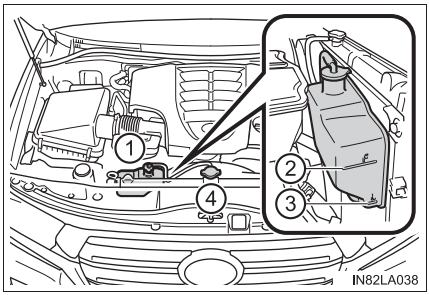
② ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。



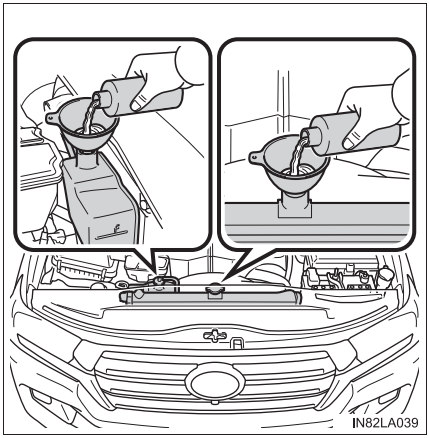
4 冷却水の量がリザーバータンクの“F”（上限）と“L”（下限）のあいだにあるかを点検する

① リザーバータンク
② “F”（上限）
③ “L”（下限）
④ ラジエーターキャップ



5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する（→ P. 447）

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



6 エンジンを始動し、エアコンを作動させてエアコンコンデンサー冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

エンジンが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。
（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

7 ファンが作動していない場合：
すぐにエンジンを停止し、トヨタ販売店に連絡する

ファンが作動している場合：
最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

⚠ 警告

■エンジンルームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。
- 手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ボンネット（→P. 445）、エンジンルームカバー（→P. 447）の注意事項も併せてお読みください。
- エンジンおよびラジエーターが熱い場合は、ラジエーターキャップおよび冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。

⚠ 注意

■冷却水を入れるとき

エンジンが十分に冷えてからゆっくり入れてください。
エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

■冷却系統の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 市販の冷却水用添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法で脱出してください。

1 パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にして、エンジンを停止する

2 後輪周辺の土や雪を取り除く

3 後輪の下に木や石などをあてがう

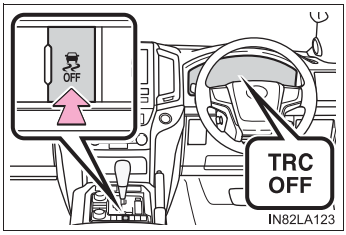
4 エンジンを再始動する

5 シフトレバーを D または R に入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

知識

■脱出しにくいとき

を押してアクティブ TRC を OFF にしてください。



■エクストラハイモード（4-Wheel AHC 装着車）

→ P. 279

⚠ 警告

■ 脱出するときは

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■ シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

- 後輪が空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- この方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。
- スタックから脱出する際にオートマチックトランスミッションの油温に関する警告メッセージが表示されたときは、ただちにアクセルペダルから足を離して警告メッセージが表示されなくなるまで待ってください。トランスミッションが故障するおそれがあります。（→ P. 500）

車両情報 8

8-1. 仕様一覧
メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）.....534
8-2. カスタマイズ機能
ユーザーカスタマイズ機能一覧.....539
8-3. 初期設定
初期設定が必要な項目.....550

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。トヨタ車には最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、[指定銘柄]といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）	93

エンジンオイル

指定銘柄	容量 [L]（参考値※1）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
トヨタキヤッスルモーターオイル SN 0W-20※2 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20 トヨタキヤッスルモーターオイル SN 5W-20 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-20 トヨタキヤッスルモーターオイル SN 5W-30 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30 トヨタキヤッスルモーターオイル SN 10W-30 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 10W-30	7.1	7.5

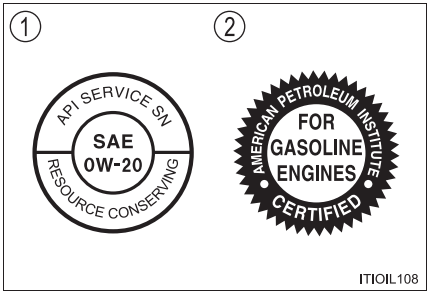
※1 エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

※2 0W-20 は上記表の指定銘柄の中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

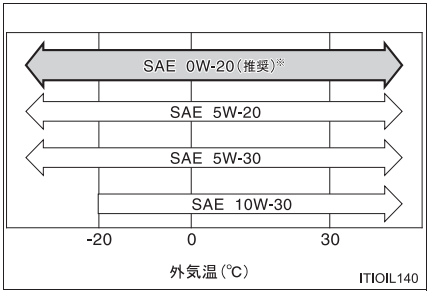
API 規格 SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークが付いています。

① API マーク
② ILSAC CERTIFICATION マーク



■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



※ 0W-20 は新車時に充填されており、上記図に示す中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

・0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
・0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。
粘度の高い（数値が大きい）オイルは高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	容量 [L]（参考値）	
	リヤエアコン装着車	リヤエアコン非装着車
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30%−12 ℃ 濃度 50%−35 ℃	17.5	14.7

オートマチックトランスミッション

指定銘柄	容量 [L]（参考値※）
トヨタ純正オートフルード WS	11.1

※ 容量は参考値です。交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

ディファレンシャル

指定銘柄（推奨粘度）	容量 [L]（参考値）	
	フロント	リヤ
トヨタ純正ディファレンシャルギヤオイル LT （API GL-5 SAE 75W-85）	1.90	4.20

トランスファー

指定銘柄（推奨粘度）	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正トランスファーギヤオイル LF （SAE 75W）	1.45

パワーステアリング

指定銘柄	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正パワーステアリングフルード	1.2

サスペンション（4-Wheel AHC 装着車）

指定銘柄
トヨタ純正サスペンションフルード AHC

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間 ※ 1	116 以上

※ 1 エンジン回転時に 490N（50kgf）の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値です。

■ パーキングブレーキ

項目	基準値 [回数]
引きしろ 操作力 200N（20kgf）のときのノッチ数※ 2 数	5 ～ 7

※ 2 ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”という音）のことです。

ウォッシャータンク

容量 [L]（参考値）	4.8

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm^2）	
		前輪	後輪
275/65R17 115S	17 × 8J	230（2.3）	230（2.3）
285/60R18 116H	18 × 8J	230（2.3）	230（2.3）
285/50R20 112H	20 × 8 1/2J	230（2.3）	230（2.3）

電球（バルブ）※

電球		W（ワット）数
車外	ヘッドランプ ハイビーム（バルブタイプ：HB3）★	60
	フロント方向指示灯／非常点滅灯	21
	リヤ方向指示灯／非常点滅灯	21
	後退灯	16
	リヤフォグランプ★	21
	番号灯	5
	サイドステップ照明★	3.8
車内	インテリアランプ★	8
	パーソナルランプ★	8
	バニティミラーランプ	2
	ドアカーテシランプ	5

※ 表に記載のないランプは LED を採用しています。

車両仕様

型式	エンジン	駆動方式
URJ202W	1UR-FE（4.6L ガソリン）	4WD（4 輪駆動）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車には、設定を変更することが可能な数多くの装備が付いています。設定変更は、マルチインフォメーションディスプレイのメーターカスタマイズ機能、またはメーカーオプションのナビゲーションシステムの画面操作（装着車のみ）、トヨタ販売店で行うことが可能です。（設定可能な機能は、それぞれの方法で一部異なります）

設定変更のしかた

操作するときは、安全な場所に停車してシフトレバーを P に入れ、パーキングブレーキをかけた状態で行ってください。

■ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

1 メーター操作スイッチで、 を選択する。

2 変更する項目を選択し、 を押す。

3 設定したい項目を選択し、 を押す。

設定を終了する場合は、 スイッチを押します。

■ ナビゲーションシステムで設定するには

1 「設定・編集」スイッチを押す

2 「設定・編集」画面の「車両」／「運転支援」を選択する

3 設定を変更したいカテゴリーを選択する

IN92LA001

4 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択する

5 機能の作動内容を選択する

作動・非作動を変更できる機能では、「する」（作動）・「しない」（非作動）を選択します。
音量やセンサーの感度などを変更できる機能では、「＋」または「－」を選択してレベルを調整し、「完了」を選択します。

車両カスタマイズ設定一覧

変更する機能により、トヨタ販売店でのみ変更が可能か、メーターカスタマイズ機能などでも可能かどうかが異なります。次の表を参考に、①～③の該当する方法で設定変更を行ってください。

① ナビゲーションシステムによる設定

② メーターカスタマイズ機能による設定

③ トヨタ販売店で設定可能

■ スマートエントリー&スタートシステム（→P. 125）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
スマートエントリー&スタートシステム	する	しない	○	―	○
解錠ドアの選択	全席	運転席	○	―	○

■ ワイヤレスドアロック（→P. 102）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
ワイヤレス機能	する	しない	―	―	○
半ドア警告ブザー	する	しない	―	―	○
ワイヤレスリモコンの 2 回操作の解錠	しない	する	○	―	○
パワーバックドア操作	1 回長押し	1 回短押し	―	―	○
		2 回押し			
		なし			

■ スマートエントリー&スタートシステム（→P. 125）とワイヤレスドアロック（→P. 102）共通

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
作動の合図（ブザー音量調整）	レベル 5	OFF	○	―	○
		レベル 1 ～ 7			
作動の合図（非常点滅灯）	する	しない	○	―	○
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒	―	―	○
		120 秒			

■ ドアロック（→P. 106）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
メカニカルキーによる解錠	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠	—	—	○
車速感応オートドアロック	あり	なし	○	—	○
シフトレバーを P 以外にしたときの全ドア施錠（シフト操作連動ドアロック）	なし	あり	○	—	○
シフトレバーを P にしたときの全ドア解錠（シフト操作連動アンロック）	あり	なし	○	—	○
運転席ドアを開けたときの全ドア解錠（運転席ドア開連動アンロック）	なし	あり	○	—	○

■ パワーバックドア★（→P. 114）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
スイッチ操作	長押し	短押し	—	—	○
作動中の合図（ブザー）	しない※	する	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動機能（ワンモーション）	なし	あり	—	—	○

※ この場合、作動開始時のブザーは残ります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ パワーウインドウ（→P. 167）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
ドアキー連動開閉機能※1, 2	なし	あり	―	―	○
ワイヤレスリモコン連動開閉機能※1, 2	なし	あり	―	―	○
窓開警告ブザー	あり	なし	―	―	○
ワイヤレスリモコン連動開閉時の作動ブザー※1	あり	なし	―	―	○

※1 AX、ZX グレードのみ。

※2 パワーウインドウの設定を変更すると、ムーンルーフの設定も連動して変更されます。

■ ムーンルーフ★（→P. 172）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
ドアキー連動開閉機能※1, 2	なし	開閉作動 開作動のみ 閉作動のみ	―	―	○
ドアキー連動作動時の開閉部位※1	スライドのみ	チルトのみ	―	―	○
ワイヤレスリモコン連動開閉機能※1, 2	なし	開閉作動 開作動のみ 閉作動のみ	―	―	○
ワイヤレスリモコン連動作動時の開閉部位※1	スライドのみ	チルトのみ	―	―	○
ムーンルーフ開警告ブザー	あり	なし	―	―	○

※1 AX、ZX グレードのみ。

※2 ムーンルーフの設定を変更すると、パワーウインドウの設定も連動して変更されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ランプ自動点灯・消灯システム（→ P. 205）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
ライトセンサーの感度調整	0	－2～＋2	○	―	○
ランプを点灯するまでの時間	標準	長め	―	―	○
LED デイライト点灯	あり	なし	―	―	○
おもてなし照明の点灯★	あり	なし	―	―	○

■ イルミネーション（→ P. 401）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
室内照明の点灯制御	あり	なし	―	―	○
室内照明の消灯までの時間	15 秒	7.5 秒	○	―	○
		30 秒			
		OFF			
“エンジン スタート ストップ” スイッチ OFF 後の作動	あり	なし	―	―	○
解錠時の作動	する	しない	―	―	○
室内足元照明の点灯★	あり	なし	―	―	○
シフト照明の点灯★	あり	なし	―	―	○
接近時のルームランプの点灯★	あり	なし	―	―	○
ドアトリム照明★・室内足元照明の制御★	あり	なし	―	―	○
ドアトリム照明★の点灯	あり	なし	―	―	○
ドア開時のステップ照明の点灯★	あり	なし	―	―	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ クリアランスソナー（→ P. 265）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
リヤセンターセンサーの検知可能距離	遠い	近い	○	—	○
ブザー音量	レベル 3	レベル 1 ～ 5	○	—	○
ソナー表示の切りかえ	すべて表示	表示なし	○	—	○

■ エアコン※（→ P. 372）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
AUTO スイッチを ON にしたとき、A/C（エアコン）スイッチが連動して ON になる	する	しない	○	—	○
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切り替える	する	しない	○	—	○

※ ナビゲーションシステム装着車

■ リヤワイパー&ウォッシャー（→ P. 221）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
液だれ防止機能★	あり	なし	—	—	○
ウォッシャー連動機能	あり	なし	—	—	○
リバース連動機能★	1 回	連続	—	—	○
		なし			

■ ポジションメモリー★（→ P. 149）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
メモリーコール機能と連動するドアの選択	運転席ドア	全ドア	—	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ シートヒーター／シートベンチレーター（→P. 399）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
フロントシートヒーター＆ベンチレーターAUTOモード時の温度または風量調整（各席個別調整可能）	レベル3（標準）	レベル1（弱め）～レベル5（強め）	―	―	○

■ オートアラーム（→P. 70）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
窓が開いているときの侵入センサーの感度調節★	標準	感度低	―	―	○
メカニカルキーを使って解錠したときのアラーム解除	あり	なし	―	―	○

■ ドアミラー（→P. 162）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
リバース連動作動★	あり	なし	―	―	○

■ メーター照明（→P. 83）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
周囲の明るさにより、メーターなどの照度を自動減光するためのセンサーの感度調節	0	－2～＋2	―	―	○
周囲の明るさにより、減光したメーターなどの照度をもとにもどすためのセンサーの感度調節	0	－2～＋2	―	―	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ メーター、マルチインフォメーションディスプレイ（→ P. 87）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
言語	日本語	※ 1	—	○	—
単位	km/L	L/100km	○	○	—
エコドライブインジケーターランプ	あり（自動点灯）	なし	—	○	—
スイッチ設定	ドライブインフォ 1	お好みの項目※ 2	—	○	—
1 画面目に表示される i ドライブインフォメーション画面（ドライブインフォ 1）	瞬間燃費 / リセット間平均燃費	※ 3	—	○	—
2 画面目に表示される i ドライブインフォメーション画面（ドライブインフォ 2）	航続可能距離 / リセット間平均車速	※ 3	—	○	—
割込表示	あり	なし	—	○	—
アクセントカラー	カラー 1	全 4 色	○	○	—

※ 1 英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、イタリア語、ロシア語、トルコ語、中国語、アラビア語

※ 2 登録できない項目もあります

※ 3 瞬間燃費、リセット間平均燃費、始動後平均燃費、給油後平均燃費、リセット間平均車速、始動後平均車速、リセット間走行時間、始動後走行時間、航続可能距離、始動後走行距離、ブランクから 2 項目を選択

■ LDA（レーンディパーチャーアラート）★（→P. 243）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
警報ブザーが吹鳴する感度（警報感度）	普通	高	—	○	—
ふらつき検知機能	あり	なし	—	○	—
ふらつき検知機能の感度調節	普通	低	—	○	—
		高			

■ BSM（ブラインドスポットモニター）★（→P. 347）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
車線変更時の判断を支援する機能	あり	なし	—	○	—
RCTA の ON/OFF	あり	なし	—	○	—
ドアミラーインジケーターの明るさ	明るい	暗い	—	—	○
接近車両警告のタイミング	標準	早い	—	—	○
		遅い			
		死角領域のみ			
RCTA ブザー音量	レベル 2	レベル 1 ～ 3	—	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■車両カスタマイズについて

●「スマートエントリー＆スタートシステム」が「しない」の場合、「解錠ドアの選択」はできません。

●解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠が作動したときの合図は、「作動の合図（ブザー）」・「作動の合図（非常点滅灯）」の設定に依存します。

■車両側のスイッチで設定をおこなった場合

ナビゲーションシステム装着車で、ナビゲーション画面で設定できる項目を、車両側のスイッチで設定した場合、ナビゲーション画面の項目表示は、すぐに切り替わりません。
いったんエンジンスイッチを OFF にしてからイグニッション ON モードにすると、画面表示が切り替わります。

■ナビゲーション画面でカスタマイズをおこなうときは

安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてください。また、バッテリーあがりを防ぐため、エンジンがかかっている状態で操作をおこなってください。

⚠警告

■ナビゲーション画面でカスタマイズをおこなうときは

エンジンをかけた状態で操作をおこなうため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化酸素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

初期設定が必要な項目

次の項目はバッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。

項目	初期設定が必要なとき	参照
パワーバックドア★	・バッテリーの充電・交換後の再接続時 ・ヒューズ交換後	P. 114
タイヤ空気圧警報システム	・タイヤサイズの変更などにより、タイヤの指定空気圧が変更になったあと ・タイヤローテーションを実施したあと	P. 450
マルチテレインモニター★	バッテリーの充電・交換後の再接続時	P. 345
バックガイドモニター★	・バッテリーの充電・交換後の再接続時	別冊「ナビゲーションシステム取扱書」

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

さくいん

こんなときは
（症状別さくいん）.....552
車から音が鳴ったときは
（音さくいん）.....556
アルファベット順さくいん.....558
五十音順さくいん.....559

次の装備は、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

- GPS ボイスナビゲーション
- ETC2.0 システム
- オーディオ&ビジュアル
- ハンズフリー
- バックガイドモニター
- リヤシートエンターテイメントシステム（後席 11.6 型ワイドディスプレイ）
- T-Connect

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない

キーをなくした

- メカニカルキーをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→ P. 103）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。（→ P. 105）

施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→ P. 462）
- エンジンスイッチが ON モードになっていませんか？
  施錠するときは、エンジンスイッチを OFF にしてください。
  （→ P. 191）
- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？
  施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。
  （→ P. 128）

リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていませんか？
  チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→ P. 110）

故障かな？と思ったら

エンジンがかからない

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらエンジンスイッチを押していますか？（→ P. 190）
- シフトレバーは P になっていますか？（→ P. 190）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→ P. 126）
- ステアリングロックされていませんか？（→ P. 193）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
  このときは、一時的な方法でエンジンをかけることができます。（→ P. 523）
- バッテリーがあがっていませんか？（→ P. 525）

ブレーキペダルを踏んでいてもシフトレバーが P から動かない

- エンジンスイッチは ON モードになっていますか？
  エンジンスイッチが ON モードでブレーキを踏んでも解除できないとき（→ P. 201）

エンジンを停止したあとにハンドルがまわせなくなった

- 盗難防止のため、自動的にロックされます。（→ P. 193）

パワーウインドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

- ウインドウロックスイッチが押されていませんか？
  ウインドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウインドウは操作できなくなります。（→ P. 167）

エンジンスイッチが自動的に OFF になった

● 一定時間アクセサリーモードまたはイグニッションONモード(エンジンがかかっていない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→ P. 192）

警告音・アラーム・ホーンが鳴りだした

● 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→ P. 556）をご確認ください。

警告灯や警告メッセージが表示されたとき

● 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P. 494、500 をご確認ください。

トラブルが発生した

タイヤがパンクした

- 車を安全な場所に停め、パンクしたタイヤを応急用タイヤに交換してください。（→ P. 504）

立ち往生した

- ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→ P. 531）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
解錠したとき	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※	P. 70
ドアを開閉したとき	シフトポジションがP以外になっている	P. 500
	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※	P. 70
エンジンを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P. 462
施錠しようとしたとき（施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 107
	電子キーを車内に置き忘れている	P. 500

※ スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンでドア・バックドアを解錠する、またはエンジンスイッチをONモードにするか、エンジンを始動すると、警報を解除することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドア・バックドア・ボンネットが確実に閉まっていない	P. 495
	パーキングブレーキが解除されていない	P. 204
	運転席・助手席のシートベルトを着用していない※	P. 496
シフトダウンしたとき	シフトダウン制限をこえて操作した	P. 200
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P. 183
先行車に接近したとき	レーダークルーズコントロール★を使用している	P. 258
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティシステム）が作動した	P. 233

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アルファベット順さくいん

A/C
（エアコン）. 372, 384, 394
ABS
（アンチロックブレーキシステム）. 360, 494
AHB
（オートマチックハイビーム）. 208
AI-SHIFT
（アーティフィカルインテリジェンスシフト）. 201
AVS
（アダプティブバリアブルサスペンションシステム）. 361
BSM
（ブラインドスポットモニター）. 347
CRAWL
（クロールコントロール）. 289
EDR
（イベントデータレコーダー）. 8
ESPO
（エコパスポート）. 98
ILSAC CERTIFICATION
（イルサックサーティフィケーション）. 535
ISOFIX
（アイソフィックス／イソフィックス）. 48, 59
KDSS
（キネティックダイナミックサスペンションシステム）. 360
LDA
（レーンディパーチャーアラート）. 243
PCS
（プリクラッシュセーフティシステム）. 233, 495
RCTA
（リヤクロストラフィックアラート）. 355
SRS
（サプリメンタルレストレイントシステム）. 37, 494
TRC
（トラクションコントロール）. 360
VGRS
（バリアブルギヤレシオステアリング）. 360
VSC
（ビークルスタビリティコントロール）. 360

五十音順さくいん

あ

アースポイント
（バッテリーあがりの処置）..... 525
アームレスト 434
RSCA OFF スイッチ 46
アウターミラー
（ドアミラー）..... 162
操作 162
格納のしかた 162
ブラインドスポット
モニター（BSM）..... 347
ミラーヒーター 378, 389
リバース連動機能 163
アクセサリーコンセント 423
アクセサリーソケット 423
アクセサリーモード 191
アクティブ TRC 360
アクティブハイト
コントロール 275
アクティブヘッドレスト 134
アシストグリップ 435
足元照明 401
アラーム 70
オートアラーム 70
音さくいん 556
警告ブザー 494, 500
アンチロックブレーキ
システム（ABS）..... 360
アンダーミラー 165
アンテナ
スマートエントリー&
スタートシステム 125

い

ETC2.0 システム※
イージークローザー 117
バックドア 117
イグニッションスイッチ
（エンジンスイッチ）..... 190
エンジンのかけ方 190
自動電源 OFF 機能 192
車両を緊急停止するには 486
モードの切りかえ 191
位置交換
（タイヤローテーション）..... 450
イベントデータレコーダー
（EDR）..... 8
イモビライザーシステム 68
イルミネーテッドエントリー
システム 404
インサイドハンドル照明 401
インストルメントパネル
照度調整スイッチ 85
インジケーター（表示灯）..... 80
表示灯 80
インテリアランプ 402
ワット数 538
インナーミラー 160

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

う

ウインカー（方向指示灯）..... 203
電球（バルブ）の交換..... 467
方向指示レバー..... 203
ワット数..... 538
ウインドウ 167, 216
ウォッシャー..... 216, 221
パワーウインドウ 167
フロントワイパー
デアイサー 379, 389
リヤウインドウ
デフォッガー 378, 389
ウインドウロックスイッチ 167
ウォーニングランプ
（警告灯）..... 79, 494
ウォッシャー 216, 221
液の補充..... 449
スイッチ..... 216, 221
タンク容量..... 537
冬の前の準備・点検 367
動けなくなったときは
（スタック）..... 531
雨滴感知式ワイパー..... 216
運転..... 178
雨の日の運転..... 179
運転を補助する装置 360
環境に配慮した運転 82
寒冷時の運転..... 367
正しい運転姿勢 26
手順 178
運転席シートベルト非着用
警告灯 496
運転席シートポジション
メモリー 149

え

エアコン.....372, 384, 394
オートエアコン
.....372, 384, 394
花粉除去機能 378, 389
曇り取り
（フロントガラス）.....378, 389
フィルターの交換.....460
リヤエアコン 394
エアバッグ.....37
一般的な警告 38
SRS エアバッグ警告灯 494
お子さまのための注意.....38
改造・廃棄 41
作動条件 42
正しい姿勢 26
配置.....37
AC100V 出力コンセント.....423
エコドライブインジケーター
ランプ.....82
AUX 端子※
LED デイライト.....206
LED ヘッドランプ
オートレベリングシステム 206
電球（バルブ）の交換.....478
ランプスイッチ.....205

エンジン
エンジンイモビライザーシステム 68
エンジン回転計（タコメーター） 83
エンジンがかからない（エンジンが始動できない） 521
エンジン警告灯 494
エンジンスイッチ 190
エンジンの始動方法 190
エンジンルームカバー 447
オーバーヒート 528
緊急始動機能 522
緊急時の停止方法 486
フューエルポンプシャットオフシステム 493
ボンネット 445
エンジンイモビライザーシステム（盗難防止システム） 68
エンジンオイル 534
警告メッセージ 503
冬の前の準備・点検 367
メンテナンスデータ 534
容量 534
エンジンスイッチ（イグニッションスイッチ） 190
エンジンのかけ方 190
自動電源 OFF 機能 192
車両を緊急停止するには 486
照明 401
モードの切りかえ 191
エンジンフード（ボンネット） 445
開け方 445
エンジンルーム 447
エンジンルームカバー 447
エンジンルームから蒸気が出ている 528

お

オーディオ※
オートアウェイ&オートリターン機能 158
オートアラーム 70
オートエアコン 372, 384, 394
オートドアロック・アンロック機能 110
オートマチックトランスミッション 196
S モード 199
シフトレバーがシフトできない 201
オートマチックハイビーム 208
オートレベリングシステム（ヘッドランプ） 206
オーバーヒート 528
オーバーヘッドコンソールボックス 409
オープナー
給油口／給油扉 226
バックドア 115
ボンネット 445
オイル（エンジンオイル） 534
おくだけ充電（ワイヤレス充電器） 426

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

お子さまを乗せるとき 47
ウインドウロックスイッチ 167
エアバッグ 38
お子さまの安全のために 47
キーの電池 463
子供専用シート 48
シートベルトの着用 33
ステアリングヒーターに関する警告 397
チャイルドシートの取り付け 59
チャイルドプロテクター 110
発炎筒の取り扱いに関する警告 485
バックドアに関する警告 120
バッテリーに関する警告 527
パワーウインドウに関する警告 170
ムーンルーフに関する警告 175
リヤシートに関する警告 147
オドメーター 84
機能 84
表示の切りかえ・リセットボタン 84

か

カーテンシールドエアバッグ 37
カードキー 102
カードホルダー 413
カーペット
洗浄 443
フロアマットの取り付け方 24
外気温度表示 422
外装の電球（バルブ） 467
交換要領 467
ワット数 538
カスタマイズ機能 539
ガソリンスタンドでの情報 580
型式 538
カップホルダー 410
花粉除去機能 378, 389
カメラ
オートマチックハイビーム 231
カメラセンサー（PCS） 229
ガラスの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー） 378, 389
冠水路走行 187
寒冷時の運転 367

き

キー 102
エンジンが
かからないときは 521
エンジンが始動できない 523
カードキー 102
キーナンバープレート 102
キーの構成 102
キーレスエントリー 102, 125
キーをなくした 103, 105
正常に働かない 523
施錠・解錠ができない 523
電子キー 102
電池が切れた 462, 523
メカニカルキー 103
ワイヤレスリモコン 102
キーレスエントリー
スマートエントリー&
スタートシステム 125
ワイヤレスドアロック 102
キネティックダイナミック
サスペンションシステム 360
給油 224
給油のしかた 224
メンテナンスデータ 534
給油後平均燃費 90
緊急時シートベルト固定機構 32
緊急始動機能 522
緊急時の対処
エンジンが始動できない 521
オーバーヒートした 528
キーの電池が切れた 462
キーをなくした 103, 105
警告灯がついた 494
警告メッセージが
表示された 500
けん引 487
故障したときは 482
車両を緊急停止する 486
スタックした 531
電子キーが正常に働かない 523
発炎筒 484
バックドアが開かなく
なった 118
バッテリーがあがった 525
パンクした 504
緊急ブレーキシグナル 361

く

空気圧（タイヤ）..... 538
タイヤ空気圧警告灯 496
タイヤ空気圧警報システム.... 451
メンテナンスデータ 538
クーラー
オートエアコン
..... 372, 384, 394
リヤエアコン 394
クールボックス..... 418
区間距離計
（トリップメーター）..... 84
機能 84
切りかえ・リセットボタン..... 84
曇り取り
フロントガラス 378, 389
ミラーヒーター 378, 389
リヤウインドウ
デフォッガー 378, 389
クラクション（ホーン）..... 158
クリアランスソナー..... 265
操作 265
クリアランスランプ
（車幅灯）..... 205
スイッチ..... 205
電球（バルブ）の交換..... 478
クリップ
エンジンルームカバー..... 447
フロアマット..... 24
クロールコントロール..... 289
グローブボックス..... 407
グローブボックスランプ 407

け

警音器（ホーン）.....158
計器類（メーター）.....83
警告灯／表示灯.....78
照度調整 85
マルチインフォメーション
ディスプレイ.....87
メーター 83
警告灯.....79, 494
ABS &ブレーキアシスト 494
SRS エアバッグ.....494
エンジン 494
シートベルト非着用.....496
充電.....494
スリップ表示灯.....495
タイヤ空気圧 496
燃料残量 495
パワーステアリング.....494
半ドア 495
PCS.....495
プリテンショナー.....494
ブレーキ 494
ヘッドランプレベリング 495
マスターウォーニング 496

警告ブザー
クリアランスソナー 268
シートベルト非着用 496
シフトダウン制限 200
スマートエントリー&
スタートシステム..... 126
接近警報（レーダークルーズ
コントロール）..... 258
パーキングブレーキ
未解除走行時 204
半ドア..... 495
BSM..... 348
PCS 495
ブレーキ..... 494
マスターウォーニング..... 496
窓開 169
ムーンルーフ開 173
リバース..... 200
警告メッセージ..... 500
傾斜センサー 73
化粧ミラー（バニティミラー）... 419
けん引..... 487
けん引のしかた 487
フック..... 488

こ

交換
エアコンフィルター 460
キーの電池..... 462
タイヤ..... 504
電球（バルブ）..... 467
ヒューズ..... 464
工具（ツール）..... 506
航続可能距離 96
後退灯（バックアップランプ）
電球（バルブ）の交換..... 472
ワット数..... 538
コートフック.....434
子供専用シート.....48
選択方法.....48
取り付け方 59
小物入れ.....414, 415
コンセント
アクセサリーコンセント 423
AC100V 出力コンセント 423
コンソールボックス 408, 409
コンライト
（自動点灯・消灯装置）.....205

さ

サイドエアバッグ 37
サイド方向指示灯 203
電球（バルブ）の交換.....478
方向指示レバー.....203
サイドミラー（ドアミラー）.....162
操作.....157
格納のしかた 162
ブラインドスポット
モニター（BSM）.....347
ミラーヒーター.....378, 389
リバース連動機能.....163
サスペンションコントロール
（PCS）.....233
サンシェード
ムーンルーフ 173
サンバイザー.....419
サードシート.....135
格納.....138, 142
調整.....135
三角表示板等収納スペース.....416

し

シート.....132, 135
子供専用シート.....48
正しい運転姿勢.....26
チャイルドシートの取り付け.....59
調整.....132, 135
調整に関する警告.....134, 147
手入れ.....442
ドライビングポジションメモリー.....149
ヘッドレスト.....134, 153
メモリーコール機能.....151
シートヒーター.....397
シートベルト.....28
お子さまの着用.....33
緊急時シートベルト固定機構.....32
シートベルト非着用警告灯.....496
シートベルトプリテンショナー.....32
高さ調整.....31
チャイルドシートの固定.....60
正しく着用するには.....28
着け方・はずし方.....28, 29
手入れ.....443
妊娠中の方の着用.....35
シートベルト非着用警告灯.....496
シートベルトプリテンショナー.....32
機能.....32
プリテンショナー警告灯.....494
シートベンチレーター.....399
シートポジションメモリー.....149
室内灯.....401
インテリアランプ.....402
自動消灯機能.....404
パーソナルランプ.....403
ワット数.....538
始動のしかた.....190
シフト照明.....401
シフトポジション.....197
シフトレバー.....196
シフトレンジの切りかえ.....196
シフトロックシステム（解除ボタン）.....201
操作.....196
リバース警告ブザー.....200
シフトレバーがシフトできないときは.....201
シフトロックシステム.....201
締め付けトルク（ホイール）.....517
車高切り替えスイッチ・車高制御 OFF スイッチ.....275
車速
平均車速.....90, 96
スピードメーター.....83
ジャッキ
車載ジャッキ.....505
ジャッキハンドル.....506
車幅灯.....205
電球（バルブ）の交換.....478
ランプスイッチ.....205
車両カスタマイズ.....541
車両型式.....538
車両仕様（スペック）.....534

車両データの記録 7
車両を緊急停止するには 486
収納装備 405
ジュニアシート 49
瞬間燃費 90, 96
仕様（車両仕様） 538
衝撃感知ドアロック解除
システム 113
初期化 550
タイヤ空気圧警報システム 451
パワーウインドウ 168
助手席シートベルト非着用
警告灯 496
侵入センサー
（オートアラーム） 73

す

水温計 83
スイッチ
アドバイススイッチ 98
RSCA OFF 46
イグニッション 190
ウインドウロック 167
ウォッシャー 216, 221
エコカルテスイッチ 98
LDA 246
エンジンスイッチ 190
オーディオ※
オートマチックハイビーム 208
カメラ（マルチテレイン
モニター） 304
クリアランスソナー 265
クロールコントロール 289
更新スイッチ 98
サードシート格納スイッチ 139
サードシート背もたれ前倒し
スイッチ 143
室内灯 401
シート調整 132
シートヒーター 399, 400
シートベンチレーター 399
シートポジションメモリー 149
車間距離切りかえ
（レーダークルーズ
コントロール） 256
車高切り替えスイッチ・
車高制御 OFF スイッチ 275
情報・TC スイッチ 96
侵入・傾斜センサー OFF 74
ステアリングヒーター 398
セカンドスタートモード 197
センターデフロック 284
タイヤ空気圧警報リセット 452
ターンアシスト 290
電子キー 102
電話※
ドアミラー 162
ドアロック 109
トーク※
ドライビングポジション
メモリー 149
ドライブモードセレクト 263

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

トランスファー 284
ハザードランプ 483
バックドアオープン
スイッチ 115
パワーウインドウ 167
パワーバックドアスイッチ 115
パワーバックドアクローズ
スイッチ 116
パワーバックドア
メインスイッチ 116
パワーモード 198
ハンドル位置調整 157
PCS 236
非常点滅灯
（ハザードランプ） 483
フォグランプ 213
フロント
オートエアコン 372, 384
VSC OFF 362
ブラインドスポットモニター
（BSM） 347
ヘッドランプクリーナー 223
方向指示レバー 203
ホーン（警音器） 158
マルチテレインセレクト 295
マルチテレインモニター 300
ムーンルーフ 172
メーター操作スイッチ 89
メーター表示切りかえ 84
ランプ 205
リヤエアコン 394
リヤウインドウ
デフォッガー 378, 389
レーダークルーズ
コントロール 251
ワイパー&
ウォッシャー 216, 221
ワイヤレスリモコン 102
スターター
エンジンの始動 190
スターターがまわらない 521
スタック 531
ステアリングヒーター 397
ステアリングホイール
（ハンドル） 157
位置調整 157
オートアウェイ&
オートリターン機構 158
ステアリングヒーター 397
ドライビングポジション
メモリー 149
ステアリングロック 193
解除できないとき 193
ステップ照明 401
ストップランプ（制動灯）
緊急ブレーキシグナル 361
電球（バルブ）の交換 478
スノータイヤ（冬用タイヤ） 367
スピードメーター 83
スペアタイヤ 504
空気圧 538
交換方法 504
スペック（車両仕様） 534

スマートエントリー&
スタートシステム 125
アンテナの位置 125
エンジンの始動 190
カスタマイズ設定 539
緊急始動機能 522
警告ブザー 126
警告メッセージ 502
作動範囲 126
正常に働かないとき 523
節電機能 127
電波がおよぼす影響に
ついて 131
ドアの解錠・施錠 106, 114
スモールランプ（車幅灯） 205
電球（バルブ）の交換 478
ランプスイッチ 205

せ

清掃 438, 442
アルミホイール 439
外装 438
シートベルト 443
内装 442
レーダーセンサー 350
制動灯
緊急ブレーキシグナル 361
電球（バルブ）の交換 478
セカンドシート
格納 136
サードシートへの乗り降り 136
調整 135
積算距離計（オドメーター） 84
機能 84
表示の切りかえ・リセット
ボタン 84
セキュリティ
インジケーター 68, 70
接近警報（レーダークルーズ
コントロール） 258
センサー
インナーミラー 161
雨滴感知センサー 219
LDA 243
オートマチックハイビーム 231
クリアランスソナー 265
侵入・傾斜センサー 73
前方センサー 229
ドアハンドル 106
挟み込み防止機能 117
BSM 350
ライトセンサー 206
レーダーセンサー 229
洗車 438
前照灯（ヘッドランプ） 205
電球（バルブ）の
交換 469, 478
ライトセンサー 206
ランプ消し忘れ防止機能 206
ランプスイッチ 205
ワット数 538
センターデフロックスイッチ 284

そ

走行モード
（ドライブモード）..... 197, 263
送信機（タイヤ空気圧警報
システム）..... 451
速度計（スピードメーター）..... 83

た

ターンシグナルランプ
（方向指示灯）..... 203
電球（バルブ）の
交換..... 471, 474, 478
方向指示レバー..... 203
ワット数..... 538
タイヤ..... 450
空気圧..... 458, 538
交換..... 504
締め付けトルク..... 517
スペアタイヤ..... 504
チェーン..... 367
点検..... 450
パンクしたときは..... 504
冬用タイヤ..... 367
ホイールサイズ..... 538
ローテーション
（位置交換）..... 450
タイヤが空まわりする
（スタックした）..... 531
タイヤ空気圧警報システム..... 451
ID コードの登録・選択..... 452
機能について..... 451
空気圧バルブ／送信機に
ついて..... 451
空気圧表示画面..... 91
初期化..... 451
タイヤ空気圧警告灯..... 496
タイヤチェーン..... 367
タコメーター
（エンジン回転計）..... 83

ち

チェーン（タイヤチェーン）..... 367
チャイルドシート..... 48
ISOFIX バーでの取り付け..... 61
シートベルトでの固定..... 60
選択方法..... 48
チャイルドプロテクター..... 110
駐車ブレーキ
（パーキングブレーキ）..... 204
操作..... 204
未解除走行時警告ブザー..... 204
メンテナンスデータ..... 537

つ

通算平均燃費..... 90, 96
ツール（工具）..... 506

て

停止表示灯 482
ディスチャージヘッドランプ
　オートレベリングシステム 206
　電球（バルブ）の交換 478
　ランプスイッチ 205
ディファレンシャル 536
手入れ 438, 442
　アルミホイール 439
　外装 438
　シートベルト 443
　内装 442
　レーダーセンサー 350
テールランプ（尾灯） 205
　電球（バルブ）の交換 478
　ランプスイッチ 205
デフォッガー
（リヤウインドウ
デフォッガー） 378, 389
電圧計 83
電球（バルブ）
　交換要領（外装バルブ） 467
　ワット数 538
点検基準値
（メンテナンスデータ） 534
電子キー 102
　作動範囲 126
　正常に働かないとき 523
　節電機能 127
　電池が切れた 523
　電池交換 462
電池交換（キー） 462
電話スイッチ※

と

ドア 106
　オートドアロック・
　アンロック機能 110
　衝撃感知ドアロック解除
　システム 113
　スマートエントリー&
　スタートシステム 125
　チャイルドプロテクター 110
　ドアガラス 167
　ドアミラー 162
　ドアロックスイッチ 109, 114
　バックドア 114
　半ドア警告灯 495
　ロックレバー 109
　ワイヤレスリモコン 102
ドアガラス 167
ドアカーテシランプ 401
　位置 401
　ワット数 538
ドアポケット 405
ドアミラー
　操作 162
　格納のしかた 162
　照明 401
　ブラインドスポットモニター
　（BSM） 347
　ミラーヒーター 378, 389
　リバース連動機能 163
ドアミラー照明 401
　ワット数 538

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

盗難防止装置
エンジンイモビライザーシステム 68
オートアラーム 70
トークスイッチ※
時計 420
時刻を設定する 420
表示 420
トップテザーアンカー 59
トノカバー 416
ドライビングポジションメモリー 149
ポジションの登録 149
メモリーコール機能 151
ドライブインフォメーション（マルチインフォメーションディスプレイ） 90
メーター操作スイッチ 89
トラクションコントロール（TRC） 360
トランスファースイッチ 284
トランスミッション 196
シフトダウン制限警告ブザー 200
操作 196
メンテナンスデータ 536
トリップメーター 84
機能 84
切りかえ・リセットボタン 84

な

内装
収納装備 405
手入れ 442
ナビゲーションシステム※

に

ニーエアバッグ 37
荷物
積むときの注意 188
荷室内装備 415

ぬ

ぬかるみにはまった（スタック） 531

ね

燃費
給油後平均燃費 90
瞬間燃費 90
平均燃費 90
燃費情報（ドライブインフォメーション） 90
燃料 534
ガソリンスタンドでの情報 580
給油 224
種類 534
燃料計 83
燃料残量警告灯 495
フューエルポンプシャットオフシステム 493
容量 534
燃料計 83

は

パーキングブレーキ..... 204
操作 204
冬季の注意..... 368
未解除走行時警告ブザー..... 204
メンテナンスデータ 537
パーソナルランプ..... 403
ワット数..... 538
排気ガス 67
ハイビーム（ヘッドランプ）..... 205
オートマチックハイビーム.... 208
電球（バルブ）の
交換..... 469, 478
ランプスイッチ 205
ワット数..... 538
ハイマウントストップランプ
電球（バルブ）の交換..... 478
ハザードランプ
（非常点滅灯）..... 483
スイッチ..... 483
電球（バルブ）の
交換..... 471, 474, 478
ワット数..... 538
挟み込み防止機能
パワーウインドウ 168
パワーバックドア 117
ムーンルーフ..... 173
発炎筒 484
バックアップランプ（後退灯）
電球（バルブ）の交換..... 472
ワット数..... 538
バックガイドモニター※
バックドア..... 114
イージークローザー..... 117
バックドアハンドル..... 116
半ドア警告灯 495
バッテリー
充電について 526
搭載位置 72
バッテリーがあがった..... 525
バニティ（化粧用）ミラー..... 419
バニティミラーランプ..... 419
装備について 419
ワット数..... 538
バリアブルギヤレシオ
ステアリング（VGRS）..... 361
バルブ（電球）
交換要領（外装のバルブ）..... 467
ワット数..... 538
パワーウインドウ 167
ウインドウロックスイッチ 167
閉めることができない
ときは 168
初期化..... 168
操作..... 167
ドアロック連動ドアガラス
開閉機能 169
挟み込み防止機能..... 168
巻き込み防止機能..... 168
パワーステアリング
パワーステアリング警告灯 494
パワーステアリング
フルード 536
パワーバックドア 115
パンクした..... 504

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

番号灯（ライセンスプレート
ランプ）.....205
電球（バルブ）の交換.....477
ランプスイッチ.....205
ワット数.....538
半ドア警告灯.....495
ハンドル
（ステアリングホイール）.....157
位置調整.....157
オートアウェイ&
オートリターン機構.....158
ステアリングヒーター.....397
ドライビングポジション
メモリー.....149

ひ

ビークルスタビリティ
コントロール（VSC）.....360
ヒーター
オートエアコン
.....372, 384, 394
エアコン・
デフォッガー.....378, 389
シートヒーター.....397
ステアリングヒーター.....397
ミラーヒーター.....378, 389
リヤエアコン.....394
非常点滅灯（
ハザードランプ）.....483
スイッチ.....483
電球（バルブ）の
交換.....471, 474, 478
ワット数.....538
尾灯（テールランプ）.....205
電球（バルブ）の交換.....478
ランプスイッチ.....205
ヒューズ.....464
表示灯.....80
日よけ（サンバイザー）.....419
ヒルスタートアシスト
コントロール.....360

ふ

ファン 528
ブースターケーブルの
つなぎ方 525
フォグランプ 213
スイッチ 213
電球（バルブ）の
交換 476, 478
ワット数 538
4-Wheel AHC（アクティブ
ハイトコントロール） 275
ブザー
RCTA 355
LDA 243
クリアランスソナー 268
シートベルト非着用警告 496
シフトダウン制限警告 200
接近警報（レーダークルーズ
コントロール） 258
パーキングブレーキ
未解除走行時警告 204
半ドア警告 495
PCS 495
ブレーキ警告 494
マスターウォーニング 496
窓開警告 169
ムーンルーフ開警告 173
ランプ消し忘れ警告 206
リバース警告 200
レーダークルーズ
コントロール 260
フック
けん引フック 488
コートフック 434
フロアマット固定フック 24
フューエルポンプシャットオフ
システム 493
フューエルメーター（燃料計） 83
フューエルリッド
（給油口／給油扉） 224
給油のしかた 224
冬の前の準備（寒冷時の運転） 367
冬用タイヤ 367
ブラインドスポットモニター
（BSM） 347
ブラインドスポットモニター
機能 351
リヤクロストラフィック
アラート機能 355
プリクラッシュセーフティ
システム（PCS） 233
機能 233
PCS OFF 236
PCS 警告灯 495
フルタイム 4WD 284
ブレーキ
緊急ブレーキシグナル 361
警告ブザー 204, 494
パーキングブレーキ 204
ブレーキ警告灯 494
メンテナンスデータ 537
ブレーキアシスト 360
ABS &ブレーキアシスト
警告灯 494
機能 360

ブレーキ付近からキーキー音が聞こえる 183
ブレーキフルード 537
フロアマット 24
フロントインテリアランプ 402
フロントシート 132
シートヒーター 397
シートベンチレーター 399
シートポジションメモリー 149
正しい運転姿勢 26
調整 132
手入れ 442
ドライビングポジションメモリー 149
ヘッドレスト 134, 153
フロントドア 106
フロントパーソナルランプ 403
フロントフォグランプ 213
スイッチ 213
電球（バルブ）の交換 478
フロント方向指示灯 203
電球（バルブ）の交換 471
方向指示レバー 203
ワット数 538
フロントワイパーデアイサー 379, 389

へ

平均車速 90
平均燃費 90
ヘッドランプ 205
クリーナー 223
電球（バルブ）の交換 469, 478
ライトセンサー 206
ランプ消し忘れ防止機能 206
ランプスイッチ 205
ワット数 538
ヘッドランプオートレベリングシステム 206
ヘッドランプクリーナー 223
ヘッドレスト 134, 153
ベビーシート 49
ヘルプネットスイッチパネル※
ベンチレーター（シートベンチレーター） 399

ほ

ホイール
交換（タイヤ） 504
メンテナンスデータ 538
ホイールナットレンチ 506
方向指示灯 203
電球（バルブ）の交換 471, 474, 478
方向指示レバー 203
ワット数 538
ホーン（警音器） 158
保証 9
補助確認装置 165
ボトルホルダー 412
ボンネット 445
開け方 445

ま

マスターウォーニング 496
マルチインフォメーション
ディスプレイ 87
警告メッセージ 500
ドライブ
インフォメーション 90
メーター操作スイッチ 89
マルチテレイン ABS 360
マルチテレインセレクト 295
マルチテレインモニター 300

み

ミラー
インナーミラー 160
ドアミラー 162
バニティミラー 419
補助確認装置 165
ミラーヒーター 378, 389

む

ムーンルーフ 172
操作 172
ドアロック連動ムーンルーフ
開閉機構 173
挟み込み防止機能 173

め

メーター（計器類） 83
警告灯 79, 494
照度調整 85
表示切りかえボタン 84
表示灯 80
マルチインフォメーション
ディスプレイ 87
メーター 83
メーター照度調整 85
メカニカルキー 103
メモリーコール機能 151
メンテナンスデータ 534

ゆ

油圧計 83
USB 端子※
ユーザーカスタマイズ機能 539
雪道ですべって動けない
（スタックした） 531
油脂類 534

ら

ライセンスプレートランプ
（番号灯） 205
電球（バルブ）の交換 477
ランプスイッチ 205
ワット数 538
ライトセンサー 206
ラゲージルーム 415
ラジエーター
オーバーヒート 528
メンテナンスデータ 536

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

ランプ
足元照明 401
インサイドハンドル照明 401
インテリアランプ 402
エンジンスイッチ照明 401
室内灯 401
シフト照明 401
ステップ照明 401
電球（バルブ）の交換 467
ドアアンビエント照明 401
ドアカーテシランプ 401
ドアミラー照明 401
バニティミラーランプ 419
パーソナルランプ 403
非常点滅灯（ハザードランプ） 483
フロントスカッフプレート照明 401
フロントフォグランプ 213
ヘッドランプ（前照灯） 205
方向指示灯（ターンシグナルランプ／ウインカー） 203
ライトセンサー 206
ランプ消し忘れ防止機能 206
リヤフォグランプ 213
ワット数 538
ランプ消し忘れ防止機能 206

り

リバース連動機能
ドアミラー 163
リヤワイパー 222
リヤアームレスト 434
リヤウインドウデフォッガースイッチ 378, 389
リヤエアコン 394
リヤクロストラフィックアラート（RCTA） 355
リヤシート 135
格納 136, 138, 142
調整 135
リヤシートヒーター 400
リヤパーソナルランプ 403
リヤフォグランプ 213
スイッチ 213
電球（バルブ）の交換 476
ワット数 538
リヤ方向指示灯 203
電球（バルブ）の交換 474
方向指示レバー 203
ワット数 538

る

ルームミラー（インナーミラー） 160
ルームランプ（室内灯） 401

れ

レーダークルーズ
コントロール..... 251
接近警報..... 258
レーダーセンサー 229
レーンディパーチャーアラート
(LDA)..... 243
操作 246
冷却水..... 536
水温計..... 83
冬の前の準備..... 367
メンテナンスデータ 536
冷却装置（ラジエーター）..... 536
オーバーヒート 528
メンテナンスデータ 536
レバー
シフト..... 196
パーキングブレーキ 204
方向指示..... 203
ボンネット解除 445
ロック（ドア）..... 106

ろ

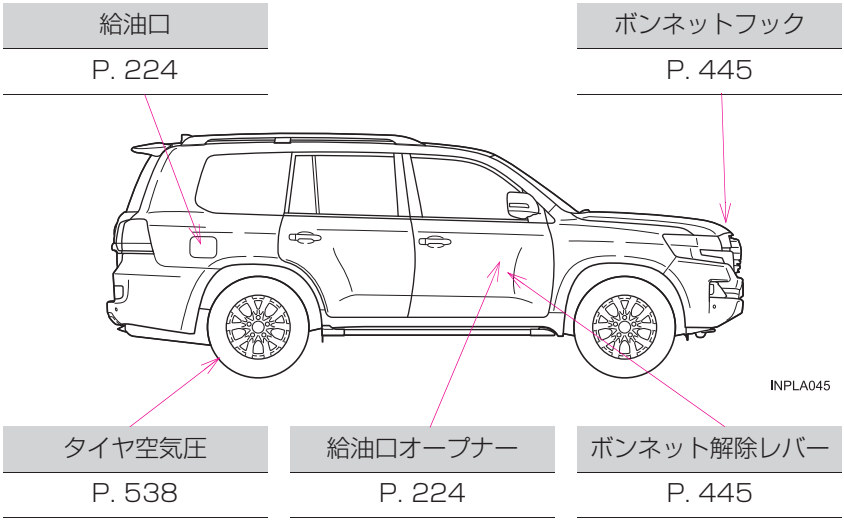
ロック
ウインドウロック 167
シフトロック..... 201
スマートエントリー&
スタートシステム..... 125
チャイルドプロテクター..... 110
ドア 106, 109
バックドア..... 114
ワイヤレスリモコン 102

わ

ワイパー & ウォッシャー
ウォッシャー液の補充.....449
フロント 216
フロントワイパー
デアイサー.....379, 389
リヤ.....221
ワイパーブレード（寒冷地用）....368
ワイヤレス充電器
（おくだけ充電）.....426
ワイヤレスリモコン 102
作動の合図 107
操作.....102
電池の交換 462
半ドア警告ブザー.....107
ワックス.....438
ワット数.....538

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。



燃料の容量（参考値）	93L
燃料の種類	無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）　P. 534
タイヤが冷えているときの空気圧	タイヤサイズ / 前輪 / 後輪 275/65R17 115S 285/60R18 116H 285/50R20 112H 230（2.3）kPa（kg/cm^2）
エンジンオイル容量（参考値）	オイルのみ交換時 7.1L オイルとオイルフィルター交換時 7.5L
エンジンオイルの種類	トヨタキヤッスルモーターオイル ・ SN 0W-20（API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20） ・ SN 5W-20（API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-20） ・ SN 5W-30（API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30） ・ SN10W-30（API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 10W-30）

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社　お客様相談センター

全国共通・フリーコール

0800-700-7700

オープン時間　365日　9:00～18:00

所在地　〒450－8711　名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）をご用意頂くとスムーズな対応が可能です。

「個人情報保護方針」については、
http://www.toyota.co.jp にて掲載しております。

「リコール等情報」については、
http://toyota.jp/recall/index.html にて掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
http://toyota.jp

モ-21

TOYOTA

M 60P64
01999－60P64
II-2016年11月14日
2016年 8 月 1 日 初版
2016年11月21日 2版
ランドクルーザー